

日田市文化財保存活用地域計画

(案)

令和6年4月

日田市教育庁文化財保護課

目 次

序 章	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1. 計画の作成と背景		
2. 地域計画作成の体制		
3. 地域計画の位置づけ		
4. 計画期間		
5. 計画の対象		
第1章 日田市の概要	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	18
1. 自然的・地理的環境		
2. 社会的環境		
3. 歴史的環境		
第2章 日田市の文化財の概要	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	48
1. 日田市の指定等文化財		
2. 埋蔵文化財		
3. 日本遺産・世界遺産		
4. 未指定文化財		
第3章 日田市の歴史文化の特性	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	59
第4章 文化財の把握・調査	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	62
1. 文化財の調査概要		
2. 文化財の調査の課題		
3. 未指定文化財の調査の方針・措置		
第5章 文化財の保存・活用に関する基本理念・基本方針	・・・・・・・・・・・・・・・・	64
1. 文化財の保存・活用に関する基本理念		
2. 文化財の保存・活用に関する基本方針		
第6章 文化財の保存・活用に関する現状と課題・方針・措置	・・・・・・・・	66
1. 文化財の保存・活用に関する現状と課題		
2. 文化財の保存・活用に関する方針		
3. 文化財の保存・活用に関する措置		

第7章	文化財の総合的・一体的な保存と活用	85
	1. 関連文化財群の目的	
	2. 関連文化財群の考え方	
	3. 日田市の関連文化財群	
	4. 関連文化財群ごとのテーマ、ストーリーの概要及び構成文化財	
	5. 関連文化財群ごとの保存・活用に関する現状と課題・方針	
	6. 関連文化財群ごとの保存・活用に関する措置	
第8章	文化財の防災・防犯	114
	1. 文化財の防災・防犯に関する現状と課題	
	2. 文化財の防災・防犯に関する方針	
	3. 文化財の防災・防犯に関する措置	
第9章	文化財の保存・活用の推進体制	116
	1. 庁内の推進体制	
	2. 市民・団体との協働	
	3. 広域連携	
	4. 計画の進捗管理と自己評価方法	
資料編		
	1. 指定等文化財一覧表	1
	2. 未指定文化財一覧表	8
	3. 刊行物一覧表	29
	4. 市民アンケート結果一覧表	54

序章

1. 計画の作成と背景

日田市（以下「本市」という。）は、北部九州のほぼ中央、大分県の西部に位置する。周囲を阿蘇、くじゅう山系や英彦山系の美しい山々に囲まれ、これらの山系から流れ出る豊富な水が合流する日田盆地と緑豊かな森林や丘陵地で市域が形成されている。市内を流れる三隈川（筑後川の上流、玖珠川と大山川の合流地点から、主に日田盆地内を流れる区間を指す通称名。ここでは以下、日田盆地内に限定される場合に「三隈川」とする。）の豊かな水流を利用して、人々は日々の生活だけでなく、鶏飼（県指定無形民俗文化財）や川遊びなどにも興じてきた。一方、もともと日田盆地は筑後川の本流・支流が網流する川原地形であり、水害常襲地帯であった。しかも土地は水持ちが悪く、水利の便は決して良くない場所であったが、江戸時代後期に廣瀬久兵衛らが小ヶ瀬井路を開削し、市内に水路を巡らせ、水との共生の道を目指した。こうして、本市はいつしか「水郷」と呼ばれるようになり、「水郷日田」として今も人々に親しまれている。また、本市は古くから北部九州の各地を結ぶ交通の要衝として栄え、江戸時代には幕府の直轄地（当時は「御料」と呼ばれたが、ここでは以下、現在における通称である「天領」とする。）として西国筋郡代が置かれることで、九州幕府領の政治の中心地となった。さらに日田の商人は幕府の公金を扱い、「日田金」と呼ばれる大きな資金力により、利益を上げ、九州の経済の中心地としても発展してきた。

本市では、このような美しく豊かな自然の恵みを受け、地域固有の歴史と風土に恵まれて築き上げてきた文化的な環境の中で、地域独特の文化芸術が育まれ、多くの分野にわたり文化活動が展開されてきた。そのような中、平成27（2015）年に、咸宜園跡（国指定史跡）や日田市豆田町（国選定重要伝統的建造物群保存地区）などを構成文化財とする本市のほか、茨城県水戸市、栃木県足利市、岡山県備前市の4市が、「近世日本の教育遺産群－学ぶ心・礼節の本源－」として日本遺産に認定された。なお、この日本遺産を現在「近世日本の教育遺産群」として世界文化遺産登録を目指し、先の4市で教育遺産の調査研究や普及啓発を進めている。

そして、平成28（2016）年には日田祇園の曳山行事（国指定重要無形民俗文化財）がユネスコの無形文化遺産に登録され、これらの文化財は日本国内はもとより、世界にその魅力を発信することが、地域社会に活力を生み出す大切な財産となっている。

また、本市では市内に数多く残されている貴重な文化財を適切に保存・継承するとともに、多くの人々に文化財に身近に触れて親しんでいただけるよう、様々な活動を行っている。例えば豆田町においては、草野家住宅（国指定重要文化財）や廣瀬淡窓旧宅及び墓（国指定史跡）の保存整備事業において、建築技術者や教育機関を対象とした現場見学会を毎年開催してきた。また、市内の遺跡から出土した埋蔵文化財の整理、保管及び展示施設である日田市埋蔵文化財センターでの考古学講座の開催や子ども達を対象とした火熾し体験などの実施をはじめ、日本遺産「近世日本の教育遺産群－学ぶ心・礼節の本源－」においては、本市内の小学校4年生～6年生を対象とした日本遺産子どもガイドの研修会や他の日本遺産と連携した公開講座を定期的に行い、情報発信に努めている。

一方で、近年、高齢化や人口減少などにより、芸術文化や生活文化に関わる文化財を中心として保存・継承が困難になってきている。将来にわたって文化財を保存・活用していくために、市

民の地域の歴史を愛する心を育み、文化財の普及啓発を図るための活動が求められている。

また、平成24（2012）年7月九州北部豪雨をはじめ、平成28（2016）年4月の熊本地震、平成29（2017）年7月九州北部豪雨、令和2（2020）年7月豪雨、令和5（2023）年7月豪雨といった大規模災害が多発していることから、文化財をこのような大規模災害から守るための対策を講じる必要も出てきた。

文化活動が遺した有形無形の文化財は、市民の人間性を育て、地域のアイデンティティを確立する、市民共有の貴重な財産である。そのため、先人から受け継いできた文化遺産と伝統を守るとともに、文化活動の輪を更に広げながら将来に引き継いでいく必要がある。そこで、本市の貴重な宝である多種多様な文化財を調査・把握し、総合的・一体的に捉え、まちづくりや観光などの他の分野とも連携し、地域総がかりで将来への保存・活用に繋げていくため、『日田市文化財保存活用地域計画』（以下「本計画」という。）を作成する。

2. 地域計画作成の体制

本計画作成にあたっては、学識経験者、文化財所有者、観光団体、文化財関係団体及び行政関係者等で構成される「日田市文化財保存活用地域計画協議会」を設置し、日田市教育庁文化財保護課が事務局となって検討を行った。また、内部の意見調整や情報共有を図るため、「日田市文化財保存活用地域計画庁内部会」を設置し、説明や報告、意見聴取を行った。そのほか、日田市文化財保護審議会への説明や報告、意見聴取を経て本計画の作成を行った。

日田市文化財保存活用地域計画協議会 名簿（敬称略）

氏名	専門分野	所属等	備考
飯沼 賢司	歴史	別府大学 特任教授	会長
古田 京太郎	植物	日田市立博物館協議会 委員長	副会長
古田 嘉寿美	文化財の活用	国登録有形文化財 後藤家住宅 所有者代理 有限会社 和くら 代表取締役社長	
大森 洋子	景観保全	久留米工業大学 学長補佐	
武末 純一	考古	福岡大学 名誉教授 春日市奴国の丘歴史資料館 名誉館長	
段上 達雄	民俗	別府大学 特任教授	
養父 信義	建築	NPO法人 本物の伝統を守る会 理事長	
黒木 陽介	観光	一般社団法人 日田市観光協会 事務局長	
樋口 恒成	商工	日田商工会議所 事務局長	令和3・4年度
伊藤 宏	同上	同上	令和5年度～
佐藤 信	行政（文化財）	大分県教育庁文化課 主査	令和3・4年度
越智 淳平	同上	大分県教育庁文化課 副主幹	令和5年度～
岡野 涼子	人材育成	一般社団法人 NINAU 代表理事	令和3・4年度
上野 友揮	同上	一般社団法人 NINAU	令和5年度～

氏名	専門分野	所属等	備考
神山 淳	社会教育	一般財団法人 日田市公民館運営事業団 朝日公民館主事	
佐藤 隆博	学校教育	日田市小学校教育課程等研究協議会 社会科部会 副主任	
和田 秀秋	まちづくり	日田市自治会連合会 副会長	
原田 勝宏	考古	日田考古学同好会 幹事	令和5年度～

日田市文化財保存活用地域計画庁内部会（令和5年度までの組織機構によるもの）

部局名	部名	課名
教育委員会	教育庁	学校教育課
		社会教育課
市長部局	総務部	防災・危機管理課
	企画振興部	地方創生推進課
		まちづくり推進課
	市民環境部	環境課
	商工観光部	商工労政課
		観光課
	農林振興部	農業振興課
		林業振興課
土木建築部	都市整備課	

日田市文化財保護審議会

氏名	専門分野	所属等	備考
渡辺 文雄	有形文化財 [絵画・彫刻他]	元別府大学教授	
豊田 寛三	有形文化財 [古文書・古記録]	大分大学名誉教授	令和3・4年度
大津 祐司	同上	大分県立歴史博物館	令和5年度～
下村 智	有形文化財 [考古資料]	別府大学名誉教授	
伊東 龍一	有形文化財 [建造物]	熊本大学名誉教授	
段上 達雄	無形文化財	別府大学特任教授	
後藤 宗俊	史跡	別府大学名誉教授	
神川 建彦	天然記念物	特定非営利活動法人 初島森林植物園ネットワーク 理事長	
山田 拓伸	保存技術	元大分県立歴史博物館	令和3・4年度

氏名	専門分野	所属等	備考
渡辺 智恵美	同上	別府大学教授	令和5年度～
江面 嗣人	伝統的建造物	岡山理科大学教授	
大森 洋子	文化的景観	久留米工業大学 学長補佐	
大神 信證	文化財の活用	日田市文化財保護員協議会	
佐藤 隆博	同上	日田市小学校教育課程等研究協議会 社会科部会 副主任	
千田 昇	地形・地質	大分大学名誉教授	令和4年度 臨時委員

日田市文化財保存活用地域計画協議会 経過

日時		場所	審議内容
第1回	令和3(2021)年 10月15日	日田市役所 4階庁議室	<ul style="list-style-type: none"> 文化財保存活用地域計画、大分県文化財保存活用大綱について 日田市の文化財について 日田市文化財保存活用地域計画の作成の取組について
第2回	令和4(2022)年 3月24日	日田市役所 4階庁議室	<ul style="list-style-type: none"> 日田市文化財保存活用地域計画の章立ての作成について 日田市の歴史文化の特徴の作成について
第3回	令和5(2023)年 3月21日	日田市役所 4階庁議室	<ul style="list-style-type: none"> 事業の進捗状況について 文化財の総合把握調査について 日田市の歴史文化の特徴について
第4回	令和5(2023)年 10月27日	日田市役所 4階庁議室	<ul style="list-style-type: none"> 日田市文化財保存活用地域計画（骨子案）について 日田市文化財保存活用地域計画措置一覧について 日田市文化財保存活用地域計画素案（序章・第1章）について 今後のスケジュールについて
第5回	令和5(2023)年 12月27日	日田市役所 4階庁議室	<ul style="list-style-type: none"> 日田市文化財保存活用地域計画（素案）について 今後のスケジュールについて
第6回	令和6(2024)年 2月22日	日田市役所 4階庁議室	<ul style="list-style-type: none"> 日田市文化財保存活用地域計画（素案）について 今後のスケジュールについて

日田市文化財保存活用地域計画庁内部会 経過

日時		場所	審議内容
第1回	令和3(2021)年 12月27日	日田市役所 7階中会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財保存活用地域計画について ・文化財の保存・活用の推進及び連携体制について ・今後のスケジュールについて
第2回	令和5(2023)年 3月22日	日田市役所 5階501会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況について ・日田の歴史文化を絡めることが出来る事業等について
第3回	令和6(2024)年 1月22日	日田市役所 7階701会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・日田市文化財保存活用地域計画(素案)について ・関係各課が取り組む措置(施策)について ・今後のスケジュールについて

日田市文化財保護審議会 経過

日時		場所	審議内容
第1回	令和3(2021)年 5月26日~6月4日	書面開催	<ul style="list-style-type: none"> ・日田市文化財保存活用地域計画の作成の取組について
第2回	令和4(2022)年 8月9日	日田市役所 4階庁議室	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度の報告について ・令和4年度の予定について ・今後のスケジュールについて
第3回	令和5(2023)年 2月2日	日田市役所 別館3階 大会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の進捗状況について ・今後のスケジュールについて
第4回	令和6(2024)年 3月11日	日田市役所 4階庁議室	<ul style="list-style-type: none"> ・日田市文化財保存活用地域計画(素案)について

3. 地域計画の位置づけ

本計画は、文化財保護法第183条の3の規定に基づく法定計画として作成し、本市が目指す目標の実現に向けた中・長期的な基本方針を定めるマスタープランと、短期的に取り組む具体的な内容を示したアクションプラン（実施計画）となる。

本計画の作成にあたっては、大分県内における文化財の保存・活用に関する施策の大綱である『大分県文化財保存活用大綱』を勧案し、市政の最上位計画である『第6次日田市総合計画』及び教育分野の上位計画となる『日田市教育大綱』などを踏まえるとともに、庁内関係各課が策定等した各種計画との連携・調整を図った。

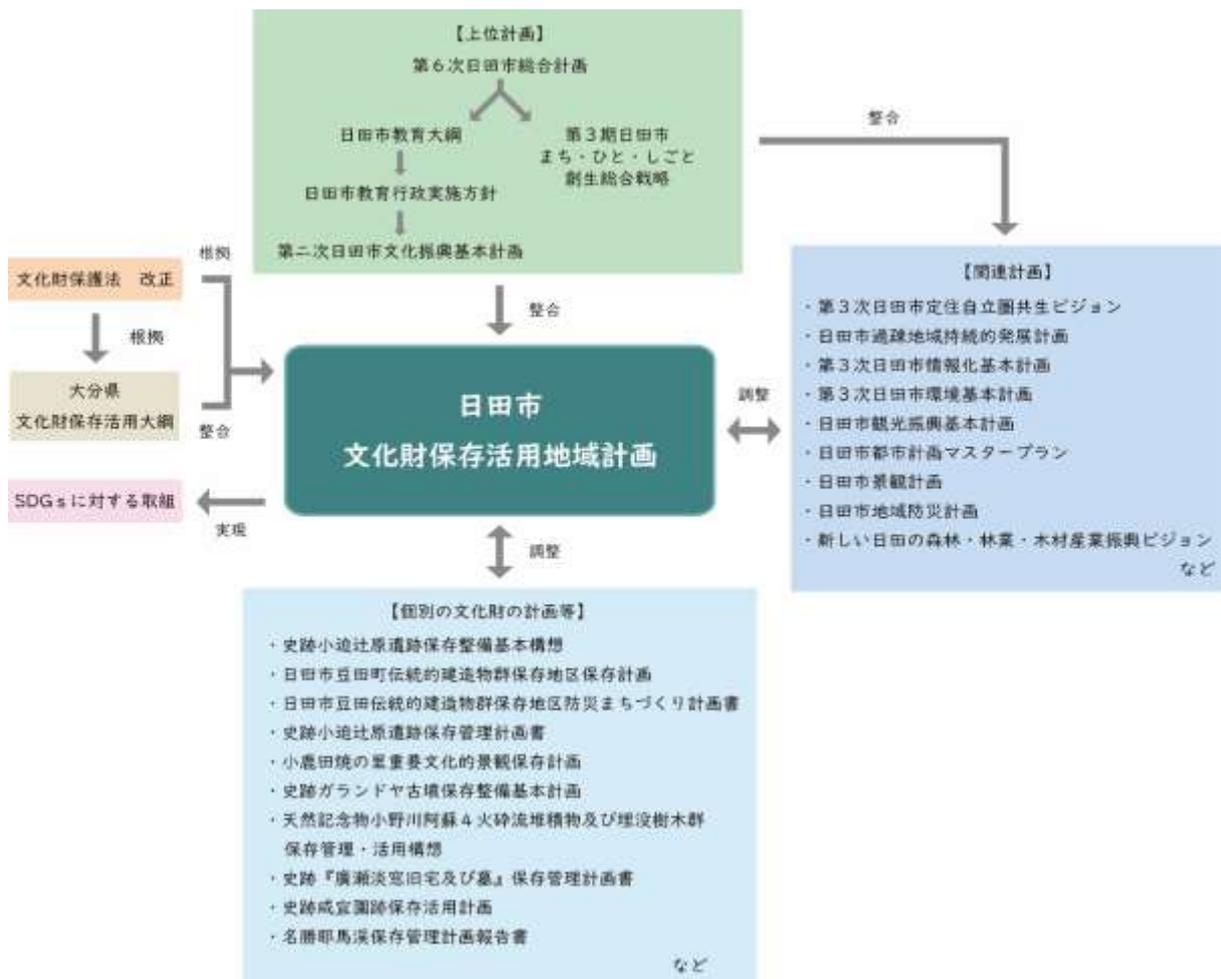


図1 本計画の位置づけ

(1) 上位計画

① 第6次日田市総合計画

『第6次日田市総合計画』は、本市が目指す将来像を実現するために実施する政策を明らかにし、市民と行政がまちづくりを協働して進めるための指針である。また、本市の最上位計画として総合的かつ計画的な行政運営を行うための方針となるものである。

『第6次日田市総合計画』の計画期間は平成29(2017)年度から令和9(2027)年度としており、計画の構成は基本構想、基本計画及び実施計画により構成している。

基本計画は第1期計画を3年間、第2期計画を4年間、第3期計画を4年間に区分して策定しており、現在は第3期計画である。

第3期基本計画は六つの章から構成され、特に文化財に関する施策については、「やりがいと魅力をつくる～価値を磨き続ける ひた～産業振興3-(4)観光の振興 ①地域資源を活かした観光のコンテンツの磨き上げ」「安全で快適に暮らす～便利も快適もそろえる ひた～生活基盤4-(4)地域特性を活かした空間づくり ②景観の形成」「学ぶ楽しさを増やす～学ぶ機会に満ちる ひた～教育・文化5-(2)文化芸術の振興 ①文化財や芸術文化の保存、継承と発展」「同章(3)生涯学習の充実 ②博物館の機能の充実」などにおいて示している。

② 第3期日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略

『第3期日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略』は、国の総合戦略及び大分県の総合戦略を勘案しつつ、本市の最上位計画である『第6次日田市総合計画第3期基本計画』や『日田市人口ビジョン』を踏まえ、基本目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめたものである。

計画期間は令和6(2024)年度から令和9(2027)年度としており、「若い世代が残れる・戻れる・住みたいと思うまちを創る」を基本目標に掲げている。

『第3期日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略』においては、総合戦略の中に行政と民間などが相互に推進していく内容を記載することで連携を図り、目標の達成を目指している。特に文化財に関する施策については、「魅力を発信し、「ひた」への人の流れをつくる」取組において、情報発信や活用について示している。

③ 日田市教育大綱

『日田市教育大綱』は、地域住民の意向のより一層の反映と日田市における教育、学術及び文化の振興に関する施策の総合的な推進を図るため、日田市長と日田市教育委員会が協議して定めた、日田市の教育行政を推進するための基本的な指針となるもので、『第6次日田市総合計画』と整合性を図るとともに、『日田市教育行政実施方針』と連動している。

実施期間は令和4(2022)年度から令和9(2027)年度までの6年間となっており、「未来を切り拓き、ふるさとを愛するひとづくり」を基本理念に掲げ、その理念に基づく五つの基本方針が掲げられている。特に文化財に関しては、「咸宜園などふるさとの歴史と文化を守り、未来につながります。」という基本方針を掲げている。

教育大綱の具体的な取組は、『日田市教育行政実施方針』に示している。

④ 日田市教育行政実施方針

『日田市教育行政実施方針』は、教育に関する現状と課題を的確に把握し、その解決や進展を図るための方策を明文化し、一貫したより良い教育の実現を目指すため、教育大綱で示された基本方針を実現するための具体的な取組を示すものであり、『第6次日田市総合計画』と連動し、かつ、国が策定した『教育振興基本計画』を参考として策定した。

計画期間は令和6(2024)年度から令和9(2027)年度までの4年間としており、その構成は四つの章から成り立っている。特に文化財に関する施策については、「IV《文化芸術の振興》IV

－第1ふるさとの歴史・文化の保存と未来へ向けての活用」において、「1.文化財の保存環境の整備と活用の推進」「2.咸宜園教育等の普及啓発と世界文化遺産登録」の二つを示している。

⑤ 第2次日田市文化振興基本計画

『第2次日田市文化振興基本計画』は、文化の振興に当たっての基本理念を基に、市民の芸術文化活動や本市の歴史ある文化遺産、生活の中の文化などを活用し、生き生きと心豊かに暮らせる地域社会を実現するため、文化に関する施策を総合的、計画的に推進することを目的として策定している。

計画期間は平成29（2017）年度から令和9（2027）年度までの11年間となっており、さらに11年の計画期間を3年、4年、4年の3期に区分している。

基本理念として、「(1)文化の保存、継承」「(2)日田らしい歴史、風土の反映」「(3)市民の主体的な参加」「(4)文化活動の尊重」「(5)誰もが文化に接することができる環境整備」「(6)情報の受発信と交流の推進」「(7)市民の意見の反映」の七つを掲げており、これらの基本理念のもと、地域を活性化させる文化力を活用し、市民生活に安らぎと潤いを与えながら、行政、市民や文化団体、事業所などの協働によって「心豊かで輝く人の育つ活力ある地域社会」の実現を将来像としている。

(2) 関連計画

① 第3次日田市定住自立圏共生ビジョン

『第3次日田市定住自立圏共生ビジョン』は、『第6次日田市総合計画』を上位計画とし、旧日田市の区域と、旧前津江村、旧中津江村、旧上津江村、旧大山町、旧天瀬町の区域で形成する「日田市定住自立圏」のどこでも誰もが安心して定住できる環境を整備するとともに、自立するための経済基盤を確立し、魅力あふれる圏域を形成することを目的として策定した。

計画期間は令和6（2024）年度から令和9（2027）年度までの4年間であり、基本方針として、三つの項目を示している。

特に文化財に関する事業については、「基本方針1.生活機能の強化 (2)文化芸術 ア文化芸術の振興」に取組の内容と機能分担について記載している。

② 日田市過疎地域持続的発展計画

『日田市過疎地域持続的発展計画』は、令和3（2021）年4月に施行された「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法」の規定に基づき、市内全域を対象として、過疎地域における持続可能な地域社会の形成及び地域資源などを活用した地域活力の更なる向上の実現を目的に策定した。

計画には、地域の持続的発展の基本的方針に関する事項、地域の持続的発展に関する目標などを定め、計画期間は令和3（2021）年度から令和7（2025）年度までである。

構成は13の項目から成り立っており、特に文化財に関する施策については、「11.地域文化の振興等」において、現況と問題点及び対策などについて示している。

③ 日田市地域防災計画

『日田市地域防災計画』は、大分県地域防災計画との整合性を図りながら、日田市における防災活動体制の整備確立を図るとともに、地域内の関係機関を網羅した総合的な計画として定め、もって防災活動の効果的な実施を図り、市民の生命、身体及び財産を災害から保護することを目的とし、策定した。「市民の生命、身体及び財産を災害から保護する」という防災の究極の目標（理念）を実現するため、災害予防対策、災害応急対策及び災害復旧対策などについて、風水害及び地震それぞれに三つの基本的な目標を設定し、各々の施策を有機的に結びつけながら防災対策を総合的に推進している。

このうち、文化財に関する施策について、風水害に関するものは、「第2部 災害予防（風水害編）第2章災害に強いまちづくり 3. 文化財の災害予防対策」の中の「（1）文化財防災施設の設定促進」「（2）文化財防災施設の維持管理」「（3）歴史資料等の防災対策の推進」において示している。また、地震に関するものは、「第2部災害予防（地震編）第2章災害に強いまちづくり 3. 文化財構造物及び公開・収蔵施設の耐震性の確保」の中の「（1）文化財構造物及び公開・収蔵施設に関する事業の基本方針」「（2）文化財構造物及び公開・収蔵施設に関する事業の実施」において示している。

④ 第4次日田市情報化基本計画

第6次日田市総合計画を情報政策面から推進するため、令和5（2023）年度から令和9（2027）年度までの5年間を計画期間とした『第4次日田市情報化基本計画』を策定しており、日田市のデジタル化の推進に取り組んでいる。

文化財の保存・活用に関しては、基本方針に掲げる「誰もがデジタル社会の恩恵を享受できる地域社会の実現」の施策として、デジタル技術を活用した取組を進めることとしている。

⑤ 第3次日田市環境基本計画

『第3次日田市環境基本計画』は、環境保全及び創造に関する目標や施策の基本的方向を示し、総合的かつ計画的に推進することを目的として策定した。

『第3次日田市環境基本計画』は、世界的な気候変動問題、プラスチック問題の深刻化や環境・経済・社会の三側面が関連し複雑化した課題に対応し、持続可能な世界を実現するための「持続可能な開発目標（SDGs）」の考えのもと、受け継がれてきた「水郷ひた」と呼ばれる恵まれた自然環境を守り、環境と共生する持続可能なまちづくりを推進するため、策定した。

計画期間は、令和3（2021）年度から、令和9年（2027）年度までとしており、施策の柱として四つの項目を定めている。

このうち、文化財に関する施策については、「施策の柱 i. 地域資源を活かすまち～水郷ひたづくりの推進～」の「基本施策（7）歴史的・文化的資源の保全・活用、良好な景観の保全」において、「1 歴史的・文化的資源の保全・活用を図ります。」「2 良好な町並み景観を保全します。」という施策の方向を示している。

⑥ 新しい日田の森林・林業・木材産業振興ビジョン

『新しい日田の森林・林業・木材産業振興ビジョン』は、相互に関連する森林・林業・木材産業のあるべき姿の実現のため、森林・林業・木材産業関係者だけでなく、森林の有する多面的機能の恩恵を受ける市民の理解を深めながら、長期的視点に立って取り組む、日田市が目指すべき森林の姿と基幹産業である林業・木材産業振興の基本的な指針である。

計画期間は13年となっており、4年ごとに必要に応じて見直しを行っている。

「(1) 森林を守り・育てる」「(2) 森林を活かす」「(3) 森林でつながる」という三つのテーマのうち、「(1) 森林を守り・育てる」の「①多面的機能を発揮する豊かな森林づくり ○市有林の活用」の中で、日田祇園の山鉾の車輪や小鹿田の唐臼となる材料を育てる目的で、市有林にアカマツ3,200本を植栽するという「地域文化財継承へ「祇園の森」の取組」を紹介している。

⑦ 日田市観光振興基本計画

『日田市観光振興基本計画』は、旅行者のニーズの多様化など、観光を取り巻く環境の変化に柔軟に対応すべく、本市の特性を活かした持続可能な“観光地域づくり”を目指して、その基本となる理念・基本方針・基本施策を掲げ、行政や観光協会、観光関連事業者、観光関連団体のみならず、市民や各種団体、事業者などが一体となって観光振興を図るための指針として策定した。

計画期間は令和5（2023）年度から令和9（2027）年度までとなっており、基本方針として五つの項目を定めている。

特に文化財に関する施策については、「基本方針1. 地域資源を活かした観光コンテンツの磨き上げ 基本施策②地域産業・歴史・文化資源の活用」において、「歴史、文化資源の活用による誘客と文化継承のサポート」を、展開する基本的取組として示している。

⑧ 日田市景観計画

『日田市景観計画』は、都市部における画一的な開発や都市の形成、また農村部における後継者不足などによる耕作放棄地や荒廃林地の増加など、経済性や効率性を追求したまちづくりによる景観破壊から、市民・事業者・行政が協働して、日田市特有の良好な景観を守り、育て、後世に継承していくため、策定した。

旧日田市、旧天瀬町、旧大山町、旧上津江村、旧中津江村、旧前津江村の六つの地域は、それぞれが持つ豊かな地域資源により独自の景観特性を有しており、合併によって行政区域は一体となったが、実効性の高い景観形成を図るために、それぞれの地域の特性をふまえ、景観計画区域を四つの景観形成重点地区、三つの線的な景観軸、三つの面的なゾーン、一つの特別区の合わせて11ゾーンに区分している。

基本理念として「自然と地域と人がつながる“水郷日田”の景観まちづくり」を掲げ、さらに目標として、「①豊かな自然環境を守る景観まちづくり」「②地域をつなげる景観まちづくり」「③地域の個性を活かした景観まちづくり」「④みんなが主役の景観まちづくり」を掲げている。また、これらの目標を達成するため、基本方針として、「①暮らしを支える農林山村を守り・育てます。」

「②地域をつなぐ“おもてなし空間”を形成します。」「③歴史と伝統が息づく町並み景観を守り、活かします。」「④身近で日常的な景観を一人ひとりが守り、育みます。」を掲げている。

⑨ 日田市都市計画マスタープラン

『日田市都市計画マスタープラン』は、都市計画法第18条の2に基づき「日田市の都市計画に関する基本的な方針」を示すものである。市民の意見を反映しながら、“日田市における将来の都市像”の方向性を示すことで、地域ごとの課題に応じた都市施設の整備方針などを定めている。土地の利用方法や道路・公園・上下水道などの施設整備の目標に加え、自然環境や景観、防災などに関する現況や動向を考慮した“長期的なまちづくりの基本構想”である。

計画期間は平成25(2013)年度から令和15(2033)年度までとしており、将来の都市像を『水と緑と人を育み、歴史豊かな活気ある交流都市』とし、五つの基本方針を掲げている。この基本計画をもとに、土地利用・交通体系・公園緑地・都市施設・景観・防災など、都市計画に関する分野毎にまちづくりの方針を設定している。

このうち、文化財に係る方針については、「1.土地利用の方針」における「歴史的文化交流地」や「5.景観の方針」において示している。

(3) 個別の文化財の計画など

① 史跡小迫辻原遺跡保存整備基本構想

『史跡小迫辻原遺跡保存整備基本構想』は、国指定史跡である小迫辻原遺跡の総合的な整備活用の基本的構想を纏めることを目的とし、平成10(1998)年3月に策定した。

「小迫辻原遺跡を活かした個性あるまちづくり」ため、遺構保存を第一として活用を図りながら、歴史・文化・人びとのネットワーク化の拠点として整備を行うことを基本方針として掲げ、個別の整備計画では史跡内外のゾーン設定や事業期間、具体的管理・活用の計画などを示している。

② 日田市豆田町伝統的建造物群保存地区保存計画

『日田市豆田町伝統的建造物群保存地区保存計画』は、日田市豆田町伝統的建造物群保存地区の町並みを保存するとともに、積極的に活用することにより、本市の文化的環境の維持と生活環境の向上に資することを目的とし、平成16(2004)年7月に策定した。

保存地区では、歴史的風致の維持形成を図るため、伝統的建造物群を構成する建築物や工作物、これと一体をなす環境要素を保存すべき物件として特定し、建築物等の現状変更に対して、適切な基準を設けている。また、標識、説明板などの管理施設及び設備を伝統的町並みに調和した形式・構造で設置し、景観の維持に努める方針を掲げている。

③ 日田市豆田町伝統的建造物群保存地区防災まちづくり計画書

『日田市豆田町伝統的建造物群保存地区防災まちづくり計画書』は、『日田市地域防災計画』に基づきつつ豆田町の伝統的建造物群の無為な消失を防ぎ、住民が主体となって防災まちづくりを実現することを目的とし、平成18(2006)年3月に策定した。

防災まちづくりのテーマを「災害に強い建物の形成の歴史を活かしたまちづくり」とし、「防災性能の高い建物環境づくり」「災害に強い町並み基盤づくり」「防災意識の高いコミュニティ

づくり」の三つの基本方針を掲げている。その上で、それぞれの方針に沿った防災まちづくり計画と、その具体化を図った事業計画を示している。

策定後、平成 23（2011）年度と令和 5（2023）年度に一部改訂している。

④史跡小迫辻原遺跡保存管理計画書

『史跡小迫辻原遺跡保存管理計画書』は、国指定史跡である小迫辻原遺跡を将来にわたり適切に保存・管理していくことを目的に、史跡の本質的価値を明確にし、保存・管理における方針とその方法、将来像と土地公有化の方針、現状変更などの取扱いについての基準などを定めるとともに、史跡の本質的価値を再確認し、追加指定などについて検討することを目的とし、平成 23（2011）年 3 月 31 日に策定した。

弥生時代から古墳時代の変換期の我が国の国家形成期の社会状況が凝縮して保存された極めて重要な遺跡として本質的価値を位置づけ、住民生活との調整や遺構を将来にわたって適切に保存することを基本方針とし、史跡地内外のゾーニングを行ったうえで具体的な保存管理の方法を示している。また、それらを踏まえて整備活用の基本方針などを定めている。

⑤史跡ガランドヤ古墳保存整備基本計画

『史跡ガランドヤ古墳保存整備基本計画』は、国指定史跡であるガランドヤ古墳の各種の調査や課題の整理をもとに保存整備の基本的計画を示すことを目的とし、平成 23（2011）年 3 月 11 日に策定した。

装飾古墳であるガランドヤ古墳の石室と装飾壁画を確実に保存し、後世に伝えていくことを基本方針としている。そのうえで、現状把握及び最適な保存環境を得るための試験などの成果を元に、2 基の古墳の個別保存施設や便益施設などの全体整備計画、学習の場としてや市内外の装飾古墳と連携した公開活用、都市公園としての位置付けや具体的な管理運営計画、事業計画を示している。

⑥天然記念物小野川の阿蘇 4 火砕流堆積物及び埋没樹木群保存管理・活用構想

『天然記念物小野川の阿蘇 4 火砕流堆積物及び埋没樹木群保存管理・活用構想』は、国指定天然記念物である小野川の阿蘇 4 火砕流堆積物及び埋没樹木群を将来にわたり適切に保存・管理、活用していくことを目的に、その方針と方法、現状変更などの取扱いについての基準、活用の構想などを定めることを目的とし、平成 24（2012）年 3 月 30 日に策定した。

9 万年前の阿蘇 4 火砕流の被災状況を明確にできる痕跡として本質的価値を位置づけ、天然記念物の恒久的な保存、特徴・価値を踏まえた保存管理と活用、現状に即した柔軟な対応を保存管理の原則とし、地区区分や現状変更手続きなどの保存管理の具体的方法、天然記念物の将来像に関する整備活用の骨子を定めている。

⑦小鹿田焼の里文化的景観保存計画

『小鹿田焼の里文化的景観保存計画』は、小鹿田焼の里の貴重な文化的景観を適切に保存管理し、地域特有の土地利用の歴史や生活生業の姿を伝え、地域活性化に資する資源として広く活用

を図ることを目的として、平成22(2010)年3月に策定した、将来にわたる保護の基本的な考え方や方向性を示すものである。

計画では、「陶郷の原風景をもとめ、里と里山景観の美しさを次世代へ伝える」ことを目指し、「生業を支えた里、里山景観を保全します」「集落景観と窯場のたたずまいを継承します」「良好な景観の保全と協議等による景観形成を図ります」「来訪者への利便性向上を図ります」の四つの基本方針を掲げている。また、文化的景観を構成する要素のうち、特に文化財として価値が高い物件を「重要景観構成要素」と位置づけ、建築物・工作物・環境要素の三つの種別に分けて要件を整えた上、それぞれの保存・整備方針を示している。

⑧史跡『廣瀬淡窓旧宅及び墓』保存管理計画書

『史跡『廣瀬淡窓旧宅及び墓』保存管理計画書』は、国指定史跡である廣瀬淡窓旧宅及び墓を将来にわたり適切に保存管理していくために、史跡の本質的価値を明確にし、保存管理における方針とその方法、現状変更などの取扱いについての基準などを定め、整備活用などを含めた将来像を示すことを目的とし、平成26(2014)年3月31日に策定した保存管理計画書である。

私塾咸宜園を創設した廣瀬淡窓の業績や当時の佇まいを今に伝える遺跡として本質的価値を位置づけ、「史跡廣瀬淡窓旧宅及び墓の本質的価値を構成する要素を適切に保存し、その価値を高めるとともに、史跡と一体となった豆田町の町並みや周辺文化財と連携した保存活用を図り、日田市を代表する史跡として次世代に継承する。」ことを目標とし、地区区分や現状変更手続きなどの保存管理の具体的方法、整備及び公開活用の具体的方針を定めている。

⑨史跡咸宜園跡保存活用計画

『史跡咸宜園跡保存活用計画書』は、国指定史跡である咸宜園跡の現状と課題を把握し、本質的価値とその構成要素を明らかにし、その適切な保存と活用方法、さらには将来的な整備の方向性を取りまとめることを目的とし、令和6(2024)年3月31日に策定を予定している。

咸宜園は先進的な教育を行った近世日本最大規模の私塾跡で、残された遺構や史資料から当時の姿を今に伝える重要な史跡として本質的価値を位置付け、「歴史的建築物や地下遺構を適切に保存管理し、失われた建造物等の顕在化を図り、私塾咸宜園の教育を伝える場所として活用し、後世に継承する」ことを将来像として掲げ、史跡地内外のゾーニングを行い、区域ごとに保存・活用・整備・運営体制の方法を定めている。

⑩名勝耶馬溪保存管理計画報告書

『名勝耶馬溪保存管理計画報告書』は国指定名勝である耶馬溪の文化財的価値の保護・継承を適切に図っていくために、昭和57(1982)年に策定された『名勝耶馬溪-名勝耶馬溪保存管理計画策定調査報告書-』の改訂版として、平成23(2011)年に策定したものである。

保存管理の基本方針として、「名勝を構成する諸要素の適切な保存管理の方法を具体化すること」「確実な保存管理のために適切な整備活用に関する施策を進めること」「地域に根ざした包括的な保存管理を進めるために、組織体制及び運営体制の整備を行うこと」の三つを掲げている。この基本方針に基づき、主要な構成要素の分布状況や保存状況を踏まえ、第1種保護地区として「名

勝耶馬溪の本質的価値を極めて良好に保った地区」、第2種保護地区として「名勝耶馬溪の本質的価値を良好に保つ地区」、第3種保護地区として「名勝耶馬溪の姿を保存するためにその維持が望まれる地区」の三つの保護地区を設定し、それぞれの地区の保存管理の方法、現状変更の取り扱い基準を定めている。

また、本計画書では、広大かつ多様な耶馬溪の風致景観を適切に把握するため、本耶馬溪、東耶馬溪、津民耶馬溪、奥耶馬溪、深耶馬溪、裏耶馬溪、南耶馬溪、椎屋耶馬溪及び山国川に分け、さらに従前からの慣用されている66景によって整理され、本市では「57. 一尺八寸山の景」が第2種保護地区の中心をなす箇所となっている。

(4) 大分県の関連計画

①大分県文化財保存活用大綱

『大分県文化財保存活用大綱』は、大分県における文化財の保存・活用の基本的な方向性などを定めることを目的とし、令和3(2021)年3月に策定された。

目指すべき将来像として「人々が文化財の価値を発見し、その価値を共有することを通して持続可能な継承が図られる社会」を掲げ、この将来像を達成するために「①文化財を「知る」「②文化財を「活かす」「③文化財を「守る」の三つの方向性を示している。

(5) 持続可能な開発目標 (SDGs) に対する取組

SDGsとは、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等、人間活動に対する諸問題に対して、人類が将来にわたり恵み豊かな生活ができるよう、平成27(2015)年に国連が提唱した「持続可能な開発目標」であり、17のゴール(目標)と169のターゲット(目標達成のための課題)から構成されている。国においては「持続可能な開発目標)推進本部」を設置し、地方公共団体における持続可能な開発目標の達成に向けた取組の普及・促進を行っている。

本計画の上位計画である第6次日田市総合計画第3期基本計画に基づいたまちづくりに取り組む方向性は、持続可能な開発目標(SDGs)が目指す17のゴールの方向性と同様であることから、総合計画の推進を図ることで、SDGsの目標につながるものとしている。

そのため、本計画は、第6次日田市総合計画第3期基本計画の下位計画としての整合性をとりつつ、SDGsの達成に資するものである。



ゴール (目標)	目標の内容	文化財の保存・活用に関する 措置とゴールとの関連性
	<p>【目標4 教育】 すべての人に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する (ターゲット 4.7) 文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育</p>	<p>文化財の展示公開、講演会や講座の開催、学習教材や刊行物の作成などが、目標の達成に資する</p>
	<p>【目標6 水と衛生管理】 すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する (ターゲット 6.6) 水に係る生態系を守り、回復させる</p>	<p>学校教育や社会教育との連携による学習機会の提供が目標の達成に資する</p>
	<p>【目標8 経済成長と雇用】 すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用及びディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を推進する (ターゲット 8.9) 地方の文化振興、持続可能な観光業の促進</p>	<p>文化財を観光資源として活用することが、目標の達成に資する</p>
	<p>【目標11 持続可能な都市】 都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする (ターゲット 11.4) 世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化</p>	<p>歴史的環境（歴史の中で形成されてきた文化財、町並み、自然景観、行事、習俗などの総称）の保全が、目標の達成に資する</p>
	<p>【目標13 気候変動】 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる (ターゲット 13.3) 気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する</p>	<p>文化財に係る災害予防対策（リスク分析、マニュアル及び防災施設整備など）を講ずることが、目標の達成に資する</p>

ゴール (目標)	目標の内容	文化財の保存・活用に関する措置とゴールとの関連性
	【目標 15 陸上生態系】 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する (ターゲット 15-a) 生物の多様性や生態系を守る	学校教育や社会教育との連携による学習機会の提供が目標の達成に資する
	【目標 17 実施手段】 持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化 する (ターゲット 17.17) 官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進	市民や団体との協働・参画が、目標の達成に資する

4. 計画期間

本計画の計画期間は、令和 7（2025）年度～令和 17（2035）年度の 11 年間とする。

ただし、計画期間中に『第 7 次日田市総合計画』の策定が行われる予定であり、これにあわせて、文化財を取り巻く社会状況や事業の進捗状況を踏まえた見直しを行うこととする。

見直しの結果、計画の変更が必要な場合には、文化財保護法第 183 条の 4 の規定に基づき、軽微な変更を除き、文化庁長官による変更の認定を受けることとする。また、軽微な変更の場合には、大分県及び文化庁へ報告することとする。軽微な変更とは次に掲げる変更以外の変更をいう。

- ・ 計画期間の変更
- ・ 市町村の区域内に存する文化財の保存に影響を及ぼすおそれのある変更
- ・ 地域計画の実施に支障が生じるおそれのある変更



図 2 計画期間

5. 計画の対象

文化財保護法第2条で規定されている文化財には、「有形文化財」「無形文化財」「民俗文化財」「記念物」「文化的景観」「伝統的建造物群」があり、これらのうち重要なものを重要文化財、史跡名勝天然記念物等として、国や県、市町村が指定・選定等を行い、重点的に保護措置を図っている（以下「指定等文化財」という。）。この他、土地に埋蔵されている文化財（埋蔵文化財）や文化財の保存・修理に欠くことのできない伝統的な技術・技能（文化財保存技術）も保護の対象とされている。

一方で、『第2次日田市文化振興基本計画』では、対象とする文化に「芸術文化（美術、写真、書道、音楽、舞踊、演劇、建築など）」や「メディア芸術（映画など）」「伝統芸能（神楽、民謡、民踊など）」「伝統技術（陶芸、木竹工芸、漆工芸、漁法、建築技術など）」「生活文化（茶道、華道、食、方言、街並み、景観、自然など）」などを挙げている。このように長い歴史の中で人々の営みによって生み出され、今日まで守り伝えられてきた文化財は本市に数多く存在するが、そのほとんどは法や条例では指定されていないいわゆる「未指定」の状態となっている（以下「未指定文化財」という。）。

そこで、本計画では、文化財保護法に基づく指定等の有無、有形・無形を問わず、地域に残る豊かな自然、ふるさとの歴史と伝統に育まれた全ての文化財を対象とし、その調査・保存に努め、併せて教育や観光など様々な分野での活用を図ることによって、貴重な財産である文化財を後世に伝えていくことを目指す。

表1 文化財保護法が対象とする文化財の種類一覧

文化財類型	種類
有形文化財	【建造物】 【美術工芸品】絵画、彫刻、工芸品、書跡・典籍、古文書、考古資料、歴史資料
無形文化財	演劇、音楽、工芸技術など
民俗文化財	【有形の民俗文化財】無形の民俗文化財に用いられる衣服、器具、家屋など 【無形の民俗文化財】衣食住・生業・信仰・年中行事などに関する風俗慣習、民俗芸能、民俗技術
記念物	【遺跡】貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅など 【名勝地】庭園、橋梁、峡谷、海浜、山岳など 【動物、植物、地質鉱物】
文化的景観	【地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地】棚田・里山・用水路など
伝統的建造物群	【周囲の環境と一体となっている伝統的な建造物群】 宿場町、城下町、農漁村など
埋蔵文化財	土地に埋蔵されている文化財（主に遺跡といわれている場所）
文化財の保存技術	文化財の保存に必要な材料や用具の生産・製作、修理・修復の技術など

◎第1章 日田市の概要

1. 自然的・地理的環境

(1) 位置

本市は、北部九州のほぼ中央にあたる大分県の西部に位置し、県内では北は中津市、東は玖珠郡玖珠町、大分県外では東は熊本県阿蘇郡小国町、南は熊本県阿蘇郡南小国町、阿蘇市、菊池市、山鹿市、西は福岡県八女市、うきは市、朝倉市、北は福岡県朝倉郡東峰村、田川郡添田町と接している。平成17(2005)年3月22日に天瀬町・大山町・上津江村・中津江村・前津江村との合併により、東西24.9km、南北48.6km、面積666.03km²となった。

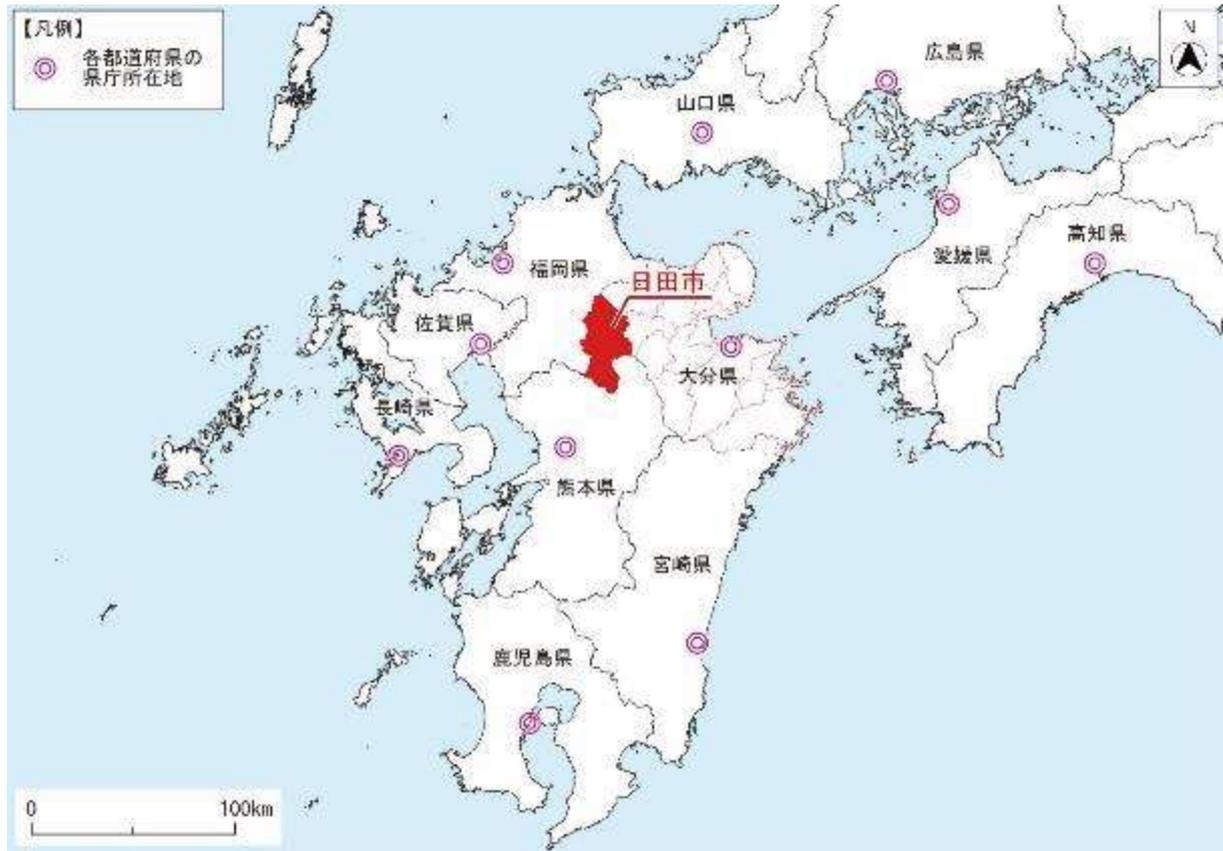


図3 本市の位置(広域)

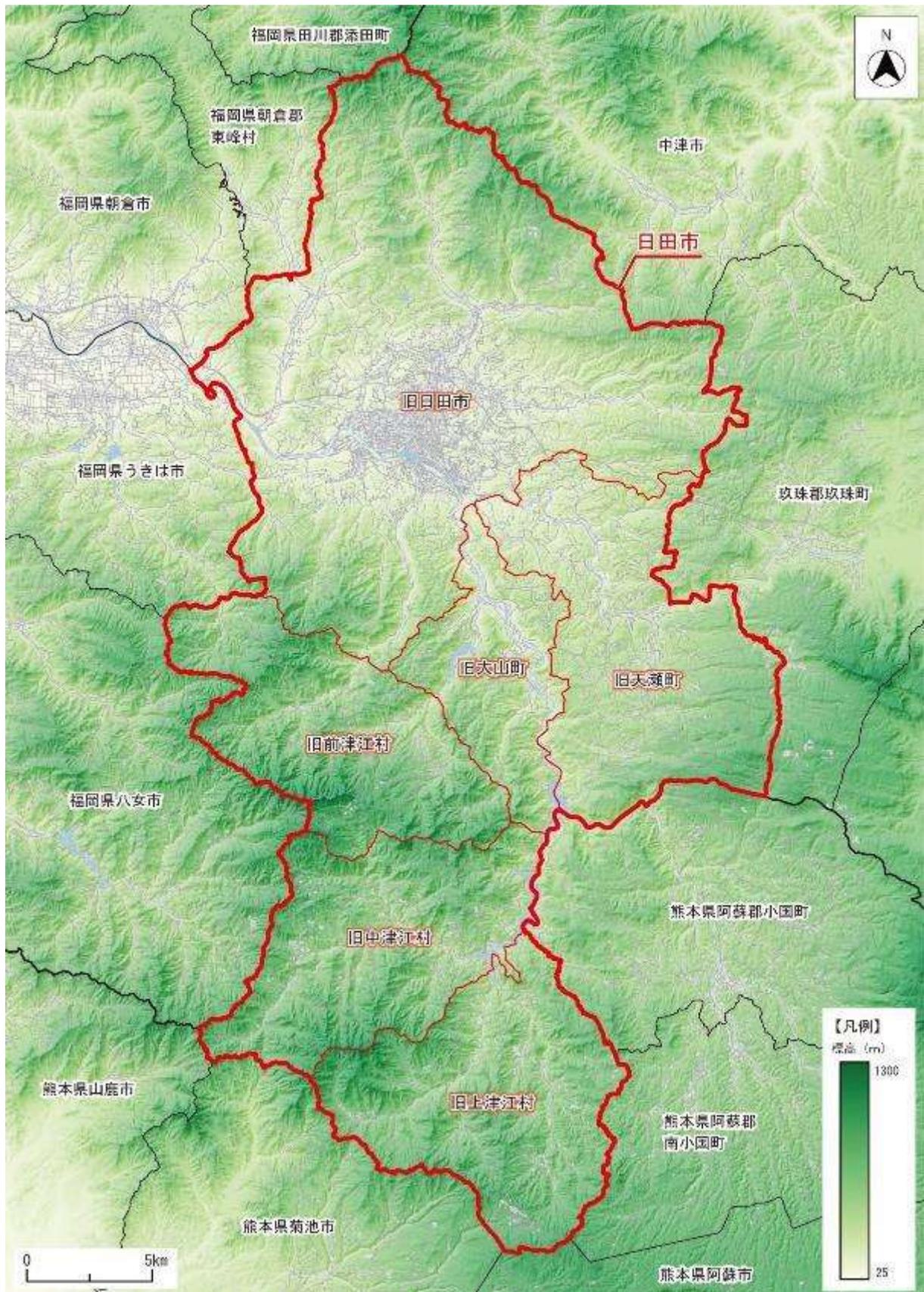


図4 本市の位置 (拡大)

(2) 地形

本市の地形は、周囲を阿蘇外輪山やくじゅう山系、英彦山系の山々に囲まれた特徴的で起伏に富んだ地形を有している。北半分は典型的な盆地地形で、日田盆地と称される。現在の市街地に当たるのが日田盆地の沖積面で、標高は75～90mを測る。盆地内には、筑紫及び阿蘇火砕流堆積物の残丘である日隈・月隈・星隈の日田三丘があり、盆地底沖積面周囲には、山田原・吹上原・葛が原・須の原・町野原・佐寺原・長者原などの、「原」と呼ばれる標高150m前後の台地が段丘状に広がっている。この台地の外側には竜体山・西の山・片峰・大石峠など標高200～600mの溶岩や礫岩からなる台地が巡り、さらにその外側の市の境界域には岳滅鬼山・大将陣山・一尺八寸山・月出山岳といった標高700～1,000m級の山々が連なる。これらの北部から西部に連なる山々からは小野川、花月川、有田川などの河川が日田盆地に注ぎ、三隈川と合流している。



日田盆地

一方、日田盆地の南部には、釈迦岳や御前岳、渡神岳、酒吞童子山など標高1,000mを越える山々が連なり、津江山系と呼ばれている。津江山系の源流から流れ出る豊富な水は、大山川や玖珠川などを流れて日田盆地で合流し、三隈川となり、さらに台地の合間を縫うようにして流れ出る高瀬川、串川、内河野川といった小河川が合流して九州最大の河川である筑後川となる。さらに西流して大肥川が合流し筑後平野を経て有明海へと注いでいる。このように市域の水系は上津江町の楮畑川と山国川上流域の葦木川を除き、すべて筑後川上流地域に位置づけられる。



三隈川と日隈山・月隈山

近世になると小ヶ瀬井路をはじめとした人工水路が築かれた。このような水利・水系は「水郷」日田の基礎となっている。

盆地内に流れ込むいくつかの小河川流域は谷底平野を形成している。周辺の玖珠川や大山川の流域では、崖状の深い谷地形が形成されている。そのため、玖珠川流域では、その右岸に広がる五馬台地を流れてきた小河川が合流付近で滝となっている。

また、『日本書紀』や『豊後国風土記』によると、天武天皇7(678)年に筑紫国で大地震が起こり、当時の日田郡でも各所に山崩れが起き、温泉が湧き出たとの記述がある。実際に桜竹や赤岩を中心とした河川敷には、単純硫黄泉の温泉源が自然湧出しており、源泉は古くから天ヶ瀬温泉の名で知られるなど、この地域特有の景観となっている。また、南部の津江地域では、昭和28(1953)年の西日本集中豪雨を契機に建設された下釜ダムをはじめとしたダム湖が多く形成されている。

御前岳の山頂や溪谷沿いにはブナ、ミズナラ、シオジなどの原生林が残っており、ここから湧き出る水は「御前岳湧水」と呼ばれ大分の名水に選ばれている。

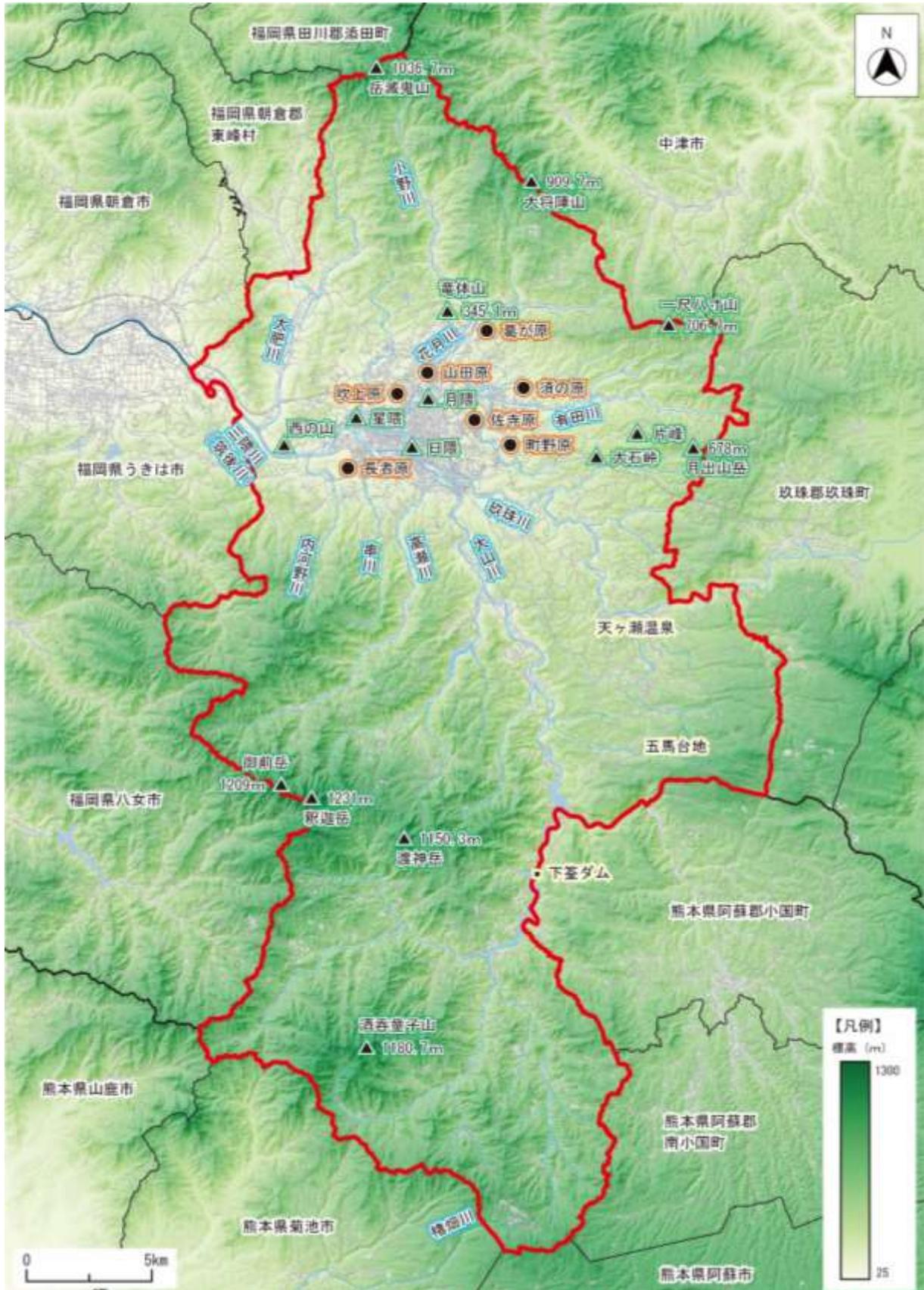


図5 地形図

(3) 地質

本市中心部の日隈山や会所山などの丘陵は、津江山地で見られる輝石安山岩からなり、日田盆地内でこの岩石が見られるのはこの2か所のみである。

市南西部の前津江町柚木や北部の殿町小野川河床では、今から3億～2億7千万年前の結晶片岩（黒色片岩）と呼ばれる変成岩（三郡変成岩）が見られ、上津江町の兵戸峠や川原川上流部では、中世代白亜紀（1億2千万～9千万年前）に変成岩を貫入して地上に噴出してきた岩石と考えられている花崗岩の露頭が見られる。これらの変成岩や花崗岩は、日田地域の基盤岩となっている。北西部の大肥本町白岩や南部の上津江町兵戸峠では、古第三紀始新世（4,500万～4,000万年前）に地球規模の温暖化の進行によって、大陸の一部が海に沈んだことを示す地層が見られる。

北部の小野川上流域（源栄町・殿町）や鶴河内川上流域（鶴城町）では、山国累層（760万～610万年前）と名付けられ、緑灰色をした安山岩（変朽安山岩＝プロピライト）が広く分布している。同じく南部の中津江村鯛生から西部の前津江町柚木一帯にかけても暗灰色をした変朽安山岩が分布し、ここでは鯛生層群（760万～610万年前）と名付けられている。源栄町にある小鹿田焼（国指定重要無形文化財）の陶土原料は、後の火山活動によって高温に熱せられた地下水が上昇し、変朽安山岩を蒸したことによって陶土に適した土へと変化したと考えられている。

津江山地では火山活動が始まる前に湖が形成されており、この時の湖の跡が新第三紀系の星原層と考えられている。星原層と似たような地層は下流域の大山町にも分布している。一方、津江山地の火山活動に伴ってその地下ではマグマによる熱水作用を受け、鯛生金山のもととなる金銀鉱床が形成されていった。

小野川中流域から大肥川・鶴河内川流域周辺には、集塊岩（凝灰角礫岩や火山円礫岩、軽石凝灰岩など）で構成された北坂本累層（610万～520万年前）と名付けられた地層が山国累層を覆うように分布している。この北坂本累層によって作られた自然景観は耶馬溪と呼ばれ、本市では中津市との境にある一尺八寸山の一部が国の名勝に指定されており、耶馬日田英彦山国定公園の一部としても保護されている。

西部の夜明ダム付近から北部の畦倉山や大日ヶ岳（福岡県東峰村）、英彦山、岳滅鬼山、仏来ノ山などの山々は北坂本累層を覆うように鮮新世輝石安山岩（470万～340万年前）が広く分布している。

三隈川から南部、大山川より西部の釈迦岳や御前岳、渡神岳、酒呑童子山などの津江山地の山々は、今から360万年前から久留米－日出線より南側、大分－熊本構造線（中央構造線）より北側の範囲で大規模な隆起が起り、その中でマグマによる火山活動が活発となって輝石安山岩を中心とした溶岩が噴出してきた。

大山川より東部は五馬台地と呼ばれ、100万年前に玖珠盆地付近より噴出した耶馬溪火砕流堆積物に



図6 日田市周辺の地体構造図

かめいしざん はねやま
 亀石山や万年山などから噴出した溶岩が覆い、平坦な台地が広がっている。この耶馬溪火砕流堆積物は日田盆地東部を中心に広く分布し、日田盆地西部の高井町川下まで及んでいる。

天瀬町の高尾川、矢瀬川沿いでは、かつて馬原地域一帯が珍珠盆地まで広がる大きな湖が形成されていたことを示す太田川層(140~120 万年前)が分布する。この地層は溶結凝灰岩の下層に堆積しており、一部露頭が見られる。この地層の中からは、珪藻・植物・魚類・貝類・哺乳類などの化石が産出する。植物の一つヒメバラモミは、現在北アルプス(長野県)など国内で標高の高い場所にしか自生していないことを考えると、当時は今よりはるかに冷涼な気候であったことをものがたる。コイ科魚類の喉頭歯化石の中には国内には生息していないダニオ垂科(ゼブラフィッシュなどの仲間)が見つかり、ワニやサイなどの足跡化石もみられることから、今は国内で生息していない動物も大陸と陸続きだった当時には日本で暮らしていたことが明らかとなった。

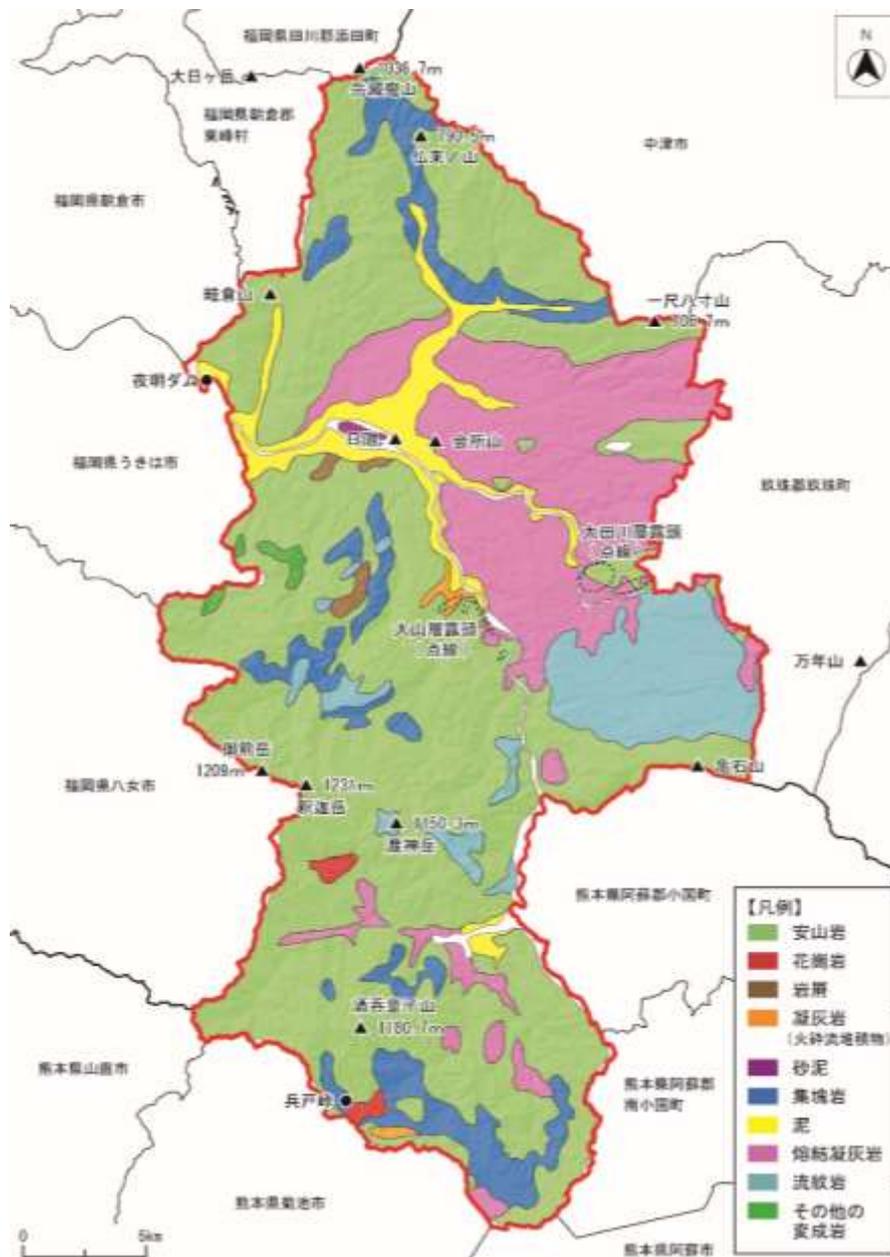


図7 地質図

大山町一帯では、大山川による浸食で流れ込んだ土砂が堆積したとみられる大山層（77万～36万年前）が分布する。この泥岩の中からは淡水魚や二枚貝、昆虫、植物化石などが多く産出する。太田川層と同様にサイヤワニ、シカといった動物の足跡化石のほか、珪藻化石では新種のステファノディスクスヒタエンシス（和名ヒタトゲカサケイソウ）が発見された。また、メタセコイアは国内では絶滅したとされているが、この大山層が堆積した頃までは国内に自生していた。

日田盆地の周囲の台地の崖などには、凝灰岩の地層が見られる。この地層の多くは、27万年前に火山活動を開始した阿蘇山の、爆発的噴火（9万年前）により堆積した阿蘇4火砕流堆積物と考えられている。この中に含まれる樹木群が「小野川の阿蘇4火砕流堆積物及び埋没樹木群」として国の天然記念物に指定されている。

（4）気候

本市は地理的に内陸型気候で、気温の年変化や日変化が大きい。周辺に中小河川が縦横に走っていることと、夜間急激に地面の温度が下がることから、秋から冬にかけて底霧の発生をみることが多い。内陸特有の性質から昼夜の気温差が大きく、また夏季は雷をともなう驟雨（にわか雨）性の降雨が発生する。風は地形の影響で西又は西北西の風が多く、風速は比較的弱い。年平均気温は15.4℃、年間降水量は1,810.4mm、年平均湿度は74.0%で比較的温暖多湿の気候といえる。



日田盆地の底霧

山間部にあたる前津江町椿ヶ鼻の降水量は2,853mmと、平地部と比較して多い。高い山々に雲がぶつかりそこに停滞して多くの雨を降らせることが原因とみられている。この日田地方特有の気象は、山林地帯にスギ・ヒノキの成長を促し、全国屈指の林業地日田を作り出している。

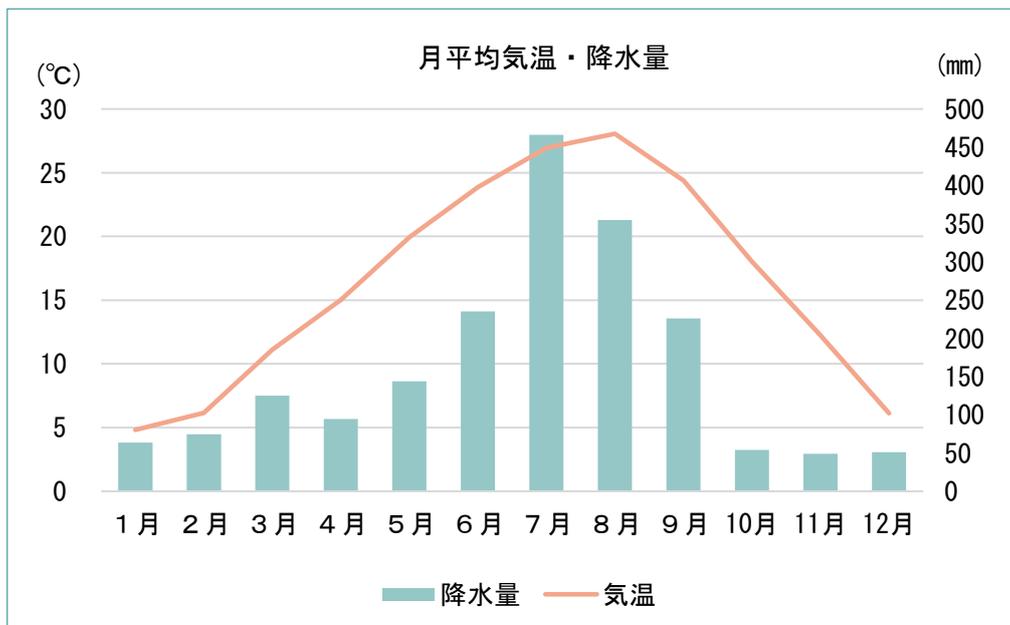


図8 日田市の平成30（2018）年から令和4年（2022）年の月平均気温・降水量
資料：気象庁

(5) 生物

①植物

本市は、標高の最も高い釈迦岳で1,231m、最も低い夜明関町で38mとその高低差はおよそ1,200mにも及ぶ。大分県の植生垂直分布によれば、標高1,000mを超える所は山地帯と呼ばれ、ブナ林が発達している。

日田地域では岳滅鬼山、釈迦岳や御前岳、渡神岳、酒呑童子山の尾根状地に見られる。標高800~1,000mの低山地帯は、アカガシ林、モミ、ツガ林が発達する日田地域では、釈迦岳や御前岳、カシノキヅル谷に小面積ながら残存している。



御前岳のシオジ原生林

ミヤマキリシマは本来山地帯に生息するが、亀石山（標高942m）の低山地に大群落を形成するのはここだけであり、貴重である。

標高400m以上の丘陵地では、ウラジログシヤスタジイを中心とした常緑広葉樹林が発達する。この領域はスギ、ヒノキの造林適地のため自然林は少なく、日田では烏宿山からとまりやまにシイ、カシ、タブノキが優占する貴重な森林が存在する。標高400mより低い低地では、コジイ林、アラカシ林が発達する。この森林はかつて薪炭林として利用されてきたが、ガスや電気などの普及により燃料としての需要がなくなり、その多くがスギの植林地になっている。現在では河川、道路崖地及び急斜面や岩角地など各地に点在している。

日田地域では、江戸時代後期からスギの植林が始まり、明治時代以降は植林面積が増加した。現在の森林面積の83%はスギ・ヒノキの人工林が占めている。また、シイタケの駒をクヌギに打ちこむ原木椎茸の生産が盛んで、天瀬町を中心にクヌギ林が目立っている。

釈迦岳や御前岳、渡神岳、酒呑童子山など標高1,000mを越える山岳が連なる津江山系には、山頂や溪谷沿いにブナ、ミズナラ、シオジなどの原生林が残っており、こうした自然林が清流を生み、ツリフネソウなど800種以上の植物や昆虫類、鳥類、哺乳類などを自生、生息させていることから、現在、津江山系の16,246haが津江山系県立自然公園として保護されている。

なお、御前岳の北側斜面のシオジ林、ブナ林と中津江村の酒呑童子山に連なる兵古山へごやまのブナ林が林野庁から「林木遺伝資源保存林」に指定されている。

②動物

日田地域の自然豊かな森には、シカやイノシシ、タヌキ、テン、ムササビをはじめ、多くの野生動物が生息している。国の天然記念物のニホンヤマネは、平成21(2009)年に源栄町で初めて発見されて以降、平成30(2018)年に中津江村で1例、令和2(2020)年に前津江町で2例、令和3(2021)年に上津江町で1例発見されるなど近年発見例が相次ぎ、これまでに5例が確認されている。一方で、外来種のアライグマが津江山地をはじめ市内で多く確認されており、在来種への影響が懸念されている。



ニホンヤマネ

高低差がある日田地域では、標高の高い渓流域にはヤマメやタカハヤ、アカザ（環境省・大分県絶滅危惧Ⅱ類）のように低水温を好む淡水魚類が生息している他、両生類のブチサンショウウオ（環境省・大分県準絶滅危惧）や県内では日田市でのみ確認されているカスミサンショウウオ（環境省絶滅危惧Ⅱ類、大分県絶滅危惧ⅠＢ類、大分県指定希少野生動植物）も見られる。低地部では、大山川や三隈川、花月川などでオヤニラミ（環境省絶滅危惧Ⅱ類）やカワムツ、オイカワ、ムギツク、ウグイ、カワヨシノボリ、フナ、コイ、ドンコのほか、筑後川水系にのみ生息しているアリアケギバチ（環境省準絶滅危惧・大分県絶滅危惧Ⅱ類）などが生息している。

鳥類の継続観察によると、クマタカ、オオタカ、ヒバリ、マヒワ、ホオアカなどが減少し、逆にソウシチョウ、ガビチョウなどの外来種が増加してきた。

山地の多くがスギ林で覆われ、鳥たちの良好な生育環境、自然環境であるとは言えない状況になっていると思われる。このため、広葉樹を中心とした自然林を残し、鳥の餌となる実をつけるような多様な樹種を育てることが望まれる。

動植物の種の多様性が保たれているかどうかは、その地域の自然植生が豊かであるかどうかによって大きく左右されるものである。

水田を潤す用水路や小河川など流れが緩やかな場所では、ミナミメダカ（環境省絶滅危惧Ⅱ類）、カゼトゲタナゴ（環境省・大分県絶滅危惧ⅠＢ類）、アブラボテ（環境省準絶滅危惧種）、スナヤツメ（環境省絶滅危惧Ⅱ類・大分県絶滅危惧ⅠＢ類）やアリアケスジシマドジョウ（環境省絶滅危惧ⅠＢ類、大分県絶滅危惧ⅠＢ類、大分県指定希少野生動植物）が生息している。かつて市内に数多く生息していたニッポンバラタナゴ（環境省絶滅危惧ⅠＡ類）やカネヒラなどは近年見られなくなった。また、市内では昔から水田や水路で見られていた爬虫類のニホンイシガメ（環境省準絶滅危惧）の発見例も少なくなっており、保護が必要である。

川の多い日田地域では水生昆虫も数多く生息しているが、最も一般的に知られている水生昆虫がホタルである。市内で見られるホタルの種類は、ゲンジボタル、ヘイケボタル、ヒメボタル、オオマドボタルであるが、近年その数が激減してきており、市民の間で幼虫時代を水の中で過ごすホタルを増やす努力が続けられている。また、かつて水田にたくさん見ることができたタガメやゲンゴロウは、近年発見例がなく、市内から姿を消したのではないかと考えられている。

水路や小河川には、カワニナやシジミ、カラスガイやイシガイ、マツカサガイなどの貝類も生息している。特に淡水二枚貝類はかつて市内の小河川や水路で多く見ることができたが、近年は豆田町を流れる水路にかろうじて見ることができている程度に激減している。

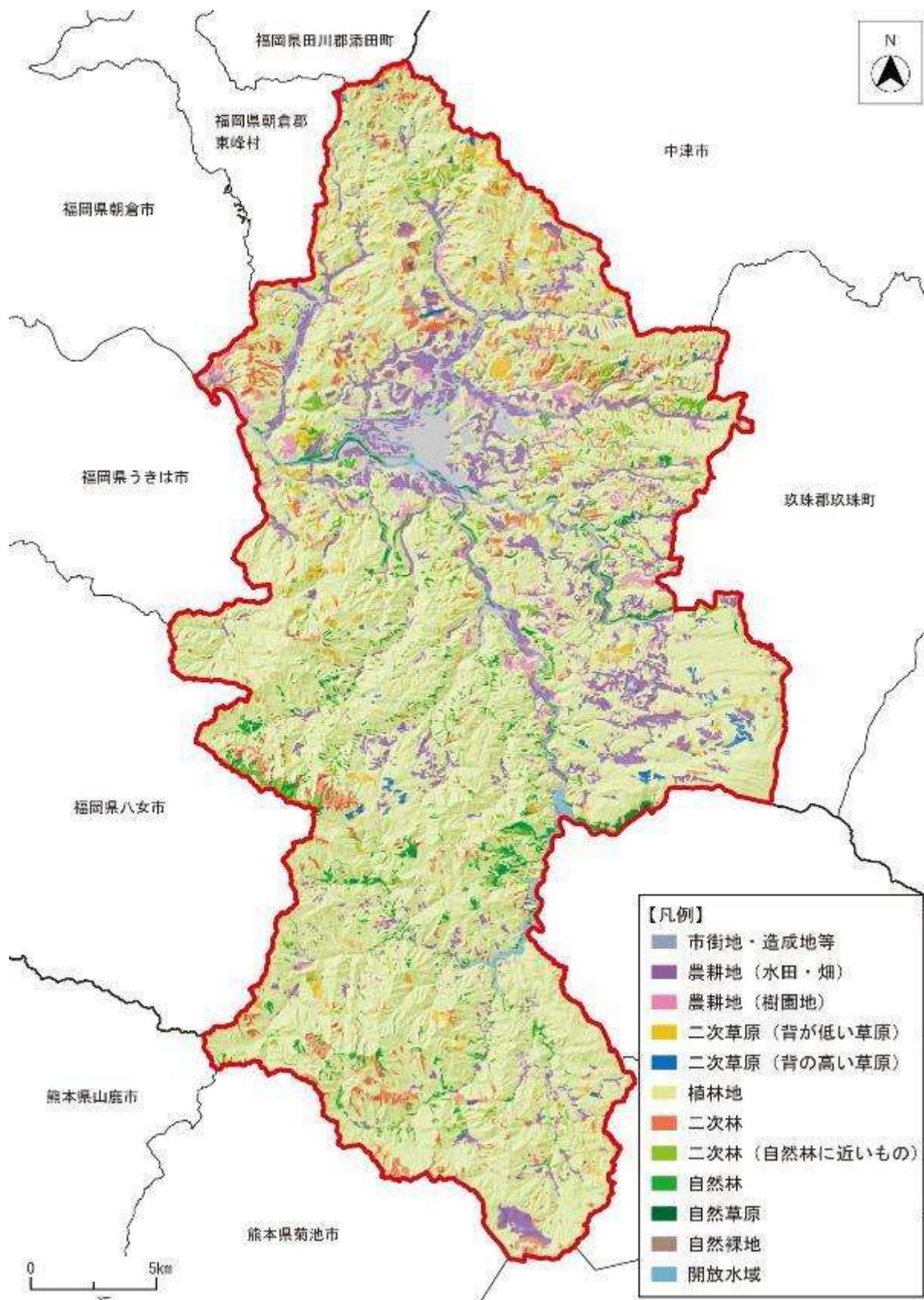


図9 植生図

2. 社会的環境

(1) 人口

本市の人口は減少傾向にあり、平成17(2005)年の市町村合併時点では74,165人と増加したものの、令和2(2020)年に実施した国勢調査の結果では62,657人、直近の令和6年2月末では60,901人と減少は続いている。

年齢構成をみると、0～14歳の幼年人口12.4%、15～64歳の生産年齢人口は51.6%、65歳以上の老年人口は35.7%となっている。特に、高齢化の進展は全国的な傾向であるものの、全国平均28.0%を上回り本市の急速な高齢化がうかがえる。

国立社会保障・人口問題研究所の算出方法に準拠した国のデータによると、令和7(2025)年に本市の人口は6万人を割り込み、令和27(2045)年には39,297人となる見込みである。

また、RESAS(地域経済分析システム)の令和2(2020)年の昼夜間人口比率は100.39%と、都市部のベッドタウンとは異なり、住んでいる人が、市内で働き、学んでいる状況を示していることから、今後、市民協働・参画による本計画の推進が重要となってくる。



図10 日田市の年齢別人口の推移
資料：総務省統計局「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

(2) 産業

本市では、平坦地から準高冷地までの多様な地形と気候を生かした農業が行われている。基幹となる作物は水稻であり、積極的に野菜、果樹、畜産の産地拡大を目指した台地開発も推進されている。しかし、1戸当たりの耕地面積は少なく、自給的農家や準主業及び副業的経営体の割合が高いことが特徴となっている。また、65歳以上の基幹的農業従事者が全体の7割を超えるなど、高齢化が顕著に見られる。水産業については、豊かな水資源を生かした内水面漁業と観光資源と

しての活用を図っている。また、林業については、日田地方の気象は樹木の生育に大変適しており、江戸時代以降、日田下駄、家具、漆器などの木工業も盛んに行われ、「日田林業」として、本市の主要産業となっている。

「日田林業」と呼ばれる所以は、本市の地質のなかであって、火砕流によって形成された腐食に富んだ土壌は排水がよく、杉や檜の生育に適しており、江戸時代以降急速に杉の植林化が進み、「日田杉」の名で全国にその名が知れわたり、九州三大美林の一つに数えられるようになったことによるものである。

そして、市内の工業は、市域の約80%が森林という地理的要因もあり、木材や家具、パルプ・紙などの木材関連産業が、事業所数及び従業者数においても高い比率を占めており、基幹産業となっている。さらに、「水郷日田」と称されるように豊富な地下水源を生かした飲料産業の製造品出荷額は本市において大きなウェイトを占めている。



日田下駄の製作の様子

また、かつて天領であった本市では、先述した日田下駄をはじめとする様々な伝統工芸が花開き隆盛していった。江戸時代中期に開窯した小鹿田焼は山の水・土・木などの地域資源を活かした焼き物であり、現在、9軒の窯元が家族労働のみで作陶し、伝統的技法による独自の作風を守り続けている。

本市の就業人口総数は、生産年齢人口（15歳～64歳）の減少、特に若い世代（25歳～34歳）では転入より転出が上回る社会減がみられることに加え、少子化の進行や団塊の世代が現役を退くことによる労働力の減少を受け、令和2（2020）年に実施した国勢調査の結果では31,278人であった。これは同年の生産年齢人口の約97%にあたり、住民の大部分が市内で就労していることがわかる。また、産業別に見ると、第3次産業への従事者が大部分を占めており、第1次、第2次産業の従事者が少ない現状にある。

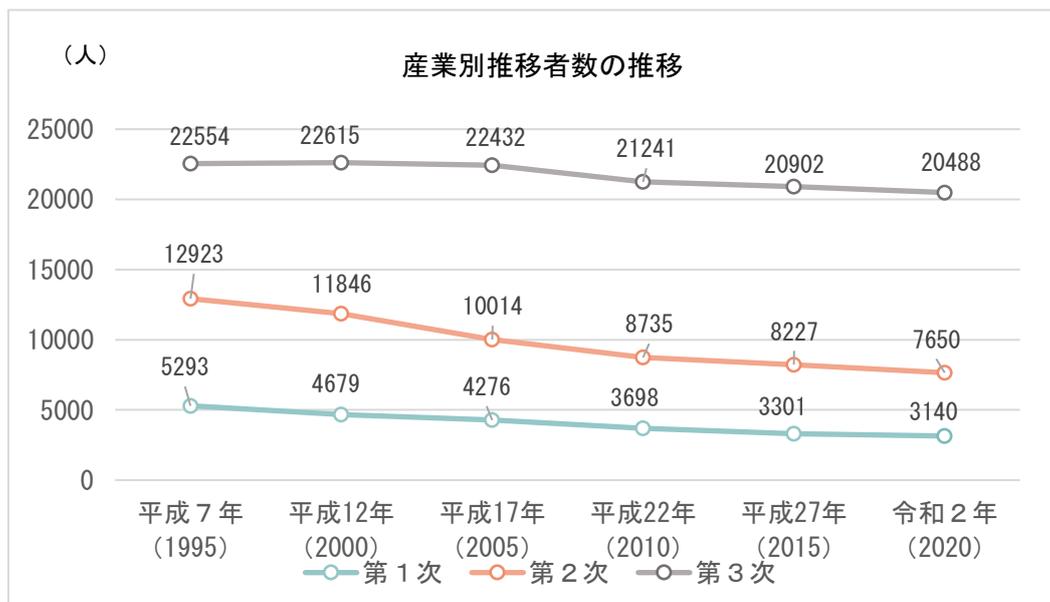


図11 日田市の産業別就業者数の推移
資料：総務省統計局「国勢調査」

(3) 観光

本市は、古くから北部九州の各地を結ぶ交通の要衝として栄え、江戸時代には天領として西国筋郡代の役所が置かれるなど、九州幕府領の政治、経済の中心地として繁栄し、当時の歴史的な町並み（豆田町（国選定重要伝統的建造物群保存地区））や伝統文化（小鹿田焼（国指定無形文化財）など）が今なお脈々と受け継がれており、これらは重要な観光資源となっている。また、毎年夏に行われる日田祇園祭では、江戸時代から作られるようになった豪華絢爛な山鉾が隈・竹田地区や豆田地区を巡行し、毎年多くの人々が訪れている。



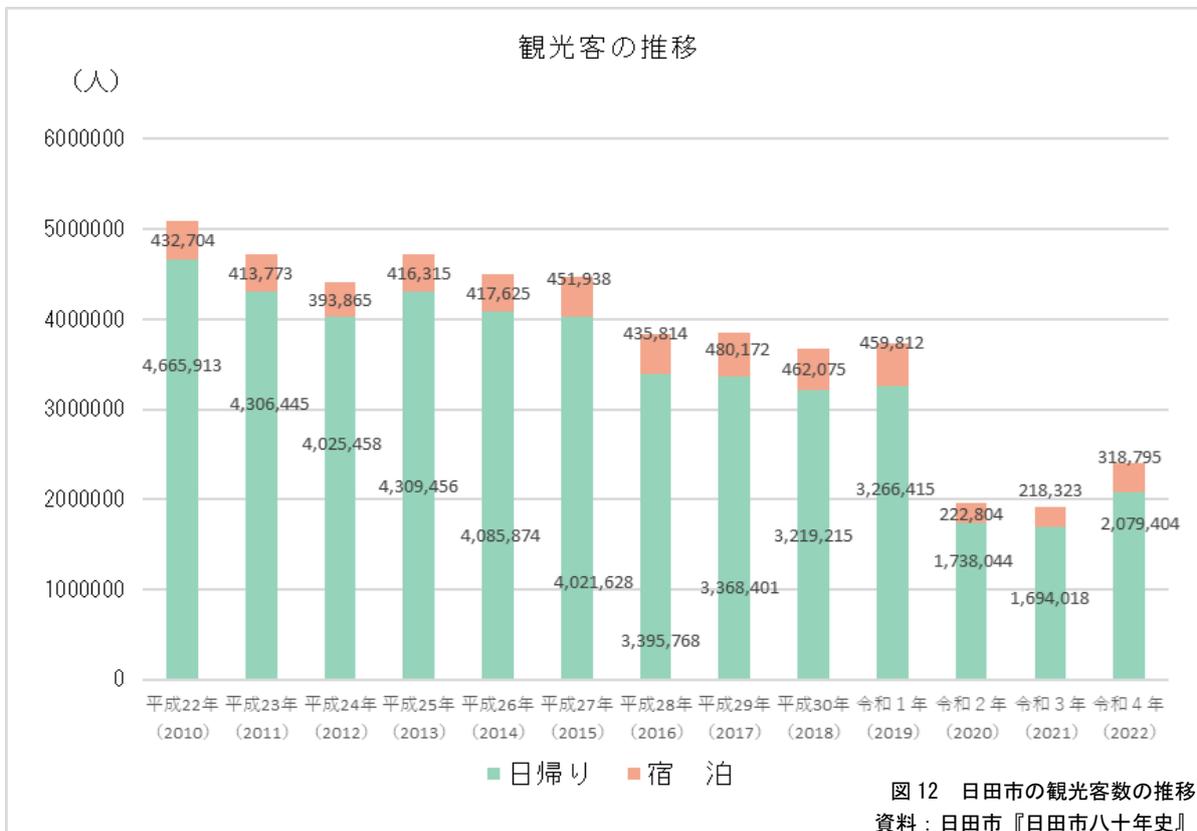
鯛生金山

昭和 25（1950）年、大分県、福岡県、熊本県にまたがる耶馬、日田、英彦山が国内初の耶馬日田英彦山国立公園に指定され、昭和 36（1961）年には、水と緑と温泉のまちとして、三隈川での情緒を満喫できる遊船での宴と鶉飼の鑑賞を中心とした観光振興に取り組んできた。

以来、観光業は、本市における重要な産業として、地域経済の活性化に欠かせないものとなっている。

平成 30（2018）年には、外国人旅行者が宿泊者の 3 割を占めるようになるなど、本市の観光産業にとって大きな転換期を迎えたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、令和 2（2020）年は観光客数が大きく減少した。

その他、本市には文化財に加えて、歴史ある天ヶ瀬温泉などの温泉や鯛生金山の坑道探検をはじめとする地底探検、上津江フィッシングパークをはじめとする自然のテーマパークなど、



バラエティ豊かな観光施設や見所が数多く所在する。近年では人気漫画「進撃の巨人」の作者諫山 創 氏の出身地ということもあり、市内の各所にキャラクターの銅像が設置され、漫画の舞台を彷彿とさせるロケーションも人気となっている。

今後も、豊かな自然や歴史・文化など、様々な特色ある資源をさらに磨き上げるとともに、埋もれている資源を掘り起こし、これらを相互に連携・活用していくことで、新しい人の流れをつくり、地域全体の活性化を図っていくことが求められている。

(4) 土地利用

本市の総面積 666.03 km²の 8割が山林や竹林などで構成されており、日田地域の標高 200m 未満の平坦地は、市街地や水田に利用されている。また、天瀬地域南部の台地上の平坦地や緩傾斜地は、集落地や水田、牧場などに利用されている。

また、本市には総面積の 9.9%にあたる 66.25 km²の区域面積を有する日田都市計画区域が指定されている。なお、面積として 12.44 km²、総面積の 1.9%の範囲が、第二種低層住宅専用地域と田園住居地域、工業専用地域を除く 10 の用途地域に指定されており、商業地域を中心に、行政などの中枢機能を担うほか、歴史文化の交流地や住宅地などに利用されている。

このうち、商業地域の指定を受けている伝統的建造物群保存地区の豆田地区及び隈地区では、天領日田の面影を今に残し、四季を通じて観光客が訪れることから、歴史文化や自然環境と調和した都市景観の形成が図られている。

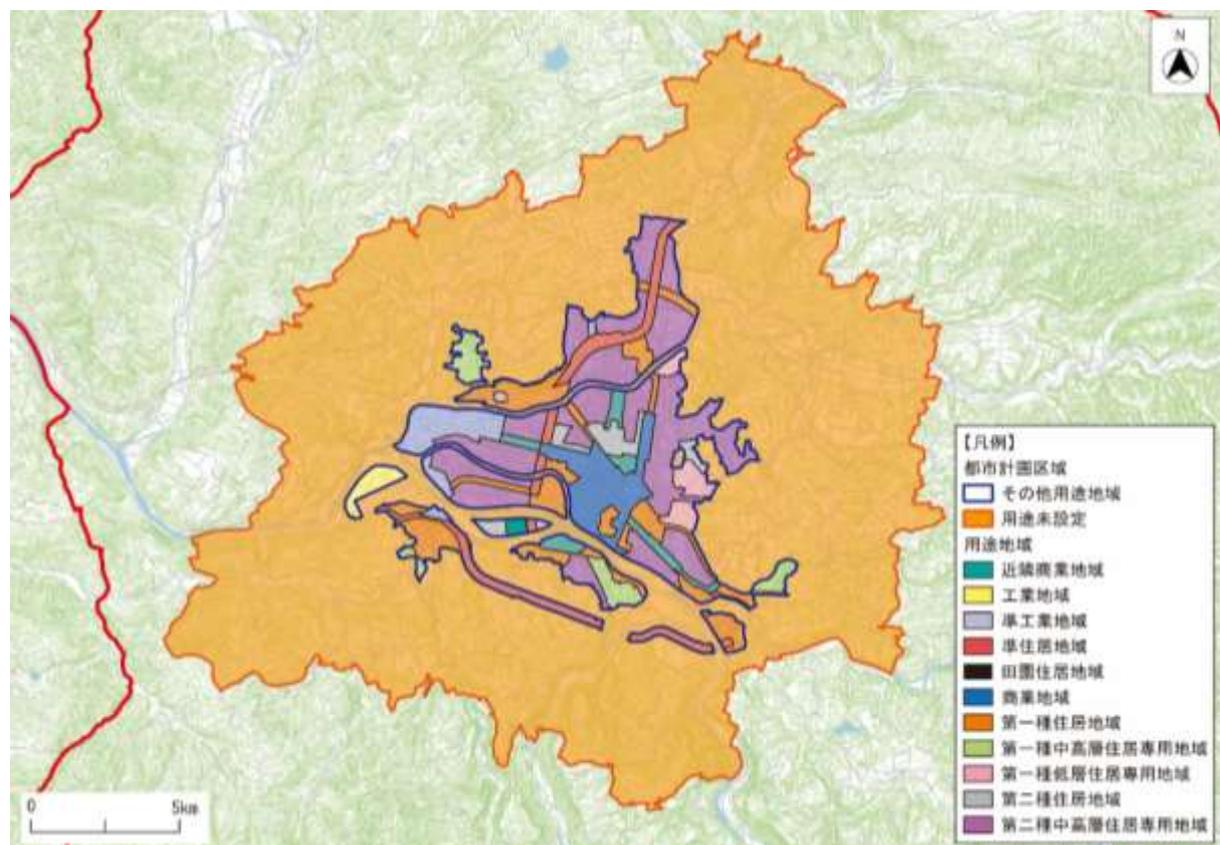


図 13 都市計画図

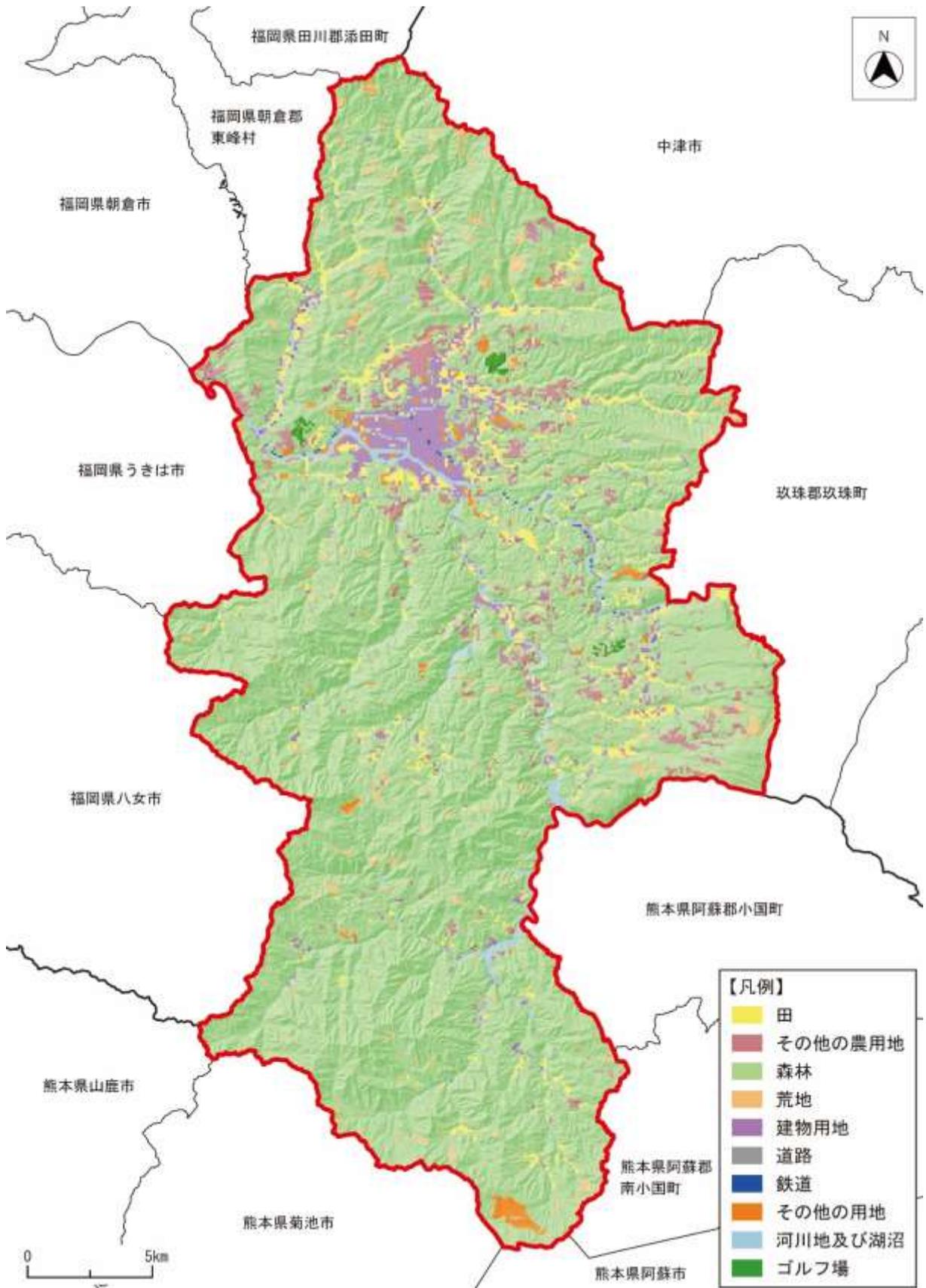


図 14 土地利用図

(5) 交通アクセス

本市は北部九州の中心に位置することから、アクセス面において結節点のような役割を果たしており、高速道路を利用すれば、福岡市や熊本市、大分市などの各種主要都市までの所要時間はおよそ1時間となる。

本市の交通網についてみると、鉄道は大分から久留米間を走る JR 久大本線のほか、日田と小倉間で JR 日田彦山線が通じていたが、平成 29 (2017) 年 7 月の九州北部豪雨で甚大な被害を受けた添田と夜明間は、その後、BRT (バス高速輸送システム) で復旧することが決定し、令和 5 (2023) 年 8 月に開業した。



BRT

主要幹線道路は国道 210 号、386 号、211 号及び 212 号の 4 本の交通幹線がそれぞれ放射状に福岡、北部九州の主要都市に通じている。さらに高速道路、九州横断自動車道路長崎大分線大分自動車道の開通により県北西部における産業、経済の流通網を確立している。

バスでは福岡方面・大分方面・長崎方面に走る高速バスのほかに、周辺市町村や市内の各地域を結ぶ路線バスや市内循環バス「ひたはしり号」、福祉バス、事前予約制の乗合デマンドタクシーを運行している。しかし、これらの公共交通機関は市の中心部や主要道路を中心とした路線が多いのに対して、山間部は希薄であり、アクセスは良くない状況にある。

また、30 ページの図 12 が示すように、本市の観光客の 89% が日帰客であり、行先としては隈・豆田地区に集中していることから、文化財の活用にあたっては、市内循環バス沿線の文化財の紹介、自家用車利用者への案内板の設置、文化財の周遊ルートづくり等の取組が必要となってくる。

(6) 文化財関連施設

本市には、文化財関連の施設として、公共の施設が 13 箇所、民間の施設が 2 箇所ある。

公共の施設のうち、展示機能がある施設としては埋蔵文化財センター、咸宜園教育研究センター、博物館、日田祇園山鉾会館、豆田まちづくり歴史交流館、天領日田資料館、慈眼山永興寺仏像収蔵庫、小鹿田焼陶芸館、郷土史料館、前津江郷土文化保存伝習施設、天瀬町ふるさと資料館が、その他の公開施設では、旧矢羽田家住宅・行徳家住宅 (いずれも国指定重要文化財) がある。

また、民間の施設としては、公益財団法人廣瀬資料館 (国指定史跡廣瀬淡窓旧宅及び墓の内の旧宅部分) や草野家住宅 (国指定重要文化財) で資料展示や建物内部の公開が行われている。



図 15 交通アクセス図

3. 歴史的環境

(1) 通史

① 人々の生活と交易の始まり

本市の歴史は、日田盆地の南東に広がる五馬高原で確認された高瀬Ⅲ遺跡の焚火跡などから34,000年前に遡る。五馬台地一帯では狩猟や採集生活を送っていた亀石山遺跡^{かめいしざん}など多くの旧石器時代の遺跡が確認されている。

12,000年前に始まる縄文時代では、早期・前期・中期の遺跡が五馬高原などで見つかるなか、食料を確保しやすい川の近くにも生活域が広がり、日田盆地内の三隈川や大肥川、大山川流域などで遺跡が確認されている。また、瀬戸内地方を中心に分布する土器などが見つかっており、他地域との交流が行われていたことが分かる。

稲作に代表される弥生時代は、中国や朝鮮半島を中心に石庖丁^{いしぼうちよう}などの磨製石器や鏡・武器類などの青銅器、鉄器といった大陸文化が流入し、縄文時代から飛躍的な成長を遂げることとなった。こうした文化の先進地は大陸に面している福岡県や佐賀県であったが、これらの地域と地理的に近い日田にも先進地域の文化が伝来した。本格的な弥生文化の日田地方への伝播は、弥生時代前期後半には始まる。当時の集落は小河川流域や台地上に営まれ、また集落の近くには墓地も造られた。これらの遺跡からは北部九州の影響を受けた弥生土器や石器などが出土し、日田で北部九州と同時期に稲作が始まったことを示すとともに、盛んに交流が行われていたことが分かる。さらに、弥生時代中期には、日田の地を統率する首長が登場し、拠点集落が作られるようになる。日田盆地を見下ろす台地上に位置する吹上遺跡（県指定史跡）では、地域を治める有力者の墓である甕棺墓から銅剣や勾玉、南海産貝輪などの豪華な副葬品が見つかった。



吹上遺跡出土品

② 日田盆地の古墳文化

古墳時代初頭、日田の中心集落となったのは周りに溝を方形に巡らせた集落や豪族居館が発見された小迫辻原遺跡（国指定史跡）である。また、本市では、約70基の古墳が確認されているが、その多くが後期（6～7世紀）の古墳である。中期（4世紀末～5世紀）にも、薬師堂山古墳（県指定史跡）や姫塚古墳（市指定史跡）、丸山古墳（市指定史跡）などといった円墳が築造されるが数は少なく、権力の大きい首長の存在を示す前方後円墳はみられないことから、日田の首長層は筑後川下流域の首長の勢力下に置かれていた。

一方、中期は筑後川を通じた集落レベルの交流により、^{くくりがわ}求来里川流域などの集落ではカマドが導入され、盆地内の河川沿いなどで鉄作りが行われるようになった。

後期になると日田の古墳にも変化がみられ、本市最大の前方後円墳である朝日天神山古墳群^{てんじんやま}（県指定史跡）のほか、グラウンドヤ古墳（国指定史跡）や穴観音古墳^{あなかんのん}（国指定史跡）、法恩寺山古墳群^{ほうおんじやま}（国指定史跡）といった筑後川下流域の影響を受け



グラウンドヤ1号墳

た装飾古墳など首長クラスの墓が築造された。

③ 律令国家と日田郡の成立

大宝元（701）年に大宝律令が制定された後、国郡里制が定められ、現在の本市域とほぼ同じ「豊後国日田郡」が成立した。この豊後国の支配には中央から派遣される国司があたり、日田郡の支配は在地の有力豪族の中から選ばれた郡司（日下部氏）があたった。

日田の名前がはじめて文献で確認される『豊後国風土記』には、日田郡に駅が置かれたと記されている。駅とは古代官道沿いに設置された交通手段としての馬の乗り継ぎや休憩、使者の宿泊などを行う施設のことであり、日田では三隈川の南岸に位置する石井郷にあったとされる。

日田郡内の律令期の姿を想像させる遺跡は多数発見されており、大波羅遺跡では大型柱列や建物群、文字が書かれた土器（墨書土器）や硯、瓦などが出土しており、郡衙などの日田郡の役所と想定されている。また、建物群や郡司職の名称である「大領」と書かれた墨書土器が出土した小迫辻原遺跡は、郡司の館と考えられている。そのほか、上野第1遺跡では道路や倉庫群とともに「豊馬豊馬」と刻まれた石製品である権（古代の役所で使用された秤に使われたおもり）が出土しており、「石井駅」の候補地である。



大波羅遺跡の柱木

④ 中世社会と大蔵氏

古代において日田を支配していた日下部氏に代わり、中世の武士階級を代表し日田を掌握する郡司職についたのは大蔵氏である。大蔵氏は各地域に配置した同族及び他豪族を統合して、西豊後に一大勢力を築いた。その初期には中央の貴族の庇護を受け勢力を確かなものにし、後期には豊後国守護の大友氏に従いながらも独立を確保していた。

大蔵氏の出自については定説がなく、歴史上に確認できるのは「日田どん」と呼ばれる大蔵永季からである。その後、『豊後国日田郡司職次第』によると、長寛元（1163）年大蔵永宗のとき、日田郡司職を巡る一族内の争いを防ぐため、領地を鳥羽上皇建立の金剛心院の荘園として差し出し、大蔵氏の日田郡支配を確固たるものにした。

日田郡の中で有力な武士として成長した大蔵氏は日田氏を称するようになり、建久5（1194）年に鎌倉幕府から日田の地頭に任じられ、日田の領主となった。弘安8（1285）年に整理された『弘安図田帳』には、日田郡は560町のうち、日田荘500町、大肥荘60町（大宰府安楽寺領）で、日田荘のほとんどを大蔵氏の一族である地頭職の日田永基が支配していた。この大蔵姓日田氏は、南北朝時代には北朝に味方し、室町幕府4代将軍の足利義持の奉公衆にも選ばれており、幕府との強いつながりがあった。その後、文安元（1444）年に日田氏内部で家督争いが起こり、この大蔵姓日田氏は断絶したが、豊後国守護であった大友氏から養子を迎えて、日田氏を再興した。しかし、天文17（1548）年に、



日田神社

日田親将が^{ちかまさ}大友氏本家の 20 代当主である^{よしあき}大友義鑑に謀反を計画したことが露見したため、親将は自害し、約 500 年にわたり日田郡を治めた日田氏は断絶した。その後、大友義鑑は日田大蔵氏の家臣や庶家であった坂本・^{さいつ}財津・^{はの}羽野・石松・高瀬・佐藤・^{つづみ}堤・^{せとぐち}世戸口氏らを郡老として日田を治めさせ、太閤蔵入地になる文禄 2（1593）年まで、大友氏が日田の地を支配した。

大蔵氏は^{じげんざん}慈眼山に城を構えて本拠地とし、現在でも慈眼山周辺には「高城」「古城」といった地名が残っている。また、山麓には大蔵氏に関連する遺跡が広がっており、出土した遺物には日常で使われた素焼きの土器のほか、博多を介した中国との貿易を示す輸入陶磁器や渡来銭、鞘や刀といった武具や箸・杓文字などの生活具、基石や独楽などの遊具など多彩な遺物が出土しており、中世日田の往時の様相や実態を知る手がかりとなっている。

⑤ 中世の津江

現在の本市の南部を占める前津江・中津江・上津江から北東に連なる大山町にわたる一帯は、中世には「津江山」といわれ、古文書などには、安楽寺（大宰府天満宮）の所領として現れる。

しかし、大宰府天満宮の津江山支配は、^{かんろう}観応 3（1352）年に^{せんどう}専当によって^{おつりよう}押領された。この専当とは大宰府天満宮が津江山を支配・管理する実務担当として任命した^{しやうかん}荘官で、中世の津江地域においては^{つえはせべし}津江長谷部氏である。

津江長谷部氏は室町期以降、一貫して津江地域を地盤にした在地領主で、戦国期には津江氏を称し、豊後国守護大友氏の^{じかん}被官であったことが、わずかな古文書から判明している。ところが、大友氏は^{ぶんろく}文禄の役で味方を救援せず、撤退したことを豊臣秀吉に咎められ、所領を没収された。大友氏に従っていた津江氏も領地を失い、一族のある者は帰農し、またある者は新たな仕官先を求めた。こうして津江氏の衰退と共に津江の中世は幕を閉じ、近世を迎えることになる。



伝来寺庭園

⑥ 古代・中世を生きる人々の信仰

本市では中世以前から様々な信仰があった。平安時代では、薬師信仰や観音信仰が盛んになり、酒楽神社にある薬師三尊や^{ようこうじ}永興寺にある観音菩薩像、また吹上観音坐像（市指定有形文化財）などが当時の信仰の姿を伝えている。

特に、慈眼山の中腹にある^{ようこうじ}永興寺は大蔵永季が父^{ながおき}永興を供養するために延久年間（1069～1073）に建立したといわれる。平安時代から鎌倉時代に京都や奈良の仏師によって造られた仏像群が遺されており、日田一帯を治めた大蔵氏の栄華を今に伝えている。大蔵氏の後期の隆盛を顕示するのは^{がくりんじ}岳林寺である。^{こうえい}康永元（1342）年に 10 代当主の大蔵永貞が元の渡来僧の^{みんき}明極楚俊を開基として創建し、中世に造られた仏像や絵画が今も残っている。

山岳信仰では、英彦山が古くから神の山として信仰され、中世



岳林寺

には修験道の道場として栄えた。本市にある鳥宿山も女人禁制の霊山として昔から信仰され、山頂に大山鳥宿神社が鎮座している。この他にも、日田周辺には仏教に関連した名前の山々があり、山岳信仰の名残である。

また、大山町では、原始仏教の教説を説いた「華嚴經」、「大集經」、「大品般若經」、「法華經」、「涅槃經」からなる五部大乗經の写経が残されており、天台宗の寺院があったことがうかがえる。

そのほか、本市には鎌倉時代から造られるようになる五輪塔や笠塔婆、石仏、宝篋印塔、石幢、板碑、磨崖種子などの石造物が多く残っている。これらの石造物は、往時の人々の信仰をうかがい知ることができる重要なものである。

九州地方は古代においては多くの地域が宇佐神宮領とされる。日田盆地では、日田五箇所と呼ばれる宇佐神宮領が11世紀前半に開発され、大原八幡宮が宇佐八幡系における日田地方の総社である。一方、平安時代末から太宰府天満宮の荘園となっていた津江山には、太宰府系の老松天満社が多く残されており、津江七社と呼ばれる。津江地域は雷が多かったことから、雷神の要素も兼ね備えた天神・菅原道真が老松神の名前で、人々に受け入れられ、今も信仰されている。

⑦ 日田の町並みの形成

文禄2（1593）年に大友氏が改易された後、日田は豊臣秀吉の直轄地である太閤蔵入地となった。翌年の文禄3（1594）年、秀吉の代官として派遣された宮木長次郎が日隈山に日隈城を築いた。宮木氏は田島村にあった町場を日隈城の城下に移して三隈川の右岸に隈町をつくった。隈町の中心ではこの三隈川に面して商家が軒を連ねた。また、町の南北には寺院を配置し、東西南北の入口には門を造り、通行人を規制していた。また、現代まで日田で継承されている鶴飼は、この時期に始まったといわれる。



豆田町

慶長元（1596）年、宮木氏の後には、毛利高政、黒田孝高（家臣の粟山利安が在城）が日隈城の城主となって支配したが、後に日田郡北部の夜開郷・渡里郷は小川光氏、南部の刃連郷・石井郷は幕府領で毛利氏預かり、有田郷は森藩領となった。

慶長6（1601）年、小川氏は月隈山に丸山城を築き、城下町として丸山町を造った。元和2（1616）年になると、譜代大名の石川忠総が日田に入り、丸山城を永山城と改め、城下町として中城村に豆田町をつくった。豆田町の中心の南北に走る通りは、上町と下町と呼ばれていた。通りに面して、各町が配置されており、川端町や風呂屋町などの名前が付いていた。

近世の日田の町並みの基礎を築いた隈町と豆田町は、日田が天領となった後、経済の中心地として栄えた。

⑧ 日田代官による支配

寛永 10 (1633) 年、石川氏が下総佐倉に転封となると、日田は大名預かり地となり、寛永 16 (1639) 年、天領となった。日田の代官所は永山布政所や日田御役所と呼ばれ、永山城のふもとに置かれた。

歴代の日田代官のうち、池田喜八郎の享保 2 (1717) 年に支配地は 10 万石となった。享保 9 (1724) 年に代官となった増田太兵衛以降は、日田代官所が九州の豊前・筑前・肥後・日向などの天領の支配の拠点となり、四日市 (現在の宇佐市)・富岡 (現在の熊本県)・富高 (現在の宮崎県) の代官を兼任した。

また、享保 19 (1734) 年に代官となった岡田庄太夫の時には、幕府財政再建のため徴税政策や助合穀銀などが実施され、農民の負担が増大した。延享 3 (1746) 年に、馬原村庄屋の穴井六郎右衛門を中心として岡田代官の更迭を求めた「馬原騒動」と言われる百姓一揆が起きた。その後、宝暦 8 (1758) 年に代官となった岡田庄太夫の次男揖斐十太夫は、明和 4 (1767) 年に西国筋郡代に昇格した。これは関東・美濃につづき全国で 3 番目に設置された役職で、九州における天領の支配にあたった。

文化 14 (1817) 年、塩谷大四郎が代官となり、文政 4 (1821) 年に郡代に昇格した。塩谷代官は、現在も利用されている小ヶ瀬井路の開削、隈川・中城川の改修と通船、日田－玖珠間の道路改修、周防灘沿岸の新田開発などの公共事業に努めた。小ヶ瀬井路の開削には豆田町の廣瀬久兵衛や草野忠右衛門などが世話人として願い出て、農民や商人などの民間からの出資で実施された。この小ヶ瀬井路ができたことにより、近隣農村の田畑が潤い、干ばつの被害がなくなった。小ヶ瀬井路以外にも現在の本市内には江戸時代に整備された水路が多く残っており、「水郷日田」の由縁となっている。そのほか、文政 2 (1819) 年、塩谷代官の発案により、豆田町及び隈町の豪商が協力し、災害などに備えて米を蓄えておく隠徳蔵を設けた。他にも、目が不自由な人の養育のため、盲人養育田も設置した。

元治元 (1864) 年、最後の日田代官に着任したのが、窪田治部右衛門である。江戸時代末の動乱の時期にあったため、農兵隊を組織するなど代官支配の維持を図った。集まった農兵隊の教育・訓練の拠点は後述する咸宜園の東塾におかれた。形式上は咸宜園の塾生となるも、目的が異なる農兵隊の存在に咸宜園の運営は大いに乱れた。慶応 4 (1868) 年に四日市の代官所が焼き討ちされ、その報告を聞いた窪田は肥後に逃亡した。



小ヶ瀬井路

⑨ 江戸時代の交通と日田商人の活躍

日田は北部九州のほぼ中心に位置し、古くから交通の要衝であった。近世においては、日田代官所を起点として、各城下に向かう六つの陸上交通路が使われていた。

近世の陸上交通路一覧

1	宇佐・中津方面	豊前国宇佐宮路 中津城路 石坂石畳道（県指定史跡）
2	彦山・小倉方面	彦山路 小倉城路 岳滅鬼神道
3	筑前・福岡方面	筑前国路 福岡城路 小月橋
4	筑後・久留米方面	筑後国高良山路 久留米城路 加々鶴新道 筏場眼鏡橋
5	肥後阿蘇・熊本 豊後竹田方面	肥後国阿蘇山路 隈府道 熊本城路 直入郡岡城路 台神社の石畳（市指定史跡） 曾田の台
6	玖珠方面	玖珠郡森宮路 川原隧道と石畳（県指定史跡）



図 16 近世の陸上交通路
(図中の番号は上記の六つの陸上交通路の一覧と対応している)

陸上交通路には難所がいくつかあり、商人や地域の農民たちが力を合わせて、石畳道や隧道、石橋を造った。また、文政8（1825）年に小ヶ瀬井路が完成した後、川を利用した水運である日田川通航が実現した。豆田町の中城河岸や隈町の竹田河岸から年貢米や特産物が運ばれ、長崎に到来した中国の文物が日田経由で大坂や江戸に運ばれた。

近世初期に築かれた城下町である豆田町や隈町には、陸上交通を利用して多くの商人が集まり、活発な商業活動が行われた。最初は周辺地域との農産物の取引から始まり、やがて産物仲介業が盛んとなった。こうした資本を基として、金融貸付業を行うようになり、さらには九州各藩の御用を勤める「御用達」になることによって、幕府の公金を取り扱う「掛屋」が誕生した。この当時の日田の金融資本は「日田金」と呼ばれ、九州諸大名を相手に銀行の役割をして利益を上げ、日田は九州の金融の中心地となった。



石坂石畳道

有力商人には、豆田町に丸屋（千原家）・博多屋（廣瀬家）・伊予屋（手嶋家）・升屋（草野家）・俵屋（合原家）、隈町に京屋（山田家）・鍋屋（森家）があり、金融業のほか、それぞれ製蠟業、油製造・醤油・酒などの醸造業を広く営んでいた。豆田町や隈町が大火や水害などの多くの災害に見舞われたことから、これらの有力商人の住宅の中には、災害に強い居蔵造と呼ばれる建物構造としたものもあり、今も豆田町に残る草野家住宅などに見ることができる。

また、日田の商人が経済的に豊かになることで、整備された交通網を通じて、様々な文化人も日田を訪れ、俳諧や茶道、華道など文化的な活動が盛んになった。

⑩ 天領日田と産業、伝統行事

人々の往来が多かった天領日田では、経済だけではなく、産業や文化も発展した。豊臣秀吉の代官である宮木長次郎がもたらしたといわれる鶉飼は、江戸時代を通して代官に庇護され、現在は観光鶉飼として本市の代表的な夏の風物詩である。

小鹿田焼は、江戸時代中頃に小石原焼（現在の福岡県朝倉郡東峰村）の陶工であった柳瀬三右衛門らによって開窯された李朝系の民陶である。元文2（1737）年に、代官の許可を受け、以来300年余り伝統的な技術が継承されている。

本市に今も伝えられている伝統行事に、江戸時代を起源とする日田祇園がある。祇園会自体は古くから行われていたが、山鉦が曳き廻されるようになったのは正徳4（1714）年から、山鉦の台で演奏される祇園囃子は文化14（1817）年頃に始まった。現在、豆田・隈・竹田などで計9基の山鉦が毎年7月20日過ぎの土日に巡行し、豪華絢爛な見送り幕などに往時の天領日田の繁栄を偲ぶことができる。



日田祇園

⑪ 近世の農村の暮らし

農村では、自然災害による飢饉や伝染病の流行など、人々の生活は過酷であった。大蔵永常は若い頃の大飢饉をきっかけに、九州諸国を転々とし、農民に役立つ作物の栽培・加工方法などを学んだ。後に大坂に渡り、農民にも分かりやすい栽培方法が記された農業書を数多く刊行した。さらに田原藩（現在の愛知県）や、浜松藩（現在の静岡県）に農業指導者として招かれ、晩年は江戸で集大成ともいえる『広益国産考』を刊行した。大蔵永常の功績により、日本の農業技術は向

上し、永常は日本三大農学者の1人である。

農村に住む人々は、雨乞いや豊作祈願、無病息災などを神仏に祈り、祭りを行ってきた。今でも秋の祭日に合わせて奉納される楽が本市の各地域で行われている。天瀬町のくにち楽、前津江町の大野楽、三ノ宮町の磬戸楽など、杖を用いたものや河童の所作をするものが伝わっている。他にも、中津江村では中世に起源をもつつほがし祭と餅搗祭などが伝えられる。

江戸時代、日田の山林は、幕府直轄の御用林として確保されていた。相良吉三郎は竹を筏に組んで三隈川を西に下り、川下の地域で材木や竹を売る「竹木旅出商売」をはじめ、日田の林業を大きく前進させた。また、『相良家文書』によると、享保19(1734)年に吉三郎が日田郡入江村の3兄弟を日向国の奈須山の木材伐採の折に派遣し、スギ苗の植え付けや伐採などの方法を学ばせたことにより、日田にて本格的なスギの植林が始まったとされている。水運が発達した後、本市への木材需要が高まり、紙の原料となるコウゾやろうそくの原料となるハゼなどによる商品作物栽培も拡大していった。その後、大正時代には日田下駄の生産が増加し、昭和時代には日田漆器や日田家具の生産が増加するなど、「日田林業」と称される所以が築かれていった。



木材搬出の様子

⑫ 廣瀬淡窓と咸宜園

天明2(1782)年、廣瀬淡窓は豆田町の商家である博多屋(廣瀬家)の第五世三郎右衛門の長男として生まれた。幼少から父に書道や四書の句読を教わり、10歳のときに漢詩を学んだ。16歳になると、福岡の亀井南冥・昭陽親子の亀井塾に入門し、学問や詩作に励んだが、18歳のときに大病を患い、志半ばで日田に帰った。

文化2(1805)年、24歳のときに教育者を志し、豆田町の長福寺の学寮で塾を開いた。その後、豆田町の成章舎や豆田裏町の桂林園などに場所を移し、文化14(1817)年、36歳のときに堀田村に咸宜園を開いた。咸宜園には全国から門下生が集まり、嘉永5(1852)年には塾の在籍者が233名と、最盛期を迎えた。安政3(1856)年に淡窓が亡くなった後も、廣瀬青邨や林外などの養子や門下生たちが塾主を引き継ぎ、明治30(1897)年に閉塾するまで咸宜園は80年存続した。全国60か国以上から5,000名を超える門下生が集まった近世日本最大の私塾であり、咸宜園の門下生には、近代日本の夜明けに活躍した人物が多く存在している。



廣瀬淡窓

咸宜園では、入門時に身分・年齢・学歴を問わない「三奪法」や毎月の成績評価「月旦評」などにより、門下生たちを平等に教育していたとされる。咸宜園教育の特色は、長年にわたる教育実践の中で創り上げた教育のシステムにあり、その代表的なものが前述の「月旦評」や「規約(82則)」の作成、塾の自治運営のための役割を門下生に与えた「職任」制度、詩作の奨励(情操教育)などである。

咸宜園跡は、昭和7（1932）年に国史跡に指定、平成27（2015）年には咸宜園跡や廣瀬淡窓に関する文化財などが、「近世日本の教育遺産群-学ぶ心・礼節の本源-」のストーリーの一部として日本遺産に認定され、咸宜園での教育は今も本市の人々に受け継がれている。

⑬ 日田市の誕生

慶応3（1867）年の大政奉還により幕藩体制が崩壊すると、日田は新しく「日田県」となった。初代日田県知事には薩摩藩士松方正義^{まつかたまさよし}が就任し、町人たちの協力を得て身寄りのない乳幼児を保護する養育館の建設を行った。また、産業を興すため県営の質屋兼両替商の機能を持つ生産会所を設立し、植林や養蚕の奨励、道路や橋梁の修繕、小ヶ瀬井路の改修などを実施した。

明治4（1871）年には日田県は大分県に編入され、明治34（1901）年には豆田町と隈町が合併して日田町となった。その後、昭和15（1940）年に市制を施行、昭和30（1955）年、平成17（2005）年の合併を経て、現在の日田市となっている。

戦時下の日田には、本土決戦に備えて、北九州から日本陸軍の兵器工場である小倉陸軍造兵廠^{こくらりくぐんぞうへいしょう}が移転された。当時、九州地方には北九州の八幡製鉄所などの大規模な工場が攻撃の標的となる中、日田でも清岸寺町や有田で小規模な空襲や銃撃を受け、数名の死傷者が出た。こうした戦争の悲惨さを語るものとして、月隈山をはじめ、市内各所には現在も多くの防空壕が残っている。



月隈山の防空壕

空襲を免れた日田は迅速に戦後復興が行われ、昭和24（1949）年、本市が「重要木工集団地」として、更に翌25（1950）年には「耶馬日田英彦山国定公園」の指定を受け、木材資源を中核とする内陸型産業都市及び観光都市としての性格が打ち出された。

⑭ 近代産業の発展

明治時代は河川交通が主流の時代でもあったが、明治36（1903）年に筑後馬車鉄道が開設され、大正5（1916）年には日田と久留米を走る「筑後軌道」と呼ばれる鉄道が敷設された。その後、昭和3（1928）年に久大本線^{きゅうだいほんせん}（現在のJR久大本線）が延伸されて廃線となった。筑後軌道が久留米-日田間をつないだ期間は15年という短い間であったが、物資の運搬だけでなく、人の動きや文化の流入にも大きな影響を与えた交通手段であった。現在は、高井町の逆谷橋^{さかたにばし}や丸の内町の転車台などにその名残が見られる。



高井町の逆谷橋

日田における産業構造は近世から変わることなく、林業や木工業が中心であった。明治維新後の近代化による生活様式の変容は、木材需要の高騰を生み、明治25（1892）年には全森林面積の20%であった杉の人工林は、昭和初期には50%にも達した。そのほか、鯛生金山や女子畑発電所^{おなごはた}などは現在も明治期を代表する産業遺産である。

中津江村にある鯛生金山は明治 27（1894）年に発見され、明治 31（1898）年、採掘が開始された。その後、大正 7（1918）年には当時としては類を見ない近代的な設備を導入し、アメリカ、ロシア、アジア各国の人々をハンターとして招き入れて大掛かりな採掘が行われた。そして、新鉱脈の発見もあって昭和 12（1937）年には国内第一位の産出量を記録し、「東洋一の産金鉱山」としてその名を馳せた。第二次大戦後は産出量が下降し、昭和 47（1972）年に 75 年の歴史を閉じたが、現在も坑道や製錬所、石風呂などが残っている。

天瀬町女子畑では明治 45（1912）年に発電所が起工、大正 2（1913）年に完成し、当時の日田郡内に広く電力を供給した。現在も稼働している女子畑発電所は、今日の九州電力株式会社の出発点にもなり、現在も大正時代の建造物が残る。

（2）災害史

山間部にある日田は、中新世紀以降の火山活動により誕生した地形で、侵食作用により急傾斜地が多い。そのため、集中豪雨や長雨が続きと傾斜の急な周囲の山々から大量の雨水が一気に三隈川に流れ込むため、幾度となく水害に見舞われてきた。洪水による被害の大きさは、古代から日記や記録に残されており、10 世紀中頃の記録が最も古いものである。

明治以降では、明治 22（1889）年、大正 10（1921）年、昭和 28（1953）年に大洪水があり、筑後川 3 大水害と呼ばれている。その中でも特に昭和 28（1953）年 6 月の大洪水では、日田地方に降った猛烈な大雨によって三隈川が氾濫し、その流れを塞ぎ止めた三隈大橋から激流が市街地に流れ込み、市街の 9 割の家屋が浸水したほか、死者・行方不明者 19 人、流出家屋 571 棟などの大きな被害を残した。この大洪水の後、三隈川の拡幅などの大規模な改修や、上流に松原ダムと下笠ダムの建設が行われ、市民の安全が図られることとなった。また、令和 6（2024）年には、三隈川沿いの斜面で、明治 22（1889）年の洪水を記録した石碑が確認され、水害を伝える貴重な文化財の一つである。



水害の様子を伝える石碑

平成 24（2012）年、平成 29（2017）年、令和 2（2020）年にも洪水は発生し、生活や観光に大きな影響を及ぼした。平成 24（2012）年の豪雨では、小鹿田焼の里（国選定重要文化的景観）の池ノ鶴地区で棚田や河川の石積みが崩壊、県指定史跡の石坂石畳道では路肩が崩れ、石畳が流失する被害が生じた。また、県内最古の石造アーチ橋であった筏場目鏡橋（県指定有形文化財）が平成 24（2012）年と令和 2（2020）年の豪雨で 2 度にわたって被災し、復旧が不可能と判断され、指定解除となった。このように、日田を流れる川は人々に恵みをもたらす反面、今日まで多くの被害をもたらしている。

また、平成 29（2017）年豪雨では、豆田町（国選定重要伝統的建造物群保存地区）で花月川から取水している城内川の溢水により多くの家屋が浸水するなどの被害があった。小鹿田焼の里（国選定重要文化的景観）においては、平成 29（2017）年と令和 5（2023）年の豪雨で焼き物の陶土を作る唐臼の破損・流失や棚田の崩壊などの被害が発生した。

さらに台風被害にも度々見舞われており、特に平成 3 年 9 月の台風 19 号では、昭和 19（1944）年の統計開始以来の第 1 位の瞬間最大風速を記録し、農林業に甚大な被害をもたらした。

このほか、火災についても、多数発生していることが江戸時代以降の記録に残っており、住宅密集地であった豆田町や隈町が被害に遭っている。なかでも江戸時代には火災に加え、水害も多く発生し、多数の命が奪われた。隈町の田中町には、亡くなった人々のために塩谷代官によって建てられた供養碑が残っている。

風水害や火災以外では、古くは 679 年に筑紫地震による崩落で天瀬に温泉が湧いたことが豊後国風土記に記されている。平成 28 (2016) 年の熊本地震では永山城跡 (県指定史跡) の石垣が一部崩落し、石材が遊歩道をふさいだが、平成 30 (2018) 年に修理が完了した。



永山城跡の被災状況

日田市の主な水害記録 (～昭和時代)

年月	詳細 (被害状況等)
天慶元 (938) 年 7 月	会所宮善神王社、大原社の惣門が流される。
至徳 3 (1384) 年 8 月	玖珠川三日三晩の大洪水、至徳の赤水。 8 月 15 日から 1 か月雨止まず、死者 800 名余。
天正 6 (1578) 年	玖珠川氾濫日田村中一面水浸し。
天正 8 (1580) 年 4 月	日田郡五馬荘竹首渡、雨水にて河水増大渡ることを得ず
慶長 19 (1614) 年	大洪水。
享保 5 (1720) 6 月	21 日と 23 日。大雨、豆田一面水没、床上浸水、600 戸。
享保 7 (1722) 年 7 月	2 日と 8 日。大水
享保 10 (1725) 年 5 月	隈・豆田両町大水。114 人流される。
享保 13 (1728) 年 6 月	大水。
享保 17 (1732) 年 閏 5 月	大水。小野川より豆田、床上浸水。
寛保 2 (1742) 年 7 月	隈川原町 6 軒流失。
延享 2 (1745) 年 7 月	5 日と 13 日。町中全面。床上浸水。
寛延 2 (1749) 年 5 月	16 日と 20 日。大水。
寛延 3 (1750) 年 6 月	大水。田畑流失おびたしい
宝暦 4 (1754) 年 5 月	大水。
宝暦 5 (1755) 年 5 ~ 6 月	5 月 13 日 ~ 6 月 21 日まで長雨。
宝暦 10 (1760) 年 5 月	大水。
安永 5 (1776) 年 5 月	享保 17 (1732) 年時より 1 尺高い水位。
天明 8 (1788) 年 6 月	隈・豆田両町大水。竹田河原の材木約 1 万流失。40 年来の洪水。
寛政 3 (1792) 年	大水。
享和 2 (1802) 年 5 月	豆田大水。豆田町が川のように水が流れる、長福寺や俵屋藤四郎宅が浸水。
文化 2 (1805) 年 4 月	14 日。大雨、玖珠川・大山川大水。

年月	詳細（被害状況等）
文政11（1828）年7月	大雨、竹田村の米蔵流失。
天保11（1840）年6月	日田・玖珠大洪水。
嘉永3（1850）年5月	5月。長雨で晴れ間なし。大水。
安政5（1858）年	豆田町水害。
慶応2（1866）年6月	友田・草場・渡里・羽野・用松・財津で大きな被害。花月川に架かる大橋（一新橋）・殿橋（御幸橋）が流失、台霧築が壊れる。
明治2（1869）年6月	小国・津江で多数の死者、隈川洪水。
明治18（1885）年6月	大洪水。
明治22（1889）年7月	大雨。6月16日から20日間雨。死者22名、建物流失324戸、橋破損137本。
明治33（1900）年7月	5日大雨。豆田・隈で死者2名。19日大水。死者8名、三芳の民家2棟流失。
大正10（1921）年	隈町大水。
昭和28（1953）年6月	25日～29日に豪雨。降水量702.9mm。三隈川が氾濫、市街地が浸水。

日田市の主な火災記録

年月日	詳細（火元・被害等）
元禄6（1693）年6月22日	隈町高倉吉兵衛方から出火。家150軒焼失、原因は雷。
元禄12（1699）年2月25日	隈町大火。川原町正兵衛方から出火。川原町・紺屋町・中町。
宝永7（1710）年12月6日	我有木喜三郎方から出火。隈町・上横町・紺屋町・中町。
正徳2（1712）年12月3日	吉兵衛向馬屋から出火。紺屋町・我有木町。
享保11（1726）年3月14日	室町東の浦出火。
享保14（1730）年7月1日	中城町出火。家30軒焼失。
享保15（1731）年2月12日	隈川原町出火。家42軒焼失。
享保15（1731）年10月19日	隈裏川原火事。
享保15（1731）年11月26日	浄法寺の下で火事、10軒焼失。
宝暦4（1757）年5月3日	鶴河内村出火。庄屋ほか10軒、小屋20軒焼失。
宝暦7（1757）年10月20日	今泉出火。家14軒、小屋11軒焼失。
明和9（1772）年7月20日	豆田町大火。丸屋幸右衛門方から出火。
明和9（1772）年冬	豆田中城町。
安永7（1778）年4月26日	隈町大火。隈から上竹田まで320軒焼失。照蓮寺、浄満寺、西教寺焼失。
寛政8（1796）年2月20日	中町から出火。被害は少ない。
文化12（1815）年10月7日	隈町大火。田中町舟守徳三郎方から出火。横町・田中町・我有木町・竹田村残らず焼失。照蓮寺で17人焼死。

年月日	詳細（火元・被害等）
	※代官所や各町有志から金銀4貫 500 目、銭 565 貫文供出。㊦（森家）は被災各戸に5升または3升の米を配布。
文政2（1819）年12月13日	竹田村裏川原出火。
文政5（1822）年2月28日	隈町大火。田中町裏屋敷出火。
明治11（1878）年1月23日	隈町大家。紺屋町風呂屋から出火。138軒焼失。
明治13（1880）年	豆田町大火。60軒焼失。
明治20（1885）年	豆田町大火。20軒焼失。
明治39（1906）年4月3日	隈町出火。田中町大清。

第2章 日田市の文化財の概要

1. 日田市の指定等文化財

(1) 指定等文化財の件数

本市の指定等文化財の件数は、令和5（2023）年6月1日時点で186件である。その内訳は国指定等54件、県指定等41件、市指定91件である。類型別では、有形文化財が110件と最も多く、次いで記念物56件、民俗文化財17件、無形文化財と文化的景観、伝統的建造物群の指定・選定はそれぞれ1件となっている。文化財の保存技術は現在選定無しの状況である。

また、平成27（2015）年に日本遺産の認定を受けた「近世日本の教育遺産群-学ぶ心・礼節の本源-」の構成文化財のうち6件が市内に所在している。日本遺産についての詳細は後述する。

表2 指定等文化財の件数

種別		国			県		市	総計	
		指定・選定	選択	登録	指定・選定	選択	指定		
有形文化財	建造物	5	-	29	2	-	13	49	
	美術 工芸品	絵画	0	-	0	1	-	6	7
		彫刻	5	-	0	4	-	14	23
		工芸品	0	-	0	4	-	2	6
		書跡・典籍	0	-	0	2	-	3	5
		古文書	0	-	0	1	-	5	6
		考古資料	1	-	0	9	-	4	14
		歴史資料	0	-	0	0	-	0	0
		11	-	29	23	-	47	110	
無形文化財		1	0	0	0	-	0	1	
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	-	0	0	-	2	2	
	無形の民俗文化財	1	2	0	5	2	5	15	
		1	2	0	5	2	7	17	
記念物	遺跡（史跡）	6	-	0	7	-	16	29	
	名勝地（名勝）	1	-	0	1	-	0	2	
	動物、植物、地質鉱物 （天然記念物）	1	-	0	3	-	21	25	
		8	-	0	11	-	37	56	
文化的景観		1	-	-	-	-	-	1	
伝統的建造物群		1	-	-	-	-	-	1	
文化財の保存技術		0	-	-	0	-	-	0	
総計		23	2	29	39	2	91	186	

※令和5（2023）年6月1日時点での数値。

※「-」は法及び条例上、指定等の制度がないもの。

(2) 指定等文化財の概要

1) 有形文化財

有形文化財は110件（建造物49件、美術工芸品61件）である。

国指定重要文化財は、建造物が5件、美術工芸品が6件（彫刻5件、考古資料1件）である。

建造物は、前室付三間社流造の構造形式を持ち、延久3（1071）年の創建と伝わる九州最古の中世神社建築である大野老松天満社旧本殿や、元禄期の商家建築である草野家住宅と長福寺本堂、行徳家住宅、旧矢羽田家住宅の計5件が指定されている。

美術工芸品（彫刻）は慈眼山に伝わる仏像群で、永興寺の本尊とされる木造十一面観音立像や「日田どん（大蔵永季）」をモデルとしたとされる木造兜跋毘沙門天立像などの彫刻が5件（8軀）指定されており、全て慈眼山仏像収蔵庫に保管されている。考古資料は、吹上遺跡の墳墓群から出土した577点を数える吹上遺跡出土品が指定されている。

県指定の有形文化財は23件（建造物2件、美術工芸品21件）、市指定の有形文化財は47件（建造物13件、美術工芸品34件）である。特徴としては、応永10（1403）年の銘のある木造阿彌陀如来坐像、玉来神社神像（県指定）、吹上観音坐像、岳林寺木造弥勒菩薩坐像（市指定）など、寺社に伝わる中世にさかのぼる彫刻、また石井神社銅銚やガランドヤ古墳出土品（県指定）、有田古墳出土一括遺物、伝姫塚古墳出土鉄剣（蛇行剣）（市指定）などの考古資料が多くを占める。このほか、草三郎大神宮五輪塔婆附角塔婆（県指定）、求来里笠塔婆、大野老松天満社逆修塔、永平寺跡板碑（市指定）のような石塔類が多いことも特徴である。

国登録有形文化財は9件である。このうち隈町に所在する山田家住宅や後藤家住宅は、隈町が商人の街として栄えた時期の雰囲気を残す商家建築である。また、隈まちづくりセンター黎明館は大正5（1916）年に大分銀行日田支店として建築された本格的洋風建築であり、現在はまちづくりセンターとして各種のイベントを開催するなど活用されている。このほか、岩尾家住宅（旧日本丸製菓所）、井上酒造店舗兼主屋、井上家住宅、宇野家住宅のような店舗や住宅、長善寺鐘楼門、老松天満社の社寺建築が登録されている。



大野老松天満社旧本殿



黎明館



ガランドヤ古墳出土

2) 無形文化財

無形文化財は1件である。国の重要無形文化財に指定されている小鹿田焼は江戸時代中期に柳瀬三右衛門、黒木十兵衛らによって開窯された窯業技術で300年以上の歴史を持つ。現在、9軒の窯元により窯の火が守られている。



小鹿田焼

3) 民俗文化財

有形の民俗文化財は2件である。精米用箱水車とおきあげ人形製作資料が市指定となっており、いずれも明治時代以降の近代の文化財である。

無形の民俗文化財は15件（国指定1件、国選択2件、県指定5件、県選択2件、市指定5件）である。国指定は日田祇園の曳山行事の1件、県指定は鶺鴒や磐戸楽、大野楽、本城くにち楽、大原八幡宮御田植祭の5件で、祭礼行事、神事芸能が多く指定されている。市指定は有田町若八幡社やっこ振り行列、烏宿神社はだか参りのほか、^{いてぐちほんむらがく}出口本村楽、^{ふくろたなばたがく}出口袋七夕楽、五馬楽が指定されている。国選択は豊後の水車習俗と大原八幡宮の米占い行事の2件、県選択は宮園津江神社の祭りである老松様の餅搗祭、老松様の的ほがし祭の2件である。指定状況を概観すると神社の神事芸能や豊後の水車習俗にかかる指定等がある。



日田祇園の曳山行事



鶺鴒

4) 記念物

史跡は29件（国指定6件、県指定7件、市指定16件）である。国指定は咸宜園跡、廣瀬淡窓旧宅及び墓、穴観音古墳、法恩寺山古墳群、ガランドヤ古墳、小迫辻原遺跡の6件である。県指定は^{かわぼるずいどう}川原隧と石畳、城山古墳、永山城跡などの7件、市指定は丸山古墳、^{ちくぜんだいいわきのとりで}筑前台岩木壘遺跡、台神社前旧往還石畳道、^{おだけ}小竹供養塔などの16件が指定されている。特徴としては、本市の先哲である廣瀬淡窓に関わる史跡2件が国指定されているほか、古墳や集落、街道に関わる史跡が多く、本市が古くから交通の要衝であったことを裏付けている。



咸宜園跡

名勝は2件（国指定1件、県指定1件）である。国指定では、中津市を中心とした広範囲に広がる景勝地である耶馬溪のうち、本市では一尺八寸山の一部が指定範囲となっている。県指定では伝来寺庭園の1件が指定されている。



耶馬溪

天然記念物は25件（国指定1件、県指定3件、市指定21件）である。国指定では、小野川の阿蘇4火砕流堆積物及び埋没樹木群、県指定は津江神社のスギと自然林、高塚地蔵のイチョウ、

鞍形尾神社の自然林の3件、市指定ではユズリハ自然林、烏宿自然林など21件が指定されている。このように天然記念物は国指定を除きすべてが植物の指定となっており、本市には多くの豊かな自然が残されていることが分かる。

5) 文化的景観

文化的景観は1件である。本市最北端で北に英彦山を控える地域で、窯業を営む皿山地区と農業を営む池ノ鶴地区からなる小鹿田焼の里が国の重要文化的景観に選定されている。なお、ここで生産される小鹿田焼は重要無形文化財に指定されている。

6) 伝統的建造物群

伝統的建造物群は1件である。慶長6(1601)年に小川光氏が築いた丸山城(後の永山城)の城下町として栄えた日田市豆田町伝統的建造物群保存地区が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。



小野川の阿蘇4火砕流堆積物
及び埋没樹木群



小鹿田焼の里



豆田町

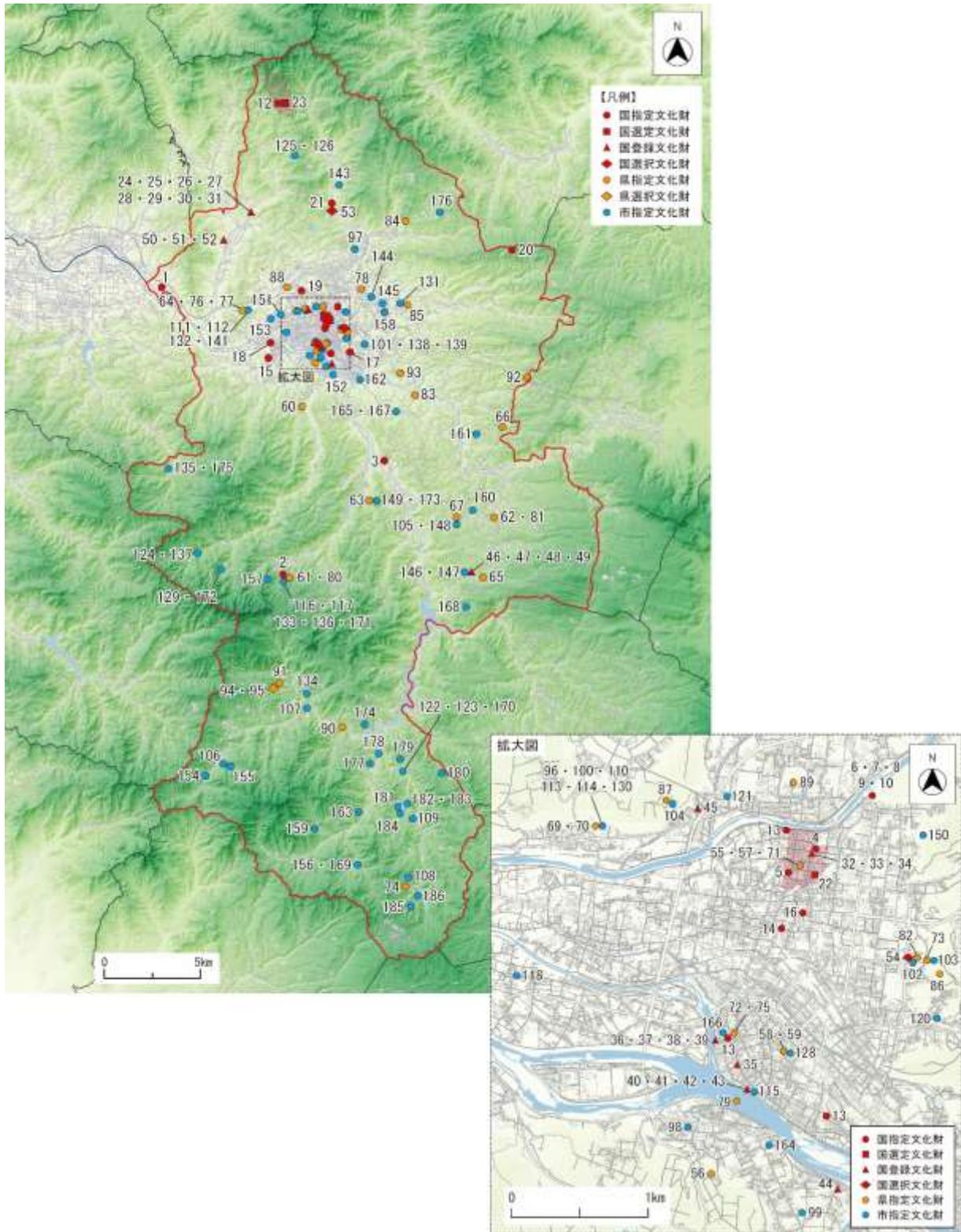


図 17 指定等文化財位置図
 (図中の番号は指定等文化財一覧表の通し番号と対応している)

2. 埋蔵文化財

市内に分布する埋蔵文化財として、周知の埋蔵文化財包蔵地 387 件（令和 5 年 12 月時点）が確認されている（大分県教育委員会『大分県遺跡地図』（令和 3 年））。

表 3 周知の埋蔵文化財包蔵地の地域別内訳

種別	旧町村						計
	日田市	天瀬町	大山町	前津江町	中津江村	上津江町	
集落、集落ほか	43	10	1	0	0	1	55
生産遺跡、条里、条里ほか	3	0	0	0	0	0	3
経塚、社寺、祭祀、石造物ほか	3	1	2	0	2	0	8
城館、館跡、官衙ほか	9	1	0	4	1	0	15
城跡、城下町	14	1	1	0	0	0	16
墳墓、横穴墓、墳墓ほか	96	3	0	0	0	0	99
散布地、包蔵地、包蔵地ほか	118	30	9	17	10	3	187
その他	3	0	0	0	1	0	4
計	289	46	13	21	14	4	387

『大分県遺跡地図』に記載された種別ごとの地域別内訳をみると、埋蔵文化財包蔵地の性格が明らかになっているものでは「墳墓」、「横穴墓」が 99 件と最も多い。このうち「墳墓」の中には国指定のガランドヤ 1 号墳、2 号墳、穴観音古墳、法恩寺 4 号墳のような装飾古墳も含まれている。次いで「集落」が 55 件、「城跡」、「城下町」が 16 件となっており、「城跡」のうち指定等文化財では県指定の永山城跡が含まれ、未指定文化財では日隈城跡などがある。そのほか、種別が明確でない「包蔵地」「散布地」は 187 件となっている。

地域別では、旧日田市域に集中して遺跡が分布しており、現在の市街地周辺や平地は条里遺跡、豆田町や隈町一帯は城下町遺跡となっている。また、三隈川流域や市内各地の台地上には多くの集落遺跡や墳墓等が分布している。また、前津江や中津江地域では包蔵地のほか城跡や砦跡が点在している。

3. 日本遺産・世界遺産

(1) 日本遺産

本市では、廣瀬淡窓の私塾跡である咸宜園跡や日田市豆田町を中心とした教育遺産のストーリー「近世日本の教育遺産群-学ぶ心・礼節の本源-」が平成27(2015)年に日本遺産に認定されている。「近世日本の教育遺産群-学ぶ心・礼節の本源-」は、本市のほかに茨城県水戸市、栃木県足利市、岡山県備前市の4都市にまたがってストーリーが展開される「シリアル型」での認定となっている。

ストーリーの概要

我が国では、近代教育制度の導入前から、支配者層である武士のみならず、多くの庶民も読み書き・算術ができ、礼儀正しさを身に付けるなど、高い教育水準を示した。これは、藩校や郷学、私塾など、様々な階層を対象とした学校の普及による影響が大きく、明治維新以降のいち早い近代化の原動力となり、現代においても、学問・教育に力を入れ、礼節を重んじる日本人の国民性として受け継がれている。

表4 日田市内の構成文化財

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ
1	咸宜園跡	国史跡	廣瀬淡窓が創設。全国から5,000人以上の門下生が集まった近世日本最大規模の私塾跡である。
2	日田市豆田町	国重伝建	私塾咸宜園と共生した町並みが残っている。
3	廣瀬淡窓旧宅及び墓	国史跡	廣瀬淡窓の人間形成に大きな影響を与えた旧宅と咸宜園塾主らの墓が現存する。
4	長福寺本堂	国重文	淡窓が最初に塾を開いた寺院の本堂が現存する。当時、出身僧侶が京都の高倉学寮の講師となるなど、日田における学問の中心であった。幼少時の淡窓はこの寺の僧侶に学び、その人間形成に影響を受けている。
5	桂林園跡	未指定史跡	咸宜園の前身である私塾跡。それまで借家して講義を行っていた淡窓が初めて自らの塾舎を構えた場所で、塾生を励ます漢詩として全国的に知られている「休道の詩」(桂林荘雜詠示諸生)が詠まれた。
6	咸宜園関係歴史資料	未指定有形文化財	私塾咸宜園の「入門簿」や「会計録」、和漢籍など、塾の実態を明らかにする資料が残る。

日本遺産の認定を受けて本市では、日本遺産公開講座「日本遺産を歩く」の実施や、日本遺産を活用した観光振興や地域活性化を推進することを目的に設立した「日田市日本遺産活性化懇話会」を通じて、企画・提案、情報発信、普及啓発などの取組を行っているほか、日田市内の小学校4年生～6年生の希望者



日本遺産子どもガイド

が日本遺産の構成文化財や廣瀬淡窓についてガイドする「日本遺産子どもガイド」を行うなど、日本遺産の周知・啓発活動に取り組んでいる。

（２）ユネスコ無形文化遺産

本市では国指定重要無形民俗文化財の日田祇園の曳山行事が、全国に所在する 33 件からなる祭礼行事「山・鉦・屋台行事」として、平成 28（2016）年にユネスコ無形文化遺産に登録された。日田祇園の曳山行事は、毎年 7 月 20 日過ぎの土日に隈地区の八坂神社、竹田地区の若宮神社、豆田地区の八坂神社の三社で行われる祇園祭の総称で、9 基の壮麗な山鉦が曳き出される行事である。

■コラム■ 世界遺産登録に向けた動き

本市では、平成 22 年度に世界遺産推進室を設置し、「咸宜園」の世界遺産登録に向けた取組を始めた。平成 24（2012）年 11 月には、日田市（咸宜園・豆田町）、水戸市（弘道館・偕楽園）・足利市（足利学校）とともに「教育遺産世界遺産登録推進協議会」を立ち上げ、「近世日本の教育遺産群」として一体的な登録への取組を推進してきた。

平成 27（2015）年 2 月には、岡山県備前市（旧閑谷学校）が協議会に加入したことで、4 市が連携・協力しながら調査・研究等に取り組み、世界遺産への登録を目指すこととなった。

令和 2（2020）年 10 月には、これまでの調査・研究の成果をまとめた「近世日本の教育遺産群-世界遺産暫定一覧表記載資産候補提案書」を、令和 5（2023）年 1 月には提案書の概要英語版を刊行した。

そのほか「鶺鴒文化」について、岐阜市が中心となって関連 10 市が連携し、登録に向けた取組を進めており、新たなユネスコ無形文化遺産となることが期待される。

4. 未指定文化財

(1) 未指定文化財の件数

本市においては、令和3年度から市民を対象にワークショップやアンケート調査を行い、市内に残る未指定の文化財について調査した。

本市の未指定文化財の件数は、令和6(2024)年2月1日時点で把握しているものは、総数1,351件となっており、文化財の区分で見ると、有形文化財488件、無形文化財145件、民俗文化財126件、記念物183件、文化的景観4件、その他18件である。また、埋蔵文化財の包蔵地は387か所である。

これらの未指定文化財は、調査が十分ではないことから、リストに挙げきれなかったものが多数存在すると考えられる。そのため、今後、地区住民と一体となった未指定文化財の把握を進め、その価値を共有する必要がある。

(2) 未指定文化財の概要

国指定の文化財の体系に基づき分類すると、有形文化財が488件と圧倒的に多いのが特徴で、このうち約3分の1を石造物が占めている。この他、民俗文化財126件、記念物183件となっている。さらに、有形文化財では建造物424件あり、民俗文化財では無形の民俗文化財121件と、地域に伝わる行事が多く存在していることが特徴といえる。

これらの未指定文化財は調査が十分ではなく、その他にも、把握できていない文化財が数多く存在するものと考えられる。また、今回、把握された文化財についても、評価及び価値づけができていないことから、今後、地区公民館の協力を得て、地域住民の参画を得ながら、調査研究を進め、未指定文化財の存在を確認し、市民と価値を共有する必要がある。

1) 有形文化財

有形文化財は488件(石造物以外の建造物254件、石造物170件、美術工芸品64件)である。

建造物のうち、石造物以外では寺や神社の建物が最も多く、その他は橋や井路、ダムや発電所など近代化を示すものがあげられる。石造物は五輪塔・宝篋院塔が多く、次いで笠塔婆・角塔婆や板碑のほか、記念碑や頌徳碑がある。

美術工芸品では、彫刻が最も多く、ほとんどが仏像である。工芸品は鰐口、懸仏、上棟札が多い。書跡・典籍・古文書は、江戸時代に豆田町の掛屋であった廣瀬家に関する資料や咸宜園教育研究センター所蔵の資料について、それぞれ1件として数えているが、実際の資料数は相当数になる。また、歴史資料は絵図である。

2) 無形文化財

無形文化財は145件である。

各地域に伝わる民話・伝承が多く、ついで民謡や田植歌などの民俗歌謡が挙げられる。

3) 民俗文化財

有形の民俗文化財は5件である。鑊絵や石風呂、注連縄である。

無形の民俗文化財は121件である。地域の祭りや年中行事が多くを占める。

4) 記念物

記念物は183件（史跡72件、名勝76件、天然記念物35件）である。

史跡は城跡や道路、墓、渡し場跡などの多岐に及ぶほか、舟つなぎ石など、伝承にまつわるものもみられる。

名勝は溪谷、滝、淵、池など水に関わるものが多い。このほか、眺望の良い場所も挙げられる。

天然記念物は神社の御神木や自然保護林などの樹木、ホタルやサンショウウオなどの生物のほか、鉱物や岩石などがある。

5) 文化的景観

文化的景観が4件で、棚田景色が挙げられる。

6) その他

その他は18件で、その他の文化財には歴史上の出来事や底霧といった気象現象などがある。

表5 未指定文化財の件数

類型（種別）		合計	
有形文化財	建造物（石造物を除く）	254	
	建造物（石造物）	170	
	美術 工芸品	絵画	3
		彫刻	29
		工芸品	17
		書跡	2
		典籍	3
		古文書	8
		考古資料	0
		歴史資料	2
	488		
無形文化財		145	
民俗文化財	有形の民俗文化財	5	
	無形の民俗文化財	121	
		126	
記念物	遺跡（史跡）	72	
	名勝地（名勝）	76	
	動物、植物、地質鉱物（天然記念物）	35	
		183	
文化的景観		4	
伝統的建造物群		0	
文化財の保存技術		0	
埋蔵文化財		387	
その他（文化財保護法が対象とする文化財以外のもの）※16.17 ページ参照		18	
総計		1,351	

第3章 日田市の歴史文化の特性

第1章と第2章の内容を踏まえ、本市の歴史文化の特性を次のように整理する。

- (1) 美しい山々と清流、豊かな自然が育む歴史文化
- (2) 川との共生で育まれた歴史文化
- (3) 人・モノが織りなす交通の要として育まれた歴史文化
- (4) 天領日田の商人が育んだ歴史文化

(1) 美しい山々と清流、豊かな自然が育む歴史文化

本市を囲む山々は火山活動によって形成され、それにより生み出された土や鉱床は、林業や焼き物、金の産出など、日田の産業を支えた。特に江戸時代に始まったスギの植林は、造林地域が拡大し、明治期以降、下駄、漆器、家具などの木工業が盛んとなり、日田の代表的な産業となった。

本市は周囲を阿蘇・くじゅう山系や英彦山系の山々に囲まれている。これらの山々には、津江山系に残るブナ、ミズナラ、シオジなどの原生林の自然の美しさや江戸時代以降に進んだスギの植林によって「九州三大美林」と呼ばれる人工林の美しさを見ることができる。

こうした豊かな山々から流れ出る豊富な水は、大山川や玖珠川、花月川などを流れて、日田盆地で合流し、三隈川となって、筑後・佐賀平野を貫流し、有明海へと流れ込んでいる。

この三隈川が貫流する本市の中心部は、周囲を火山活動によって形成された台地や谷などが巡る盆地を生み出した。その痕跡は、小野川の阿蘇4火砕流堆積物及び埋没樹木群（国指定天然記念物）や耶馬溪（国指定名勝）、上津江町に見られる星原層などに見ることができる。また、大山町の大山層を構成する泥岩から様々な化石が見つかっている。

このような火山活動で生み出された産物は産業に利用されてきた。小鹿田焼（国指定重要無形文化財）は火山活動によって高温に熱せられた地下水によって変朽安山岩が蒸されたことにより変化した土を利用している。鯛生金山は津江山地の火山活動に伴って形成された金銀鉱床をもとにしており、近代の日田の産業を支えた。また、天瀬町には温泉源が自然湧出しているところがあり、天ヶ瀬温泉として古くから知られている。

一方、火山活動で形成された土地には様々な動植物が住み始め、人々はその土地を利用して生活を始め、様々な生業が営まれるようになった。特に林業は、江戸時代にスギの植林が始まったことで盛んになり、大正時代以降は日田下駄や日田漆器といった木工業も盛んになることで、「日田林業」と呼ばれるようになった。このほかに、農業に関連して雨乞いや豊作祈願、無病息災などを神仏に祈る様々な祭りが農村で行われた。前津江町の大野楽や天瀬町の本城くにち楽、三ノ宮町の磐戸楽（いずれも県指定無形民俗文化財）などの祭りは今でも市内各地で行われている。

(2) 川との共生で育まれた歴史文化

日田盆地周辺の山地を源とする大小の河川は、盆地内で合流し、三隈川となって有明海へと流

れる。人々は河川流域の開発や水路工事を行うことで農業生産力を向上させたほか、河川を利用した物資輸送も盛んに行われた。川と共に暮らしを営んできた日田の人々はその恩恵を受ける一方で、古くより河川の氾濫による水害にも数多く見舞われてきた。

阿蘇・くじゅう山系や英彦山系から流れ出る水は、人々の暮らしを支えてきた。盆地周辺の山地を源とする大山川や玖珠川、花月川といった河川は盆地内で合流し、三隈川となって有明海へと流れ込んでいくが、これらの河川流域では、縄文時代以降、人々が生活を始め、集落からは漁に使用される道具が見つまっていることから、川で食料を確保していたことがわかる。

古代には盆地の周辺部が開発の中心であったが、古代の末期（11世紀）には、宇佐神宮領日田五箇所など盆地中心部への開発が本格化した。

江戸時代には、廣瀬久兵衛などによって小ヶ瀬井路が開削され、盆地内の田畑に水が安定して供給されるようになり、農業生産力が飛躍的に向上した。この張り巡らされた水路が「水郷日田」の由縁にもなっている。

水は農業だけではなく、様々な産業にも利用されるようになった。江戸時代から盛んになった林業では、伐採した木材は河川を利用して下流まで運搬した。今でも、河川流域では運搬された木材が並べられた光景を見ることができる。また、「日田川通船」と呼ばれる河川を利用した物資輸送も盛んに行われた。

なお、安土桃山時代の終わりに伝わったとされる鶺鴒（県指定無形民俗文化財）は、江戸時代には川漁として行われ、現在は観光鶺鴒としてその伝統技術が継承されている。

大正時代には三隈川上流で水力発電が行われるようになり、大正2（1913）年に完成した女子畑発電所の建物は今も稼働している。さらに本市には豊富な地下水脈があり、現在はそれらを活用した酒類や清涼飲料水などの飲料産業が盛んである。

一方、水は人々に恵みをもたらすだけではなく、災害ももたらしてきた。現代に至るまで本市は水害に何度も見舞われ、洪水による被害の大きさは日記や記録に残されており、今でもその被害の大きさを知ることができる。

（3）人・モノが織りなす交通の要として育まれた歴史文化

日田市は北部九州の中心に位置していることから、三隈川をはじめとする河川や陸路を通じて各地との交流が盛んに行われたことがわかる。これらの交流により日田の地にもたらされた文物は土器や石器だけでなく、カマドや鉄器作り、装飾古墳、陶磁器や銭など多種多様である。

本市は北部九州の中心に位置することから、古くより他地域との交流が盛んであった。旧石器時代には九州各地の石材が石器に使用されており、縄文時代には瀬戸内地方を中心に分布する土器なども発見されている。

弥生時代には、吹上遺跡（県指定史跡）をはじめ、市内各地の遺跡から、北部九州の影響を受けた遺物が出土しており、三隈川をはじめとする河川や陸路を通じて北部九州と交易が盛んに行われていたことが分かる。

弥生時代後期から古墳時代初頭にかけては、環濠集落が出現し、なかでも豪族居館が出現する

小迫辻原遺跡（国指定史跡）には、瀬戸内や畿内などの系譜を持つ土器などが出土する

古墳時代は筑後川を介して、様々な文物がもたらされた。中期には集落（一般民衆）レベルでの交流により、カマドや鉄器作りをいち早く受け入れてきたことがわかっている。後期になると市内最大の前方後円墳である朝日天神山古墳群（県指定史跡）が造られたほか、ガランドヤ古墳（国指定史跡）や穴観音古墳（国指定史跡）など、筑後川下流域の影響を受けた装飾古墳が造られた。

古代になると、官道が整備され、本市でも官道の施設である「駅」の推定地が確認されている。

中世の大蔵氏に関連する館からは、博多を介した中国との貿易を示す陶磁器や渡来銭などが出土しており、大陸とも交流があったことを示している。

また、永興寺では平安時代後期から鎌倉時代にかけての仏像群、岳林寺では室町時代に造られた仏像群が残っている。これらの仏像は京都や奈良の仏師の作であり、中央を志向しつつも、自己の力を誇示する日田独自の文化が育った。

（４）天領日田の商人が育んだ歴史文化

江戸時代に幕府の直轄地となった日田は、代官所が置かれ、幕府の九州支配の中心となった。日田の商人は幕府の公金を扱うことで、九州の金融経済の中心となるとともに、経済的な豊かさを背景に俳諧などの文化的な活動が盛んになった。

文禄2（1593）年に日田が太閤蔵入地になると、豊臣秀吉の代官として派遣された宮木長次郎が日隈山に日隈城を築き、城下町として三隈川右岸に隈町をつくった。そして、江戸時代になると譜代大名の石川忠総により、永山城（県指定史跡）の城下町として豆田町がつけられた。

寛永16（1639）年、日田は天領になり、九州支配の拠点として代官所が置かれた。この日田代官所を起点として陸上交通道路が設けられ、多くの商人が豆田町や隈町に訪れるようになった。豆田町や隈町では、有力商人が金融業や精蠟業、油製造・醤油・酒などの醸造業などを営んだ。これらの有力商人は掛屋として代官所の公金を扱うようになった。これらの金は「日田金」と呼ばれ、九州各藩を相手に貸し付けるなどして大きな利益をあげ、日田が九州の金融経済の中心になる大きな要因となった。

「日田川通船」では、文政8（1825）年に小ヶ瀬井路が完成した後、豆田町の中城河岸や隈町の竹田河岸から年貢米や特産物が運ばれ、輸送の利便性が大きく向上した。

そして、日田の商人が経済的に豊かになることで、整備された交通網を通じて、様々な文化人が日田を訪れ、俳諧や茶道、華道など文化的活動が盛んになった。

また、廣瀬淡窓が開いた咸宜園跡（国指定史跡）は、全国から5,000人以上の門下生を輩出した近世最大規模の私塾として知られている。

現在、豆田町は国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されており、当時の町割りが今も残されている。また、豆田町や隈町で行われている日田祇園では、天領の時代に山鉦が曳き廻されたり、山鉦の台で祇園囃子も演奏されたりするようになり、豪華絢爛な見送り幕などからは往時の経済の繁栄を偲ぶことができる。

第4章 文化財の把握・調査

1. 文化財の調査概要

文化財に関する調査について、市町村合併（平成17（2005）年3月22日）以前は、旧市町村ごとに行われており、文化財冊子についても同じく旧市町村ごとに発行されている。

大分県が実施した文化財調査も含め、本市の文化財に関する旧市町村誌、郷土史（誌）、調査報告書などの一覧は、巻末の資料編に掲載する。

【地区毎の調査実施状況】

市内の20地区公民館に対するヒアリング、前述の旧市町村誌及び郷土史（誌）及びワークショップでいただいた意見など、地区毎の調査実施状況は次のとおりとなる。

種類		地区	日隈	若宮	咸宜	桂林	三芳	光岡	高瀬	朝日	三花	西有田	東有田	小野	大鶴	夜明	五和	前津江	中津江	上津江	大山	天瀬	
有形文化財	建造物		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	美術工芸品	絵画	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	◎	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
		彫刻	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	◎	◎	△	◎	◎
		工芸品	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	◎	◎	△	△	△
		書跡	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	◎	△	△	△	△
		典籍	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	◎	△	△	△	△
		古文書	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	◎	△	△	△	△
		考古資料	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
		歴史資料	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	◎	△	△	△
無形文化財		△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	◎	△	△	△	◎	◎	◎	
民俗文化財	有形の民俗文化財	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	◎	△	△	△	
	無形の民俗文化財	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎	
記念物	遺跡（史跡）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	名勝地（名勝）	△	△	△	△	◎	△	△	△	△	△	△	△	△	△	◎	△	△	△	◎	△	◎	
	動物、植物、地質鉱物（天然記念物）	△	△	△	△	◎	△	△	△	△	△	△	△	△	△	◎	△	◎	◎	△	◎	◎	
文化的景観		△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	◎	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
伝統的建造物群		△	△	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
文化財の保存技術		△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	

※凡例＝

◎：概ね調査済み ＝ 地区公民館に対するヒアリング、旧市町村誌及び郷土史（誌）及びワークショップでいただいた意見などで実態が把握できたもの

△：さらに調査が必要 = 地区公民館に対するヒアリング、旧市町村誌及び郷土史（誌）及びワークショップでいただいた意見などでは実態が把握しきれず、追加調査が必要なもの

2. 文化財の調査の課題

前述の地区毎の調査実施状況を整理すると、建造物については伝統的建造物群保存地区である豆田町（咸宜地区）や隈町（日隈地区）などに所在する歴史的建造物の把握は概ねできている。

その他、文化的景観及び伝統的建造物群についても建造物と同様に概ね把握できている。

しかしながら、本市においては、未指定を含む文化財の悉皆調査が行われていないため、今後、文化財の散逸を防ぐとともに、後世に伝えるために必要な基礎資料を作成するためにも、地域住民と一体となって、悉皆調査を行う必要がある。

3. 未指定文化財の調査の方針・措置

（1）未指定文化財の調査の方針

市内に残る文化財を把握し、今後の保存・活用等の基礎資料とするため、未指定文化財の悉皆調査を実施し、文化財の指定等について検討を行う際の基礎資料となるようにカルテ化を行うとともに、今後の文化財の望ましい保存・活用策について検討するため、有識者による評価・価値づけを行う。

なお、悉皆調査については、市民の参加を得ながら実施するものとし、調査を通じて、市民自らが主体的に、地域に残る文化財を知り、守り、活かすことについて考える機会とする。

（2）未指定文化財の調査のための措置

（1）の調査の方針に基づき、「第6章 文化財の保存・活用に関する現状と課題・方針・措置」－「3. 文化財の保存・活用に関する措置」－「■方針1：文化財（指定、未指定）の特質の理解－調査と研究－」－「①文化財の把握の推進」に記載1の「文化財総合把握調査事業」に取り組む。

第5章 文化財の保存・活用に関する基本理念・基本方針

1. 文化財の保存・活用に関する基本理念

歴史文化の特性に挙げたように、北部九州の中心に位置する本市は、古くから他地域との交流が盛んであり、近世においては、天領であったことから、多くの人々が訪れ、活発な商業活動が行われるとともに、産業や伝統行事などといった文化も発展していった時代であり、往時を偲ぶことができる文化財が市内各地には数多く残されている。

地域に残る豊かな自然、ふるさとの歴史と伝統に育まれた文化財を市民共通の貴重な財産(宝)として後世に残していくため、その調査・保存に努め、併せて教育や観光などの様々な活用を図る必要がある。そして、文化財の保存・活用を図るためには、所有者や行政のみならず、市民一人ひとりが主役となり、地域総がかりで取り組んでいくことが重要となる。

これらのことを踏まえ、本市が目指す文化財の保存・活用に関する基本理念を、次のように設定する。

ふるさとの宝を未来へとつなげる
～ 歴史を守り 伝統を受け継ぐまち ひた ～

2. 文化財の保存・活用に関する基本方針

前述の基本理念を実現するために必要となる取組の方向性について、日田の地域性と民力が支えた伝統文化を踏まえて、以下の3つの基本方針を定める。

【基本方針①】 文化財を「知る」

本市では、これまでも市民が文化財について正しく知ることができるよう、埋蔵文化財センター、博物館及び咸宜園教育研究センターにおいて、調査・研究成果に関わる刊行物の制作及び各種講座の開催等の取組を継続的に進めてきた。

文化財を「知る」というのは、先人が生み出した文化財について、自分にとって特別な価値を発見することであり、また同時に、地域の人々を始めとした多くの人々にとっての文化財の価値を知ることでもある。

多様な人にとっての多様な価値を「知る」ことが、文化財を「守る」という意識の醸成とともに未指定文化財の発見にもつながっていくと考える。

そのため、文化財の特質を理解するための調査と研究を推進するとともに、価値の発見と情報共有に取り組む。

【基本方針②】 文化財を「守る」

本市では、日田祇園やくにち楽など、先人たちによって生み出された祭りや伝統行事は、地域住民の手によって、長い間守られ続け、今に伝えられ、多くが残されている。

文化財を「守る」ためには、地域住民の参画・協働により文化財の維持管理・修復のための各種事業に取り組むことが重要である。

そのためには、地域住民が主体となって進める文化財保護の活動への支援が必要となる。また、文化財を守る上で高度な専門性が必要な分野については、正しい保存の知識、技術についての学習機会の提供及び情報発信が求められる。

このように、文化財の適切な保存に取り組むとともに文化財を支える人材を育成する。

【基本方針③】 文化財を「活かす」

本市では、咸宜園、豆田町歴史的建造物群、鶺鴒、小鹿田焼などの文化財が、古くから観光資源として活かされている。また、教育の分野では、社会教育（地区公民館における文化財講座や、学校教育におけるふるさと学習を通して、ふるさと日田の良さや価値、課題を実感させることにより、子どもたちの持続可能な社会（地域・ふるさと）づくりについての意識の醸成や実践力の育成に努めるなど、文化財を活かした取組が実践されている。

文化財を守っていくためには、その主体となる地域の活力が維持されていることが重要であり、文化財を「活かす」取組を通じて、人を育て、地域活性化を図る必要がある。

そして、文化財の活用と保存は、表裏一体の関係であり、文化財を活用することによって、より多くの人々が文化財を「知る」機会ともなり、地域が主体となった管理体制を確保することができる。

活用によって文化財の価値を消費・毀損するのではなく、文化財を「守る」活動につながる活用を行っていくことが必要となるため、観光、まちづくり及び教育等の行政分野との連携強化及び文化財のデジタル化と情報発信の推進に取り組む。

第6章 文化財の保存・活用に関する現状と課題・方針・措置

1. 文化財の保存・活用に関する現状と課題

第5章の「2.文化財の保存・活用に関する基本方針」に記載した「知る」、「守る」、「活かす」の三つの基本方針に基づき、文化財の保存・活用に関する現状と課題を以下のとおり整理する。なお、防災・防犯については、第8章に個別に記述する。

(1) 現状

○ 文化財を「知る」

・文化財の把握・評価

文化財の調査については、大分県による中世の城館や石造物等の調査は行われているが、本市が主体となった未指定文化財の総合把握調査・評価は未着手である。

また、指定文化財についてもカルテ化されていないため、一元的な把握ができていない。

・調査・研究環境

市民が文化財について正しく知ることができるよう、埋蔵文化財センター、博物館及び咸宜園教育研究センターにおいて、調査・研究資料の収集・管理及び適切な施設の維持管理等に努めている。

埋蔵文化財センターについては、老朽化の進展に伴い、調査・研究機能の低下が危惧される。

・調査・研究人材

調査・研究を担う専門的人材の発掘・育成については、学芸員等の専門職員の配置及び研究機関への派遣をはじめ、市民を対象とした研修会の開催及び咸宜園教育研究センター研究奨励事業による研究者への助成などに取り組んでいる。

・世界遺産登録

咸宜園の世界遺産登録に向け、市及び教育遺産世界遺産登録推進協議会による調査・研究及び市民に向けた普及啓発及び情報発信並びに市民団体である咸宜園放学遊山の会による咸宜園を開いた廣瀬淡窓先生ゆかりの地をめぐるマップ作製及び咸宜園平成門下生之会の講座など、官民一体となって取組が進められているが、全市的な機運の醸成が図られていない。

・公開・情報発信による価値の共有

調査・研究成果については、各種発掘調査報告書、埋蔵文化財年報、咸宜園教育研究センター研究紀要（咸宜園、廣瀬淡窓及び門下生等に関する調査・研究成果）、日田文化（市民・研究者による日田市の歴史文化の論考及び市文化財保護部局が実施した事業の年次報告）、博物館による発掘調査報告書等を発刊している。さらに市民団体である「考古学同好会」の会報や「郷土日田の自然調査会」による地質等の調査報告書が発行されている。

その他にも、ホームページ、埋蔵文化財センター、博物館及び咸宜園教育研究センターにおける展示会、企画展及び講演会等にて情報発信に取り組んでいるが、市民との価値の共有を図るためには、十分な取組となっていない。

また、文化財に誘導するための道路や案内板等が十分に整備されていないため、市民が

文化財に容易に接する機会が確保されていない。

○ 文化財を「守る」

・積極的な保護

文化財が有する価値を顕在化し、適切な保存及び将来的な活用を図るため、小迫辻原遺跡、ガランドヤ古墳、廣瀬淡窓旧宅及び墓、咸宜園跡など史跡や遺跡などの保存活用計画を策定し、計画的な整備に取り組んでいる。

一方、地方財政が厳しさを増す中、文化財の維持管理には多額の予算を伴うことから、今後、益々適切な保存が困難になることが危惧される。

・保存環境の整備

文化財を後世に伝えるため、埋蔵文化財センター、博物館及び咸宜園教育研究センターにおいて、資料の収集、整備を行っているが、埋蔵文化財センター及び咸宜園教育研究センターについては、収蔵スペース不足により、適切な管理が困難になっている。

重要伝統的建造物群保存地区（伝建地区）に選定されている豆田町の伝統的な町並みを適切に維持保全し、文化財として後世に残すことにより、市民が誇りと愛着を持てる町づくりをめざすため、市民が所有する建造物の保存修理に補助を行っているが、それ以外の地区の歴史的建造物については、補助対象となっていない。

無形の民俗文化財の保存については、日田祇園の曳山行事をはじめ、鶺鴒、大野楽及び五馬くにち楽保存会等への補助金により支援を行っているが、担い手の減少により保存・継承が危惧されている。

・市民との協働

日田祇園、豆田町の伝統的な町並み及び小鹿田焼等については、地区住民による組織（団体）と連携しながら、文化財や工芸技術の修理、保存及び伝承等に取り組んでいる。

一方、地域コミュニティの縮小といった社会環境の変化、少子高齢、人口減少などの影響を受け、文化財の散逸、毀損及び滅失が危惧される中、本市においては、地域社会全体で文化財を守り、活かし、継承するための仕組み（サポーター制度）が整備されていない。

・担い手の育成

鶺鴒、大野楽及び五馬くにち楽保存会などの無形の民俗文化財については、活動等に対する財政的な支援を行い後継者の減少により継承が難しくなり、鶺鴒については後継者の不在が深刻な状態となっている。

○ 文化財を「活かす」

・文化財を活かしたまちづくり

市内には、観光資源として活用されている文化財（伝建地区、咸宜園跡（国指定史跡）、小鹿田焼（国指定重要無形文化財）、日田祇園の曳山行事（国指定重要無形民俗文化財）及び鶺鴒（県指定無形民俗文化財））等も数多く存在し、交流人口の増加に寄与している。

この内、伝建地区に所在する草野本家（国指定重要文化財）、廣瀬淡窓旧宅（国指定史跡）、岩尾家住宅（国登録有形文化財）等は一般公開され、多くの観光客が訪れている。

また、本市の歴史や文化財関連施設として、埋蔵文化財センター、博物館及び咸宜園教育研究センターを整備し、出土品の展示公開、歴史・文化・産業に関する企画展示、保存修理工事及び発掘調査現場の公開、各種講演会の開催などの諸事業に取り組んでいるが、文化財や本市の歴史に特化し、市民が楽しみながら学んだり、人に伝えたりすることのできるイベントなど、他部署と連携した取組ができていない。

・学習機会

学校教育及び社会教育においては、歴史読本の発行、総合的な学習の時間を活用したふるさと教育の実践や公民館における歴史講座の開設など学習機会の提供に努めているが、体験学習、新しく本市に赴任する教職員に対する文化財の魅力発信及び地区公民館への出前講座の開催等の取組が十分に行われておらず、学校教育及び社会教育との連携が弱い。

・デジタル技術

VR（仮想現実）によるランドや古墳公園における石室案内や多言語対応スマートフォンアプリによる「咸宜園入門ナビ」など、一部の施設においてはデジタル技術を活用した取組が行われているが、文化財資料はデジタル化されていないため、利用者が容易にアクセスできる環境が整備されていない。

(2) 課題

○ 文化財を「知る」

課題Ⅰ：文化財（指定・未指定）の特質の理解 -調査と研究-

① 文化財の把握の推進

文化財は指定等によって可能な限り文化財保護法に基づく適切な管理下に置くことが望ましいことから、未指定文化財の計画的な総合把握調査及びカルテ化の実施が必要となる。

なお、調査に当たっては、地域社会総ぐるみで文化財の保存・活用を推進するためにも、計画段階から市民の主体的な参画を促すような仕組みが必要となる。

② 調査・研究環境の充実

出土品及び資料等を活用して、市民が文化財について正しく理解することができるよう、埋蔵文化財センター、博物館及び咸宜園教育研究センターにおいて、適切な施設の維持管理並びに調査・研究資料の管理が必要となる。

また、良好な調査・研究環境を維持するため、経年劣化が進む埋蔵文化財センターについては、計画的な営繕による維持管理に努めるとともに、日田市公共施設等総合管理計画を踏まえながら、歴史文化資料の調査・研究機能の向上を図るための施設の在り方について総合的に研究する必要がある。

③ 調査・研究人材の育成推進

調査・研究機能の向上を図るため、専門的人材の発掘・育成、職員の資質向上が必要となる。

④ 世界遺産登録の推進

咸宜園の世界遺産登録に向けて、引き続き、咸宜園放学遊山の会や咸宜園平成門下生之会と連携しながら、市民や団体を巻き込んだ取組としていくため、一層の機運の醸成が必要となる。

課題2：文化財の価値の発見と共有

⑤ 価値の適切な評価

未指定文化財の効果的な保存・活用を図るためにも、文化財の総合把握調査により見出した価値に基づき、有識者及び市民等により適切な評価を行う。

⑥ 公開・情報発信による価値の共有

文化財の調査・研究の成果情報を市民が活用できるよう、引き続き、刊行物を作成する必要がある。また、文化財の魅力を市民に広く伝え、文化財が持つ価値を市民間で共有するため、広報ひた及びホームページ等の媒体並びに埋蔵文化財センター、博物館及び咸宜園教育研究センター等の文化財関連施設のみならず天領日田資料館や祇園山鉾会館等の観光施設を活用した効果的な情報発信が必要となる。

そして、市民が文化財に触れ、その価値を実感できるように道路や案内看板など、文化財周辺の環境整備を行う必要がある。

○ 文化財を「守る」

■課題1：文化財の適切な保存

⑦ 積極的な保護の推進

文化財を適切に保存するため、史跡等の保存計画の策定及び計画的な整備工事の実施並びに本市独自の保護制度等の保護事業に加え、所有者等が行う保存修理に対して支援を行う補助制度の創設について検討する必要がある。併せて、文化財を適切に保護するために必要な財源の確保が必要となる。

⑧ 保存環境の整備

文化財関連資料の収集、整備を行っている埋蔵文化財センター及び咸宜園教育研究センター・博物館における収蔵スペース不足の解消を図り、適切な管理に取り組む。必要がある。また、担い手の減少により、保存・継承が危惧される無形の民俗文化財については、デジタル技術を活用した記録保存を行う必要がある。

■課題2：文化財を支える人材の育成

⑨ 市民との協働

市民との協働による文化財を支える人材の育成を図るため、文化財活動団体の活動支援、文化財市民サポーターの育成、保持団体への支援などの仕組みづくりについて検討する必要がある。

⑩ 担い手の育成

文化財保持団体が行う活動及び後継者育成等に対して財政支援を行い、担い手の育成を図る必要がある。

○ 文化財を「活かす」

■課題1：地域振興への活用

① 文化財を活かしたまちづくり

面としての地域活性化を図る取組が必要なことから、観光やまちづくりといった他の行政分野及び自治体などと連携して、歴史文化の特性を効果的に学ぶための周遊ルートの設定、市民が楽しみながら学んだり、人に伝えたりすることができるイベントの開催及び施設等に関する情報発信を促進する必要がある。

■課題2：教育事業との連携強化

② 学習機会の充実

文化財の活用による市民の愛護精神の涵養を図るため、学校教育及び社会教育を所管する関係各課との連携の強化による子ども、住民及び教職員等に対する学習機会の充実が必要となる。

■課題3：積極的な情報発信の推進

③ デジタル技術の活用

文化財情報へのアクセスを容易にし、文化財の効果的な活用を推進するためにも、デジタル技術を用いた取組が必要となる。

2. 文化財の保存・活用に関する方針

文化財の保存・活用に関する現状と課題を踏まえながら、三つの基本方針ごとに「措置（施策）」区分を定める。

(1) 文化財を「知る」

■方針1：文化財（指定・未指定）の特質の理解 -調査と研究-

① 文化財の把握の推進

地域社会総ぐるみで本市内に残る文化財を把握し、今後の保存・活用を推進する上での基礎資料とするためにも、市民の参画を得ながら、未指定文化財の総合把握調査及びカルテ化の実施等を計画的に実施する。

② 調査・研究環境の充実

埋蔵文化財をはじめとする多くの貴重な文化財を保存・管理している埋蔵文化財センター、博物館及び咸宜園教育研究センター等については、施設及び資料の適切な管理を実施するとともに、展示・公開などの活用を推進するため、調査研究拠点である埋蔵文化財セ

ンターの適切な維持管理に努めるとともに、日田市公共施設等総合管理計画を踏まえながら、歴史文化資料の保存・活用を図るための施設の在り方について総合的に研究する。

③ 調査・研究人材の育成推進

文化財の保存・活用を推進するためには、文化財が持つ様々な情報や意義を引き出す調査・研究が必要であり、それを担う人材が不可欠となる。

そのため、学芸員等の専門職員を配置することをはじめ、市民参画による文化財の調査・研究の実施に取り組むとともに、調査・研究を担う人材の発掘・育成に努める。

④ 世界遺産登録の推進

世界遺産登録の推進に向け、引き続き、教育遺産世界遺産登録推進協議会の構成自治体（水戸市・足利市・備前市）と連携しながら、調査・研究及び市民に向けた普及啓発や情報発信に取り組むとともに、市民・団体との協働により機運の醸成に努め、登録の前提条件となる国内の暫定一覧表への追加記載を目指す。

■方針2：文化財の価値の発見と共有

⑤ 価値の適切な評価

今後の文化財の望ましい保存・活用策について検討するため、悉皆調査の結果に基づき、有識者のみならず市民参画による評価・価値付けを行う。また、古文書が有する歴史的・文化的価値について適切に評価を行うことができる人材の確保にも取り組む。

⑥ 公開・情報発信による価値の共有

文化財の保存・活用を推進するためにも、文化財の魅力を伝え、価値を市民と共有することが重要となる。そのため、市民・研究者及び行政による刊行物の作成並びに様々な媒体及び機会を用いた効果的な情報発信に努める。

また、市民が文化財に触れ、その価値を実感できるように、関係各課と協議しながら、道路や案内看板など、文化財周辺環境整備について検討する。

(2) 文化財を「守る」

■方針1：文化財の適切な保存

⑦ 積極的な保護の推進

文化財が有する価値を顕在化し、後世にわたり、適切に保存・活用するため、長期的な視点に立ち、個別整備計画を作成・更新し、着実な実施に努める。

指定等文化財などの所有者及び管理者に対する補助制度の創設について検討するとともに、そのために必要となる財源確保についても調査・研究を行う。

また、本市独自の文化財保護制度として、地域で大切にされてきた幅広い文化資源の顕彰を目的とした地域遺産制度の創設について検討する。

⑧ 保存環境の整備

歴史文化資料を適切に保存するため、収蔵施設の日常的な維持管理に努めるとともに、埋蔵文化財センターや咸宜園教育センターの収納スペース不足については、歴史文化資料の保存・活用を図るための施設の在り方の中で、総合的な研究を行う。

また、文化財を後世に伝えていくため、無形民俗文化財の記録保存や文化財資料のデジタルアーカイブの制作及び活用に取り組む。

■方針2：文化財を支える人材の育成

⑨ 市民との協働

文化財活動団体の自主的・継続的な活動に対して支援を行うとともに、協働による文化財の適切な保存・継承を図る。また、文化財市民サポーター制度など市民の参画により、文化財を保存・継承するための仕組みづくりについて検討する。

⑩ 担い手の育成

文化財保持団体が後継者の育成や技術の伝承を継続できるよう、次世代への魅力発信や保持団体間の交流や情報交換との促進など、活動に対する支援を行う。

また、次世代を担う子どもたちに対して、学校や公民館と連携して、文化財を活用した学習機会を提供することで、文化財の価値の理解促進を図り、担い手の育成に努める。

(3) 文化財を「活かす」

■方針1：地域振興への活用

⑪ 文化財を活かしたまちづくり

文化財を地域資源（観光・まちづくり）として活用するため、関係各課及び事業者等と連携し、個々の文化財を結び付けながら、周遊ルートの設定、市民が楽しみながら学んだり、人に伝えたりすることができるイベントの創出及び施設等に関する情報発信を促進する。

■方針2：教育事業との連携強化

⑫ 学習機会の充実

子どもたちや住民の学ぶ機会を充実することにより、愛護精神を育むため、学校教育（総合的な学習）及び社会教育（公民館活動）等との連携を強化し、刊行物の作成、講座の開催及び体験活動を実践する。

■方針3：積極的な情報発信の推進

⑬ デジタル技術の活用

文化財の魅力を広く発信し、様々な活用に資するためにも、データベース化及びアーカイブス化をはじめ、文化財コンテンツの多言語化等に取り組む。

3. 文化財の保存・活用に関する措置

文化財の保存・活用に関する課題と方針を踏まえ、計画期間に実施する措置（事業）を次のとおり設定し、基本理念の実現を目指す。

（注1） 財源の「国」は文化財保存事業費補助金、文化芸術振興費補助金、デジタル田園都市国家構想交付金、等を指す。

また、「その他」は、「受託金」「寄付」「個人負担」等を指す。

（注2） 表中に記載した「取組主体」の具体については、次のとおりとする。

表中の「取組主体」	左記の「取組主体」に対応する「第9章 文化財の保存・活用の推進体制」
市	116 ページに記載した担当課及び 117 ページに記載した庁内各課
関係機関	118 ページに記載した関係機関
団体・事業者	119 ページに記載した関係団体

（注3） 表中の事業期間については、本計画の開始年度（R7）以前から取り組まれているものについても、事業期間を「R7～」とする。

（注4） 表中の措置については、本計画の開始年度（令和7年）以前より実施されているものについても、開始年度を「R7」と記載する。

(1) 文化財を「知る」

■方針Ⅰ：文化財（指定・未指定）の特質の理解 -調査と研究-

方針	保存と活用に関する措置	財源	取組主体	事業期間
① 文化財の把握の推進	計画的な調査の実施と成果の分析			
	1. 文化財総合把握調査事業 ・市民参画による未指定文化財の総合把握調査を行う ・総合把握調査により判明した未指定文化財の詳細調査を行う ・文化財調査成果の整理を行う(カルテ化・体系化)	市	市 市民 関係機関	R9～
	2. 埋蔵文化財発掘調査事業（市内遺跡） 埋蔵文化財の事前審査・予備調査による埋蔵文化財所在情報を収集する	国 県 市	市	R7～
	3. 埋蔵文化財発掘調査事業（民間開発発掘調査） 開発によって破壊される文化財の記録保存を推進する	その他	市	R7～
	4. 埋蔵文化財発掘調査事業（報告書作成事業） 発掘調査成果情報をまとめた報告書を作成する	市	市	R7～
② 調査・研究環境の充実	調査・研究資料の適切な管理			
	5. 埋蔵文化財センター管理事業 埋蔵文化財発掘調査事業（報告書作成事業） 発掘調査出土品などの整理・保管を行う	市	市	R7～
	6. 埋蔵文化財センター管理事業 ・発掘調査報告書などの文化財書籍の収集・管理を行う ・埋蔵文化財センター施設の維持管理を行う	市	市	R7～
	7. 咸宜園教育研究センター運営事業 咸宜園関連資料の調査・研究、収集、整理、保管を行う	市	市	R7～
	8. 博物館展示資料整備事業 博物館展示資料の収集、保管を行う	市	市	R7～

方針	保存と活用に関する措置	財源	取組主体	事業期間
	調査・研究拠点の整備			
	9. 歴史文化施設の在り方検討事業 歴史文化資料の保存・活用を図るため、経年劣化が進む埋蔵文化財センターの実情を踏まえた、今後の歴史文化施設の在り方について、総合的に研究する	市	市 市民	R7～
③ 調査・ 研究人材の 育成推進	職員の育成及び市民の調査・研究者の育成の推進			
	10. 埋蔵文化財発掘調査事業（市内遺跡） ・奈良文化財研究所への職員研修に参加する ・発掘調査に必要な技能取得のための講習会に参加する	市	市	R7～
	11. 文化財保護事業 文化財保護員の各種研修会の実施・参加する	市	市	R7～
	調査・研究への支援			
	12. 咸宜園教育研究センター研究奨励事業 調査・研究者への助成を行う	市	市	R7～
④ 世界遺産登録の 推進	調査・研究及び情報発信の推進			
	13. 世界遺産登録推進事業 ・世界文化遺産の登録推薦に当たり必要となる包括的管理計画（保存管理計画・多様な構成資産を含む推薦資産の一体的な保存管理に関する計画）を策定する ・提案書（当該資産が世界遺産たる顕著な普遍的価値を有していることを、それまでの調査・研究により成果としてまとめたもの）の見直しを適宜行う ・ホームページ、SNSにより情報を発信する	市 その他	市 広域連携	R7～

■方針2：文化財の価値の発見と共有

方針	保存と活用に関する措置	財源	取組主体	事業期間
⑤ 価値の適切な評価	文化財の発見と価値付けの推進			
	14. 文化財保護事業 ・文化財保護審議委員に対し、文化財の保護や措置についての助言を求める ・地区公民館などでの地域文化財の登録制度を推進する	市	市 団体 市民	R7～
	市民との協働による価値の発見			
	15. 文化財保護事業 古文書入門講座を実施する	市	市	R7～
	16. 文化財保護事業 古文書サポーター制度の整備について検討する	市	市 市民	R7～
⑥ 公開・情報発信による価値の共有	市民に向けた情報発信の充実			
	17. 文化財保護事業 日田文化を刊行する（年1回）	市	市	R7～
	18. 咸宜園教育研究センター運営事業 咸宜園教育研究センター研究紀要を刊行する（年1回）	市	市	R7～
	19. 埋蔵文化財発掘調査事業（報告書作成事業） 埋蔵文化財年報（年1回）・調査報告書を作成する	市	市	R7～
	20. 文化財保護事業 ・文化財年報を作成する（既刊の年報を統合・再編） ・ホームページやSNSによる文化財情報を発信する	市	市	R10～ R7～
	21. 歴史読本発行事業 日田市の歴史と文化財及び文化財マップを改訂する	市	市	R10～
	22. 埋蔵文化財センター運営事業 ・最新の調査成果などを考古学講座の講演で周知する ・埋蔵文化財センター常設展示・企画展を実施する	市	市 市民	R7～

方針	保存と活用に関する措置	財源	取組主体	事業期間
⑥ 公開・ 情報発信による 価値の共有	23. 咸宜園教育研究センター運営事業 ・咸宜園歴代塾主・門下生などに関する常設展示・企画展示を実施する ・咸宜園に関する講演会・講座を実施する	市	市 市民	R7～
	24. 世界遺産登録推進事業 世界遺産登録推進講演会を実施する	市	市	R7～
	25. 日本遺産魅力発信推進事業 日本遺産に関する講座を実施する	市	市	R7～
	26. 博物館企画展開催事業 博物館の企画展を実施する	市	市 市民	R7～
	27. 農業振興課事業 小ヶ瀬井路の価値の発信を検討する	市	市 団体	R7～
	28. 学校教育課事業 教職員向け文化財講座の開催(市教育センターが実施する) 教職員研修にて開催を検討する	市	関係機関	R7～
	公開に向けた周辺環境の整備			
	29. 文化財保護事業 ・文化財標柱・解説板を整備する ・文化財解説パンフレットなどを作成する	市	市 市民	R10～
	30. 土木課事業 アクセス道路・便益施設などの整備について検討する	市	市	R7～

(2) 文化財を「守る」

■方針Ⅰ：文化財の適切な保存

方針	保存と活用に関する措置	財源	取組主体	事業期間
⑦ 積 極 的 な 保 護 の 推 進	適切な保存・管理・活用の推進			
	31. 伝統的建造物群保存事業（保存計画の見直し） 文化財の本質的価値を明確にし、保存活用措置を促進する	国 県 市	市 団体 所有者 市民	R7 ～ R9
	32. 重要文化的景観保護推進事業（保存計画の見直し） 重要文化的景観小鹿田焼の里の本質的価値を明確にし、地域住民の生活に配慮した計画に改訂する	国 県 市	市 団体 所有者 市民	R7～
	33. ガランドヤ古墳保存整備事業 2号墳の環境調査を実施し、保存整備の方向性を検討する	国 県 市	市	R7～
	34. 史跡小迫辻原遺跡整備事業 整備計画の作成に向け、発掘調査報告書の刊行を完了する	国 県 市	市	R10～
	35. 史跡咸宜園跡保存整備事業 ・史跡整備工事に係る設計を実施する ・史跡整備工事を実施する	国 県 市	市	R7～
	36. 伝統的建造物群保存事業 伝建地区内の伝統的建造物の保存・修理を促進する（相談会の実施、助成制度の活用など）	国 県 市 所有者	市 所有者	R7～
	37. 歴史的建造物保存事業 伝建地区以外の歴史的建造物（国登録有形文化財等）の保存・修理を促進する（補助制度の見直しなど）	国 県 市 所有者	市 所有者	R7～
38. 指定文化財等維持・管理事業 指定文化財の維持管理を行う	市	市 団体 所有者	R10～	

方針	保存と活用に関する措置	財源	取組主体	事業期間
⑦ 積極的な保護の推進	計画的な保存・管理・活用の推進			
	39. 史跡咸宜園跡管理運営事業 史跡咸宜園跡の建物の維持、除草、清掃作業を行う	市	市 団体 市民	R7～
	40. 指定文化財等保存補助事業 指定文化財所有者・管理者などへの補助を行う	市 所有者	市 団体 所有者	R7～
	41. 文化的景観保護推進事業 文化的景観の重要な構成要素の修理などに対する補助を行う	国 県 市 所有者	所有者	R7～
	42. 文化財保護事業 ・未指定文化財の保存修理に係る補助制度創設を検討する ・文化財の適切な維持管理を行うための財源確保について調査・研究を行う ・地域遺産制度の創設について検討する	市 所有者	市 団体 所有者	R7～
⑧ 保存環境の整備	資料の適切な管理			
	43. 文化財保護事業 文化財収蔵施設の整備について検討する	市	市 関係機関	R7～
	44. 咸宜園教育研究センター運営事業 咸宜園関係の資料の調査、収集、整理及び保管を行う	市	市	R7～
	45. 博物館管理事業 博物館関係資料の収蔵・管理を行う	市	市	R7～
	デジタルアーカイブ化の推進			
	46. 指定文化財等保存補助事業 映像により無形民俗文化財の記録保存を行う	国 市	市	R7～
47. 文化財保護事業 デジタル技術を活用した文化財資料の記録保存を行う	国 市	市	R10～	

■方針2：文化財を支える人材の育成

方針	保存と活用に関する措置	財源	取組 主体	事業 期間
⑨ 市民 との 協働	文化財活動団体の育成と連携			
	48. 文化財保護事業 ・日田考古学同好会との連携を図る（事業成果の周知や文化財資料提供） ・古文書サポーターなどの文化財サポーターの育成を図る	市	市 市民 団体	R7～
	49. 建築技能士育成事業 技能士会の活動を支援する	市	市 市民	R7～
	50. 日本遺産魅力発信推進事業 日田市日本遺産活性化懇話会を組織し、日本遺産を活用した観光振興や地域活性化を推進する	市	市 団体 市民	R7～
	51. 世界遺産登録推進事業 咸宜園放学遊山の会・咸宜園平成門下生之会との連携を図る	市	市 団体 市民	R7～
	52. ガランドヤ古墳公園維持管理事業 ガランドヤ古墳公開サポーターの育成を推進する	市	市 市民	R7～
	53. 日本遺産魅力発信推進事業 日本遺産子どもガイドの養成を推進する	市	市 市民	R7～
	54. 日田の自然環境体験事業 自然インストラクターの養成を推進する	森林環境 譲与税	市 市民	R7～
55. 市民文化財サポーター制度創設事業 行政との協働により、地域に身近な歴史や文化を守り育てる市民文化財サポーター制度の創設について検討する	市	市 関係機関 団体 所有者 市民	R7～	

方針	保存と活用に関する措置	財源	取組 主体	事業 期間
⑩ 担 い 手 の 育 成	後継者の育成と保存団体への支援			
	56. 小鹿田焼伝承者養成事業 「小鹿田焼」の保存・伝承経費の補助・支援により技術の伝承、後継者の育成を図る	国 県 市	市 団 体	R7～
	57. 鶺鴒保存対策事業 ・「鶺鴒」の保存・伝承・活用経費の一部を助成する ・「鶺鴒」の後継者養成への補助により保存・伝承を図る	県 市	市 団 体	R7～
58. 指定文化財等保存補助事業 ・日田祇園囃子保存会に対する補助により伝統文化の保存・後継者の育成を図る ・五馬地区くにち保存会に対する補助により伝統文化の保存・後継者の育成を図る ・大野楽保存会に対する補助により伝統文化の保存・後継者の育成を図る	国 県 団 体	市 団 体	R7～	

(3) 文化財を「活かす」

■方針Ⅰ：地域振興への活用

方針	保存と活用に関する措置	財源	取組主体	事業期間
⑪ 文化財を活かしたまちづくり	文化財を活かした交流と賑わいの創出			
	59. 日本遺産魅力発信推進事業 日本遺産構成文化財に特化した周遊ルートの設定を検討する	国 県 市	市	R7～
	60. スポーツ振興課事業 イベントにおいて文化財を通るルートで実施する	市	市	R7～
	61. 日田まつり振興会補助事業 歴史的な町並みを活かしたイベントの開催する	市	団体	R7～
	62. 観光誘客宣伝事業 歴史的な町並み、日田祇園、小鹿田焼、鶺鴒などの文化財を活用した誘客宣伝を行う	市	市	R7～
	63. 日田市インバウンド推進事業 歴史的な町並み、日田祇園、小鹿田焼、鶺鴒などの文化財を活用した誘客宣伝を行う	市	市	R7～
	64. 歴史的観光資源活用事業 三隈川の夏の風物詩である伝統漁法(鮎やな)を活用した誘客を図る	市	団体	R7～
	65. ガランドヤ古墳公園維持管理事業 筑後川流域の装飾古墳公開連携による市内誘客を図る	市	市 関係機関	R7～
	66. 健康保険課事業 文化財関連のイベントを大分県健康アプリ「おおいた歩得(あるとっく)」のポイント付与の対象とする	県	県 市 市民	R7～
	67. 空き店舗等活用事業 伝統的建造物群のテナントなどへの活用支援を促進する	市	市民	R7～
68. 伝統的建造物群保存事業 豆田町伝建保存会の活動支援を促進する(各種相談会、補助金交付)	市	市 団体	R7～	
69. 地域振興課事業 文化財を活かしたまちづくり活動を支援する	市	市	R7～	

方針	保存と活用に関する措置	財源	取組主体	事業期間
⑪ 文化財を活かしたまちづくり	70. 農業振興課事業 月出山棚田を活用した稲刈り体験等による都市住民との交流を促進する（中山間地域等直接支払制度棚田地域振興活動加算）	国 県 市	市民	R7～
	71. 都市整備課事業 文化財を活かした公園等などの整備及び保全について検討する	市	市	R7～
	72. 都市整備課事業 景観に配慮した建築物等の修理・修景に対する支援を行う	市	市 市民	R7～
	他自治体との連携			
	73. 日本遺産魅力発信推進事業 九州・山口・沖縄や大分県内の日本遺産認定自治体との連携を図る	市	市 関係機関 団体	R7～
74. ガランドヤ古墳公園維持管理事業 筑後川流域自治体と連携した装飾古墳一斉公開を検討する	市	市 関係機関	R7～	

■方針2：教育事業との連携強化

方針	保存と活用に関する措置	財源	取組主体	事業期間
⑫ 学習機会の充実	学校及び社会教育における学習機会の提供			
	75. 歴史読本発行事業 こども版日田市の歴史と文化財を改訂する	市	市	R7～
	76. 咸宜園普及啓発刊行物作成事業 咸宜園に関する児童向けの読本・リーフレットを作成する	市	市	R7～
	77. 埋蔵文化財センター運営事業 日田市の歴史講座を実施する	市	市	R7～
	78. 日田の自然環境体験事業 日田市の自然環境に関する講座を実施する	市	市	R7～

第7章 文化財の総合的・一体的な保存と活用

1. 関連文化財群の目的

関連文化財群とは、地域の多種多様な文化財を歴史的・地域的関連性に基づくテーマや物語（ストーリー）に沿って、一定のまとまりとして捉えたものである。まとまりをもって扱うことで、未指定文化財についても構成要素としての価値付けが可能となり、また、相互に結びついた文化財の多面的な価値・魅力を発見することができる。

2. 関連文化財群の考え方

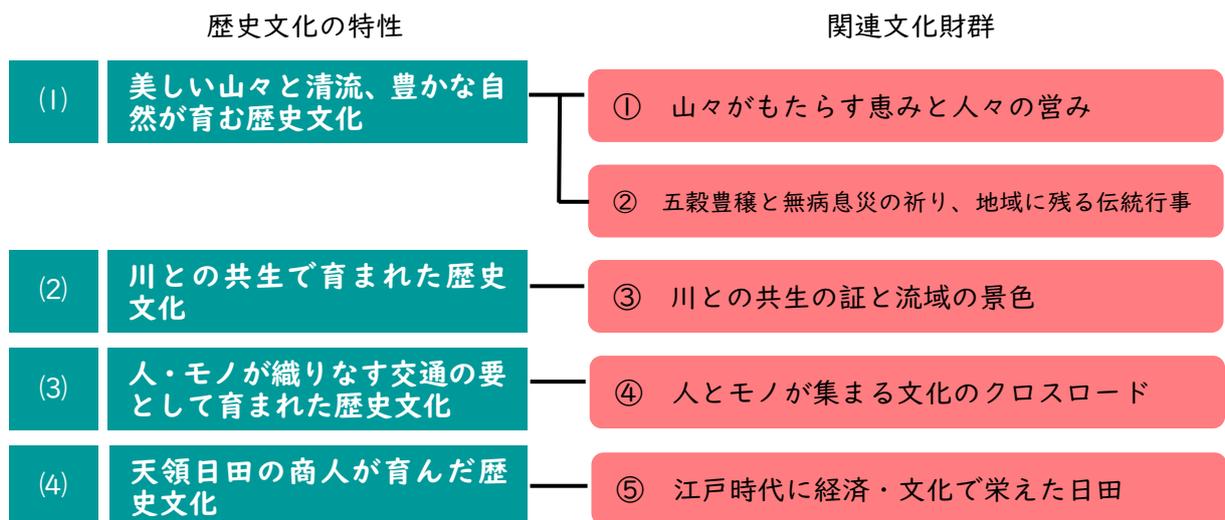
本市においては、文化財の総合的・一体的な保存と活用に向け、次の点に留意して、関連文化財群を設定する。

なお、今後の文化財の調査の進展や事業の進捗状況に応じて、関連文化財群の追加について検討する。

- ・歴史文化の特性に基づき、物語（ストーリー）を紡ぎ、その魅力を次世代へとつなげるものとする。
- ・指定・未指定を問わず、多様な文化財の種別を含んだ構成とするものとする。
- ・市民が親しみを感じ、地域において守り・伝えられるものとする。
- ・文化財を活用したまちづくり活動につながるものとする。

3. 日田市の関連文化財群

前述の考え方に基づき、本市の歴史文化の特性を踏まえながら、次の5つの関連文化財群を設定する。



4. 関連文化財群ごとのテーマ、ストーリーの概要及び構成文化財

(1) 関連文化財群に関する事項

【関連文化財群①】

テーマ：山々がもたらす恵みと人々の営み		
歴史文化の特性 (1) 美しい山々と清流、豊かな自然が育む歴史文化		
ストーリーの概要		
<p><u>周囲を火砕流によって形成された台地や丘陵に囲まれ、これらの火砕流からなる腐食に富んだ土壌により、スギやヒノキの植林化が進み、林業や木工業が盛んになったほか、金の産出が産業を支え、また地域資源を活かした伝統技術が継承されてきた。</u></p> <p>本市は、北部九州のほぼ中央、大分県の西部に位置し、福岡県と熊本県に隣接した地域で、周囲を阿蘇・くじゅう山系や英彦山系の山々に囲まれており、こうした山系から流れ出る豊富な水は、日田盆地で合流し三隈川となって、有明海へと流れ込んでいる。</p> <p>この三隈川が貫流する市の中心部は、周囲を耶馬溪火砕流や阿蘇火砕流によって形成された台地や丘陵が巡る盆地にある。耶馬溪溶結凝灰岩や阿蘇溶結凝灰岩などからなる、腐食に富んだ土壌は「三隈土壌」と呼ばれ、排水の良さを特徴とする地質特性から杉や檜の生育に適している。そのため、江戸時代以降、急速に植林化が進み、山間部では林業が営まれ、木工業が盛んになったほか、津江山地の鉱床をもとに興された鯛生金山は近代日田の産業を支えてきた。</p> <p>また、市の北部に位置する皿山地区で江戸時代中頃に開窯された小鹿田焼は、山の水・土・木などの地域資源を活かし、一貫した伝統的技法による生活雑器の製作を継承させてきた。</p>		
構成文化財		
名称	指定等区分	概要
① 小鹿田焼の里 小鹿田焼	国選定文化的景観 国重要無形文化財	江戸時代以来、狭隘な谷間で営まれる水、土、木等の資源を活かした窯業や石積みの棚田で営む農業といった生業が、この地での生活の在り方を示している。
② 小野川上流部の火山活動痕跡	未指定天然記念物	小野川上流部にある760万～460万年前の火山活動の痕跡。釜ヶ瀬地区のプロピライト岩峰群や上小竹地区の夫婦岩観音などの奇岩ができた。また、高温の地下水による熱作用でできた土は小鹿田焼の陶土として利用されている。

名称	指定等区分	概要
③ 小野川の阿蘇4火砕流堆積物及び埋没樹木群	国指定天然記念物	今から9万年前の阿蘇山大噴火で発生し、その威力や災害状況、当時の森林構成などが明らかになっている。
④ 戸山神社の境内林	未指定天然記念物	戸山神社を囲むようにアカガシを優占種とする自然林が残存する。イヌガシ・シキミ・ハイノキ・ツルシキミなどアカガシ＝ミヤマシキミ群落を形成する貴重な森林である。
⑤ 有田川の埋没樹木群	未指定天然記念物	今から9万年前の阿蘇山大噴火で発生した火砕流に埋没した樹木群。確認された樹種はアサダ・トネリコ・サワラ・スギなどがある。
⑥ 鞍形尾神社の自然林	県指定天然記念物	大原八幡宮の元社である鞍形尾神社周辺に残る自然林である。ウラジロガシを中心とした高木が優占種で、亜高木層・低木層・草木層の各種で構成されている。
⑦ 台神社の森	市指定天然記念物	台神社境内に残る自然林である。イチョウ・ムクノキ・クスノキなどで構成され、かつては高さが20mを超える樹木も多く存在していた。
⑧ 烏宿自然林	市指定天然記念物	烏宿山頂にある烏宿神社周辺に残る樹林。スダジイを優占種として、タブノキ・ウロジロガシ・アカマツ・イチイガシなど150を超える種が残っている。
⑨ 大山層	未指定天然記念物	今から250万年前～100万年前に九重・別府地溝の陥没により形成されたもので、堆積層の中からは、植物や淡水魚の化石が見つかる。
⑩ ユズリハ自然林	市指定天然記念物	大野老松天満社の背後にある自然林である。ユズリハを優占種として、タブノキ・ヤブニッケイ・イヌガシなどの樹木で構成される、

名称	指定等区分	概要
⑪ 御前岳・釈迦岳の原生林	未指定天然記念物	釈迦岳・御前岳の尾根筋にミズナラやカエデ類などの落葉広葉樹からなるブナ林と御前岳北側の谷沿いにシオジ林が分布している。
⑫ 津江神社のスギと自然林	県指定天然記念物	神社の参道沿いに杉の巨樹30数本が立ち並ぶ。日田スギの原木とかつての原植生を垣間見ることができる。
⑬ 鯛生金山	未指定天然記念物	明治時代に発見された金鉱山で、最盛期の昭和13(1938)年には年間産金量は2.3トに達し、国内第1位となったが、昭和47(1972)年に閉山となった。平成19(2007)年近代化産業遺産に認定される。
⑭ 年の神境内地樹林	市指定天然記念物	年の神社の境内を取り巻く森で、カヤ・モミジ・ツバキなどで構成される。樹齢500年を超えるカヤの大木がある。
⑮ 耶馬溪	国指定名勝	中津市を中心とした東西約40km、南北約35kmの範囲に及ぶ。火山活動に伴う耶馬溪層や耶馬溪溶岩などの浸食によって形成された景観は耶馬溪独特の風景を生み出している。日田では一尺八寸山の一部が指定範囲に含まれている。



図 18 関連文化財群①主な構成文化財位置図

【関連文化財群②】

テーマ：五穀豊穰と無病息災の祈り、地域に残る伝統行事		
歴史文化の特性（1） 美しい山々と清流、豊かな自然が育む歴史文化		
ストーリーの概要		
<p>本市では、秋の祭日に合わせて奉納される楽（杖楽）が多く行われ、日田を含む県西部は県南部とともに、大分県内における杖楽の二大開催地である。そのほかにも五穀豊穰・無病息災を願う古い由来を持つ伝統行事が市内の各地区に残されている。</p> <p>日田の楽には、五馬地区のくにち楽のほか、磐戸楽や大野楽などがある。これらの楽では杖を使うのに加え、磐戸楽・大野楽では河童の所作を真似する河童楽の要素もある。また、有田地区に伝わるやっこ振り行列は、有田八幡社の秋祭りの中心的な行事であり、日田天領まつりの西国筋郡代行列でも披露されている。</p> <p>また、中津江村の宮園津江神社では、祈念祭りで五穀豊穰や家内安全を願う老松様の的ほがし祭りや例祭で小麦餅をついて供える餅搗祭など、地域特有の行事が行われている。</p> <p>こうした祭りは五穀豊穰・無病息災を願う伝統行事として、市内各地に残されており、地域のつながりや一体感の醸成に寄与している。</p>		
構成文化財		
名称	指定等区分	概要
① 戸山神社 五輪塔 宝篋印塔	未指定有形文化財	「豊西記」に慶雲2（705）年、小角という者が英彦山から戸山に来た伝説が記され、この時に日田郡司・大蔵氏の先祖が戸山に来たと伝えられている。境内には応永14（1407）年の宝篋印塔や、寛正4（1463）年の五輪塔、永正4（1507）年の宝篋印塔（台石）などが残されている。
② 磐戸楽 石松大行事社	県指定無形民俗文化財 未指定有形文化財	石松大行事神社（三ノ宮町）に天文年間以前より伝わる神事で、俗に「河童踊り」の名で親しまれている。
② 有田若八幡社やっこ振り行列 有田若八幡社	市指定無形民俗文化財 未指定有形文化財	有田若八幡社（有田町）の秋祭りの中心的な行事で、有田に伝わっている「須ノ原踊り」の一部をなすものである。

名称	指定等区分	概要
④ 大原八幡宮(楼門・拝殿・幣殿・本殿) 大般若波羅蜜多經 大原八幡宮の米占い 行事 大原八幡宮御田植祭 放生会	市有形文化財 市有形文化財 国選択無形民俗文化財 県指定無形民俗文化財 未指定無形民俗文化財	大原八幡宮は日田の総社として地域の尊崇を集めてきた。寛永元(1624)年に、日田藩主・石川忠総により、元大原の地から現在地に遷った。境内には多くの楼門や拝殿などの多く建造物のほか、経典なども所蔵されている。また、年中行事として米占いや御田植祭、仲秋祭として放生会など行われている。
⑤ 本城くにち楽 金凝神社	県指定無形民俗文化財 未指定有形文化財	金凝神社(天瀬町本城)で奉納される。明治15(1882)年頃、九重町の町田楽を伝習したと伝わり、「面かぶり」が杖使いを指揮する。
⑥ 金凝神社木造仮面	県指定有形文化財	木製の天狗、翁、鬼、河童の面。クス・桐・ヒノキを材料とした一木造りで、長さは21.5~25.0cm。祈願成就を祈って神社に奉納したものと考えられる。
⑦ 出口本村楽	市指定無形民俗文化財	五穀豊穡に感謝して老松天満社(天瀬町出口)で奉納される。出口袋七夕楽と隔年で行われる。
⑧ 出口袋七夕楽	市指定無形民俗文化財	老松神社で奉納される。江戸時代後期の早魃時に雨乞いのため、前津江大野楽を伝習したと伝わり、相撲甚句を伝えるのが特徴である。
⑨ 老松神社	国登録有形文化財	天瀬町出口にある神社。本殿は明治31(1898)年に建立された三間社流造で銅板葺きである。
⑩ 五馬楽	市指定無形民俗文化財	玉来神社(天瀬町五馬市)で奉納される。天狗・恵比寿・大黒・赤鬼・青鬼ら「面かぶり」が杖使いを指揮する。

名称	指定等区分	概要
⑪ 玉来神社拝殿と棟札	市指定有形文化財	天瀬町五馬市にある神社。現在の拝殿は天保6（1835）年に塩谷代官の命で建立されたものといわれ、拝殿の天井には格子絵が描かれている。また、古い棟札は応永2（1468）年のものが残されている。
⑫ 玉来神社神像	県指定有形文化財	男神と女神の対をなすものが7対ある。ヒノキの一木造りで、高さは27.5～77.5 cmと大小様々ある。
⑬ 烏宿神社はだか参り 烏宿神社	市指定無形民俗文化財 未指定有形文化財	江戸時代から伝わる行事で、享保の大飢饉の際に、烏宿神社参道にある「御池」の水を畑に撒いたところ、害虫が発生せずに餓死者が出なかったことに感謝して、地元の若者が裸でお参りしたことに由来する。
⑭ 大野老松天満社旧本殿	国指定重要文化財	延久3（1071）年に日田郡司大蔵永季による創建と伝えられる。旧本殿は長久2（1488）年に長谷部信安によって再建された。前室付き三間社流造という形式で、屋根は板葺きである。
⑮ 大野楽	県指定無形民俗文化財	五穀豊穡、疫病災難払い又は天皇即位を祝うために大野老松天満社（前津江町大野）に奉納された、棒術・長刀術を伴う河童楽である。
⑯ 老松天満社懸仏	県指定有形文化財	鏡面に仏や菩薩、神像などを現したもの。大野老松天満社の懸仏は207面あり、一つの面に一つの仏などが表現されている。
⑰ 老松様の的ほがし祭 宮園津江神社	県選択無形民俗文化財 未指定有形文化財	宮園津江神社の祈年祭で五穀豊穡や家内安全を祈願する祭り、4月15日（旧暦3月3日前後）に行われている。
⑱ 老松様の餅搗祭 宮園津江神社	県選択無形民俗文化財 未指定有形文化財	宮園津江神社の例祭で小麦餅を搗いて供えることから、この名称になった。伝承では鬼（盗賊）退治を祝って始めたとされるが、小麦の収穫を感謝する祭りと考えられる。

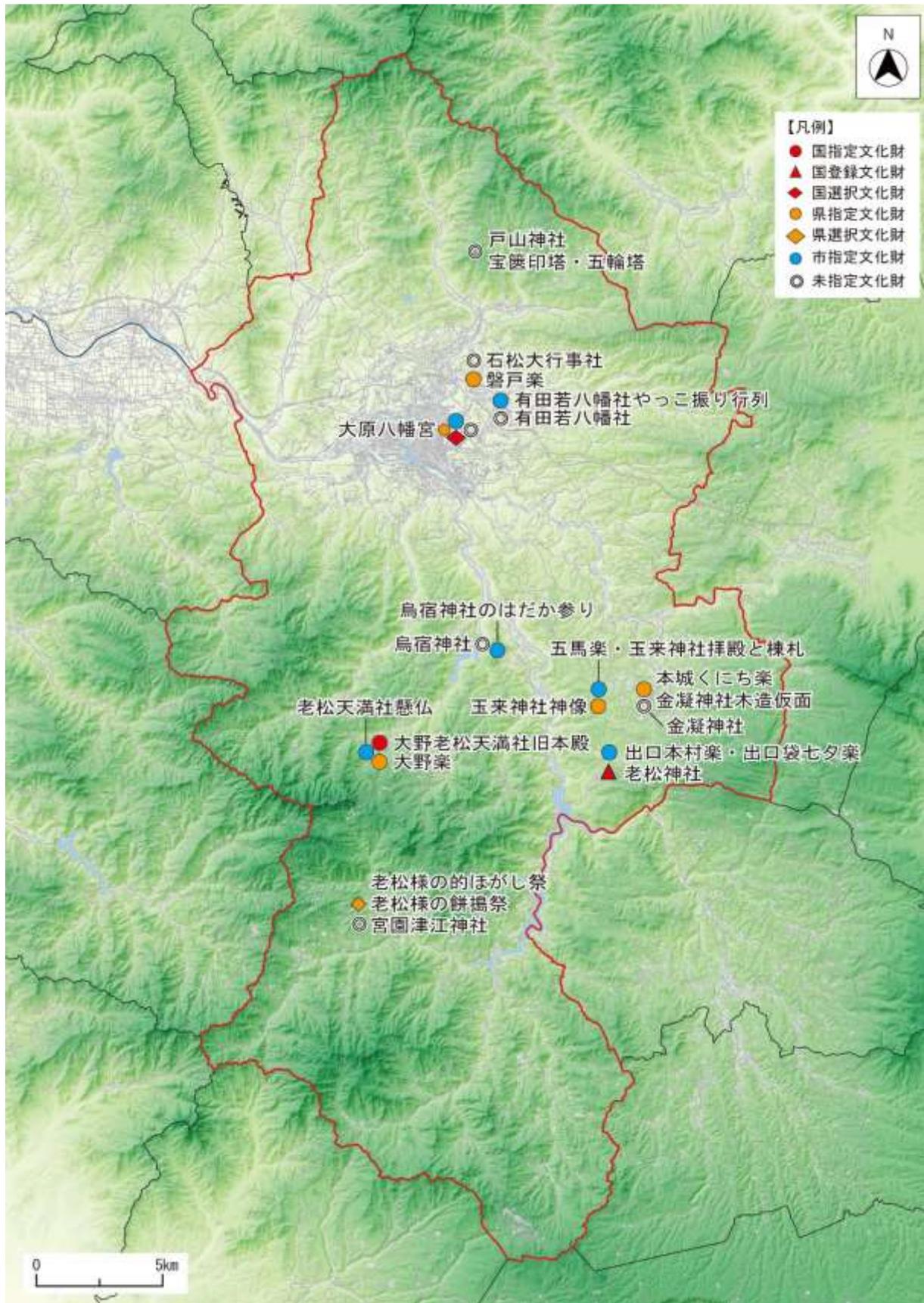


図 19 関連文化財群②主な構成文化財位置図

【関連文化財群③】

テーマ：川との共生の証と流域の景色		
歴史文化の特性(2) 川との共生で育まれた歴史文化		
ストーリーの概要		
<p><u>日田盆地を流れる三隈川は、原始・古代から人々に様々な恵みをもたらし、暮らしを支えてきた。一方、周囲を山に囲まれた盆地の地形的な特性から、歴史の中で、幾度となく水害に見舞われている。</u></p> <p>日田盆地は周囲の山々から多くの河川が流れこみ、筑後川の上流域（主に三隈川）を形成しており、流れる水は人々の暮らしを支えてきた。</p> <p>それらの川には多くの淡水魚が生息しており、人々の貴重な食糧源として様々な漁法を生み出した。</p> <p>その伝統漁法の一つである鵜飼は、安土桃山時代、豊臣秀吉の代官として日隈城を築城した宮木長次郎が鵜匠を4名招き、庄屋の4家に1名ずつ養わせたことに始まるといわれ、その漁法は今日まで絶えることなく受け継がれている。また、豊富な水を利用して、酒造りなどの醸造業が盛んになった。</p> <p>近世に整備された多くの水路は、農業の生産力を向上させるなど、多くの恵みをもたらし、今に生きている歴史的遺産として、水郷日田の特徴的な景観を作り出している。</p> <p>一方、山間部にある本市は、集中豪雨や長雨が続きと傾斜の急な周囲の山々からの流れが、一気に三隈川に流れ込むため、幾度となく水害に見舞われており、洪水による被害の大きさは、古代から日記や記録に残されている。</p>		
構成文化財		
名称	指定等区分	概要
① 鵜飼 鵜舟や鵜籠等の用具	県指定無形民俗文化財 未指定有形民俗文化財	伝統的な漁法で、安土桃山時代、豊臣秀吉の代官として日隈城を築城した宮木長次郎が鵜匠を4名招いたことに始まるといわれる。
② 水神祭	未指定無形民俗文化財	毎年5月の筑後川水系の鮎漁解禁に合わせて行われる「日田川開き観光祭」で、川の安全祈願のために神事が行われ、鮎を放流する。
③ 中城河岸跡	未指定史跡	日田では、三隈川の豊かな水量を生かした船運が早くから発達した。小ヶ瀬井路の完成により、中城川の水量が増加し、豆田町（中城村）の荷物を日田川に出すための「河岸」が建てられ、26艘の川船が用意された。

名称	指定等区分	概要
④ 竹田河岸跡	未指定史跡	三隈川に設けられた河岸で中城河岸より古く、竹田村の年貢米のほか、玖珠郡の幕府領の年貢米を積み出した。
⑤ 日隈城跡	未指定史跡	文禄3(1594)年、豊臣秀吉の直轄地となった際に、宮木長次郎によって築かれた。 慶長6(1601)年から元和2(1616)年まで、毛利氏が城主となった後、寛永年間(1624~1644)に廃城となった。
⑥ 後藤家住宅	国登録有形文化財	後藤家は明治20年以降、山吉と号し、材木商を営んできた。木造2階建ての主屋は明治20(1887)年の建築で、入母屋造妻入棧瓦葺きの屋根を通りに向け、腰を海鼠壁とするなど重厚な構えを見せている。
⑦ 山田家住宅	国登録有形文化財	山田家は、江戸時代には町年寄、代官所御用達を務めた豪商である。主屋は文化12(1815)年の大火の翌年に建てられた。通りに面して、切妻屋根の前後に本瓦葺きの深い下屋を下すことで、軒の低い重厚な表構えを見せている。
⑧ 小ヶ瀬井路	未指定史跡	文政6(1823)年から8年にかけて開削された井路で日田川(三隈川)右岸の上井手村字小ヶ瀬より取水して、堅岩をくり抜いた貫(トンネル)を通して、中城村(豆田町)まで用水を引き、中城村からは水路として、日田川通船の経路となった。 また、令和2(2020)年の大雨の際に井堰跡と石畳が発見された。
⑨ 女子畑水力発電所	未指定有形文化財	九州水力電気株式会社(現在の九州電力株式会社)が最初に開発した発電所で、明治45(1912)年に着工し、大正2(1913)年に完成した。筑後川水系玖珠川・大山川から取水する水力発電所で、出力は1万2,000kWであった。

名称	指定等区分	概要
⑩ 松原ダム・下笠ダム	未指定有形文化財	昭和 28(1953)年の大水害を契機に、筑後川の治水と日田市への利水、水力発電を目的とした二重ダム方式で建設された。両ダムとも昭和 33 (1958) 年に着手し、昭和 48 (1973) 年に完成した。
⑪ 夜明ダム	未指定有形文化財	九州電力が水力発電用に筑後川に建設したダム。イカダによる木材運搬ができなくなることやアユなどの水産資源が影響を受けるなどの反対運動が起きたが、昭和 29 (1954) 年に完成した。
⑫ 大山ダム	未指定有形文化財	大山川支流の赤石川に、渇水対策や洪水調節、取水の安定化、河川環境の保全のために建設されたダム。平成 25 (2013) 年に完成した。
⑬ 豊後の水車風俗	国選択無形民俗文化財	山がちで溪流の多い大分県で多様な水車が見られる。江戸時代中期頃から作られた記録が残り、明治時代後半に最盛期を迎えた。
⑭ 井上酒造店舗兼主屋	国登録有形文化財	井上酒造は文化元(1804)年に創業したもの。店舗兼主屋は大正 3 (1914) 年に建築された木造 2 階建、棧瓦葺きの入母屋造りである。当初は平屋の茅葺きであったが、昭和 18 (1943) 年に 2 階を増築し、瓦屋根になった。
⑮ 薫長酒造土蔵	未指定有形文化財	薫長酒造は江戸時代から千原家が営んでいたもので、昭和初期に現在の経営者が買い取ったものである。敷地内には、仕込蔵・麴室・穀蔵・焼酎蔵など 7 棟の土蔵がある。
⑯ 日田水電株式会社関係遺構	未指定有形文化財	千原藤一郎や草野忠右衛門らが発起人となり。明治 33 (1900) 年 6 月に設立した電力会社。三隈川の流水を利用した発電所を五和村(現、大字石井)に設置した。現在も通水路が利用されており、石井町の国道沿いで見ることができる。

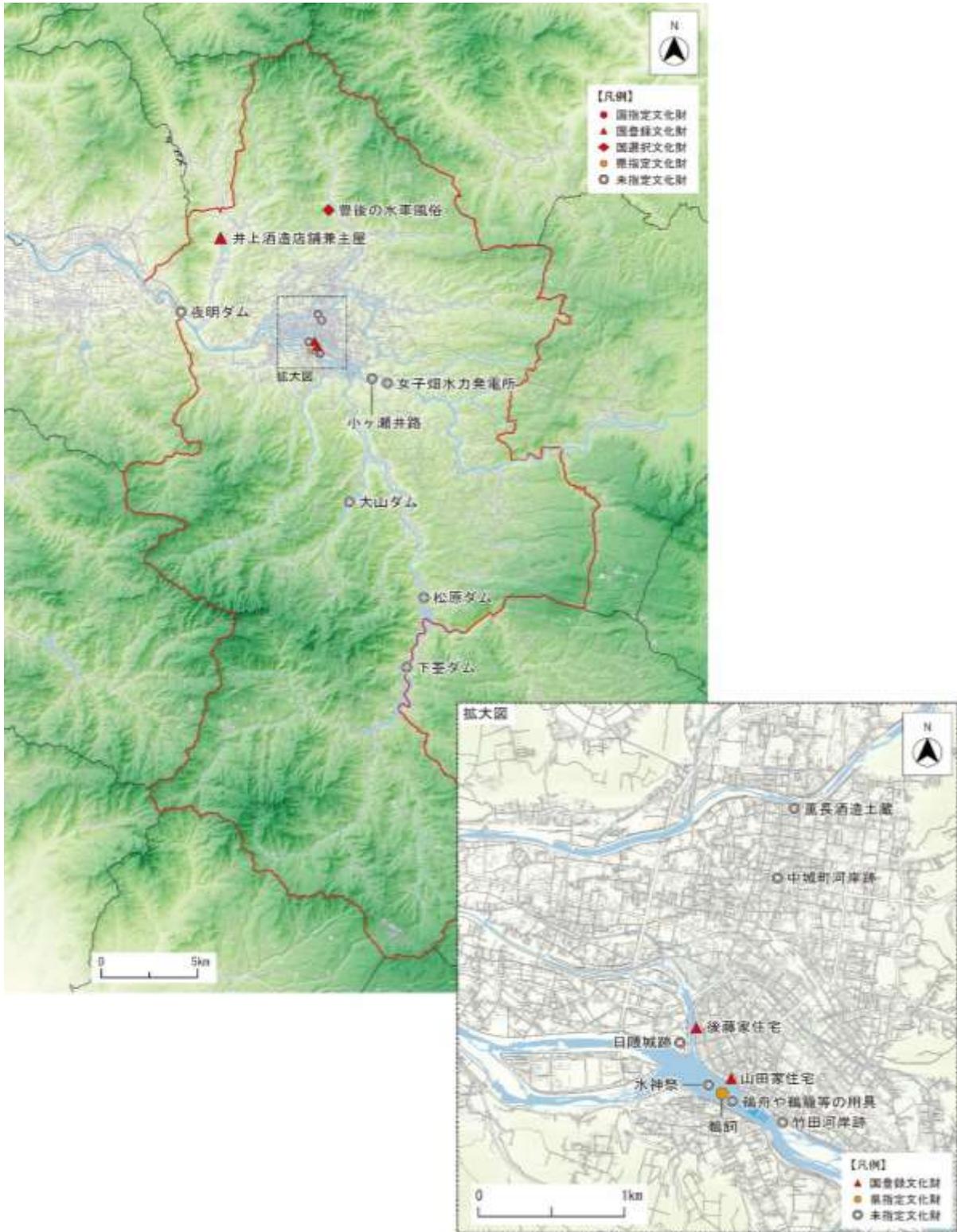


図 20 関連文化財群③主な構成文化財位置図

【関連文化財群④】

テーマ：人とモノが集まる文化のクロスロード

歴史文化の特性(3) 人とモノが織りなす交通の要として育まれた歴史文化

ストーリーの概要

原始・古代から中世に至るまで、筑後川を媒介として西からの文化を吸収しながら発展し、遺跡・出土品や仏像群などから、北部九州を中心に他地域と交流していた様子を窺うことができる。

弥生時代には、筑後川を媒介として西からの文化を吸収しながら発展し、小さなクニが成立していく中期ごろには、吹上遺跡に代表される日田を統率する首長が出現し、甕棺墓など、北部九州の各地との交流を示す遺物が多数出土する。さらに、古墳時代初頭にかけては、環濠集落や豪族居館が出現する。

古墳時代中期には集落（一般民衆）レベルでの交流により、カマドや鉄作りを一早く、受け入れている。後期になると、市内最大の前方後円墳である朝日天神山古墳、ガランドヤ古墳や穴観音古墳といった装飾古墳が造営された。これらの古墳はいずれも三隈川流域沿い、あるいは西へ通じる陸路にあたる場所であり、交通の要衝を日田の各地域の首長が支配することになった。

そして、中世になると、日田を掌握していた有力豪族である大蔵氏の居城や屋敷跡などからは輸入陶磁器や硯など当時貴重な中国からの輸入貿易品などが多数見つかリ、当時の様相が浮かんでくるようになった。

大蔵氏は日田郡司として名目上の支配者だったばかりでなく、実質的にも各地域に配置した同族及び他の豪族たちを統合して西豊後に一大勢力を築いた。大蔵氏が造営した慈眼山永興寺や岳林寺には、京・奈良の仏師による仏像群が並び、一面中央を志向しつつも、一面では確かな自己の力を誇示するという日田独自の文化が育った。

構成文化財

名称	指定等区分	概要
① 吹上遺跡	県指定史跡	弥生時代中期から後期にかけての墓地。7基の甕棺墓や3基の木棺墓で構成される。墓からは青銅器や貝製品など豪華な副葬品が多く出土し、当時の日田を治めた有力者の墓地と考えられる。出土品は国指定重要文化財、墓地一帯は県指定史跡。
② 吹上遺跡出土品	国指定重要文化財	吹上遺跡6次調査で出土した青銅製や鉄製の武器類、勾玉・管玉などの装飾品、南海産の貝輪などに副葬品と甕棺などで577点で構成される。

名称	指定等区分	概要
③ 小迫辻原遺跡	国指定史跡	弥生時代終わりの環濠集落や古墳時代初めの豪族居館のほか、古代の役所関連の建物や中世の屋敷などが見つかり、長い期間にわたって日田において重要な場所であったことがわかる遺跡である。
④ 薬師堂山古墳	県指定史跡	古墳時代中期に造られた直径約 38mの円墳で市内では最大である。内部には竪穴式石室があると考えられる。また、市内では唯一、円筒埴輪や太刀型埴輪が出土した古墳でもある。
⑤ 金田遺跡	未指定史跡	弥生時代中期から古墳時代後期にかけての集落遺跡である。古墳時代中期にカマドを備えた建物や鉄器作りの道具が見つかり、日田市内では最も古い例である。
⑥ 城山古墳	県指定史跡	古墳時代後期に造られた全長約 30mの前方後円墳。内部は箱形の石棺があると考えられる。
⑦ 朝日天神山古墳	県指定史跡	古墳時代後期に造られた2基の前方後円墳で構成される。2号墳は全長が約 85mあり、後期では大分県内最大級の大きさである。
⑧ ガランドヤ古墳	国指定史跡	古墳時代後期に造られた3基の円墳で構成される古墳群でいずれも横穴式石室がある。1号墳は直径約 29m、2号墳は直径約 23m（推定）である。3号墳は規模不明。1・2号墳の横穴式石室には赤色や緑色で同心円文や人物、鳥、船などが描かれている。1・2号墳からは鉄刀や鏡、馬具、鉄の矢じりなどの副葬品が出土した。1・2号墳は国指定史跡、出土品は県指定有形文化財。
⑨ 穴観音古墳	国指定史跡	古墳時代後期に造られた直径約 23mの円墳。横穴式石室の壁には、赤色と緑色で円文や人物、鳥、船などが描かれた装飾古墳である。

名称	指定等区分	概要
⑩ 護願寺古墳群	未指定史跡	1 基の前方後円墳と2基の円墳で構成される古墳群。1号墳は後期の築造で全長36mを測る。
⑪ 法恩寺山古墳群	国指定史跡	古墳時代後期に造られた7基の円墳から構成される古墳群。1～5号墳が国の史跡に指定されており、4号墳からは馬具や鉄の矢じりなどの多くの副葬品が出土している。3号墳は装飾古墳で、横穴式石室の壁に朱色で円文や鳥、人、馬などが描かれている。
⑫ 大蔵古城	未指定史跡	平安時代に日田郡司となった大蔵氏が慈眼山に造った城である。山中には現在も曲輪や切り通し(道)が多く残る。また、山の中腹には大蔵永季が建てたといわれる永興寺がある。
⑬ 永興寺と関係資料群	国指定重要文化財	永興寺の本尊とされる木造十一面観音立像、木造四天王立像仏像、木造兜跋毘沙門天立像、木造毘沙門天立像(以上、国指定重要文化財)がある。
⑭ 岳林寺と関係資料群	県指定有形文化財 市指定有形文化財 未指定有形文化財	明極楚俊によって創建された岳林寺に残されている資料群。岳林寺木造明極楚俊座像(県指定有形文化財)、絹本着色明極楚俊像、紙本墨書明極墨蹟、木造釈迦三尊像附釈迦如来像奉籠物、岳林寺木造弥勒菩薩坐像、岳林寺文書、岳林寺絹本着色仏涅槃図(以上、市指定有形文化財)などがある。
⑮ 慈眼山遺跡	未指定史跡	大蔵古城南側の平地に広がる遺跡である。奈良時代や平安時代の遺構や遺物が見つかるほか、室町時代後半の大きな溝に囲まれた建物などが見つかり、当時の領主(大蔵氏や大友氏)の家臣たちが住んだ城下町と考えられる。

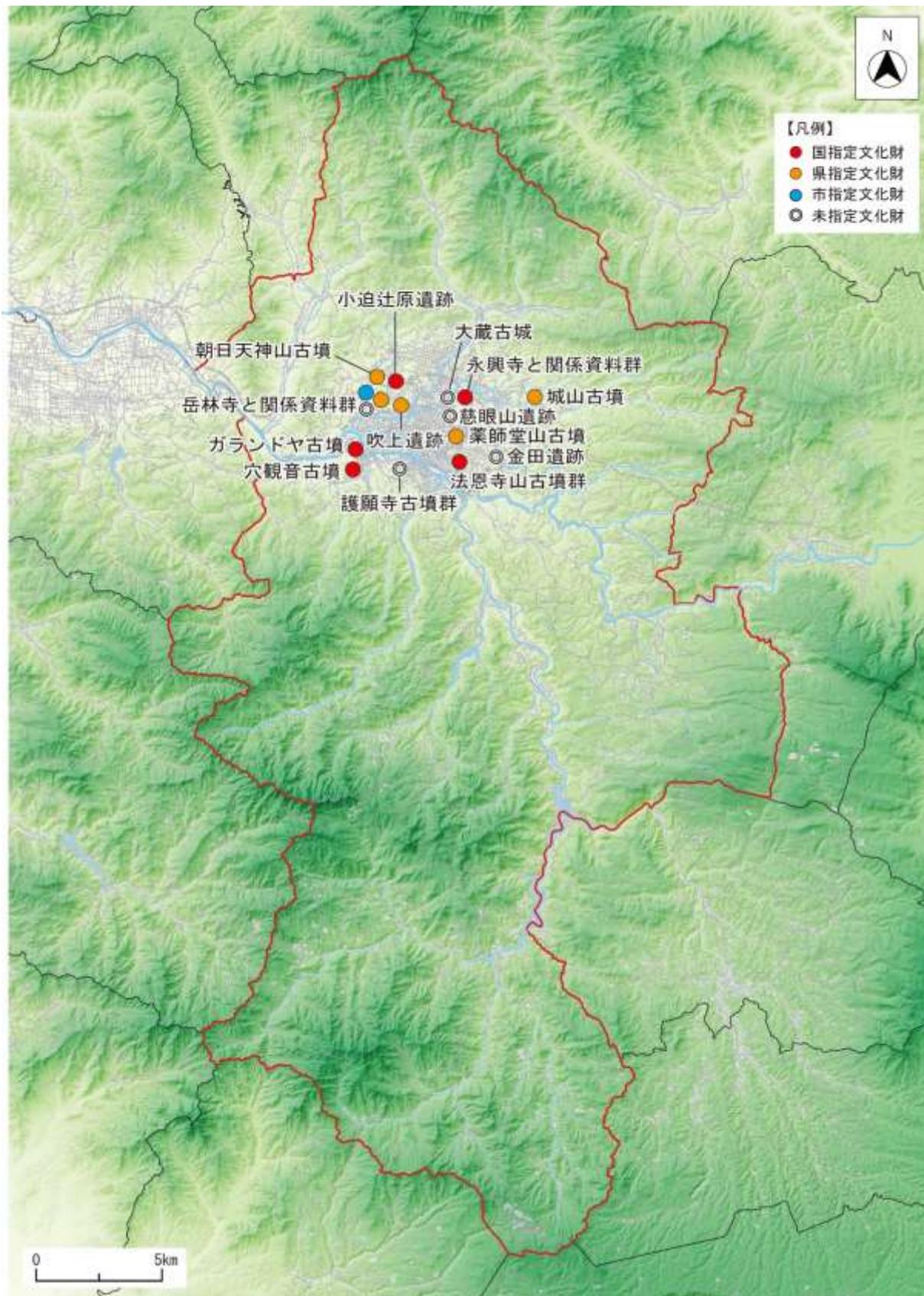


図 21 関連文化財群④主な構成文化財位置図

【関連文化財群⑤】

テーマ：江戸時代に経済・文化で栄えた日田

歴史文化の特性(4) 天領日田の商人が育んだ歴史文化

ストーリーの概要

江戸時代に幕府の直轄地として代官所が置かれ、九州にある天領支配の拠点となった。日田の商人たちは代官所の公金を扱うことで経済的に豊かになり、それに伴い文化的な活動が盛んになった。豆田町と隈町に残された歴史建造物や咸宜園跡などが往時の興隆を今に伝えている。

北部九州の中央に位置する本市は周囲を山々に囲まれているとはいえ、江戸時代には日田代官所を核とした政治の要衝であり、また日田金で知られるように、豆田町や隈町の商人のめざましい活動が展開された経済の要地でもあった。さらに、廣瀬淡窓をはじめとした数々の文化人が活躍した地としても重要な地位を占めていた。

こうした政治・経済・文化の動きは、人と人、地域と地域の結びつきの中で形づくられてきたものであり、道はその動脈に相当する。

日田代官所を起点として各地への陸上交通路が設けられるとともに、水上交通も整備が進み、年貢のほか様々な物資が運送され、このような交通網の発達により、廣瀬家や草野家に代表される商業活動が活発になり、文化面でも交流が進んだことで豊かな町人文化が育まれた。なかでも咸宜園跡（国指定史跡）は近世最大規模の私塾として知られる。

豆田町と隈町には、近世に建築された良質な建物が多く残されているが、これは、日田という地が幕府の直轄地として経済的に発展し、文化的にも進んでいたことが背景にある。

国の伝統的建造物群保存地区に選定されている豆田町は今なお、南北2本の通りと東西5本の通りに整然とした町割りを残す。また、隈町では、川を望んで奥座敷や座敷蔵が並び建つ水郷日田ならではの景観が形成され、近世日田の興隆を今に伝えている。

構成文化財

名称	指定等区分	概要
① 石坂石畳道	県指定史跡	日田代官所と中津や宇佐を結ぶ道路の一部。全長 1.26 k m、高低差 200mの石畳道。嘉永3（1850）年に隈町の掛屋・山田常良が周防（山口県）から石工を招いて作ったもので通行人や馬の負担は大きく軽減された。
② 川原隧道と石畳	県指定史跡	代官・塩谷大四郎の命令で日田と玖珠を結ぶ道路の改修に伴い造られた。山を掘り抜いて石を組んだ全長 52mのトンネルで両出口には石畳が残っている。

名称	指定等区分	概要
③ 台神社前旧往還石畳	市指定史跡	日田代官所と竹田を結ぶ道路の一部で約 30 mが残る。代官・羽倉権九郎（寛政5（1793）年～文化6（1809）年在任）の時に、女子畑村から出口村まで整備されたと言われている。
④ 永山城跡	県指定史跡	慶長6（1601）年に小川光氏が築いたもので、当初は丸山城と呼ばれた。元和2（1616）年に石川忠総が城主となり、永山城と改めた。その後、天領となり、城の南側に代官所ができたことで廃城となった。
⑤ 永山布政所跡	未指定史跡	寛永16（1639）年、日田が天領となった際に永山城南側に置かれた代官所。その後、明和4（1767）年の郡代昇格を経て、幕末まで代官所としての役割を担った。
⑥ 中城河岸跡	未指定史跡	日田では、三隈川の豊かな水量を生かした船運が早くから発達した。 小ヶ瀬井路の完成により、中城川の水量が増加したことから、中城村（豆田町）の荷物を積み込んで、三隈川に出すための「河岸」が建てられ、26艘の川船が用意された。
⑦ 竹田河岸跡	未指定史跡	三隈川に設けられた河岸で中城河岸より古く、竹田村の年貢米のほか、玖珠郡の幕府領の年貢米を積み出した。三隈川に設けられた河岸で中城河岸より古く、竹田村の年貢米のほか、玖珠郡の幕府領の年貢米を積み出した。
⑧ 小ヶ瀬井路	未指定史跡	文政6（1823）年から翌7年にかけて開削された井路で三隈右岸の上井手村字小ヶ瀬より取水して、堅岩をくり抜いた貫（トンネル）を通して、中城村（豆田町）まで用水を引き、中城村からは水路として、「日田川通船」の経路となった。
⑨ 日田市豆田町	国選定重要伝統的建造物群保存地区	天領時代に町人地として発展した豆田町とその周辺は、南北2本の通りと東西5本の通りに整然とした町割をよく残し、伝統的な建物が群として良好に残っていることから、平成16（2004）年に選定された。

名称	指定等区分	概要
		江戸期から大正期に建てられた居蔵造の町家を中心に、木部を見せる真壁造の町家、近代の洋館、醸造蔵、昭和初期の三階建家屋等が並び、町ごとに特徴ある歴史的景観を残している。
⑩ 草野家住宅	国指定重要文化財	江戸時代中期の元禄期に現在地に居を構えた草野家は製蠶業を営み、代官所御用達、庄屋役を務めた豪商である。建物は6棟からなる主屋と土蔵4棟が残っており、最も古いものは江戸時代中期の主屋仏間部で、通りに面して建つ店舗部などは、明和9（1772）年の豆田町の大火災後に建てられた。
⑪ 廣瀬淡窓旧宅及び墓	国指定史跡	江戸時代後期の儒学者・漢詩人・教育者である廣瀬淡窓の生家。廣瀬家は、延宝元（1673）年に廣瀬家初代五左衛門が現在地に移り住んだことが始まりとされる。 旧宅は魚町通りを挟んで南北に分かれており、淡窓は北を「北家」、南を「南家」と呼び分けていた。「北家」には主屋や座敷、新座敷、土蔵3棟があり、廣瀬家当主や家族などが居住し、主に生活空間と商業空間として使用された。 「南家」には南主屋や隠宅、土蔵2棟があり、祖父母や父母の隠宅、親族の住居などとして利用されてきた。 廣瀬淡窓の墓は、旧宅から南へ300m離れた住宅地の中にあり、淡窓や廣瀬家出身の咸宜園歴代塾主とその家族の墓地で、「文玄廣瀬先生之墓」と刻まれた淡窓墓を中心にして左右に計12の墓石が並んでいる。
⑫ 咸宜園跡	国指定史跡	江戸時代後期の儒学者・廣瀬淡窓が文化14（1817）年に開いた近世日本を代表する私塾である。 全国各地から入門した門下生の数は5,000名を超え、主な門下生には、大村益次郎（兵学者）、長三洲（文部官僚）、上野彦馬（写真術の先駆者）、清浦奎吾（第23代内閣総理大臣）などを輩出している。

名称	指定等区分	概要
⑬ 長福寺本堂	国指定重要文化財	現存する九州最古の真宗寺院の本堂で、寛文9(1669)年に建立された。京都の西本願寺の建物(旧本堂西山別院)と似た造りから、西本願寺を建築した棟梁か、その指導のもとに建築されたと考えられている。
⑭ 桂林園跡	未指定史跡	咸宜園の前身である私塾跡。文化2(1805)年、廣瀬淡窓が初めて塾の建物を構えた場所でもある。
⑮ 三遷堂	未指定史跡	有浦琴虹・蓬園親子が営んだ寺子屋。寛政9(1797)年から明治10(1877)年までの80年間に約3,500人が学んだと言われる。
⑯ 咸宜園関係資料群	未指定有形文化財	咸宜園の「入門簿」や「会計録」、和漢籍(日本・中国の書物)などの蔵書は塾の実態を明らかにする資料である。
⑰ 通船関係資料	未指定有形文化財	文政8(1825)年に小ヶ瀬井路が完成すると豆田町に中城河岸が完成したことで、「日田川通船」が実現した。
⑱ 隈町	未指定伝統的建造物群保存地区	文禄3(1594)年、豊臣秀吉の直轄地となった際に、宮木長次郎によって日隈城が築かれ、この時に、田島にあった町を三隈川右岸の城下に移し、隈町と名付けられた。
⑲ 日田祇園の曳山行事	国指定無形民俗文化財	疫病や風水害を払い安泰を祈念する祭りで、豪華絢爛な刺繍を施された見送り幕・水引をまとった山鉦が祇園囃子の音色とともに隈・竹田・豆田地区の町並みを巡行し、近世日田の繁栄を偲ばせる。山鉦巡行は正徳4(1714)年には行われており、祇園囃子は江戸時代後期の文化年間に小山徳太郎によってはじめられたという。
⑳ 行徳家住宅	国指定重要文化財	文化年間(1804~1817)に建てられたもので、西側に山を借景とした庭を有する。建築様式は当時よく見られた「曲屋」形式の屋根と土間の広い「大庄屋」形式である。なお、行徳家は代々医者をおも家として、幕末に活躍した元遂は民政にも力を入れ、廣瀬家や千原家とともに夜明の嘉詠橋を完成させた。

名称	指定等区分	概要
② 旧矢羽田家住宅	国指定重要文化財	<p>18世紀前半頃の建築と推定されている。屋根の形は峰が「コの字」形となり、全面に谷がある「くど造り」形式となるのが、この住宅の特徴でもある。この形式の民家は県内で唯一残る。</p>

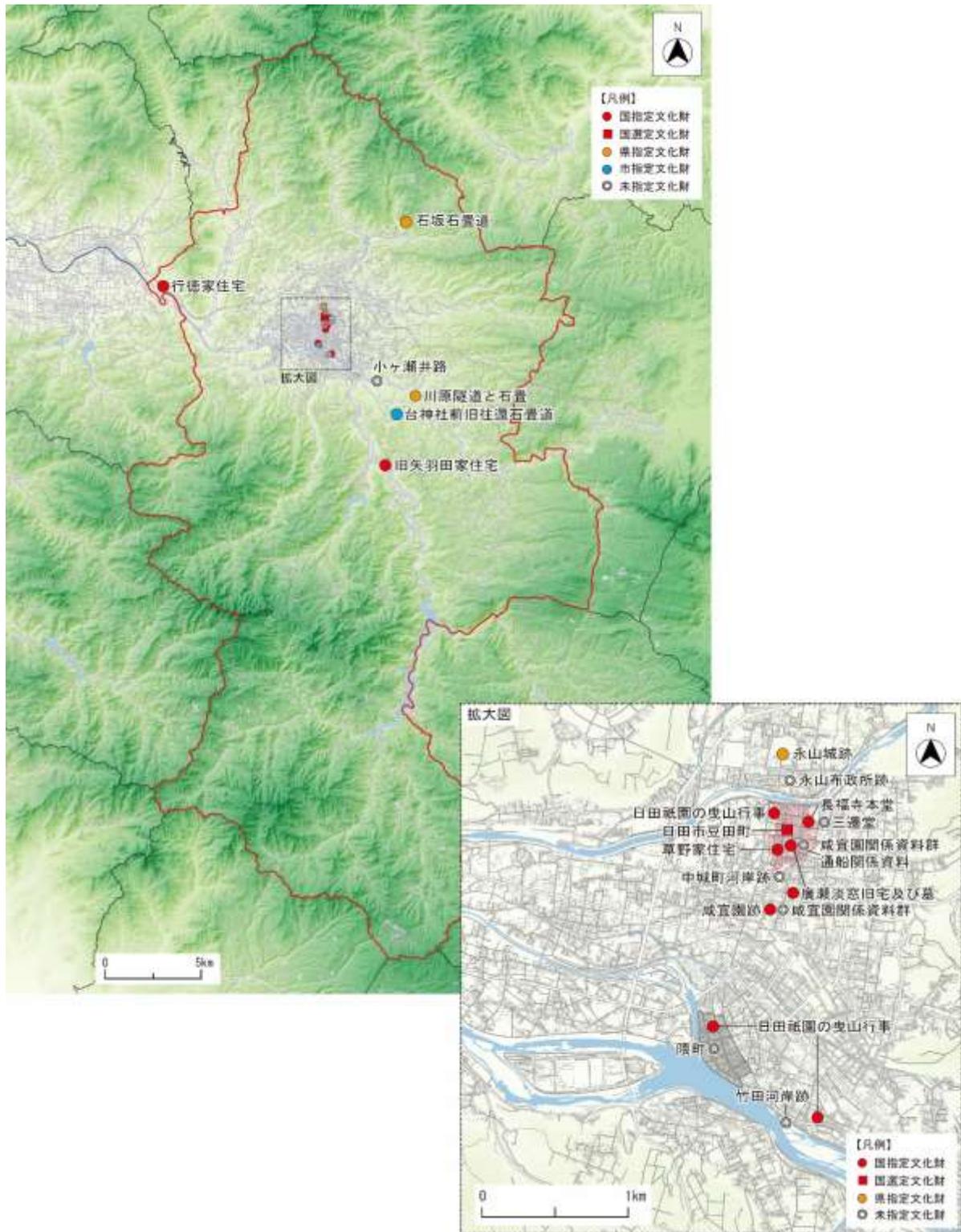


図 22 関連文化財群⑤主な構成文化財位置図

5. 関連文化財群ごとの保存・活用に関する現状と課題・方針

■関連文化財群① 山々がもたらす恵みと人々の営み

(現状)

- ・天然記念物は、概ね良好な状態で保存されているが、樹木医による計画的な診断は行わず、放置した場合、病害や枯損等により。文化財の価値が損なわれるおそれがある。
- ・博物館においては、プロジェクションマッピングや自作の動画番組などを用いて、来館者が日田の自然や文化をより理解できるよう、展示方法を工夫している。
- ・文化的景観「小鹿田焼の里」は、選定以降15年以上が経過し、前提となる人々の暮らしや生業、文化財を守る人々の考え方が変わっていく中で、計画の見直しが行われず、現状の即したものとなっていない。
- ・ストーリーに基づいた魅力の発信ができていない。

(課題)

- ・天然記念物においては、所有者に対し適切な措置を講じるよう指導を行うため、樹木医による計画的な診断が必要となる。
- ・日田の自然や文化の理解促進を図るため、博物館の資料や設備の充実、展示方法の工夫に取り組む必要がある。
- ・文化的景観の本質的価値を将来にわたって継承し、その歴史的な資源を生かした地域づくりを推進することが重要となっている。
- ・現行の「文化的景観小鹿田焼の里保存計画」の見直しが必要となる。
- ・ストーリーに基づいた魅力の発信が必要となる。

(方針)

- ・樹木医による天然記念物の計画的な診断の実施について検討する。
- ・博物館の資料や設備の充実、展示方法の工夫に取り組む。
- ・地域住民の参画を得ながら、現状に即した計画にするため、現行の「文化的景観小鹿田焼の里保存計画」を見直す。
- ・ホームページや広報紙などを用いてストーリーに基づいた魅力の発信を行い、広く市民に周知する。

(措置)

具体的な措置の内容	財源	取組主体	実施期間
天然記念物診断委託事業 樹木医による天然記念物の計画的な診断の実施について検討する	市	市	R7～

具体的な措置の内容	財源	取組主体	実施期間
博物館展示整備事業（再掲） 展示や標本資料の定期的なメンテナンスに加え、展示室の計画的なリニューアルに取り組む	市	市	R7～
重要文化的景観保護推進事業（再掲） 将来にわたり景観を守りつつ、地域資源を整備・活用しながら、地域の振興につなげていくため、地域の主役である住民の参画を得ながら「文化的景観小鹿田焼の里保存計画」を見直す	国 県 市	市 関係機関 団体 市民	R7～
関連文化財群のストーリーに基づいた魅力発信 ホームページや広報紙などを用いてストーリーに基づいた魅力の発信を行い、広く市民に周知するとともに体験メニューを創設する	市	市	R7～

■関連文化財群② 五穀豊穡と無病息災の祈り、地域に残る伝統行事

（現状）

- ・各地域で無形民俗文化財（楽などの伝統行事）の保存団体による活動が行われている。
- ・各地域で行われている楽の保存・継承のための財政支援を行っているが、後継者の確保及び育成が困難になっている。
- ・ストーリーに基づいた魅力の発信ができていない。

（課題）

- ・無形民俗文化財（楽などの伝統行事）の活動団体が行う後継者の確保、育成及び支援が必要となる。
- ・担い手の減少により、保存・継承が危惧される無形民俗文化財については、デジタル技術を活用した記録保存を行う必要がある。
- ・市民との協働による文化財を支える、文化財市民サポーターの創設について検討する必要がある。
- ・ストーリーに基づいた魅力の発信が必要となる。

（方針）

- ・文化財活動団体の自主的・継続的な活動に対して支援を行うとともに、協働による文化財の適切な保存・継承を図る。
- ・文化財を後世に伝えていくため、無形民俗文化財の記録保存に取り組む。
- ・市民の参画により、文化財を保存・継承する市民文化財サポーター制度の創設について検討する。

- ・次代を担う子どもたちに対して、学校や公民館と連携して、文化財を活用した学習機会を提供することで、文化財の価値の理解促進を図り、担い手の育成に努める。
- ・ホームページや広報紙などを用いてストーリーに基づいた魅力の発信を行い、広く市民に周知する。

(措置)

具体的な措置の内容	財源	取組主体	実施期間
指定文化財等保存補助事業（再掲） 文化財の所有者や保持団体などに対し、管理費や伝承のための事業費の一部を助成し、これらの文化財の確実な保存・伝承を図る	県市 その他	市 団体	R7～
指定文化財等保存補助事業（再掲） 映像により無形民俗文化財の記録保存を行う	国市	市	R7～
市民文化財サポーター制度創設事業（再掲） 行政との協働により、地域に身近な歴史や文化を守り育てる市民文化財サポーター制度の創設について検討する	市	市 関係機関 団体 所有者 市民	R7～
歴史読本発行事業（再掲） こども版日田市の歴史と文化財を改訂する	市	市	R7～
社会教育課事業（再掲） 地区公民館での文化財の体験学習や見学等を開催する	市	市 関係機関	R7～
地区公民館との連携事業（再掲） 地区公民館との連携による地域文化財講座の開設する	市	市 関係機関	R7～
関連文化財群のストーリーに基づいた魅力発信 ホームページや広報紙などを用いてストーリーに基づいた魅力の発信を行い、広く市民に周知するとともに体験メニューを創設する	市	市	R7～

■関連文化財群③ 川との共生の証と流域の景色

(現状)

- ・鶺鴒の保存、継承及び活用に必要な経費の一部について支援しているが、^{さおさ}棹差しが不足しており、また、鶺匠及び棹差しとしての生計が不安定な状況にある。
- ・歴史的建造物についての維持管理が困難になっている。
- ・ストーリーに基づいた魅力の発信ができていない。

(課題)

- ・ 鵜飼を継続していくため、棹差しの後継者を育成するとともに、鵜匠及び棹差しの生計の安定化が必要となる。
- ・ 歴史的建造物についての維持管理に対する支援が必要となる。
- ・ ストーリーに基づいた魅力の発信が必要となる。

(方針)

- ・ 棹差しの後継者を発掘するとともに、鵜匠及び棹差しの生計の安定化について、関係各課及び団体などと情報共有及び連携を図りながら、具体的な対策を講じる。
- ・ 伝統的建造物群保存地区以外に位置する歴史的建造物に対する支援策（補助制度の創設）について検討する。
- ・ ホームページや広報紙などを用いてストーリーに基づいた魅力の発信を行い、広く市民に周知する。

(措置)

具体的な措置の内容	財源	取組主体	実施期間
鵜飼保存対策事業（再掲） 鵜飼保存会に対し、鵜飼を継続していくために必要な経費の一部をはじめ、後継者育成及び普及啓発に係る経費に対して助成を行う	県市	市団体	R7～
歴史的建造物保存事業（再掲） 伝統的建造物群保存地区以外に位置する歴史的建造物の保存・修理に係る経費に対して助成を行う	国 県市 所有者	市所有者	R7～
関連文化財群のストーリーに基づいた魅力発信 ホームページや広報紙などを用いてストーリーに基づいた魅力の発信を行い、広く市民に周知するとともに体験メニューを創設する	市	市	R7～

■関連文化財群④ 人とモノが集まる文化のクロスロード

(現状)

- ・ ガランドヤ古墳については施設整備を終え、令和4年度から一般に公開している。また、地域住民がボランティアガイドとして、来園者に説明を行っている。
- ・ 史跡小迫辻原遺跡については、整備計画の作成に向け、現在、計画的に発掘調査報告書を刊行している。

- ・保存・活用を図るための整備（古墳そのもの・アクセス道などの周辺環境）が必要な遺跡及び古墳などが存在する。
- ・遺跡や古墳などの一体的な活用が図られていない。
- ・日本遺産の構成文化財によるストーリーは構築できているが、関連文化財全体について、ストーリーに基づいた魅力の発信ができていない。

（課題）

- ・遺跡や古墳などの適切な保存及び周辺環境の整備等が必要となる。
- ・市民及び観光客向けの遺跡や古墳などの周遊ルートの設定が必要となる。
- ・遺跡の発掘調査成果を素材として、ストーリーに基づいた魅力の発信が必要となる。

（方針）

- ・遺跡や古墳などの保存環境の整備について検討する。
- ・遺跡や古墳などの周遊ルート設定を設定する。
- ・ホームページや広報紙などを用いてストーリーに基づいた魅力の発信を行い、広く市民に周知する。

（措置）

具体的な措置の内容	財源	取組主体	実施期間
ランドヤ古墳保存整備事業（再掲） 2号墳の環境調査を実施し、保存整備の方向性を検討する	国 県 市	市	R7～
史跡小迫辻原遺跡整備事業（再掲） 整備計画の作成に向け、発掘調査報告書の刊行を完了する	国 県 市	市	R10～
土木課事業（再掲） 遺跡や古墳等へのアクセス道や便益施設等の整備を検討する	市	市	R7～
文化財保護事業（再掲） 文化財標柱・解説板を整備する	市	市	R7～
遺跡や古墳などの周遊ルートの設定（再掲） 市民や観光客が市内に点在する遺跡や古墳等を気軽に散策できる周遊（観光）ルートを設定し、ホームページ等で公開する	市	市	R7～
関連文化財群のストーリーに基づいた魅力発信 ホームページや広報紙などを用いてストーリーに基づいた魅力の発信を行い、広く市民に周知するとともに体験メニューを創設する	市	市	R7～

■関連文化財群⑤ 江戸時代に経済・文化で栄えた日田

(現状)

- ・石坂石畳道を活用したウォーキング大会が地域住民の主催により継続的に行われている。
一方、他自治体と連携した広域的な取組は行われていない。
- ・隈・豆田の旧家（歴史建造物）においては、所有するひな人形を公開し、多くの観光客が訪れ、「天領日田のおひなまつり」として定着している。
- ・隈町における歴史的建造物の維持管理に対する支援制度が整備されていない。
- ・ストーリーに基づいた魅力の発信ができていない。

(課題)

- ・石坂石畳道を活かした広域的なつながりが必要となる。
- ・隈町における歴史的建造物の維持管理に対する支援制度が必要となる。
- ・ストーリーに基づいた魅力の発信が必要となる。

(方針)

- ・石坂石畳道でつながる他自治体と連携し、広域的な普及啓発、活用などに取り組む。
- ・伝統的建築物の適切な維持管理に対する支援策の充実を図る。
- ・ホームページや広報紙などを用いてストーリーに基づいた魅力の発信を行い、広く市民に周知する。

(措置)

具体的な措置の内容	財源	取組主体	実施期間
歴史街道連携事業 石坂石畳道に関係する自治体と連携し、周遊ルートの設定や講演会を開催し、関心を深めてもらうとともに、誘客の促進につなげる	市	市	R7～
歴史的建造物保存事業（再掲） 伝統的建造物群保存地区以外に位置する歴史的建造物の保存・修理に係る経費に対して助成を行う	国 県 市 所有者	市 所有者	R7～
関連文化財群のストーリーに基づいた魅力発信 ホームページや広報紙などを用いてストーリーに基づいた魅力の発信を行い、広く市民に周知するとともに体験メニューを創設する	市	市	R7～

第8章 文化財の防災・防犯

1. 文化財の防災・防犯に関する現状と課題

(1) 現状

近年、全国的に自然災害や火災などによる文化財の損傷や滅失被害が相次いでいる。

歴史をひも解くと、周囲を山々に囲まれ、いくつもの川が合流し、水郷日田と呼ばれる本市は、古くから水害に見舞われており、近代においては、明治前半だけでも明治2（1869）年、明治18（1885）年の記録が見られる。特に、明治22（1889）年の被害は甚大で、その後の、大正10（1921）年の水害、昭和28（1953）年の水害とともに、近現代の三大水害と言われている。

近年では、平成24（2012）年や29（2017）年の九州北部豪雨、令和2（2020）年7月豪雨災害及び令和5（2023）年7月大雨災害などにより、人的被害、土砂災害や河川の氾濫による住宅の全半壊や浸水被害が発生し、市民生活に大きな影響を与えたことをはじめ、農作物の被害や農業施設、市道、林道などの被害もあり、復旧には多くの時間と費用を要した。また、大雨以外では、平成28（2016）年の熊本地震による被害などがある。

文化財については、第1章の災害史でも述べたように、これまでの豪雨により、小鹿田焼の里（国選定重要文化的景観）における唐臼の流出並びに棚田への土砂流入及び石積の崩壊、豆田町（国選定重要伝統的建造物群保存地区）の家屋への浸水、筏場眼鏡橋（県指定有形文化財（指定解除））の流出や熊本地震では永山城跡（県指定史跡）の石垣の一部崩落等の被害が発生している。

このように、近年、大規模な災害に見舞われているが、『日田市地域防災計画』には、文化財に係る災害予防対策の概要の記載に留まっており、平常時、発災時、復旧・復興時などの各段階における対応を速やかに行うためのマニュアルを整備していない。

そして、防災の取組として大切な日頃の備えについては、1月26日の文化財防火デーに合わせ、地元住民と協力しながら防火訓練を行っているほか、伝統的建造物群保存地区内においては計画的な消火栓の整備に取り組んでいる。

しかしながら、文化財所有者への防災・防犯に対する注意喚起が十分にできておらず、また、自治会、消防署、消防分団など関係者間での意識の共有が図られていない現状にある。

また、防犯については、幸いにして盗難・毀損等の人的被害が発生していないが、社寺など人が常駐しない場所に所在する文化財もあることから、盗難等の発生が予想される。

その他にも、大分県文化財パトロールによる巡視活動は行われているものの、市内に点在する文化財並びに周辺環境における災害・犯罪リスク及び防災・防犯施設・設備の把握及び計画的な整備が行われていない。

(2) 課題

文化財の災害予防対策を明確にするため「日田市地域防災計画」の改訂及び平常時、発災時、復旧・復興などの各段階における対応を速やかに行うためのマニュアル整備が必要となる。なお、計画の改訂並びにマニュアル整備にあたっては、文化庁の「国宝・重要文化財（建造物）等の防火対策ガイドライン」、「国宝・重要文化財（美術工芸品）を保管する博物館等のガイドライン」などを参照するとともに、頻発する各種の災害から文化財を守り、災害発生時の救援・支援を多くの専門家の協力によって迅速かつ効果的に実施するための常設の体制として、令和2（2020）

年に開設された文化財防災センターとの連携（災害発生時における被災文化財への対応：文化財ドクター派遣事業及び文化財レスキュー事業の取組）についても検討する必要がある。

また、文化財防火デーを中心に、これまで以上に、所有者、自治会、消防署、消防分団と連携した防火訓練の実施や所有者に対する防災・防犯に関する情報提供及び啓発を通じた意識向上の取組が必要となる。

その他にも、市内に点在する文化財並びに周辺環境における災害・犯罪リスク及び防災・防犯施設・設備の把握及び計画的な整備が必要となる。

2. 文化財の防災・防犯に関する方針

文化財が災害や火災などにより、毀損・滅失しないように、適切に保存し、確実に次世代へ継承していくためには、防災・防犯対策が重要となる。

そのため、地域防災計画の見直しや平常時、発災時、復旧・復興時などの各段階における対応を速やかに行うためのマニュアル整備などに取り組む。

また、所有者、警察及び消防などの関係機関、地域住民と連携し、文化財の防災・防犯の仕組み及び体制整備を推進する。

その他にも、市内に点在する文化財並びに周辺環境における災害・犯罪リスク及び防災・防犯施設・設備の把握及び計画的な整備について検討する。

3. 文化財の防災・防犯に関する措置

文化財の防災・防犯の取組として、方針に基づき、次の措置（事業）を実施する。

No	措置	取組主体	実施期間
1	文化財防災・防犯対策事業 ・防災・防犯に関するマニュアルを整備する ・所有者、警察及び消防などの関係機関及び地域住民等と連携し、文化財の防災・防犯の仕組み及び体制整備を構築する	市 関係機関 所有者 市民	R7～
2	防火意識向上事業 所有者・自治会・消防分団・消防署などと連携した防火訓練を実施する	市 関係機関 所有者 市民	R7～
3	防災・防犯に関する周辺環境調査事業 文化財が所在する周辺環境調査に基づくリスク分析を行う	市 団体 所有者 市民	R7～
4	文化財防災施設整備事業 歴史的建造物防災施設の整備について検討する	市	R7～
5	伝統的建造物保存事業 伝統的建造物群保存地区における防災施設を整備する	市	R7～
6	行徳家住宅防災施設整備事業 重要文化財行徳家住宅の防災施設整備対策を実施する	市	R7～

第9章 文化財の保存・活用の推進体制

1. 庁内の推進体制

(1) 担当課の体制

本市の文化財保護行政は教育庁文化財保護課が主に担当しており、文化財の保護及び管理、埋蔵文化財の調査及び保護、文化財建造物の保護などの業務並びに文化財展示施設である埋蔵文化財センターの運営などを所管している。

また、咸宜園跡の運営管理等は咸宜園教育研究センターが担当し、日本遺産及び世界遺産に関する調査や取組は世界遺産推進室が、自然に関する調査や取組は博物館が担当している。

職員体制として文化財保護課職員 14 名中、文化財専門職員（学芸員）6 名並びに建築専門技師 4 名を配置するほか、教育庁咸宜園教育研究センター・世界遺産推進室職員 5 名のうち文化財専門職員 1 名、博物館職員 3 名のうち学芸員 2 名を配置している。（令和 5 年 4 月 1 日時点）

今後とも、業務分担や政策課題に合わせた体制の充実を図るとともに、文化財に関する専門的な知識やノウハウの継承のため計画的な職員配置に取り組む。

組織	主な業務
文化財管理係（主担当）	<ul style="list-style-type: none"> 文化財の調査及び資料の保護に関する事項 文化財の保護及び管理に関する事項
埋蔵文化財係	<ul style="list-style-type: none"> 埋蔵文化財の調査及び資料の保護に関する事項 史跡等の保護に関する事項
町並み保存係	<ul style="list-style-type: none"> 伝統的建造物群保存地区及び文化財建造物の保護に関する事項
世界遺産推進室	<ul style="list-style-type: none"> 世界遺産の登録推進に関する事項 日本遺産の活用・普及啓発に関する事項
咸宜園教育研究センター	<ul style="list-style-type: none"> 咸宜園、廣瀬淡窓、門下生等に関する研究並びに関係資料の調査、収集、整理及び保管 研究や調査成果の展示公開、情報発信等による活用
博物館	<ul style="list-style-type: none"> 自然や文化等に関する資料の収集、保管及び展示 博物館資料の調査研究及び普及啓発
埋蔵文化財センター	<ul style="list-style-type: none"> 埋蔵文化財の発掘調査及び研究 資料の収集、整理及び保存 埋蔵文化財等に係る知識の普及及び啓発

(2) 庁内各課との連携

文化財の保存・活用にあたっては、都市計画、商工、観光、防災、まちづくりなど、関連業務を所管する庁内他部局との連携が不可欠となる。そのため、今後も、関係部局との連携を図るため、本計画作成時に設置した庁内連絡会を活用し、継続的に情報共有を行うとともに、協議の場を設けて各部局の施策との調整を行うなど、継続した取組を進める。

組織		主な業務
総務企画部	防災・危機管理課	・防災、水防及び災害全般に関する事項
	企画課	・市の総合計画に関する事項 ・市の政策・企画に関する事項
地域振興部	地域振興課	・地域振興の施策に関する事項 ・市民協働の推進に関する事項 ・NPO及びボランティア団体に関する事項
市民環境部	環境課	・環境施策の総合的推進に関する事項 ・川づくり及び河川環境に関する事項
商工観光部	観光課	・観光産業の振興に関する事項 ・観光資源の保護及び開発に関する事項 ・市の認知度及び好感度向上のための情報発信に関する事項
農林振興部	農業振興課	・農業生産基盤及び環境整備に関する事項
	林業振興課	・森林整備及び計画に関する事項
土木建築部	都市整備課	・都市景観の形成に関する事項
教育庁	学校教育課	・学校教育及び学校経営の指導助言に関する事項 ・教育課程、学習指導、生活指導に関する事項
	社会教育課	・生涯学習の企画、運営に関する事項 ・文化振興施策の推進に関する事項
	図書館	・図書館資料の収集、保管、整理 ・図書館資料の管内閲覧及び館外貸出し

(3) 関係機関との連携

文化財の保存・活用に関する多様な活動に対して適切に措置を講じることができるよう、今後とも国及び県との連携を強化するとともに、文化財保護審議会及び町並み保存審議会等並びに大学等教育研究機関等を通じて指導・助言を求める。

また、本市の歴史・文化の魅力をわかりやすく伝え、ふるさとへの誇りと愛着を醸成し、住み続けたいと感じることができるよう、学校教育及び社会教育等との連携を強化する。

組織	主な業務
文化庁	・文化財保護に関する指導・補助金の交付・現状変更に関する事項
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所	・市内装飾古墳などの文化財保存環境調査等で適切な指導助言を求める。
独立行政法人国立文化財機構文化財防災センター	・地域防災体制の構築、災害時ガイドライン等の整備、レスキュー及び収蔵・展示における技術開発、普及啓発、文化財防災に関係する情報の収集と活用
大分県教育庁文化課	・文化財の指定などに関する業務について所管するとともに、県文化財保存活用大綱に基づき、文化財の保存・活用を推進する
大分県立歴史博物館	・調査研究情報の交換、イベント等での協力、展示資料の貸借
大分県立埋蔵文化財センター	・埋蔵文化財に関する相互協力、情報交換など
大分県立先哲史料館	・大分の先哲及び大分の歴史と文化に関する史料を収集・保管するとともに、調査・研究の成果を展示や閲覧、叢書の刊行などを通して広く公開する
日田市文化財保護審議会	・文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査審議し、並びにこれらの事項に関して教育委員会に建議する
日田市町並み保存審議会	・伝統的建造物群保存地区の保存などに関する重要事項について調査審議し、及びこれらの事項について市長及び教育委員会に建議する
日田玖珠広域消防組合、各地区消防団	・文化財に対する防災体制や設備の相談など
相互協力協定締結大学(国立大学法人 大分大学・学校法人 別府大学)	・教育、文化、生涯学習及び人材育成における諸課題について協力する
日田市内の教育機関(小中学校・高等学校・各地区公民館)	・学校や公民館などと連携し、学習の場において出土遺物等歴史資料や民俗資料を利用するなどの学習活動に対して支援を行うことで、地域の歴史に対する愛着を高める取組を行う

2. 市民・団体との協働

(1) 所有者との連携

所有者と連携し、引き続き、文化財の適切な保存を進めるとともに、活用する場合においては、所有者と活用したい側、相互に有意義な事業となるよう十分な調整を図る。

(2) 地域住民との連携

地域に根差した文化財の掘り起こしや、防災・防犯のための見守りなど、地域住民自らがその価値を見出し、主体となって保存・活用を進めることが不可欠となるため、地域住民を構成とする団体や地区公民館などと連携・協働のもと、人材の育成や担い手の確保に取り組む。

(3) 団体・事業者との連携

市内の文化財（有形・無形・民俗）の保持団体及び保存会などが取り組む文化財の保存・活用への取組に対する支援を行うとともに団体相互の連携体制の構築を目指す。

また、団体・事業者と連携しながら、各事業活動を通じた文化財への誘客促進や伝統文化の推進等を図る。

組織	主な業務
小鹿田焼技術保存会	・小鹿田焼（国指定重要無形文化財）の技術の継承
日田祇園山鉾振興会	・日田祇園の曳山行事（国指定無形民俗文化財）の実施・広報、山鉾並びに見送幕、水引幕の保存・伝承、日田祇園囃子の保存・伝承
鵜飼保存会	・鵜飼（県指定無形民俗文化財）の保存
本城くにし保存会	・くにし楽の保存並びに後継者の育成
五馬楽保存会	・五馬楽の保存並びに後継者の育成
大野楽保存会	・大野楽の保存並びに後継者の育成
豆田町伝建保存会	・歴史的町並みを、貴重な文化遺産として守り伝えるとともに、積極的な活用を図る
日田考古学同好会	・講演会の開催、発掘現場からの報告会、遺跡見学など、多様な視点から考古学を学ぶ
咸宜園放学遊山の会	・咸宜園ゆかりの地を含む日田の歴史遺産の再発見、理解、活用により、地域活性化や観光振興につなげるとともに、世界遺産登録に向けた機運の醸成を図る
郷土日田の自然調査会	・日田市を中心に地域の自然を知るために、調査・研究を行い、併せて自然の保全・保護の啓発に取り組む
本物の伝統を守る会	・伝統的建造物の調査研究を通して、古建築の健全な理解を図り、伝統的建造物の保存に関する事業を实践、伝統的工法の伝承とその後継者の育成
日田市観光協会	・市内の観光やイベント案内、観光事業の振興
日田商工会議所 日田地区商工会	・商工業者の支援及び育成

3. 広域連携

咸宜園跡及び豆田町については、世界教育史上独自の発展を遂げた我が国の教育を象徴する「近世日本の教育遺産群」の世界遺産登録を目指すため、引き続き、茨城県水戸市（弘道館・偕楽園）、栃木県足利市（足利学校）、岡山県備前市（閑谷学校）の3市と組織した教育遺産世界遺産登録推進協議会において連携を図りながら、その魅力を効果的に発信、当該地域や構成文化財の認知度向上による文化観光振興などに取り組む。

そのほか、日本遺産認定自治体や装飾古墳が所在する筑後川流域自治体などと連携した文化財公開により、市内誘客などの観光振興を図る。

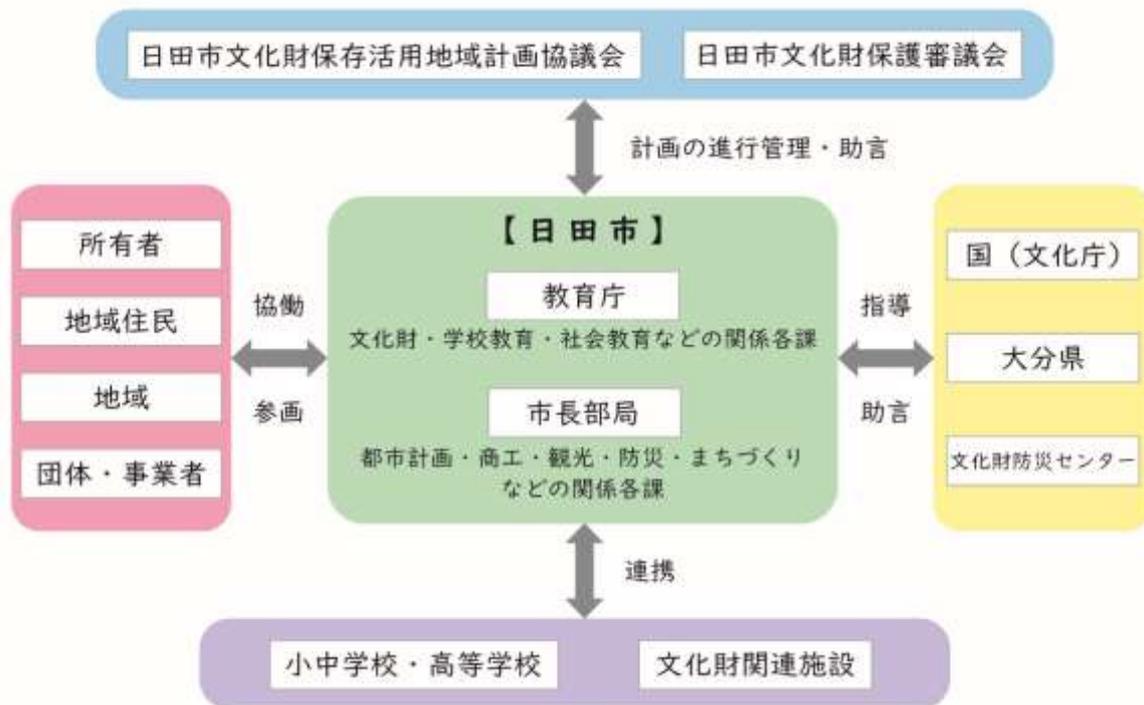


図 23 推進体制図

4. 計画の進捗管理と自己評価方法

本計画は、計画期間が11年間と長期にわたるため、計画期間を3～4年間毎の1～3期に分けて、進捗管理と自己評価を行う。

各計画期間経過時点で、社会的な要因や財政状況を踏まえ、措置（事業）の進捗状況の確認と自己評価を実施する。そして、評価結果を踏まえ、措置（事業）について必要な更新・修正を加えながら効果的に事業を推進する。

そして、措置（事業）の更新・修正が必要となった場合には、新たに「日田市文化財保存活用地域計画協議会（仮称）」を設置し、協議を行った後、「日田市文化財保護審議会」に諮問を行い、審議を経て、文化財保護法に基づき、文化庁長官による変更（「計画期間の変更」、「市域内に存する文化財の保存に影響を及ぼすおそれのある変更」、「地域計画の実施に支障が生じるおそれのある変更」）の認定を受ける。

資料編

1. 指定等文化財一覧表

No	区別	文化財類型	種別	名称	員数	指定等年月日	所在地
1	国指定	重要文化財	建造物	行徳家住宅	1棟	昭50.6.23	夜明関町
2	国指定	重要文化財	建造物	大野老松天満社旧本殿	1棟	昭53.5.31	前津江町大野
3	国指定	重要文化財	建造物	旧矢羽田家住宅	1棟	昭57.6.11	大山町西大山
4	国指定	重要文化財	建造物	長福寺本堂	1棟	平18.7.5	豆田町
5	国指定	重要文化財	建造物	草野家住宅	4棟	平21.12.8	豆田町
6	国指定	重要文化財	彫刻	木造十一面観音立像	1軀	昭25.8.29	城町2（慈眼山 仏像収蔵庫）
7	国指定	重要文化財	彫刻	木造兜跋毘沙門天立像	1軀	昭25.8.29	城町2（慈眼山 仏像収蔵庫）
8	国指定	重要文化財	彫刻	木造毘沙門天立像	1軀	昭25.8.29	城町2（慈眼山 仏像収蔵庫）
9	国指定	重要文化財	彫刻	木造四天王立像	4軀	昭25.8.29	城町2（慈眼山 仏像収蔵庫）
10	国指定	重要文化財	彫刻	木造毘沙門天立像	1軀	昭25.8.29	城町2（慈眼山 仏像収蔵庫）
11	国指定	重要文化財	考古資料	大分県吹上遺跡出土品	1括	平22.6.29	宇佐市（大分県 立歴史博物館）
12	国指定	無形文化財	-	小鹿田焼	-	平7.5.31	源栄町皿山
13	国指定	民俗文化財	無形民俗 文化財	日田祇園の曳山行事	-	平8.12.20	隈地区・竹田地 区・豆田地区
14	国指定	記念物	史跡	咸宜園跡	-	昭7.7.23	淡窓2
15	国指定	記念物	史跡	穴観音古墳	-	昭8.2.28	内河町
16	国指定	記念物	史跡	廣瀬淡窓旧宅及び墓	-	昭23.1.14 平25.3.27 追加指定	中城町・豆田町
17	国指定	記念物	史跡	法恩寺山古墳群	-	昭34.5.13	刃連町
18	国指定	記念物	史跡	ガランドヤ古墳	-	平5.10.13 平24.9.19 追加指定	石井町3
19	国指定	記念物	史跡	小迫辻原遺跡	-	平8.10.31	大字小迫
20	国指定	記念物	名勝	耶馬溪(一部)	-	大12.3.7 昭11.7.14 追加指定	東羽田町
21	国指定	記念物	天然記念物	小野川の阿蘇4火砕流堆積物及び埋没樹木群	-	平23.9.21	鈴連町
22	国選定	伝統的建造物群保存地区	-	日田市豆田町	-	平16.12.10	豆田町他
23	国選定	文化的景観	-	小鹿田焼の里	-	平20.3.28 平22.2.22 追加選定	源栄町皿山・池ノ鶴地区

No	区別	文化財類型	種別	名称	員数	指定等年月日	所在地
24	国登録	有形文化財	建造物	井上家住宅石塀	1基	平15.1.31	鶴河内町
25	国登録	有形文化財	建造物	井上家住宅米蔵	1棟	平15.1.31	鶴河内町
26	国登録	有形文化財	建造物	井上家住宅酒蔵	1棟	平15.1.31	鶴河内町
27	国登録	有形文化財	建造物	井上家住宅主屋	1棟	平15.1.31	鶴河内町
28	国登録	有形文化財	建造物	井上家住宅土蔵	1棟	平15.1.31	鶴河内町
29	国登録	有形文化財	建造物	井上家住宅納屋	1棟	平15.1.31	鶴河内町
30	国登録	有形文化財	建造物	井上家住宅味噌蔵	1棟	平15.1.31	鶴河内町
31	国登録	有形文化財	建造物	井上家住宅門	1棟	平15.1.31	鶴河内町
32	国登録	有形文化財	建造物	岩尾家住宅（旧日本丸製菓所）主屋	1棟	平15.1.31	豆田町
33	国登録	有形文化財	建造物	岩尾家住宅（旧日本丸製菓所）土蔵	1棟	平15.1.31	豆田町
34	国登録	有形文化財	建造物	岩尾家住宅（旧日本丸製菓所）離れ	1棟	平15.1.31	豆田町
35	国登録	有形文化財	建造物	隈まちづくりセンター黎明館	1件	平15.1.31	隈2
36	国登録	有形文化財	建造物	後藤家住宅隠居座敷	1棟	平20.10.23	隈2
37	国登録	有形文化財	建造物	後藤家住宅座敷蔵	1棟	平20.10.23	隈2
38	国登録	有形文化財	建造物	後藤家住宅主屋	1棟	平20.10.23	隈2
39	国登録	有形文化財	建造物	後藤家住宅東土蔵及び西土蔵	1棟	平20.10.23	隈2
40	国登録	有形文化財	建造物	山田家住宅石垣及び煉瓦塀	1基	平20.10.23	隈1
41	国登録	有形文化財	建造物	山田家住宅井戸	1基	平20.10.23	隈1
42	国登録	有形文化財	建造物	山田家住宅主屋	1棟	平20.10.23	隈1
43	国登録	有形文化財	建造物	山田家住宅土蔵	1棟	平20.10.23	隈1
44	国登録	有形文化財	建造物	宇野家住宅主屋（旧高瀬入早商店店舗兼主屋）	1棟	平20.10.23	高瀬本町
45	国登録	有形文化財	建造物	長善寺鐘楼門	1棟	平22.4.28	吹上町
46	国登録	有形文化財	建造物	老松天満社金刀比羅社	1棟	平22.9.10	天瀬町
47	国登録	有形文化財	建造物	老松天満社鳥居	1基	平22.9.10	天瀬町
48	国登録	有形文化財	建造物	老松天満社拝殿	1棟	平22.9.10	天瀬町
49	国登録	有形文化財	建造物	老松天満社本殿	1棟	平22.9.10	天瀬町
50	国登録	有形文化財	建造物	井上酒造煙突	1基	平28.8.1	大字大肥
51	国登録	有形文化財	建造物	井上酒造店舗兼主屋	1棟	平28.8.1	大字大肥
52	国登録	有形文化財	建造物	井上酒造木造蔵	1棟	平28.8.1	大字大肥

No	区別	文化財類型	種別	名称	員数	指定等年月日	所在地
53	国選択	民俗文化財	無形民俗文化財	豊後の水車習俗	-	昭58.12.27	鈴連町ほか
54	国選択	民俗文化財	無形民俗文化財	大原八幡宮の米占い行事	-	平11.12.3	田島町
55	県指定	有形文化財	工芸品	太刀 銘安綱	1口	昭33.3.25	豆田町(廣瀬本家)
56	県指定	有形文化財	考古資料	石人	2軀	昭39.2.21	銭淵町
57	県指定	有形文化財	古文書	中村文書	1巻	昭41.3.22	豆田町(廣瀬本家)
58	県指定	有形文化財	考古資料	蔵骨器	2合	昭46.3.23	宇佐市(大分県立歴史博物館)
59	県指定	有形文化財	考古資料	軒先丸瓦	1個	昭46.3.23	宇佐市(大分県立歴史博物館)
60	県指定	有形文化財	彫刻	木造阿弥陀如来坐像	1軀	昭47.3.21	大日町
61	県指定	有形文化財	工芸品	老松天満社懸仏	207面	昭49.3.19	前津江町大野
62	県指定	有形文化財	彫刻	金凝神社木造仮面	4面	昭50.3.28	天瀬町本城
63	県指定	有形文化財	工芸品	烏宿神社鰐口	1口	昭51.3.30	大山町西大山
64	県指定	有形文化財	考古資料	老松神社銅銚	1口	昭51.3.30	日田市埋蔵文化財センター
65	県指定	有形文化財	工芸品	山中薬師堂鰐口	1口	昭51.3.30	天瀬町出口
66	県指定	有形文化財	建造物	草三郎大神宮五輪塔婆 附角塔婆	1基	昭51.3.30	天瀬町馬原
67	県指定	有形文化財	彫刻	玉来神社神像	22軀	昭54.5.15	天瀬町五馬市
68	県指定	有形文化財	書跡・典籍	森家五部大乘経	123巻	昭55.4.8	宇佐市(大分県立歴史博物館)
69	県指定	有形文化財	彫刻	岳林寺木造明極楚俊坐像	1軀	昭56.3.31	北友田1(市立郷土史料館)
70	県指定	有形文化財	絵画	岳林寺絹本着色仏涅槃図	1幅	昭56.3.31	北友田1(市立郷土史料館)
71	県指定	有形文化財	古文書	草野文書	2巻	昭57.3.30	豆田町
72	県指定	有形文化財	考古資料	日隈神社平縁細線式獸帯鏡	1面	昭58.4.12	隈2(日田祇園山鉾会館)
73	県指定	有形文化財	考古資料	大原八幡宮銅銚	1口	昭60.3.29	田島町
74	県指定	有形文化財	建造物	西雉谷笠塔婆 附・石造塔婆(1基)	1基	昭60.3.29	上津江町上野田
75	県指定	有形文化財	考古資料	石井神社銅銚	1口	平1.3.30	隈2(日田祇園山鉾会館)
76	県指定	有形文化財	考古資料	朝日宮ノ原遺跡4号中世墓出土品	81点	平7.3.10	日田市埋蔵文化財センター
77	県指定	有形文化財	考古資料	ガランドヤ古墳出土品	921点	平7.3.10	日田市埋蔵文化財センター
78	県指定	民俗文化財	無形民俗文化財	磐戸楽	-	昭41.3.22	三ノ宮1
79	県指定	民俗文化財	無形民俗文化財	鶉飼	-	昭41.3.22	竹田地区
80	県指定	民俗文化財	無形民俗文化財	大野楽	-	昭41.3.22	前津江町大野
81	県指定	民俗文化財	無形民俗文化財	本城くにち楽	-	昭42.3.31	天瀬町本城

No	区別	文化財類型	種別	名称	頁数	指定等年月日	所在地
82	県指定	民俗文化財	無形民俗文化財	大原八幡宮御田植祭	-	昭59.3.30	田島町
83	県指定	記念物	史跡	川原隧道と石畳	-	昭51.3.30	天瀬町女子畑川原区
84	県指定	記念物	史跡	石坂石畳道	-	昭62.3.27	市ノ瀬町・伏木町
85	県指定	記念物	史跡	城山古墳	-	平1.3.30	諸留町
86	県指定	記念物	史跡	薬師堂山古墳	-	平2.3.29	田島町
87	県指定	記念物	史跡	吹上遺跡	-	平8.3.29	大字小迫
88	県指定	記念物	史跡	朝日天神山古墳群	-	平16.3.30	大字小迫
89	県指定	記念物	史跡	永山城跡	-	平28.2.23	丸山2丁目
90	県指定	記念物	名勝	伝来寺庭園	-	昭45.3.31	中津江村栃野
91	県指定	記念物	天然記念物	津江神社のスギと自然林	-	昭50.3.28	中津江村合瀬
92	県指定	記念物	天然記念物	高塚愛宕地蔵のイチョウ	-	昭51.3.30	天瀬町馬原
93	県指定	記念物	天然記念物	鞍形尾神社の自然林	-	昭56.3.31	天瀬町馬原
94	県選択	民俗文化財	無形民俗文化財	老松様の餅搗祭	-	昭50.3.28	中津江村合瀬
95	県選択	民俗文化財	無形民俗文化財	老松様の的ほがし祭	-	昭50.3.28	中津江村合瀬
96	市指定	有形文化財	彫刻	開山頂相(普門寺木造笑巖和尚坐像)	1 軀	昭47.6.12	北友田1 (市立郷土史料館)
97	市指定	有形文化財	彫刻	龍林寺木造薬師如来坐像付 龍林寺薬師如来縁起版木	1 軀	昭50.3.28	財津町
98	市指定	有形文化財	建造物	石幢	1 基	昭50.3.28	上野町
99	市指定	有形文化財	建造物	永平寺跡板碑	2 基	昭50.3.28	高瀬本町
100	市指定	有形文化財	絵画	絹本着色明極楚俊坐像	1 幅	昭55.2.13	北友田1 (市立郷土史料館)
101	市指定	有形文化財	建造物	宝篋印塔	2 基	昭57.5.11	神来町
102	市指定	有形文化財	建造物	大原八幡宮	4 棟	平1.11.22	田島町
103	市指定	有形文化財	典籍	大般若波羅密多經	600巻	昭47.6.12	田島町
104	市指定	有形文化財	彫刻	吹上観音坐像	1 軀	昭50.6.10	吹上町 (吹上神社)
105	市指定	有形文化財	絵画、書跡	玉来神社拝殿と棟札	1 式 1 枚	昭51.11.20	天瀬町五馬市
106	市指定	有形文化財	建造物	宝篋印塔	1 基	昭51.11.1	中津江村合瀬
107	市指定	有形文化財	建造物	間地橋	1 基	昭51.11.1	中津江村栃野・合瀬
108	市指定	有形文化財	建造物	先祖元、五輪塔	3 基	昭54.7.26	上津江町上野田
109	市指定	有形文化財	彫刻	十一面観世音菩薩座像	1 体	昭54.7.26	上津江町上野田
110	市指定	有形文化財	彫刻	木造釈迦三尊像 付釈迦如来像奉筆物	3 軀	昭55.2.13	北友田1 (市立郷土史料館)

No	区別	文化財類型	種別	名称	員数	指定等年月日	所在地
111	市指定	有形文化財	彫刻	木造大日如来坐像	1 軀	昭55.9.3	山田町
112	市指定	有形文化財	彫刻	木造毘沙門天立像	1 軀	昭55.9.3	山田町
113	市指定	有形文化財	古文書	紙本墨書明極墨蹟	1 幅	昭55.2.13	北友田1 (市立郷土史料館)
114	市指定	有形文化財	古文書	岳林寺文書	37紙	昭55.2.13	北友田1 (市立郷土史料館)
115	市指定	有形文化財	文書	紙本西国筋郡代陣屋絵図	1 幅	昭57.5.11	隈1
116	市指定	有形文化財	建造物	大野老松天満社逆修塔	1 基	昭57.9.21	前津江町大野
117	市指定	有形文化財	工芸品	懸佛	13面	昭57.9.21	前津江町柚木
118	市指定	有形文化財	彫刻	木造薬師三尊像	3 軀	昭58.7.13	南友田町
119	市指定	有形文化財	工芸品	金銅筒臈当	2 隻	昭58.7.13	宇佐市(大分県立歴史博物館)
120	市指定	有形文化財	考古資料	方格規矩鏡片	1 片	昭58.7.13	田島町
121	市指定	有形文化財	考古資料	須恵器子持高坏	1 基	昭58.7.13	吹上町
122	市指定	有形文化財	建造物	浦宮神社「拝殿・神殿」	1棟 1棟	昭58.6.28	上津江町川原
123	市指定	有形文化財	建造物	浦宮神社「せり持ち式石橋」	1 基	昭58.6.28	上津江町川原
124	市指定	有形文化財	建造物	宝篋印塔	1 基	昭61.3.17	前津江町柚木
125	市指定	有形文化財	古文書	大友書状	2 通	昭61.3.17	日田市埋蔵文化財センター
126	市指定	有形文化財	古文書	百姓日記	1 冊	昭61.3.17	日田市埋蔵文化財センター
127	市指定	有形文化財	書跡	穴井家古文書一卷	1 卷	昭62.4.20	北友田1 (市立郷土史料館)
128	市指定	有形文化財	考古資料	有田古墳出土一括遺物	85点	平1.11.22	本町
129	市指定	有形文化財	典籍	大乘妙典經	8 卷	平2.3.8	前津江町柚木
130	市指定	有形文化財	彫刻	岳林寺木造弥勒菩薩坐像	1 体	平3.3.30	北友田1 (市立郷土史料館)
131	市指定	有形文化財	彫刻	世尊寺木造薬師如来坐像他2体	3 軀	平4.3.10	諸留町
132	市指定	有形文化財	絵画	内河野村古絵図	11枚	平4.3.10	日田市埋蔵文化財センター
133	市指定	有形文化財	絵画	四季農耕図絵馬	1 面	平11.10.25	前津江町柚木
134	市指定	有形文化財	絵画	中西村・梅野村の絵地図	1 点	平11.4.7	中津江村合瀬
135	市指定	有形文化財	絵画	天井絵馬	55枚	平12.12.8	前津江町柚木
136	市指定	有形文化財	彫刻	像代	35体	平12.12.8	前津江町大野
137	市指定	有形文化財	彫刻	どうぼう様(藤房様)	4 体	平13.11.14	前津江町柚木
138	市指定	有形文化財	建造物	元大原神社	5 棟	平14.3.7	神来町
139	市指定	有形文化財	建造物	求来里笠塔婆	1 基	平14.3.7	神来町

No	区別	文化財類型	種別	名称	員数	指定等年月日	所在地
140	市指定	有形文化財	彫刻	木造釈迦如来立像	1 軀	平23.3.31	北友田1 (市立郷土史料館)
141	市指定	有形文化財	考古資料	伝姫塚古墳出土鉄剣 (蛇行剣)	1 降	平23.5.31	日田市埋蔵文化財センター
142	市指定	有形文化財	彫刻	阿弥陀如来坐像	1 軀	平28.3.25	高瀬本町
143	市指定	民俗文化財	有形民俗文化財	精米用箱水車	1 基	平11.11.22	鈴連町
144	市指定	民俗文化財	有形民俗文化財	おきあげ人形製作資料	555点	令1.7.25	有田町
145	市指定	民俗文化財	無形民俗文化財	有田町若八幡社やっこ振り行列	-	平3.3.30	有田町
146	市指定	民俗文化財	無形民俗文化財	出口本村楽	-	平6.4.29	天瀬町出口
147	市指定	民俗文化財	無形民俗文化財	出口袋七夕楽	-	平6.4.29	天瀬町出口
148	市指定	民俗文化財	無形民俗文化財	五馬楽	-	平6.4.29	天瀬町五馬市
149	市指定	民俗文化財	無形民俗文化財	烏宿神社はだか参り	-	平25.3.28	大山町西大山
150	市指定	記念物	史跡	丸山古墳	1 基	昭47.6.12	城町2
151	市指定	記念物	史跡	片山磨崖種子	-	昭50.3.28	北友田2
152	市指定	記念物	史跡	惣田塚古墳	1 基	平11.11.22	琴平町
153	市指定	記念物	史跡	三郎丸古墳	1 基	平11.11.22	北友田2
154	市指定	記念物	史跡	菊池七人塚	-	昭51.11.1	中津江村合瀬
155	市指定	記念物	史跡	御所跡と御所の谷	-	昭51.11.1	中津江村合瀬
156	市指定	記念物	史跡	年の神境内地伝、相垣越前守の墓	1 基	昭54.7.26	上津江町上野田
157	市指定	記念物	史跡	台の殿様屋敷跡	12,624㎡	昭57.9.21	前津江町大野
158	市指定	記念物	史跡	平島古墳	1 基	平11.11.22	諸留町
159	市指定	記念物	史跡	木地師半兵衛・徳兵衛の墓	2 基	平1.7.5	上津江町川原
160	市指定	記念物	史跡	宇土遺跡3号墳	-	平3.10.29	天瀬町五馬市
161	市指定	記念物	史跡	筑前台岩木壘遺跡	-	平3.10.29	天瀬町馬原
162	市指定	記念物	史跡	牧原千人塚	1 基	平7.3.31	桃山町
163	市指定	記念物	史跡	小竹供養塔	1 基	平11.8.9	上津江町川原
164	市指定	記念物	史跡	姫塚古墳	1 基	平19.3.29	高瀬本町
165	市指定	記念物	史跡	台神社前旧往還石畳道	-	平28.3.25	天瀬町女子畑台
166	市指定	記念物	天然記念物	むらくもの松	1 本	昭47.6.12	限2 (八坂神社)
167	市指定	記念物	天然記念物	台神社の森	-	平28.3.25	天瀬町女子畑台
168	市指定	記念物	天然記念物	見竹天満宮の天満かつら	1 本	昭54.3.20	天瀬町出口

No	区別	文化財類型	種別	名称	員数	指定等年月日	所在地
169	市指定	記念物	天然記念物	年の神境内地樹林	26本	昭54.7.26	上津江町上野田
170	市指定	記念物	天然記念物	浦宮神社境内地「樹林・下草シダ類」	-	昭58.6.28	上津江町川原
171	市指定	記念物	天然記念物	ユズリハ自然林	2,400㎡	昭61.3.17	前津江町大野
172	市指定	記念物	天然記念物	桂の木	1本	平2.3.8	前津江町柚木
173	市指定	記念物	天然記念物	烏宿自然林	-	平4.9.18	大山町西大山
174	市指定	記念物	天然記念物	銀杏の木	1本	平9.1.27	中津江村栃野
175	市指定	記念物	天然記念物	杉	2本	平12.12.8	前津江町柚木
176	市指定	記念物	天然記念物	ズミの群生地	-	平15.3.26	伏木町
177	市指定	記念物	天然記念物	エドヒガンザクラの木	1本	平16.10.8	上津江町川原
178	市指定	記念物	天然記念物	クスの木	1本	平16.10.8	上津江町川原
179	市指定	記念物	天然記念物	ムクの木	1本	平16.10.8	上津江町川原
180	市指定	記念物	天然記念物	手水野のカツラ林	-	平16.10.8	上津江町川原
181	市指定	記念物	天然記念物	小平のカツラ林	-	平16.10.8	上津江町川原
182	市指定	記念物	天然記念物	モミの木	1本	平16.10.8	上津江町川原
183	市指定	記念物	天然記念物	スギの木	1本	平16.10.8	上津江町川原
184	市指定	記念物	天然記念物	イチヨウの木	1本	平16.10.8	上津江町川原
185	市指定	記念物	天然記念物	モミジの木	1本	平16.10.8	上津江町上野田
186	市指定	記念物	天然記念物	アカマツの木	1本	平16.10.8	上津江町上野田

2. 未指定文化財一覧表

■有形文化財（建造物（石造物以外））

No	名称	種別		地区
1	産八幡様	建造物	寺社	咸宜
2	浦町地藏尊	建造物	寺社	咸宜
3	稲荷様	建造物	寺社	三芳
4	景流寺	建造物	寺社	三芳
5	尾ヶ瀬神社	建造物	寺社	三芳
6	水天宮	建造物	寺社	三芳
7	稲荷様	建造物	寺社	三芳
8	水神様	建造物	寺社	三芳
9	水天宮	建造物	寺社	三芳
10	天満社・観音堂	建造物	寺社	三芳
11	溝口稲荷神社	建造物	寺社	三芳
12	いぼ地藏さん	建造物	寺社	三芳
13	会所神社	建造物	寺社	三芳
14	日下部神社	建造物	寺社	三芳
15	国造神社	建造物	寺社	三芳
16	久津媛神社	建造物	寺社	三芳
17	薬師堂	建造物	寺社	三芳
18	稲荷様	建造物	寺社	三芳
19	水神様	建造物	寺社	三芳
20	水天宮	建造物	寺社	三芳
21	庚申様・猿田彦大神・道祖神	建造物	寺社	三芳
22	稲荷様	建造物	寺社	三芳
23	お伊勢様	建造物	寺社	三芳
24	水神様	建造物	寺社	三芳
25	大師様	建造物	寺社	三芳
26	庚申様・猿田彦大神・道祖神	建造物	寺社	三芳
27	久津媛神社	建造物	寺社	三芳
28	稲荷様	建造物	寺社	三芳
29	お伊勢様（大神宮様）	建造物	寺社	三芳
30	お観音様	建造物	寺社	三芳
31	水神様	建造物	寺社	三芳
32	水天宮	建造物	寺社	三芳
33	日高地蔵	建造物	寺社	三芳
34	元宮神社	建造物	寺社	三芳
35	高瀬天満社	建造物	寺社	高瀬
36	誠和神社	建造物	寺社	高瀬
37	岳林寺の東照宮	建造物	寺社	光岡
38	国津神社	建造物	寺社	朝日
39	大師堂	建造物	寺社	朝日
40	朝日町天満社	建造物	寺社	朝日
41	萩尾稲荷神社	建造物	寺社	朝日
42	会所神社	建造物	寺社	三花
43	蕪観音	建造物	寺社	西有田
44	子持観音	建造物	寺社	西有田
45	腰折地藏	建造物	寺社	西有田
46	祇園社	建造物	寺社	西有田
47	大山祇神社	建造物	寺社	東有田

No	名称	種別		地区
48	弁財天・庚申様（岩美町）	建造物	寺社	東有田
49	藪不動尊（月出町）	建造物	寺社	東有田
50	世尊寺	建造物	寺社	東有田
51	八龍神社	建造物	寺社	東有田
52	薬師堂（松野町）	建造物	寺社	東有田
53	王太子神社	建造物	寺社	東有田
54	東神社・稻荷神社（池辺町）	建造物	寺社	東有田
55	妙見堂（東羽田町）	建造物	寺社	東有田
56	八龍神社 子ども相撲	建造物	寺社	東有田
57	池辺稻荷神社・初午祭	建造物	寺社	東有田
58	東光寺（日ノ本町）	建造物	寺社	東有田
59	片峰観音堂	建造物	寺社	東有田
60	戸山神社上宮	建造物	寺社	小野
61	戸山神社	建造物	寺社	小野
62	溝口神社	建造物	寺社	小野
63	北山神社	建造物	寺社	小野
64	祇園神社	建造物	寺社	大鶴
65	天満宮老松社	建造物	寺社	大鶴
66	下河内天満社	建造物	寺社	大鶴
67	祇園神社	建造物	寺社	大鶴
68	宮路嶽神社	建造物	寺社	大鶴
69	西善寺茅葺の山門	建造物	寺社	大鶴
70	大鶴駅	建造物	寺社	大鶴
71	若八幡宮	建造物	寺社	大鶴
72	岩に刻まれた梵字	建造物	寺社	夜明
73	伊勢宮遙拝所：今山地区	建造物	寺社	夜明
74	今山駅	建造物	交通	夜明
75	今山の森山様の墓	建造物	寺社	夜明
76	猿田彦大神様：今山地区	建造物	寺社	夜明
77	大師堂：今山地区	建造物	寺社	夜明
78	伊勢宮遙拝所：祝原地区	建造物	寺社	夜明
79	大師堂：祝原地区	建造物	寺社	夜明
80	伊勢宮遙拝所：上村地区	建造物	寺社	夜明
81	猿田彦大神様：上村地区	建造物	寺社	夜明
82	猿田彦大神様：上村地区	建造物	寺社	夜明
83	大師堂：上村地区	建造物	寺社	夜明
84	伊勢宮遙拝所：川崎地区	建造物	寺社	夜明
85	川崎の七軒地蔵	建造物	寺社	夜明
86	川崎橋	建造物	寺社	夜明
87	猿田彦大神様：祝原地区	建造物	寺社	夜明
88	大師堂：川崎地区	建造物	寺社	夜明
89	夜明駅	建造物	寺社	夜明
90	大師堂：釘原地区	建造物	寺社	夜明
91	伊勢宮遙拝所：釘原・古屋敷地区	建造物	寺社	夜明
92	伊勢宮遙拝所：関地区	建造物	寺社	夜明
93	猿田彦大神様：川崎地区	建造物	寺社	夜明
94	猿田彦大神様：関町堂ノ上	建造物	寺社	夜明
95	関橋（沈み橋）	建造物	寺社	夜明
96	関町堂ノ上のお大師様	建造物	寺社	夜明
97	関町堂ノ上の観音	建造物	寺社	夜明

No	名称	種別		地区
98	関町堂ノ上の地蔵	建造物	寺社	夜明
99	関町堂ノ上の不動尊	建造物	寺社	夜明
100	夜明ダム	建造物	近代化遺産	夜明
101	大師堂：関山地区	建造物	寺社	夜明
102	大師堂：高野地区	建造物	寺社	夜明
103	光勝寺	建造物	寺社	夜明
104	猿田彦大神様：竹丸地区	建造物	寺社	夜明
105	大師堂：竹丸地区	建造物	寺社	夜明
106	小月橋	建造物	橋	夜明
107	茶屋ノ瀬山神様	建造物	寺社	夜明
108	伊勢宮遙拝所：三組地区	建造物	寺社	夜明
109	伊勢宮遙拝所：中楚地区	建造物	寺社	夜明
110	猿田彦大神様：中楚地区	建造物	寺社	夜明
111	大師堂：中楚地区	建造物	寺社	夜明
112	伊勢宮遙拝所：杷木山地区	建造物	寺社	夜明
113	大師堂：杷木山地区	建造物	寺社	夜明
114	大師堂：古屋敷地区	建造物	寺社	夜明
115	古屋敷谷の石碑 櫻戸雲霊神	建造物	寺社	夜明
116	関町院の塔の地蔵尊	建造物	寺社	夜明
117	関町浜の地蔵尊	建造物	寺社	夜明
118	有王社	建造物	寺社	夜明
119	稲荷神社	建造物	寺社	夜明
120	旧大肥橋	建造物	寺社	夜明
121	猿田彦大神様：関浜	建造物	寺社	夜明
122	志賀神社	建造物	寺社	夜明
123	大師堂：森山家	建造物	寺社	夜明
124	大明小開校記念橋	建造物	橋	夜明
125	高瀬橋	建造物	寺社	夜明
126	茶屋ノ瀬橋	建造物	寺社	夜明
127	中楚橋	建造物	寺社	夜明
128	西玄寺	建造物	寺社	夜明
129	西宝司神社	建造物	寺社	夜明
130	明円寺	建造物	寺社	夜明
131	ももは工房横の木造橋	建造物	寺社	夜明
132	薬師堂	建造物	橋	夜明
133	夜明大橋	建造物	寺社	夜明
134	夜明錦帯橋	建造物	寺社	夜明
135	夜明診療所	建造物	寺社	夜明
136	夜明の鐘（2011）	建造物	寺社	夜明
137	夜明橋	建造物	寺社	夜明
138	わかやまのお地蔵さま	建造物	寺社	夜明
139	割子谷橋	建造物	寺社	夜明
140	不動様（梶尾の滝）	建造物	寺社	五和
141	田代橋	建造物	橋	前津江
142	中城橋	建造物	橋	前津江
143	日輪様	建造物	橋	前津江
144	めがね橋	建造物	橋	前津江
145	宿ヶ峰不動尊	建造物	寺社	中津江
146	巢山弘法大師	建造物	寺社	中津江
147	鯛生金山：山神社	建造物	寺社	中津江

No	名称	種別		地区
148	宮園津江神社	建造物	寺社	中津江
149	水神祠	建造物	寺社	中津江
150	中村津江神社	建造物	寺社	中津江
151	小原（八所）神社	建造物	寺社	中津江
152	馬頭観音	建造物	寺社	中津江
153	巢山大師堂（巢山弘法大師と同一？）	建造物	寺社	中津江
154	田島儀一翁記念碑	建造物	寺社	中津江
155	岩屋不動尊	建造物	寺社	中津江
156	老松神社	建造物	寺社	上津江
157	歳の神	建造物	寺社	上津江
158	八幡社	建造物	寺社	上津江
159	観音さま	建造物	寺社	上津江
160	雉谷天満宮	建造物	寺社	上津江
161	徳正寺	建造物	寺社	上津江
162	正専寺	建造物	寺社	上津江
163	宮地嶽神社	建造物	寺社	上津江
164	天満宮	建造物	寺社	上津江
165	八幡宮社	建造物	寺社	上津江
166	観音さま	建造物	寺社	上津江
167	阿弥陀堂	建造物	寺社	上津江
168	稻荷社	建造物	寺社	上津江
169	山の神	建造物	寺社	上津江
170	多聞天神社	建造物	寺社	上津江
171	年のかみ神社	建造物	寺社	上津江
172	屋敷神	建造物	寺社	上津江
173	金毘羅宮	建造物	寺社	上津江
174	観音堂	建造物	寺社	上津江
175	観音さま	建造物	寺社	上津江
176	宮地嶽社	建造物	寺社	上津江
177	観音さま	建造物	寺社	上津江
178	地蔵菩薩	建造物	寺社	上津江
179	秋葉さま	建造物	寺社	上津江
180	観音堂	建造物	寺社	上津江
181	稻荷大明神	建造物	寺社	上津江
182	薬師堂	建造物	寺社	上津江
183	天満宮	建造物	寺社	上津江
184	天満宮社	建造物	寺社	上津江
185	天満宮社	建造物	寺社	上津江
186	若宮さま	建造物	寺社	上津江
187	神明天満宮社	建造物	寺社	上津江
188	観音さま	建造物	寺社	上津江
189	天満社	建造物	寺社	上津江
190	権現さま	建造物	寺社	上津江
191	青龍寺	建造物	寺社	上津江
192	多聞天神社（白草）	建造物	寺社	上津江
193	馬頭観音	建造物	寺社	上津江
194	阿弥陀堂	建造物	寺社	大山
195	阿弥陀堂	建造物	寺社	大山
196	観音堂	建造物	寺社	大山
197	観音堂	建造物	寺社	大山

No	名称	種別		地区
198	観音堂	建造物	寺社	大山
199	観音堂	建造物	寺社	大山
200	観音堂	建造物	寺社	大山
201	観音堂	建造物	寺社	大山
202	観音堂	建造物	寺社	大山
203	観音堂	建造物	寺社	大山
204	弘法大師	建造物	寺社	大山
205	弘法大師	建造物	寺社	大山
206	地藏堂	建造物	寺社	大山
207	地藏堂	建造物	寺社	大山
208	地藏堂	建造物	寺社	大山
209	地藏堂	建造物	寺社	大山
210	大日如来	建造物	寺社	大山
211	大日如来	建造物	寺社	大山
212	毘沙門堂	建造物	寺社	大山
213	弥勒堂	建造物	寺社	大山
214	薬師堂	建造物	寺社	大山
215	薬師堂	建造物	寺社	大山
216	薬師堂	建造物	寺社	大山
217	薬師堂	建造物	寺社	大山
218	薬師堂	建造物	寺社	大山
219	六地藏	建造物	寺社	大山
220	円龍寺	建造物	寺社	大山
221	烏宿神社	建造物	寺社	大山
222	高平神社	建造物	寺社	大山
223	安楽寺	建造物	寺社	大山
224	天満社	建造物	寺社	大山
225	天満社	建造物	寺社	大山
226	西林寺	建造物	寺社	大山
227	飛龍社	建造物	寺社	大山
228	老松社	建造物	寺社	大山
229	顕正寺	建造物	寺社	大山
230	阿弥陀堂	建造物	寺社	大山
231	観音堂	建造物	寺社	大山
232	観音堂	建造物	寺社	大山
233	観音堂	建造物	寺社	大山
234	観音堂	建造物	寺社	大山
235	地藏堂	建造物	寺社	大山
236	地藏堂	建造物	寺社	大山
237	薬師堂	建造物	寺社	大山
238	薬師堂	建造物	寺社	大山
239	伝照寺	建造物	寺社	大山
240	原神社	建造物	寺社	大山
241	尾園社	建造物	寺社	大山
242	天満社	建造物	寺社	大山
243	千張社	建造物	寺社	大山
244	錦袋山地蔵尊	建造物	寺社	天瀬
245	光明寺楼門	建造物	寺社	天瀬
246	石鍋めがね橋	建造物	寺社	天瀬
247	高塚愛宕地藏尊	建造物	寺社	天瀬

No	名称	種別		地区
248	山口 芥神の一里地蔵	建造物	寺社	天瀬
249	八本木 辻の堂	建造物	寺社	天瀬
250	日田屋旅館	建造物	旅館	天瀬
251	地蔵 一里地蔵	建造物	寺社	天瀬
252	関神社	建造物	寺社	天瀬
253	中島井路	建造物	井路	天瀬
254	女子畑発電所と隧道	建造物	近代化遺産	天瀬

■有形文化財（建造物：石造物）

No	名称	種別		地区
1	中城町五輪塔	建造物	石造物	咸宜
2	明王寺石塔群	建造物	石造物	咸宜
3	岩尾薬局前五輪塔	建造物	石造物	咸宜
4	豆田六地蔵幢	建造物	石造物	咸宜
5	日田養育館址（石碑）	建造物	石造物	咸宜
6	「徳政化俗」の碑 松方正義顕彰碑	建造物	石造物	咸宜
7	孝経碑	建造物	石造物	咸宜
8	日田神社石塔群	建造物	石造物	桂林
9	永興寺五輪塔	建造物	石造物	桂林
10	神明宮宝篋印塔	建造物	石造物	桂林
11	道標	建造物	石造物	日隈
12	専念寺五重宝篋印塔	建造物	石造物	日隈
13	小西の宝篋印塔	建造物	石造物	三芳
14	元大原神社石塔群	建造物	石造物	三芳
15	三翁頌徳碑（梅山清左衛門・梅山長徳・華藤淀）	建造物	石造物	三芳
16	日清日露戦勝記念碑	建造物	石造物	三芳
17	一字一石の石塔	建造物	石造物	三芳
18	正風寺磨崖碑	建造物	石造物	三芳
19	桃山町御堂角柱塔婆	建造物	石造物	三芳
20	牧原角柱塔婆	建造物	石造物	三芳
21	法恩寺山石塔群	建造物	石造物	三芳
22	正風寺磨石塔群	建造物	石造物	三芳
23	道標	建造物	石造物	三芳
24	一字一石の石塔	建造物	石造物	三芳
25	戦没者慰霊塔	建造物	石造物	三芳
26	伊勢遥拝所五輪塔	建造物	石造物	高瀬
27	上野町御堂五輪塔	建造物	石造物	高瀬
28	黒岩梵字	建造物	石造物	高瀬
29	松金石塔群	建造物	石造物	高瀬
30	星隈山五輪塔	建造物	石造物	光岡
31	天神社南角石塔群	建造物	石造物	光岡
32	岳林寺石幢	建造物	石造物	光岡
33	友田磨崖碑	建造物	石造物	光岡
34	吹上地蔵尊上宝篋印塔	建造物	石造物	光岡
35	岳林寺の歴代代官の墓	建造物	石造物	光岡
36	宝積寺石塔群	建造物	石造物	朝日
37	山田板碑（二連碑）	建造物	石造物	朝日
38	龍川寺石塔群	建造物	石造物	三花
39	龍源寺石塔群	建造物	石造物	三花
40	石阪修治碑	建造物	石造物	三花

No	名称	種別		地区
41	市の瀬御堂五輪塔群	建造物	石造物	三花
42	堂様石塔群	建造物	石造物	三花
43	腰折地蔵尊石塔群	建造物	石造物	西有田
44	上手若宮八幡社鳥居脇五輪塔	建造物	石造物	西有田
45	坂井毘沙門天石塔群	建造物	石造物	西有田
46	毘沙門天向かい墓地五輪塔	建造物	石造物	西有田
47	下柳不動様宝篋印塔	建造物	石造物	西有田
48	熊ノ尾板碑	建造物	石造物	東有田
49	東光寺（日ノ本町）石塔群	建造物	石造物	東有田
50	諸留町御堂五輪塔群	建造物	石造物	東有田
51	小野殿村石塔群	建造物	石造物	小野
52	竹尾石塔群	建造物	石造物	小野
53	小野観音堂五輪塔	建造物	石造物	小野
54	戸山神社石塔群	建造物	石造物	小野
55	大鶴橋南墓地五輪塔	建造物	石造物	大鶴
56	空楽寺石塔群	建造物	石造物	大鶴
57	老松天満宮五輪塔	建造物	石造物	大鶴
58	御大典記念碑	建造物	石造物	大鶴
59	茶屋ノ森供養塔	建造物	石造物	夜明
60	夜明大神宮五輪塔	建造物	石造物	夜明
61	小鶴薬師堂宝篋印塔	建造物	石造物	夜明
62	大師堂五輪塔	建造物	石造物	夜明
63	北山権現宮宝篋印塔	建造物	石造物	夜明
64	北山権現宮磨崖種子	建造物	石造物	夜明
65	関町浜の築場跡の供養塔	建造物	石造物	夜明
66	茶屋ノ瀬供養碑	建造物	石造物	夜明
67	妙見菩薩石碑	建造物	石造物	夜明
68	森山家 宝篋印塔	建造物	石造物	夜明
69	津辻神社五輪塔群	建造物	石造物	五和
70	長楽寺五輪塔	建造物	石造物	五和
71	石碑（明治22年洪水の記録）	建造物	石造物	五和
72	近衛神社五輪塔	建造物	石造物	五和
73	長溪遊記之詩碑	建造物	石造物	五和
74	加々鶴新道碑	建造物	石造物	五和
75	曾家神社五輪塔群	建造物	石造物	前津江
76	浦ノ寺古寺：五輪塔	建造物	石造物	前津江
77	浦の寺五輪塔群	建造物	石造物	前津江
78	大野老松天満社逆修塔	建造物	石造物	前津江
79	大野老松天満社五輪塔	建造物	石造物	前津江
80	大野老松天満社奉読碑	建造物	石造物	前津江
81	大野老松社五輪塔	建造物	石造物	前津江
82	宝篋印塔	建造物	石造物	前津江
83	二又五輪塔群	建造物	石造物	中津江
84	宝篋印塔（うばの墓）	建造物	石造物	中津江
85	木地師墓石	建造物	石造物	中津江
86	地蔵権現と今井祇園の宝篋印塔	建造物	石造物	中津江
87	野田 五輪塔	建造物	石造物	中津江
88	松虫宝篋印塔	建造物	石造物	中津江
89	火伏せ地蔵	建造物	石造物	中津江
90	二又 五輪の塔	建造物	石造物	中津江

No	名称	種別		地区
91	日ノ隈宝篋印塔	建造物	石造物	中津江
92	小川原神社五輪塔群	建造物	石造物	上津江
93	信岡義睦翁頌徳碑	建造物	石造物	上津江
94	電燈新設記念碑	建造物	石造物	上津江
95	川津光伊氏頌徳碑	建造物	石造物	上津江
96	官谷農免道路竣工記念碑	建造物	石造物	上津江
97	村道川原小平線開設改修工事竣工記念碑	建造物	石造物	上津江
98	井上守氏道路改築記念碑	建造物	石造物	上津江
99	新道ノ碑	建造物	石造物	上津江
100	慰霊塔	建造物	石造物	上津江
101	供養塔	建造物	石造物	上津江
102	圓龍寺石塔群	建造物	石造物	大山
103	片瀬古角柱塔婆	建造物	石造物	大山
104	亀岡神社宝篋印塔	建造物	石造物	大山
105	五輪塔（円龍寺）	建造物	石造物	大山
106	下川原御堂石幢	建造物	石造物	大山
107	瀬古石塔群	建造物	石造物	大山
108	田北紹鉄墓	建造物	石造物	大山
109	天満社一字一石塔（上野天満社）	建造物	石造物	大山
110	堂山薬師堂板碑	建造物	石造物	大山
111	堂山薬師堂板碑	建造物	石造物	大山
112	野瀬部集会所前宝篋印塔	建造物	石造物	大山
113	不動院奥の院石塔群	建造物	石造物	大山
114	柚木御堂五輪塔群	建造物	石造物	大山
115	伝真庵角塔婆	建造物	石造物	大山
116	堂山宝篋印塔	建造物	石造物	大山
117	尾園神社五輪塔	建造物	石造物	大山
118	花平観音堂石塔群	建造物	石造物	大山
119	猿田彦大神	建造物	石造物	大山
120	宮ノ尾笠塔婆	建造物	石造物	天瀬
121	玉来神社の石塔	建造物	石造物	天瀬
122	出口御堂五輪塔群	建造物	石造物	天瀬
123	川原角塔婆	建造物	石造物	天瀬
124	虎御前塔	建造物	石造物	天瀬
125	道しるべ	建造物	石造物	天瀬
126	てらん堂六地藏塔	建造物	石造物	天瀬
127	塔の本の石塔	建造物	石造物	天瀬
128	花香宝篋印塔	建造物	石造物	天瀬
129	古園五輪塔群	建造物	石造物	天瀬
130	圓福寺石幢	建造物	石造物	天瀬
131	塚田下石塔群	建造物	石造物	天瀬
132	老松天満宮の唐獅子	建造物	石造物	天瀬
133	曾田の台の道しるべ	建造物	石造物	天瀬
134	見折谷宝篋印塔	建造物	石造物	天瀬
135	享保年間(1730年頃)の道標	建造物	石造物	天瀬
136	本城板碑と五輪塔群	建造物	石造物	天瀬
137	本城本村角柱塔婆と五輪塔群	建造物	石造物	天瀬
138	笹ヶ尾石仏群	建造物	石造物	天瀬
139	本城板碑	建造物	石造物	天瀬
140	本城本村笠塔婆	建造物	石造物	天瀬

No	名称	種別		地区
141	金ヶ塔宝篋印塔	建造物	石造物	天瀬
142	金ヶ塔六地藏	建造物	石造物	天瀬
143	寺ヶ迫宝塔	建造物	石造物	天瀬
144	寺ヶ迫六地藏塔	建造物	石造物	天瀬
145	高尾宝篋印塔	建造物	石造物	天瀬
146	高倉むけん堂宝篋印塔	建造物	石造物	天瀬
147	塔ン本の宝篋印塔	建造物	石造物	天瀬
148	寺山供養塔	建造物	石造物	天瀬
149	阿弥陀三尊仏碑	建造物	石造物	天瀬
150	杉河内御堂五輪塔	建造物	石造物	天瀬
151	飯田家五輪塔	建造物	石造物	天瀬
152	奥畑五輪塔	建造物	石造物	天瀬
153	金ヶ塔石塔群	建造物	石造物	天瀬
154	高釣道脇の板碑群	建造物	石造物	天瀬
155	草三郎墓地下五輪塔	建造物	石造物	天瀬
156	高倉むけん堂石塔群	建造物	石造物	天瀬
157	寺ヶ迫石塔群	建造物	石造物	天瀬
158	出羽石塔群	建造物	石造物	天瀬
159	塔ン本の宝篋印塔	建造物	石造物	天瀬
160	寺山供養塔（宝塔）	建造物	石造物	天瀬
161	本村阿弥陀堂石塔群	建造物	石造物	天瀬
162	本村水源地宝塔	建造物	石造物	天瀬
163	川原角柱塔婆群	建造物	石造物	天瀬
164	川原地蔵堂下五輪塔	建造物	石造物	天瀬
165	台神社五輪塔	建造物	石造物	天瀬
166	虎御前五輪塔（宝篋印塔）	建造物	石造物	天瀬
167	てらん堂六地藏塔	建造物	石造物	天瀬
168	塔ノ本自然石塔葉	建造物	石造物	天瀬
169	天瀬阿弥陀三尊仏碑（自然石塔婆）	建造物	石造物	天瀬
170	田代御堂横石塔群	建造物	石造物	天瀬

■有形文化財（美術工芸品：絵画）

No	名称	種別		地区
1	須ノ原踊り絵巻	美術工芸品	絵画	西有田
2	大行事神社磐戸楽「文武の舞」絵図一巻	美術工芸品	絵画	西有田
3	大行事神社磐戸楽事実並びに秘曲一巻	美術工芸品	絵画	西有田

■有形文化財（美術工芸品：彫刻）

No	名称	種別		地区
1	浦ノ寺観音堂：木造観世音菩薩像	美術工芸品	彫刻	前津江
2	浦ノ寺観音堂：木造毘沙門天像	美術工芸品	彫刻	前津江
3	木造薬師瑠璃光如来像	美術工芸品	彫刻	前津江
4	木造十一面観世音菩薩像	美術工芸品	彫刻	前津江
5	木造不動明王	美術工芸品	彫刻	前津江
6	木造地藏菩薩	美術工芸品	彫刻	前津江
7	木造薬師如来像	美術工芸品	彫刻	前津江
8	木造奉龍大明神	美術工芸品	彫刻	前津江
9	赤石老松天満社ご神体	美術工芸品	彫刻	前津江
10	赤星家に祀られる木像	美術工芸品	彫刻	中津江
11	北村西望氏レリーフ	美術工芸品	彫刻	中津江

No	名称	種別		地区
12	木造薬師如来立像	美術工芸品	彫刻	中津江
13	地藏菩薩立像	美術工芸品	彫刻	中津江
14	方便法身尊像（西林寺蔵）	美術工芸品	彫刻	大山
15	末野毘沙門天木像	美術工芸品	彫刻	天瀬
16	宮之原毘沙門天木像	美術工芸品	彫刻	天瀬
17	近原阿弥陀堂三尊仏像	美術工芸品	彫刻	天瀬
18	谷山毘沙門天木像	美術工芸品	彫刻	天瀬
19	掛金山観音堂仏像	美術工芸品	彫刻	天瀬
20	江島家三尊仏像	美術工芸品	彫刻	天瀬
21	桜竹阿弥陀仏立像	美術工芸品	彫刻	天瀬
22	台神社の毘沙門堂の毘沙門天像	美術工芸品	彫刻	天瀬
23	台神社の毘沙門堂の韋駄天像	美術工芸品	彫刻	天瀬
24	阿弥陀仏木像	美術工芸品	彫刻	天瀬
25	奥畑観世音菩薩立像	美術工芸品	彫刻	天瀬
26	寅丸観音像	美術工芸品	彫刻	天瀬
27	穴井家阿弥陀木像	美術工芸品	彫刻	天瀬
28	高尾阿弥陀如来立像	美術工芸品	彫刻	天瀬
29	女子畑川原の十三佛	美術工芸品	彫刻	天瀬

■有形文化財（美術工芸品：工芸品）

No	名称	種別		地区
1	大野老松天満社鰐口	美術工芸品	工芸品	前津江
2	浦ノ寺観音堂：位牌	美術工芸品	工芸品	前津江
3	大野老松天満社上棟札	美術工芸品	工芸品	前津江
4	赤松老松天満社上棟札	美術工芸品	工芸品	前津江
5	柚木老松天満社上棟札	美術工芸品	工芸品	前津江
6	田代御前嶽神社御神体	美術工芸品	工芸品	前津江
7	田代御前嶽神社上棟札	美術工芸品	工芸品	前津江
8	赤石村庄屋の押印	美術工芸品	工芸品	前津江
9	村中和合之一札	美術工芸品	工芸品	前津江
10	田代御前嶽神社鰐口	美術工芸品	工芸品	前津江
11	薬師堂前の鰐口	美術工芸品	工芸品	中津江
12	鰐口（慶長12年）	美術工芸品	工芸品	大山
13	鰐口（元禄16年）	美術工芸品	工芸品	大山
14	鰐口（寛延2年）	美術工芸品	工芸品	大山
15	懸仏（飛龍神社）	美術工芸品	工芸品	大山
16	懸仏（飛龍神社）	美術工芸品	工芸品	大山
17	懸仏（個人）	美術工芸品	工芸品	大山

■有形文化財（美術工芸品：書跡・典籍・古文書）

No	名称	種別		地区
1	広瀬家関係資料	美術工芸品	書跡	咸宜
2	広瀬家関係資料	美術工芸品	典籍	咸宜
3	広瀬家関係資料	美術工芸品	古文書	咸宜
4	咸宜園教育研究センター所蔵資料	美術工芸品	書跡	咸宜
5	咸宜園教育研究センター所蔵資料	美術工芸品	典籍	咸宜
6	咸宜園教育研究センター所蔵資料	美術工芸品	古文書	咸宜
7	今山公民館の古文書と系図	美術工芸品	古文書	夜明
8	関村の古地図	美術工芸品	古文書	夜明
9	田代御前嶽神社法華経	美術工芸品	典籍	前津江

No	名称	種別		地区
10	津江長谷部系図	美術工芸品	古文書	前津江
11	赤石村宗門御改証文	美術工芸品	古文書	前津江
12	大野村宗門御改帳	美術工芸品	古文書	前津江
13	ハツ滝事件和談証(控)	美術工芸品	古文書	前津江
14	矢幡庄屋古文書	美術工芸品	古文書	大山

■有形文化財（美術工芸品：歴史資料）

No	名称	種別		地区
1	津江絵図	美術工芸品	歴史資料 (地図)	前津江
2	大野村絵図	美術工芸品	歴史資料 (地図)	前津江

■無形文化財

No	名称	種別		地区
1	大原神社の御霊木	民話・伝承		咸宜
2	大原神社のはなし	民話・伝承		咸宜
3	キツネの仲人をした和尚さん	民話・伝承		咸宜
4	上城内の弁財天	民話・伝承		桂林
5	鷹城	民話・伝承		桂林
6	馬頭観音(ばとうかんのん)	民話・伝承		桂林
7	日田殿の力石	民話・伝承		桂林
8	相撲の神となった日田殿	民話・伝承		桂林
9	仏壇に入った大入道	民話・伝承		桂林
10	キツネと産婆さん	民話・伝承		日隈
11	伽藍堂(がらんどう)の美人	民話・伝承		日隈
12	緒方吉兵衛と日本左衛門	民話・伝承		日隈
13	河童と嫁女	民話・伝承		日隈
14	亀翁山の亀	民話・伝承		日隈
15	横矢地蔵	民話・伝承		若宮
16	砂掛け地蔵	民話・伝承		若宮
17	人助けの棕の木	民話・伝承		若宮
18	小淵(こぶち)の大亀	民話・伝承		三芳
19	鬼塚	民話・伝承		三芳
20	恵良堂観音の由来	民話・伝承		三芳
21	鏡坂の由来	民話・伝承		高瀬
22	カッパのたたり	民話・伝承		高瀬
23	銭淵の由来	民話・伝承		高瀬
24	銭淵の不思議	民話・伝承		高瀬
25	五郎ヶ淵の大マス	民話・伝承		高瀬
26	狐に化かされた百さん	民話・伝承		高瀬
27	雀が燕を助けた話	民話・伝承		高瀬
28	西の山の毒蛇	民話・伝承		光岡
29	木淵の由来	民話・伝承		朝日
30	墓石を抱かされた話	民話・伝承		朝日
31	狸にかたきをとられた坊さま	民話・伝承		朝日
32	才田芹(さいたぜり)と鍋清	民話・伝承		朝日
33	袋地蔵さまの話	民話・伝承		三花
34	さらわれた子ども	民話・伝承		三花
35	藤山の恒雄	民話・伝承		三花
36	髪掛けの松ふかや	民話・伝承		西有田

No	名称	種別	地区
37	髪掛けの松	民話・伝承	西有田
38	河童踊りの起こり	民話・伝承	西有田
39	すいで淵	民話・伝承	西有田
40	一尺八寸山（みおやま）のお話し	民話・伝承	西有田
41	諸富どんと弁財天	民話・伝承	東有田
42	大蛇が池	民話・伝承	東有田
43	山姥（やまんば）の墓	民話・伝承	東有田
44	民話 羽田殿水	民話・伝承	東有田
45	民話 諸留どんと弁財天	民話・伝承	東有田
46	民話 山姥の墓	民話・伝承	東有田
47	民話 主人を守った犬	民話・伝承	東有田
48	羽田殿水	民話・伝承	東有田
49	情死淵	民話・伝承	小野
50	ネギなしの里	民話・伝承	小野
51	山ん神さまの御神木の由来	民話・伝承	大鶴
52	鷹と湖の伝説	民話・伝承	大鶴・夜明
53	大使の投げ筆	民話・伝承	夜明
54	関小学校校歌	民話・伝承	夜明
55	旧夜明小学校校歌	音楽	夜明
56	旧夜明小学校校旗	音楽	夜明
57	旧夜明中学校校歌	音楽	夜明
58	石井の大明神石	民話・伝承	五和
59	原の長者（穴観音古墳）	民話・伝承	五和
60	日輪さま	民話・伝承	前津江
61	柳田長者とこつむれ長者	民話・伝承	前津江
62	かえるの嫁とり	民話・伝承	前津江
63	蛇淵	民話・伝承	前津江
64	御前嶽の天狗	民話・伝承	前津江
65	猿の嫁ご	民話・伝承	前津江
66	釈迦嶽のお釈迦様	民話・伝承	前津江
67	ちんたんゴロゴロ	民話・伝承	前津江
68	ほととぎす	民話・伝承	前津江
69	弥太郎淵	民話・伝承	前津江
70	腰の曲がったアブラメ	民話・伝承	中津江
71	永瀬の夫婦蛇	民話・伝承	中津江
72	地づき歌（石づき歌）	音楽	上津江
73	田植歌	音楽	上津江
74	茶山歌	音楽	上津江
75	どっこいせ節	音楽	上津江
76	盆踊り歌	音楽	上津江
77	大ばく宗	音楽	大山
78	烏宿太鼓	音楽	大山
79	堂の渦（どんうず）	民話・伝承	大山
80	烏宿山と殿山の話	民話・伝承	大山
81	千丈淵に潜った男	民話・伝承	大山
82	千丈淵の深さ	民話・伝承	大山
83	千丈淵の竜神様	民話・伝承	大山
84	竜神様の乳貰い	民話・伝承	大山
85	田中長者	民話・伝承	大山

No	名称	種別	地区
86	汗入場天満宮の神隠し	民話・伝承	大山
87	大蛇の仕返し	民話・伝承	大山
88	山下の児抱かしゅう	民話・伝承	大山
89	横田の稲荷様	民話・伝承	大山
90	亀のベロ石	民話・伝承	大山
91	茶壺ヶ池	民話・伝承	大山
92	あたご様神社	民話・伝承	大山
93	河童伝承	民話・伝承	大山
94	亀山と金毘羅山	民話・伝承	大山
95	狐ゴウヤ	民話・伝承	大山
96	木登り名人おはぜ十	民話・伝承	大山
97	熊谷淵	民話・伝承	大山
98	白蛇伝説(1)	民話・伝承	大山
99	たのくちじっさん	民話・伝承	大山
100	ひびき猿	民話・伝承	大山
101	星ヶ淵	民話・伝承	大山
102	役の行者と霊芝の話	民話・伝承	大山
103	矢野家伝説	民話・伝承	大山
104	五馬駄賃取り唄	民話・伝承	天瀬
105	顕徳坊尊の由来	民話・伝承	天瀬
106	五馬駄賃取歌	民話・伝承	天瀬
107	辛抱くらべ	民話・伝承	天瀬
108	土蜘蛛伝承	民話・伝承	天瀬
109	湯仏様	民話・伝承	天瀬
110	貝津ヶ池	民話・伝承	天瀬町
111	大酒のみの大蛇	民話・伝承	天瀬町
112	主人を守った犬	民話・伝承	有田
113	姥淵の話	民話・伝承	
114	浦の老松神社	民話・伝承	
115	酒呑童子寺	民話・伝承	
116	鉄砲の名人	民話・伝承	
117	ドジな狸の話	民話・伝承	
118	人切り谷の由来	民話・伝承	
119	六十淵	民話・伝承	
120	今にも石	民話・伝承	日田市
121	怪力日田殿	民話・伝承	日田市
122	けちん坊の庄屋様	民話・伝承	日田市
123	コヒナの尻がまるいわけ	民話・伝承	日田市
124	塩鯖を盗った狸	民話・伝承	日田市
125	日田邪馬台国説	民話・伝承	日田市
126	湖水伝承	民話・伝承	日田市・大山
127	「日鷹伝説」	民話・伝承	日田市内
128	日田のはじまり	民話・伝承	日田市内
129	あずき洗い	民話・伝承	日田市内
130	あめを買いにくるゆうれい	民話・伝承	日田市内
131	和尚さんはカラス	民話・伝承	日田市内
132	カッパのはなし	民話・伝承	日田市内
133	雉谷(きじや)天満宮のおこり	民話・伝承	上津江
134	江戸時代のメコロシ(女殺し)の話	民話・伝承	

No	名称	種別	地区
135	酒呑童子山の伝説	民話・伝承	
136	杵胴（きねずう）	民話・伝承	日田市内
137	里のみやげ	民話・伝承	日田市内
138	猿の恩返し	民話・伝承	日田市内
139	蕎麦（そば）の茎の赤いわけ	民話・伝承	日田市内
140	武市と武助（その三）その三「茶、栗、柿、す」	民話・伝承	日田市内
141	武市と武助「ぶす喰た」	民話・伝承	日田市内
142	鉄砲の名人（その1）	民話・伝承	日田市内
143	にだ待ち	民話・伝承	日田市内
144	屁ひり嫁ご	民話・伝承	日田市内
145	利蔵ばなし	民話・伝承	日田市内

■有形民俗文化財

No	名称	種別	地区
1	老松酒造の鍔絵		大鶴
2	鯛生金山：石風呂		中津江
3	大黒様のかるいひも		中津江
4	石風呂（個人宅）		中津江
5	津江神社注連縄		中津江

■無形民俗文化財

No	名称	種別	地区
1	十日恵比須祭	祭り	咸宜
2	初午祭	祭り	咸宜
3	もぐらうち	年中行事	咸宜
4	塩谷代官の供養祭	祭り	桂林
5	亀山公園桜まつり	祭り	日隈
6	恵比寿様まつり	祭り	高瀬
7	五條殿大祭	祭り	高瀬
8	鷲替え	祭り	高瀬
9	石坂石畳ウォーキング	祭り	三花
10	ウソ替え	祭り	西有田
11	祇園社祭り	祭り	西有田
12	佐寺観世音菩薩 御開帳	祭り	西有田
13	坂本伯耆守鑑次の墓	祭り	西有田
14	毘沙門天祭	祭り	西有田
15	蕪観音花祭り	祭り	西有田
16	もぐらうち	年中行事	東有田
17	霜付け祭り	祭り	夜明
18	二百十日の祭り（風止め）	祭り	夜明
19	夜明上町ウォーキング大会	年中行事	夜明
20	有王社の河童伝説	年中行事	夜明
21	夜明ふるさと祭り	年中行事	夜明
22	夜明地区体育大会	年中行事	夜明
23	関の盆踊り	年中行事	夜明
24	上町壮年夏祭り	年中行事	夜明
25	川崎地区夏祭り	年中行事	夜明
26	杷木山地区夏祭り	年中行事	夜明
27	夜明地区駅伝大会	年中行事	夜明
28	志賀神社のおくんち相撲	年中行事	夜明

No	名称	種別	地区
29	宮地嶽様祭り	年中行事	夜明
30	丑様(うしさま・うっさま)祭り	年中行事	夜明
31	関様祭り	年中行事	夜明
32	鬼火焚き	年中行事	夜明
33	豊前坊様	年中行事	夜明
34	庚申祭り	年中行事	夜明
35	松尾神社(キノウさま)祭り	年中行事	五和
36	生目八幡祭	年中行事	五和
37	お観音様祭り	年中行事	前津江
38	田代神社(山岳信仰)の岩屋へのおこもり	年中行事	前津江
39	大野村音楽之由来	年中行事	前津江
40	赤石村音楽之由来	年中行事	前津江
41	入庭楽略縁起(田代楽)	年中行事	前津江
42	宿ヶ峰不動尊祭	年中行事	中津江
43	巢山弘法大師祭	年中行事	中津江
44	鯛生金山:金山祭	年中行事	中津江
45	更衣祭	年中行事	中津江
46	ご正己	年中行事	中津江
47	歳神祭り	年中行事	中津江
48	霜月祭り	年中行事	中津江
49	九月祭り	年中行事	中津江
50	稲荷祭り	年中行事	中津江
51	荒神祭り	年中行事	中津江
52	山神信仰(山神像)	年中行事	中津江
53	山神まつり	年中行事	中津江
54	水神信仰	年中行事	中津江
55	大師信仰	年中行事	中津江
56	地藏信仰	年中行事	中津江
57	観音信仰	年中行事	中津江
58	鬼火焚き	年中行事	中津江
59	鉄砲の名人 小川原久作物語	年中行事	上津江
60	浦の老松神社の祭典	年中行事	上津江
61	川原祭(大神宮)	年中行事	上津江
62	雉谷天満宮の祭典	年中行事	上津江
63	観音祭り	年中行事	上津江
64	庚申祭	年中行事	上津江
65	山ン神祭り	年中行事	上津江
66	白草の多聞天神社の祭り	年中行事	上津江
67	ご正忌	年中行事	上津江
68	お大師様	年中行事	上津江
69	八朔の節句	年中行事	上津江
70	風止め祭り	年中行事	上津江
71	霜月祭り	年中行事	上津江
72	山入り	年中行事	上津江
73	撫籍祭	年中行事	上津江
74	宮木氏(木地屋)伝説	年中行事	上津江
75	相垣(白草)伝説	年中行事	上津江
76	津江殿の墓伝説	年中行事	上津江
77	小川原久作の伝説	年中行事	上津江
78	六十淵	年中行事	上津江

No	名称	種別	地区
79	アンノ石	年中行事	上津江
80	酒吞童子寺（寒巖和尚）	年中行事	上津江
81	天神塚	年中行事	上津江
82	人斬り谷	年中行事	上津江
83	ヤンボシ（山伏）さまとうしろ飛び岩	年中行事	上津江
84	兵戸山「ちち石」の由来	年中行事	上津江
85	酒吞童子太鼓	音楽	上津江
86	おこよ浏	年中行事	上津江
87	豆生野神楽	年中行事	上津江
88	ヨド相撲	年中行事	大山
89	お釈迦様祭り	年中行事	大山
90	お薬師様まつり	年中行事	大山
91	小五馬霜月まつり	年中行事	大山
92	人形浄瑠璃	年中行事	大山
93	裸参り	年中行事	大山
94	水神様	年中行事	大山
95	山神様	年中行事	大山
96	天神様	年中行事	大山
97	稻荷様	年中行事	大山
98	金比羅様	年中行事	大山
99	更新様	年中行事	大山
100	サヤ（塞）の神様	年中行事	大山
101	牛馬神様	年中行事	大山
102	シシ神様	年中行事	大山
103	大師様	年中行事	大山
104	地藏様	年中行事	大山
105	薬師様	年中行事	大山
106	観音様	年中行事	大山
107	荒神様	年中行事	大山
108	地金神様	年中行事	大山
109	川原のやまたて行事	年中行事	天瀬
110	塚田ひよっとこ踊り	年中行事	天瀬
111	天ヶ瀬温泉まつり	年中行事	天瀬
112	彼岸花と案山子まつり	年中行事	天瀬
113	遊花祭	年中行事	天瀬
114	荒神	信仰	
115	山岳と修験道	信仰	
116	鬼火焚き	年中行事	
117	牛馬祭り	年中行事	
118	庚申様（道案内の神様）	年中行事	

■記念物（史跡）

No	名称	種別	地区
1	筑後軌道転車台跡	史跡	咸宜
2	月隈公園 防空壕	史跡	桂林
3	桂林園跡	史跡	桂林
4	筑後軌道跡	史跡	日隈
5	鬼塚（おんづか）	史跡	若宮
6	鬼塚	史跡	三芳
7	大井手堰跡	史跡	三芳

No	名称	種別	地区
8	雪来館（廣瀬旭荘の隠居所）	史跡	三芳
9	牧原の古戦場	史跡	三芳
10	鬼ヶ城	史跡	高瀬
11	普門寺	史跡	高瀬
12	鏡坂の腰掛け石	史跡	高瀬
13	穴井六郎右衛門処刑場所 浄明寺河原	史跡	光岡
14	羽野城跡	史跡	三花
15	藤山城跡	史跡	三花
16	龍川寺 穴井六郎右衛門の墓	史跡	三花
17	竜体山の舟つなぎ石	史跡	三花
18	荷付け石	史跡	西有田
19	懐良親王退路	史跡	西有田
20	諫山菽邨の墓	史跡	西有田
21	原の城跡	史跡	西有田
22	水目隧道	史跡	西有田
23	尾当殿の墓	史跡	西有田
24	蕪山城跡	史跡	西有田
25	東有田の舟つなぎ石	史跡	東有田
26	日田どんの墓	史跡	大鶴
27	ばば坂	史跡	夜明
28	北山権現	史跡	夜明
29	川崎地区の渡し場跡	史跡	夜明
30	荒瀬地区の渡し場跡	史跡	夜明
31	伏尾井手	史跡	夜明
32	祝原井手	史跡	夜明
33	高野井手	史跡	夜明
34	高瀬井手	史跡	夜明
35	ちりんからんどぶん（井戸）	史跡	夜明
36	森山家古井戸	史跡	夜明
37	関浜蔵所跡	史跡	夜明
38	代官道路：祝原地区	史跡	夜明
39	代官道路：杷木山地区	史跡	夜明
40	関町浜の築場跡	史跡	夜明
41	大使の投げ筆	史跡	夜明
42	小畑の舟つなぎ石	史跡	五和
43	逆谷橋 筑後軌道	史跡	五和
44	藩境石	史跡	前津江
45	領地争いの跡	史跡	前津江
46	経塚	史跡	前津江
47	雪ヶ嶽城跡	史跡	前津江
48	菊池道	史跡	前津江
49	往還道肥後路の石畳	史跡	大山
50	前津江の長谷部氏の末裔の墓	史跡	大山
51	女子畑発電所と隧道（隧道）	史跡	天瀬
52	伊能忠敬宿泊の地	史跡	天瀬
53	田北紹鉄夫人の墓	史跡	天瀬
54	顕徳坊	史跡	天瀬
55	長春堂之墓	史跡	天瀬
56	肝等屯倉址	史跡	天瀬
57	猪嶽の蔵所跡	史跡	天瀬

No	名称	種別	地区
58	義民穴井六郎右衛門生誕の地	史跡	天瀬
59	長三洲生誕の地	史跡	天瀬
60	ふろん谷	史跡	天瀬
61	義民飯田総治郎之碑	史跡	天瀬
62	曾田の台の石畳	史跡	天瀬
63	石畳と往還道	史跡	天瀬
64	堀割	史跡	大山
65	赤岩（綿打集落前）（再掲）	史跡	大山
66	つばめ石	史跡	大山
67	中津尾観音堂の経文小石	史跡	大山
68	御前岳の舟のつなぎ石（鼻グリ岩）	史跡	前津江
69	御前岳の腰掛け岩	史跡	前津江
70	御前岳、岩屋洞窟	史跡	前津江
71	馬原の舟つなぎ石	史跡	天瀬
72	鞍形の霊石	史跡	天瀬

■記念物（名勝）

No	名称	種別	地区
1	大原神社、ひょうたん池	名勝	咸宜
2	日隈山	名勝	日隈
3	新高野山	名勝	三芳
4	星隈山	名勝	光岡
5	一尺八寸山	名勝	西有田
6	佐寺の滝	名勝	西有田
7	柴尾清水	名勝	西有田
8	正福寺の紅葉	名勝	東有田
9	風吹の滝	名勝	小野
10	英彦山	名勝	小野
11	岳滅鬼山	名勝	小野
12	紫雲台からの眺望	名勝	大鶴
13	畦倉山	名勝	大鶴
14	大肥川沿いの桜並木	名勝	大鶴
15	伊藤家の鶴亀の池	名勝	大鶴
16	雪舟の池	名勝	大鶴
17	名本山	名勝	大鶴
18	親水公園	名勝	大鶴
19	田の原公園	名勝	大鶴
20	天狗岩	名勝	夜明
21	三日月山	名勝	夜明
22	森山家庭園	名勝	夜明
23	夜明の山々・自然	名勝	夜明
24	山手川溪谷	名勝	前津江
25	北川溪谷と北川蛇淵（前津江村）	名勝	前津江
26	大傘田池（田来原池）	名勝	前津江
27	小畑溪谷（大字柚木）	名勝	前津江
28	北川蛇淵	名勝	前津江
29	木弓の滝	名勝	前津江
30	田代の滝（権現の滝）	名勝	前津江
31	弥太郎淵	名勝	前津江
32	梅野川溪谷	名勝	中津江

No	名称	種別	地区
33	蛇尾山（地蔵）	名勝	中津江
34	祝川の滝	名勝	中津江
35	御所の滝	名勝	中津江
36	葛滝	名勝	上津江
37	日輪さまの湧水	名勝	前津江
38	御前岳湧水	名勝	前津江
39	空谷	名勝	大山
40	上野溪谷（大山町）	名勝	大山
41	つぶろ淵	名勝	大山
42	紅葉谷	名勝	大山
43	熊笹淵	名勝	大山
44	ドロ淵	名勝	大山
45	藤木谷	名勝	大山
46	響溪谷	名勝	大山
47	馬落し	名勝	大山
48	大滝（再掲）	名勝	大山
49	川原淵	名勝	大山
50	吾々路溪谷	名勝	大山
51	笹谷	名勝	大山
52	さぶたん淵	名勝	大山
53	仙頭淵	名勝	大山
54	谷川	名勝	大山
55	タブノキ迫	名勝	大山
56	マンガ迫	名勝	大山
57	三洲峡	名勝	天瀬
58	慈恩の滝	名勝	天瀬
59	夕日の滝	名勝	天瀬
60	楓葉の滝	名勝	天瀬
61	桜滝	名勝	天瀬
62	楓葉の滝	名勝	天瀬
63	観音の滝	名勝	天瀬
64	観音の滝	名勝	天瀬
65	桜滝	名勝	天瀬
66	曾田の池	名勝	天瀬
67	曾田の台	名勝	天瀬
68	杉河内溪谷	名勝	天瀬
69	夕日の滝	名勝	天瀬
70	亀石峠の眺望	名勝	天瀬
71	赤岩滝	名勝	天瀬
72	慈恩の滝	名勝	天瀬
73	杉河内溪谷	名勝	天瀬町
74	三州峡	名勝	天瀬町
75	春堂峡	名勝	天瀬町

■記念物（天然記念物）

No	名称	種別	地区
1	特攻イチョウの木	天然記念物 樹木	日隈
2	人助けのムクの木	天然記念物 樹木	若宮
3	禊の森	天然記念物 樹木	三芳
4	タブの木	天然記念物 樹木	東有田

No	名称	種別		地区
5	せんだんの木	天然記念物	樹木	東有田
6	丸山自然保護林	天然記念物	樹木	大鶴
7	空楽寺の萱の木	天然記念物	樹木	大鶴
8	堂迫自然保護林	天然記念物	樹木	大鶴
9	夜明温泉	天然記念物	温泉	夜明
10	院の塔（大岩）	天然記念物	樹木	夜明
11	杷木山梨の原木	天然記念物	樹木	夜明
12	夜明の櫻（2011）	天然記念物	樹木	夜明
13	夜明の梨	天然記念物	樹木	夜明
14	閑蝟	天然記念物	生物	夜明
15	星払の水神杉	天然記念物	樹木	前津江
16	柚木老松神社の門杉	天然記念物	樹木	前津江
17	赤石川鍊石群（鉦山跡）	天然記念物	鉦物	前津江
18	神木	天然記念物	樹木	前津江
19	鯛生金山	天然記念物	鉦物	中津江
20	大山産黒曜石	天然記念物	鉦物	大山
21	旧役場前の大銀杏	天然記念物	樹木	大山
22	小五馬天満宮のイチイ	天然記念物	樹木	大山
23	小五馬天満宮のケンボナシ	天然記念物	樹木	大山
24	烏宿神社の大杉	天然記念物	樹木	大山
25	赤岩金山跡	天然記念物	鉦物	天瀬
26	杉河内溪谷のカワノリ	天然記念物	生物	天瀬
27	杉河内溪谷のサンショウウオ	天然記念物	生物	天瀬
28	出羽薬師堂の銀杏	天然記念物	樹木	天瀬
29	西山神社の森	天然記念物	樹木	天瀬
30	顕徳坊尊に磁気帯びた岩	天然記念物	岩石	天瀬
31	湖跡の地層	天然記念物	岩石	天瀬
32	天瀬の六瀑	天然記念物	滝	天瀬
33	八本木 櫟(クヌギ)群	天然記念物	樹木	天瀬
34	曾田の池の湿原群落	天然記念物	湖沼	天瀬
35	亀石山ミヤマキリシマ群落	天然記念物	樹木	天瀬

■文化的景観

No	名称	種別		地区
1	月出山棚田			東有田
2	山際の棚田			大鶴
3	中村の棚田			大鶴
4	夜明大橋の景観			夜明

■その他

No	名称	種別		地区
1	町の境界線に紙の御札を立てる			高瀬
2	（石坂）石畳道の下の川に若い男が裸で入る神事			三花
3	老松酒造			大鶴
4	三十六禽形			前津江
5	久留島藩主巡察通行			西有田
6	高射砲の残骸			西有田
7	尾当殿			西有田
8	明治維新の丸山布政所管轄			西有田
9	葛原遺跡			西有田

No	名称	種別		地区
10	佐寺観世音菩薩			西有田
11	井上正之			大鶴
12	下笠ダム			中津江
13	蜂の巣城攻防戦			中津江
14	笹尾八十八か所			天瀬
15	竹槍騒動			天瀬
16	進撃の巨人			全域
17	天神ガ尾			不明
18	日田の底霧	気象現象		全域

3. 刊行物一覧表

■大分県文化財調査報告（発行：大分県教育委員会）

No	書名	発行年
1	大分県文化財調査報告書 第14輯 大分県の民俗芸能（一）	昭和42（1967）年
2	大分県文化財調査報告 第22・23輯 天瀬町赤岩 玖珠町北山田の民俗—玖珠川ダム水没地区民俗資料緊急調査—	昭和46（1971）年
3	大分県文化財調査報告書 第43輯 前津江の文化財	昭和55（1980）年
4	大分県文化財調査報告書 第44輯 続・大分県の民俗地図	昭和55（1980）年
5	大分県文化財調査報告 第51輯 日田郡の文化財	昭和56（1981）年
6	大分県文化財調査報告 第57輯 永山布政所路（Ⅰ） 豊後高松—日田—歴史の道調査報告書—	昭和57（1982）年
7	大分県文化財調査報告 第59輯 永山布政所路（Ⅱ） 四日市—日田—歴史の道調査報告書—	昭和57（1982）年
8	大分県文化財調査報告 第61輯 名勝耶馬溪—名勝耶馬溪保存管理計画策定調査報告書—	昭和57（1982）年
9	大分県文化財調査報告 第66輯 天領日田の文化財	昭和59（1984）年
10	大分県文化財調査報告 第68輯 大分県の民謡	昭和60（1985）年
11	大分県文化財調査報告 第72輯 岡城路—歴史の道調査報告—	昭和61（1986）年
12	大分県文化財調査報告 第85輯 慈眼山遺跡（A地区） 日田市教職員住宅改築工事に伴う発掘調査報告書	平成3（1991）年
13	大分県日田市所在遺跡発掘調査報告 北友田横穴	平成5（1993）年
14	大分県文化財調査報告書 第92輯 大分の装飾古墳	平成7（1995）年
15	大分県文化財調査報告書 第94集 徳瀬遺跡 日田市県営住宅改築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書	平成8（1996）年
16	大分県文化財調査報告書 第98輯 三和教田遺跡C地点 県道大鶴熊取線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	平成9（1997）年
17	大分県文化財報告書 第112輯 尾漕遺跡（第2次調査区・第5次調査区）—局部改良求来里川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査書—	平成12（2000）年
18	大分県文化財報告書 第116輯 大波羅遺跡 大分地方法務局日田支局新営に伴う埋蔵文化財発掘調査	平成13（2001）年
19	大分県文化財調査報告書 第148輯 大分の中世城館 第一集 文献資料編Ⅰ	平成14（2002）年
20	大分県文化財調査報告書 第161輯 大分の中世城館 第三集 地名表・分布図編	平成15（2003）年
21	大分県文化財調査報告書 第170輯 大分の中世城館 第四集 総論編	平成16（2004）年
22	大分の中世城館 別冊 総合索引	平成16（2004）年

No	書名	発行年
23	大分県文化財調査報告書 第177輯 名勝耶馬溪保存管理計画報告書	平成23(2011)年
24	大分県文化財調査報告書 第178集 大分県の近代和風建築—大分県近代和風建築総合調査報告書—	平成25(2013)年

■大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告（発行：大分県教育庁埋蔵文化財センター）

No	書名	発行年
1	大分県教育庁埋蔵文化財センター文化財調査報告書 第5集 北友田横穴墓群—片山地区急傾斜地崩壊対策工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	平成17(2005)年
2	大分県教育庁埋蔵文化財センター文化財調査報告 第31集 一級河川求来里川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	平成20(2008)年
3	大分県教育庁埋蔵文化財センター文化財調査報告書 第36集 葛原遺跡 内陸工業用地（日田市三ノ宮地区）造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	平成21(2009)年
4	大分県教育庁埋蔵文化財センター文化財調査報告書 第37集 羽野横穴墓群 天神地区急傾斜砂防対策事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	平成21(2009)年
5	大分県教育庁埋蔵文化財センター文化財調査報告書 第55集 慈眼山遺跡 国家公務員合同宿舎（日田住宅）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	平成23(2011)年
6	大分県教育庁埋蔵文化財センター文化財調査報告書 第56集 塚本遺跡 石松川総合流域防災事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	平成23(2011)年
7	大分県教育庁埋蔵文化財センター文化財調査報告書 第70集 大分の中世石造遺物 第1集 分布図・地名表編（上）	平成25(2013)年
8	大分県教育庁埋蔵文化財センター文化財調査報告書 第78集 大分の中世石造遺物 第2集 分布図・地名表編（中）	平成26(2014)年
9	大分県教育庁埋蔵文化財センター文化財調査報告書 第85集 大分の中世石造遺物 第3集 分布図・地名表編（下）	平成27(2015)年
10	大分県教育庁埋蔵文化財センター文化財調査報告書 第91集 大分の中世石造遺物 第4集 写真図版編	平成28(2016)年
11	大分県教育庁埋蔵文化財センター文化財調査報告書 第97集 大分の中世石造遺物 第5集 総括編	平成29(2017)年
12	大分県教育庁埋蔵文化財センター文化財調査報告書 第97集 大分の中世石造遺物 第5集別冊（拓影編）	平成29(2017)年
13	大分県立埋蔵文化財センター 研究紀要 2	平成31(2019)年

■大分県埋蔵文化財年報

(発行：1～7 大分県教育委員会、8～11 大分県教育庁文化課、12～21 大分県教育庁埋蔵文化財センター)

No	書名	発行年
1	大分県埋蔵文化財年報 1 —平成 3 (1991) 年度—	平成 5 (1993) 年
2	大分県埋蔵文化財年報 3 —平成 5 (1993) 年度版—	平成 7 (1995) 年
3	大分県埋蔵文化財年報 4 —平成 6 (1994) 年度版—	平成 8 (1996) 年
4	大分県埋蔵文化財 5 —平成 7 年 (1995) 年度版—	平成 9 (1997) 年
5	大分県埋蔵文化財 6 —平成 8 年 (1996) 年度版—	平成 10 (1998) 年
6	大分県埋蔵文化財年報 7 —平成 9 (1997) 年度版—	平成 11 (1999) 年
7	大分県埋蔵文化財年報 8 平成 10 年 (1998) 年度版	平成 12 (2000) 年
8	大分県埋蔵文化財年報 9 平成 11 (1999) 年度版 (平成 12 年度)	平成 13 (2001) 年
9	大分県埋蔵文化財年報 10 平成 12 (2000) 年度版	平成 14 (2002) 年
10	大分県埋蔵文化財年報 11 平成 13 (2001) 年度版	平成 15 (2003) 年
11	大分県埋蔵文化財年報 12 平成 14 (2002) 年度版	平成 16 (2004) 年
12	大分県埋蔵文化財年報 13 平成 15 (2003) 年度版	平成 17 (2005) 年
13	大分県埋蔵文化財年報 (平成 16 年度版)	平成 18 (2006) 年
14	大分県埋蔵文化財年報 15 (平成 17 年度のまとめ)	平成 19 (2007) 年
15	大分県埋蔵文化財年報 16 (平成 18 年度まとめ)	平成 20 (2008) 年
16	大分県埋蔵文化財年報 17 (平成 19 年度のまとめ)	平成 21 (2009) 年
17	大分県埋蔵文化財年報 18 (平成 20 年度のまとめ)	平成 22 (2010) 年
18	大分県埋蔵文化財年報 19 (平成 21 年度のまとめ)	平成 23 (2011) 年
19	大分県埋蔵文化財年報 20 (平成 22 年度のまとめ)	平成 24 (2012) 年
20	大分県埋蔵文化財年報 21 (平成 23 年度のまとめ)	平成 25 (2013) 年
21	大分県埋蔵文化財年報 22 (平成 24 年度のまとめ)	平成 26 (2014) 年

■九州横断自動車道建設に伴う調査 (発行：1～4 大分県教育委員会・日本道路公団、5～12 大分県教育委員会)

No	書名	発行年
1	九州横断自動車道建設に伴う発掘調査概報	昭和 59 (1984) 年
2	九州横断自動車道建設に伴う発掘調査概報	昭和 60 (1985) 年
3	九州横断自動車道建設に伴う発掘調査概報	昭和 61 (1986) 年
4	九州横断自動車道建設に伴う調査概報—日田地区—	昭和 62 (1987) 年
5	九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書 (1) 草場第二遺跡	平成元 (1989) 年
6	九州横断道関係埋蔵文化財発掘調査報告書 (3) 小迫墳墓群	平成 7 (1995) 年
7	九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書 (4)	平成 7 (1995) 年

No	書名	発行年
8	九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(6) 日田条理遺跡群 佐寺横穴墓群 大迫遺跡 白岩遺跡 下綾垣遺跡	平成9(1997)年
9	九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(9) 佐寺原遺跡 尾漕遺跡群 有田塚ヶ原古墳群	平成10(1998)年
10	九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(14) 夕田遺跡群	平成11(1999)年
11	九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(18) 後迫遺跡	平成13(2001)年
12	九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査(県境～大分間) 総集編 豊後への道	平成13(2001)年

■一般国道210号日田バイパス建設に伴う調査(発行:大分県教育委員会)

No	書名	発行年
1	一般国道210号日田バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報	平成2(1990)年
2	一般国道210号日田バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報Ⅱ 誠和神社裏遺跡 陣が原辻原遺跡 上野第1遺跡東原地区	平成3(1991)年
3	一般国道210号日田バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報Ⅴ 上野第1遺跡(平原地区・米田地区) 上野第2遺跡 手崎遺跡(2・3次)	平成6(1994)年
4	一般国道210号日田バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ 日田市高瀬遺跡群の調査1 誠和神社裏遺跡 後藤家墓地 陣ヶ原辻原遺跡 高瀬深ノ田遺跡	平成7(1995)年
5	一般国道210号日田バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ 日田市高瀬遺跡群の調査2 手崎遺跡 大部遺跡	平成10(1998)年
6	一般国道210号日田バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ 日田市高瀬遺跡群の調査3 上野第1遺跡	平成13(2001)年
7	一般国道210号日田バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ 日田市高瀬遺跡群の調査4 寺内遺跡 上野第2遺跡	平成14(2002)年

■その他文化財概要調査報告書(発行:1~6大分県教育委員会、7日田市教育委員会)

No	書名	発行年
1	日田市羽野横穴墓群発掘調査概報	昭和60(1985)年
2	大分県内遺跡詳細分布調査概報6	昭和62(1987)年
3	昭和62年度 大分県内遺跡詳細分布調査概報7	昭和63(1988)年
4	大分県内遺跡詳細分布調査概報8	平成元(1989)年
5	大分県内遺跡詳細分布調査概報10	平成3(1991)年
6	大分県内遺跡発掘調査概報Ⅰ	平成5(1993)年
7	永山城跡Ⅱ 発掘調査概要報告書	平成25(2013)年

■大分県の文化財（発行：大分県教育委員会）

No	書名	発行年
1	続 大分県の文化財	昭和 44（1969）年
2	大分県の文化財	昭和 46（1971）年
3	大分県の文化財	平成 3（1991）年

■各種文化財関係刊行物

（発行：1・2 中津江村教育委員会、3 九州歴史資料館、4 日田方言研究会（日田弁保存会）、5 大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館、6～8 日田市教育委員会、9 文化庁文化財部伝統文化課、10・11 大分県生活環境部自然保護推進室）

No	書名	発行年
1	宮園神社のまつり	—
2	伝来寺庭園調査報告書	昭和 43（1968）年
3	九州の寺社シリーズ 3 -九州歴史資料館- 豊後日田岳林寺	昭和 54（1979）年
4	ひたの方言	平成 5（1993）年
5	大分県祭礼行事民俗調査報告書 大分県立宇佐風土記の丘 歴史民俗資料館報告書第 16 集 大分県の祭礼行事	平成 7（1995）年
6	日田豆田町一日田市豆田町伝統的建造物群保存対策調査報告	平成 16（2004）年
7	日田豆田町一日田市豆田町伝統的建造物群保存地区概要	平成 17（2005）年
8	日田の鵜飼	平成 22（2010）年
9	平成 23 年度 変容の危機にある無形の民俗文化財の記録作成の推進事業 大原八幡宮の米占い行事	平成 24（2012）年
10	天然記念物緊急調査（動物・植物）報告書 大分県の天然記念物（動物・植物）資料編	令和 2（2020）年
11	天然記念物緊急調査（動物・植物）報告書 大分県の天然記念物（動物・植物）	令和 2（2020）年

■市町村史・誌

（発行：1～7 日田市、8 日田郡前江津村役場、9 中津江村教育委員会、10 上江津村教育委員会、11 大山町、12 天瀬町、13 中江津村、14 日田市長 佐藤陽一）

No	書名	発行年
1	日田市十年史	昭和 27（1952）年
2	日田市二十年史	昭和 38（1963）年
3	日田市五十年史	平成 5（1993）年
4	日田市六十年史	平成 14（2002）年
5	前津江村誌（続編）	平成 23（2011）年
6	日田市七十年史	平成 25（2013）年
7	日田市八十年史	令和 4（2022）年

No	書名	発行年
8	前津江村史	昭和 54 (1979) 年
9	中津江村誌	平成元 (1989) 年
10	上津江村誌	平成 4 (1992) 年
11	大山町誌	平成 7 (1995) 年
12	天瀬町誌 明日への礎	平成 17 (2005) 年
13	中津江村誌 (続編)	平成 17 (2005) 年
14	大山町誌続編	平成 23 (2011) 年

■地域誌等刊行物

(発行：5 矢野周蔵、7 津江の歴史を知る会、8 天瀬町教育委員会、9～15 中津江村教育委員会、16～20 前津江村教育委員会、21 亀山町誌編集委員 代表 彌永広次、22 財津町誌編さん委員 委員長 諫本一秀、23 日田市教育委員会・高瀬公民館、24 梶原喜美雄、25 日田市五和公民館、26・27 十二町史編集委員会、28 大蔵友三郎、29 玉川町誌編集事務局、30 天瀬町大字女子畑 高瀬茂、31 三花郷土史誌づくり委員会、32 郷土大鶴誌編集委員会、33 下井手長寿会、34 天瀬町教育委員会・天瀬町歴史研究会、35 日田市三花公民館、36 西有田の歴史を学ぶ会、37 朝日地区歴史研究会、38 東有田公民館 館長 松尾俊明 (月出町))

No	書名	発行年
1	前津江 津江史の研究	—
2	津江に於ける勤王遺蹟 附 其他の史蹟	—
3	津江史の研究 珠峯生 編	—
4	日の隈町誌	—
5	津江の歴史と伝説	昭和 38 (1963) 年
6	高瀬村誌	昭和 45 (1970) 年
7	津江ことば	昭和 46 (1971) 年
8	天瀬町の文化財	昭和 49 (1974) 年
9	中津江の文化 第一集	—
10	中津江の文化 第二集	昭和 49 (1974) 年
11	中津江の文化 第三集	昭和 50 (1975) 年
12	中津江の文化 第四集	昭和 51 (1976) 年
13	中津江の文化 第五集	昭和 52 (1977) 年
14	中津江の文化 第六集	昭和 54 (1979) 年
15	ふるさとの文化	昭和 57 (1982) 年
16	前津江の文化財 第一集 民俗文化財	昭和 51 (1976) 年
17	前津江の文化 第四輯 津江殿と一族 付 津江老松社の勧請	昭和 61 (1986) 年
18	前津江の文化財 民俗行事と伝説	昭和 62 (1987) 年
19	前津江の文化 第五集 御前嶽をさぐる	昭和 62 (1987) 年
20	前津江村の石造物—中世・近世—	昭和 63 (1988) 年

No	書名	発行年
21	亀山町誌	昭和 53 (1978) 年
22	財津町誌	昭和 57 (1982) 年
23	昭和 57 年度 高瀬地区青少年地域活動促進事業 郷土 たかせ	昭和 58 (1983) 年
24	伏木近代史	昭和 62 (1987) 年
25	古代石井のロマン 石井周辺の歴史的文化財について	昭和 62 (1987) 年
26	玉垂神社遷宮二百年記念誌 十二町誌	平成元 (1989) 年
27	玉垂神社遷宮二百年記念誌 第二集	平成元 (1989) 年
28	私たちの川原町	平成元 (1989) 年
29	玉川盆踊り口説き記念誌 玉川町誌	平成 4 (1992) 年
30	伝説と郷土史考 女子畑今昔	平成 5 (1993) 年
31	三花風土記	平成 6 (1994) 年
32	郷土大鶴誌	平成 9 (1997) 年
33	長寿会創立 40 年 (会員だより第 100 号) 記念誌 下井手あれこれ	平成 13 (2001) 年
34	史料に学ぶ天瀬の歴史	平成 16 (2004) 年
35	みはなの文化財をめぐる	平成 20 (2008) 年
36	西有田誌	平成 26 (2017) 年
37	朝日の歴史	平成 26 (2017) 年
38	東有田の歴史	平成 30 (2018) 年

■日田市歴史文化関係刊行物

(発行：1 山田精一、2 大蔵庸世、3 帆足コウ、4～13 日田市教育委員会、14 佐藤今朝夫、15 日田市老人クラブ連合会 塩川要蔵、16 日田市立博物館、17 日田市老人クラブ連合会長 木藪順、18 大分大学教育学部、19 重要文化財 行徳家住宅保存修理委員会、20 天瀬町教育委員会、21～23 神津良子、24 上津江村教育委員会、25 日田市小学校社会科研究会、26 山田恭幹)

No	書名	発行年
1	森春樹扇著 豊西説話寫	明治 22 (1889) 年
2	豊西記	昭和 30 (1955) 年
3	日田御役所から日田県へ	昭和 44 (1969) 年
4	日田金石年史 (上巻)	昭和 48 (1973) 年
5	日田金石年史 (下巻)	昭和 48 (1973) 年
6	居館の里 小迫辻原遺跡 大分県日田市	平成 5 (1993) 年
7	水郷日田の鵜飼	平成 22 (2010) 年
8	吹上遺跡リーフレット 重要文化財指定展示	平成 22 (2010) 年
9	日田市の歴史と文化財	平成 24 (2012) 年
10	世界遺産報告書『廣瀬淡窓と咸宜園』-近世日本の学校遺産として-	平成 25 (2013) 年
11	図説 咸宜園-近世最大の私塾-	平成 26 (2017) 年

No	書名	発行年
12	日田市の歴史と文化財<こども版>	平成 31 (2019) 年
13	日田の歴史と史蹟 (附 伝説と物語)	昭和 48 (1973) 年
14	ふるさとの思い出 写真集 明治 大正 昭和 日田	昭和 56 (1981) 年
15	日田神社蒐集録	昭和 58 (1983) 年
16	日田の文化財	昭和 59 (1984) 年
17	日田市寺院等調査録	昭和 62 (1987) 年
18	日田・玖珠地域一自然・社会・教育一	平成 4 (1992) 年
19	重要文化財 行徳家住宅 保存修理工事報告書	平成 3 (1991) 年
20	あまがせの文化財	平成 10 (1998) 年
21	目で見ると 日田・玖珠の 100 年	平成 13 (2001) 年
22	中津・日田・玖珠の歴史	平成 18 (2006) 年
23	保存版 日田・玖珠・九重・由布今昔写真帖	平成 23 (2011) 年
24	上津江の文化財	平成 14 (2002) 年
25	日田の歴史ものがたり	平成 24 (2012) 年
26	写真アルバム 日田・玖珠・九重の昭和	令和 4 (2022) 年

■保存活用計画等 (発行：日田市教育委員会)

No	書名	発行年
1	史跡 小迫辻原遺跡 保存整備基本構想	平成 10 (1998) 年
2	史跡ランドヤ古墳-保存整備基本計画-	平成 23 (2011) 年
3	史跡小迫辻原遺跡 保存管理計画書	平成 23 (2011) 年
4	天然記念物小野川阿蘇4火砕流堆積物及び埋没樹木群保存管理・活用構想	平成 24 (2012) 年
5	史跡「廣瀬淡窓旧宅及び墓」保存管理計画書	平成 27 (2015) 年

■史跡等保存整備事業報告書 (発行：日田市教育委員会)

No	書名	発行年
1	史跡咸宜園跡保存整備事業報告書	平成 28 (2016) 年
2	史跡ランドヤ古墳保存整備事業報告書 I - I 号墳の保存整備報告一	平成 26 (2017) 年

■日田市の文化財調査報告 (発行：大山町)

No	書名	発行年
1	重要文化財 旧矢羽田家住宅保存修理工事報告書	昭和 60 (1985) 年

■文化財所有者による保存修理報告書

(発行：1 重要文化財 大野老松天満社旧本殿修理委員会、2～8 草野義輔、9 真宗大谷派 照雲山 長福寺)

No	書名	発行年
1	重要文化財 大野老松天満社旧本殿修理工事報告書	昭和 59 (1984) 年
2	大分県指定有形文化財 草野家住宅保存修理工事報告書	平成元 (1989) 年
3	大分県指定有形文化財 草野家住宅座敷蔵他 4 棟保存修理工事報告書	平成 12 (2000) 年
4	大分県指定有形文化財 草野家住宅調査報告書	平成 21 (2009) 年
5	大分県指定有形文化財 草野家住宅新座敷(床の間・湯殿及び便所)保存修理工事報告書	平成 21 (2009) 年
6	重要文化財草野家住宅防災計画	平成 23 (2011) 年
7	重要文化財草野家住宅保存活用計画	平成 26 (2014) 年
8	(仮称)重要文化財 草野家住宅ほか 5 棟保存修理工事報告書	令和 4 (2022) 年
9	大分県指定有形文化財 長福寺本堂保存修理工事報告書	平成 18 (2006) 年

■パンフレット・学習教材等 (発行：日田市教育委員会)

No	書名	発行年
1	日田市豆田伝統的建造物群保存地区 ～町並み保存のあらし～	平成 22 (2010) 年
2	天領の香り漂う商家町 日田市豆田伝統的建造物群保存地区 防災まちづくり	平成 22 (2010) 年
3	豆田まちづくり歴史交流館 旧古賀医院診療所棟	平成 26 (2014) 年
4	天領の香り漂う商家町 日田市豆田町 伝統的建造物群保存地区	平成 28 (2016) 年
5	豆田まちづくり歴史交流館 旧船津歯科	平成 28 (2016) 年
6	豆田まちづくり歴史交流館 (日本語、英語、中国語、韓国語版)	令和元 (2019) 年

■その他 (発行：日田市教育委員会)

No	書名	発行年
1	日田市豆田町修理・修景の手引き	平成 17 (2005) 年
2	日田市豆田伝統的建造物群保存地区概要	平成 17 (2005) 年
3	日田市豆田町修理・修景の手引き (改訂版)	平成 21 (2009) 年
4	日田市豆田伝統的建造物群保存地区修理報告書 概要版	平成 24 (2012) 年
5	日田市豆田伝統的建造物群保存地区修理報告書	平成 24 (2012) 年
6	日田市豆田伝統的建造物群保存地区修理報告書 概要版	平成 26 (2017) 年
7	日田市豆田伝統的建造物群保存地区修理報告書	平成 26 (2017) 年
8	日田市豆田伝統的建造物群保存地区修理報告書 概要版	令和 3 (2021) 年
9	日田市豆田伝統的建造物群保存地区修理報告書	令和 3 (2021) 年

■研究紀要（発行：日田市教育委員会）

No	書名	発行年
1	咸宜園教育研究センター 研究紀要 第一号	平成 24 (2012) 年
2	咸宜園教育研究センター 研究紀要 第二号	平成 25 (2013) 年
3	咸宜園教育研究センター 研究紀要 第三号	平成 26 (2014) 年
4	咸宜園教育研究センター 研究紀要 第四号	平成 27 (2015) 年
5	咸宜園教育研究センター 研究紀要 第五号	平成 28 (2016) 年
6	咸宜園教育研究センター 研究紀要 第六号	平成 26 (2017) 年
7	咸宜園教育研究センター 研究紀要 第七号	平成 30 (2018) 年
8	咸宜園教育研究センター 研究紀要 第八号	令和元 (2019) 年
9	咸宜園教育研究センター 研究紀要 第九号	令和 2 (2020) 年
10	咸宜園教育研究センター 研究紀要 第十号	令和 3 (2021) 年

■図録 H23～（発行：日田市教育庁 咸宜園教育研究センター）

No	書名	発行年
1	咸宜園教育研究センター開館一周年記念 特別展 近世の私塾 - 西日本を中心として -	平成 23 (2011) 年
2	廣瀬旭莊没後一五〇年記念事業 「廣瀬旭莊 - 東遊 大坂 池田 -」	平成 24 (2012) 年
3	平成二五年度 咸宜園教育研究センター特別展（秋季企画展） 「九州の私塾と教育～咸宜園とその周辺～」	平成 25 (2013) 年
4	平成二六年度 咸宜園教育研究センター特別展 漢詩人 廣瀬淡窓	平成 26 (2014) 年
5	平成二七年度 咸宜園教育研究センター秋季企画展 「文人の至宝～学芸と硯の世界～」	平成 27 (2015) 年
6	平成二八年度 咸宜園教育研究センター春季企画展 『廣瀬旭莊・敬四郎文庫』 ～旭莊子孫に伝承した史料群～	平成 28 (2016) 年
7	咸宜園開塾二〇〇年記念事業記録集「咸宜園」	平成 31 (2019) 年

■咸宜園関係の保存修理報告書（発行：日田市教育委員会）

No	書名	発行年
1	史跡咸宜園跡秋風庵他保存修理工事報告書－写真図版編－	平成 16 (2004) 年
2	史跡咸宜園跡秋風庵他保存修理工事報告書－発掘調査編－	平成 17 (2005) 年
3	史跡咸宜園跡秋風庵他保存修理工事報告書－本編・建造物編－	平成 18 (2006) 年
4	史跡 咸宜園跡 書蔵庫保存修理報告書	平成 21 (2009) 年

■天瀬町埋蔵文化財調査報告書（発行：天瀬町教育委員会）

No	書名	発行年
1	平草遺跡 大分県日田郡天瀬地区遺跡群発掘調査報告書	昭和 57 (1982) 年
2	宇土遺跡発掘調査報告書	昭和 61 (1986) 年

No	書名	発行年
3	五馬大坪遺跡 大分県日田郡天瀬町五馬所在遺跡の発掘調査報告書	平成元（1989）年
4	塚田の遺跡（写真図版編）－ 県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（その1）－	平成 13（2001）年
5	塚田の遺跡（本文編）－ 県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（その2）－	平成 14（2002）年
6	高瀬Ⅲ遺跡・亀石山遺跡 本編（第1分冊）	平成 15（2003）年
7	高瀬Ⅲ遺跡・亀石山遺跡 資料編1・高瀬Ⅲ遺跡（第2分冊）	平成 15（2003）年
8	高瀬Ⅲ遺跡・亀石山遺跡 資料編2・亀石山遺跡（第3分冊）	平成 15（2003）年
9	高瀬Ⅲ遺跡・亀石山遺跡 分布図編1・高瀬Ⅲ遺跡（第4分冊）	平成 15（2003）年
10	高瀬Ⅲ遺跡・亀石山遺跡 分布図編2・亀石山遺跡（第5分冊）	平成 15（2003）年
11	高瀬Ⅲ遺跡・亀石山遺跡 別編CD集	平成 15（2003）年
12	亀石山遺跡2	平成 17（2005）年

■日田郷土史料（発行：日田市教育委員会）

No	書名	発行年
1	蓬生談 上巻	昭和 33（1958）年
2	蓬生談 下巻 井上家教育振興會 日田郷土史料 第2回配本	昭和 34（1959）年
3	蓬生談 下巻 井上家教育振興會 日田郷土史料 第3回配本	昭和 35（1960）年
4	維新前後に於ける西垂陞の騷擾 井上家教育振興會 日田郷土史料 第4回配本	昭和 36（1961）年
5	諸家文書一 井上家教育振興會 日田郷土史料 第5回配本	昭和 37（1962）年
6	日田俳壇の変遷 上 井上家教育振興會 日田郷土史料 第6回配本	昭和 38（1963）年
7	日田俳壇の変遷 下 井上家教育振興會 日田郷土史料 第7回配本	昭和 40（1965）年
8	亀山鈔（乾之巻・坤之巻） 井上家教育振興會 日田郷土史料 第8回配本	昭和 41（1966）年
9	朱拙野紅倫婦集 井上家教育振興會 日田郷土史料 第9回配本	昭和 41（1966）年
10	日田縣御觸書 井上家教育振興會 日田郷土史料 第10回配本	昭和 43（1968）年
11	天保八年 御廻状留 井上家教育振興會 日田郷土史料 第11回配本	昭和 44（1969）年

No	書名	発行年
12	諸家文書 二 井上家教育振興会 日田郷土史料 第12回配本	昭和44(1969)年
13	諸家日記 一 井上家教育振興会 日田郷土史料 第13回配本	昭和45(1970)年
14	申極御仕置集 井上家教育振興会 日田郷土史料 第14回配本	昭和46(1971)年
15	諸家日記 二 井上家教育振興会 日田郷土史料 第15回配本	昭和48(1973)年
16	諸家日記 三 井上家教育振興会 日田郷土史料 第16回配本	昭和49(1974)年
17	御廻状留 二 井上家教育振興会 日田郷土史料 第17回配本	昭和50(1975)年
18	御廻状留 三 井上家教育振興会 日田郷土史料 第18回配本	昭和51(1976)年
19	御廻状留 四 井上家教育振興会 日田郷土史料 第19回配本	昭和52(1977)年
20	諸家文書 三 井上家教育振興会 日田郷土史料 第20回配本	昭和53(1978)年
21	豊西記追補録 井上家教育振興会 日田郷土史料 第21回配本	昭和54(1979)年
22	有田郷風土記 井上家教育振興会 日田郷土史料 第22回配本	昭和55(1980)年
23	大原宮日記 井上家教育振興会 日田郷土史料 第23回配本	昭和56(1981)年
24	大原宮日記 二 井上家教育振興会 日田郷土史料 第24回配本	昭和57(1982)年
25	造領記 井上家教育振興会 日田郷土史料 第25回配本	昭和58(1983)年
26	豊後国日田郡渡里村 年貢割付状 年貢皆済目録 一 井上家教育振興会 日田郷土史料 第26回配本	昭和59(1984)年
27	豊後国日田郡渡里村 年貢割付状 年貢皆済目録 二 井上家教育振興会 日田郷土史料 第27回配本	昭和60(1985)年
28	豊後国日田郡渡里村 年貢割付状 年貢皆済目録 三 井上家教育振興会 日田郷土史料 第28回配本	昭和61(1986)年
29	豊後国日田郡渡里村 明細帳 井上家教育振興会 日田郷土史料 第29回配本	昭和62(1987)年

No	書名	発行年
30	御用 町用諸記 井上家教育振興会 日田郷土史料 第30回配本	昭和63(1988)年
31	諸用留 井上家教育振興会 日田郷土史料 第31回配本	平成元(1989)年
32	京師六角堂 生花入門傳授年数姓名録 井上家教育振興会 日田郷土史料 第32回配本	平成2(1990)年
33	太政官伺書類 明治元年・二年 日田県 井上家教育振興会 日田郷土史料 第33回配本	平成4(1992)年
34	御廻文并差上書附留 文政二己卯正月より文政四巳三月に至る 井上家教育振興会 日田郷土史料 第34回配本	平成7(1995)年
35	日田県御達書留(日田県御達書留を主に明治初期日田資料) 井上家教育振興会 日田郷土史料 第35回配本	平成9(1997)年
36	享和類題集 井上家教育振興会 日田郷土史料 第36回配本	平成11(1999)年
37	窪田治部右衛門様御觸書留 井上家教育振興会 日田郷土史料 第37回配本	平成13(2001)年
38	窪田治部右衛門様御觸書留(続) 井上家教育振興会 日田郷土史料 第38回配本	平成15(2003)年
39	御廻文并願書苗 文政四より文政十一に至る 井上家教育振興会 日田郷土史料 第39回配本	平成17(2005)年
40	御廻文并願書苗 文政十二より天保七に至る 井上家教育振興会 日田郷土史料 第40回配本	平成19(2007)年
41	奥五馬筋桜竹村并本城村庄屋文書 井上家教育振興会 日田郷土史料 第41回配本	平成21(2009)年
42	廣瀬秋子書簡集 井上家教育振興会 日田郷土史料 第42回配本	平成24(2012)年
43	本城村年貢割附状並びに皆済目録 一 一寛政四年～嘉永元年一 井上家教育振興会 日田郷土史料 第43回配本	平成25(2013)年
44	本城村年貢割附状並びに皆済目録 二 一嘉永二年～明治六年一 井上家教育振興会寄付金活用事業 日田郷土史料 第44回配本	平成27(2015)年
45	家元 生華手引草 井上家教育振興会寄付金活用事業 日田郷土資料 第45回配本	平成26(2017)年
46	豊後国日田郡本城村戸籍 日田郷土資料 第46回配本	平成31(2019)年

■日田市埋蔵文化財調査報告書（発行：日田市教育委員会）

No	書名	発行年
1	大分県日田市 法恩寺古墳	昭和 34 (1959) 年
2	ガランドヤ古墳 大分県日田市所在装飾古墳の調査報告	昭和 61 (1986) 年
3	日田市埋蔵文化財調査報告書 第 5 集 長者原田迎遺跡	平成 4 (1992) 年
4	日田市埋蔵文化財調査報告書 第 6 集 上野切畑山遺跡	平成 4 (1992) 年
5	日田市埋蔵文化財調査報告書 第 7 集 西有田赤ハゲ遺跡	平成 4 (1992) 年
6	日田市埋蔵文化財調査報告書 第 8 集 惣田遺跡	平成 6 (1994) 年
7	日田市埋蔵文化財調査報告書 第 9 集 荻鶴遺跡	平成 7 (1995) 年
8	日田市埋蔵文化財調査報告書 第 10 集 郷四朗遺跡	平成 8 (1996) 年
9	日田市埋蔵文化財調査報告書 第 11 集 会所宮遺跡	平成 7 (1995) 年
10	日田市埋蔵文化財調査報告書 第 12 集 牧原遺跡	平成 9 (1997) 年
11	日田市埋蔵文化財調査報告書 第 13 集 森ノ元遺跡	平成 10 (1998) 年
12	日田市埋蔵文化財調査報告書 第 14 集 三和教田遺跡	平成 10 (1998) 年
13	日田市埋蔵文化財調査報告書 第 15 集 小迫辻原遺跡Ⅱ	平成 12 (2000) 年
14	日田市埋蔵文化財調査報告書 第 16 集 馬形遺跡	平成 10 (1998) 年
15	日田市埋蔵文化財調査報告書 第 17 集 ロが原遺跡	平成 10 (1998) 年
16	日田市埋蔵文化財調査報告書 第 18 集 朝日が丘遺跡	平成 12 (2000) 年
17	日田市埋蔵文化財調査報告書 第 19 集 本村遺跡	平成 12 (2000) 年
18	日田市埋蔵文化財調査報告書 第 20 集 山口遺跡	平成 12 (2000) 年
19	日田市埋蔵文化財調査報告書 第 21 集 日田条里上手地区	平成 12 (2000) 年
20	日田市埋蔵文化財調査報告書 第 22 集 徳瀬遺跡第 3 次	平成 12 (2000) 年
21	日田市埋蔵文化財調査報告書 第 23 集 上ノ馬場遺跡	平成 12 (2000) 年
22	日田市埋蔵文化財調査報告書 第 24 集 三和教田遺跡 D 地点	平成 12 (2000) 年
23	日田市埋蔵文化財調査報告書 第 25 集 元宮遺跡	平成 12 (2000) 年
24	日田市埋蔵文化財調査報告書 第 26 集 山ノ口遺跡	平成 13 (2001) 年
25	日田市埋蔵文化財調査報告書 第 27 集 三和教田遺跡 G 地点	平成 12 (2000) 年
26	日田市埋蔵文化財調査報告書 第 28 集 平島遺跡 D 地点・塔ノ本古墳・祇園原遺跡 2 次・長迫遺跡 C 地点・長迫遺跡 D 地点・尾漕遺跡 6 次	平成 13 (2001) 年
27	日田市埋蔵文化財調査報告書 第 29 集 大波羅遺跡	平成 13 (2001) 年
28	日田市埋蔵文化財調査報告書 第 30 集 尾漕遺跡	平成 13 (2001) 年
29	日田市埋蔵文化財調査報告書 第 31 集 日田条里上手地区 5 次	平成 13 (2001) 年
30	日田市埋蔵文化財調査報告書 第 32 集 川原田遺跡	平成 13 (2001) 年
31	日田市埋蔵文化財調査報告書 第 33 集 内ノ下遺跡・大行事遺跡	平成 14 (2002) 年
32	日田市埋蔵文化財調査報告書 第 34 集 日田条里上手地区Ⅲ・高瀬条里永平寺地区・尾部田遺跡	平成 13 (2001) 年

No	書名	発行年
33	日田市埋蔵文化財調査報告書 第35集 後迫遺跡	平成14(2002)年
34	日田市埋蔵文化財調査報告書 第36集 高瀬条里深野田地区	平成14(2002)年
35	日田市埋蔵文化財調査報告書 第37集 今泉遺跡	平成14(2002)年
36	日田市埋蔵文化財調査報告書 第38集 求来里平島遺跡	平成14(2002)年
37	日田市埋蔵文化財調査報告書 第39集 葛原遺跡	平成14(2002)年
38	日田市埋蔵文化財調査報告書 第40集 日田条里飛矢地区	平成15(2003)年
39	日田市埋蔵文化財調査報告書 第41集 穴観音古墳	平成15(2003)年
40	日田市埋蔵文化財調査報告書 第42集 吹上Ⅰ-3~5次調査の記録-	平成15(2003)年
41	日田市埋蔵文化財調査報告書 第43集 穴原遺跡	平成15(2003)年
42	日田市埋蔵文化財調査報告書 第44集 三和教田遺跡Ⅰ地点	平成15(2003)年
43	日田市埋蔵文化財調査報告書 第45集 大肥祝原遺跡・大肥上村遺跡	平成15(2003)年
44	日田市埋蔵文化財調査報告書 第46集 日田条里四反畑地区	平成15(2003)年
45	日田市埋蔵文化財調査報告書 第47集 日田条里大原地区	平成16(2004)年
46	日田市埋蔵文化財調査報告書 第48集 大肥吉竹遺跡	平成16(2004)年
47	日田市埋蔵文化財調査報告書 第49集 石ヶ迫遺跡	平成16(2004)年
48	日田市埋蔵文化財調査報告書 第50集 大肥遺跡Ⅰ-A-Ⅰ区の調査の記録-	平成16(2004)年
49	日田市埋蔵文化財調査報告書 第51集 本村遺跡3次	平成16(2004)年
50	日田市埋蔵文化財調査報告書 第52集 吹上Ⅱ-9~11次調査の記録-	平成16(2004)年
51	日田市埋蔵文化財調査報告書 第53集 葛原遺跡Ⅱ-A~E区の調査報告-	平成16(2004)年
52	日田市埋蔵文化財調査報告書 第54集 大波羅遺跡3次	平成16(2004)年
53	日田市埋蔵文化財調査報告書 第55集 穴観音古墳Ⅱ	平成16(2004)年
54	日田市埋蔵文化財調査報告書 第56集 古屋敷遺跡	平成16(2004)年
55	日田市埋蔵文化財調査報告書 第57集 吹上Ⅲ-7、8次調査の記録-	平成17(2005)年
56	日田市埋蔵文化財調査報告書 第58集 有田塚ヶ原遺跡・クビリ遺跡	平成17(2005)年
57	日田市埋蔵文化財調査報告書 第59集 中尾原遺跡	平成17(2005)年
58	日田市埋蔵文化財調査報告書 第60集 朝日天神山古墳	平成17(2005)年
59	日田市埋蔵文化財調査報告書 第61集 祝原遺跡	平成17(2005)年
60	日田市埋蔵文化財調査報告書 第62集 大肥中村遺跡Ⅰ	平成18(2006)年
61	日田市埋蔵文化財調査報告書 第63集 大肥下河内遺跡	平成18(2006)年
62	日田市埋蔵文化財調査報告書 第64集 大肥祝原遺跡Ⅱ	平成18(2006)年
63	日田市埋蔵文化財調査報告書 第65集 高野遺跡	平成18(2006)年

No	書名	発行年
64	日田市埋蔵文化財調査報告書 第66集 大肥遺跡Ⅱ-B・C区の調査の記録-	平成18(2006)年
65	日田市埋蔵文化財調査報告書 第67集 大肥遺跡Ⅲ-A-2区の調査の概要-	平成18(2006)年
66	日田市埋蔵文化財調査報告書 第68集 一丁田遺跡	平成18(2006)年
67	日田市埋蔵文化財調査報告書 第69集 尾漕2号墳	平成18(2006)年
68	日田市埋蔵文化財調査報告書 第70集 吹上Ⅳ-6次調査の記録-	平成18(2006)年
69	日田市埋蔵文化財調査報告書 第71集 徳瀬遺跡Ⅱ	平成18(2006)年
70	日田市埋蔵文化財調査報告書 第72集 中川原遺跡	平成18(2006)年
71	日田市埋蔵文化財調査報告書 第73集 長者原遺跡	平成18(2006)年
72	日田市埋蔵文化財調査報告書 第74集 大波羅遺跡4次	平成19(2007)年
73	日田市埋蔵文化財調査報告書 第75集 慈眼山遺跡	平成19(2007)年
74	日田市埋蔵文化財調査報告書 第76集 上井手遺跡	平成19(2007)年
75	日田市埋蔵文化財調査報告書 第77集 求来里平島遺跡Ⅱ	平成19(2007)年
76	日田市埋蔵文化財調査報告書 第78集 長者原遺跡Ⅱ	平成19(2007)年
77	日田市埋蔵文化財調査報告書 第79集 葛原遺跡Ⅲ-F・H・I区の調査報告-	平成19(2007)年
78	日田市埋蔵文化財調査報告書 第80集 瀧ヶ本遺跡	平成19(2007)年
79	日田市埋蔵文化財調査報告書 第81集 祇園原遺跡Ⅱ(弥生・古墳時代遺構編)	平成19(2007)年
80	日田市埋蔵文化財調査報告書 第82集 郷四郎遺跡Ⅱ	平成19(2007)年
81	日田市埋蔵文化財調査報告書 第83集 一丁田遺跡Ⅱ	平成20(2008)年
82	日田市埋蔵文化財調査報告書 第84集 慈眼山遺跡Ⅱ	平成20(2008)年
83	日田市埋蔵文化財調査報告書 第85集 日田糸里千駄地区	平成20(2008)年
84	日田市埋蔵文化財調査報告書 第86集 上井手遺跡3次	平成20(2008)年
85	日田市埋蔵文化財調査報告書 第87集 祇園原遺跡Ⅱ(弥生・古墳時代遺物編)	平成20(2008)年
86	日田市埋蔵文化財調査報告書 第88集 求来里の遺跡Ⅰ-県営経営体育成基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(1)-町ノ坪遺跡B区の調査	平成21(2009)年
87	日田市埋蔵文化財調査報告書 第89集 求来里の遺跡Ⅱ-県営経営体育成基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)-金田遺跡の調査	平成21(2009)年
88	日田市埋蔵文化財調査報告書 第90集 寺ヶ迫遺跡	平成22(2010)年
89	日田市埋蔵文化財調査報告書 第91集 求来里の遺跡Ⅲ-県営経営体育成基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(3)-小西遺跡の調査	平成22(2010)年

No	書名	発行年
90	日田市埋蔵文化財調査報告書 第92集 鍛冶屋廻り遺跡	平成22(2010)年
91	日田市埋蔵文化財調査報告書 第93集 中川原遺跡－2次調査の概要－	平成22(2010)年
92	日田市埋蔵文化財調査報告書 第94集 葛原遺跡6次・大行事遺跡2次	平成22(2010)年
93	日田市埋蔵文化財調査報告書 第95集 慈眼山遺跡7次	平成22(2010)年
94	日田市埋蔵文化財調査報告書 第96集 祇園原遺跡Ⅱ(近世墓編1)	平成22(2010)年
95	日田市埋蔵文化財調査報告書 第97集 塚原遺跡	平成23(2011)年
96	日田市埋蔵文化財調査報告書 第98集 佐寺原遺跡－2・3次調査－	平成23(2011)年
97	日田市埋蔵文化財調査報告書 第99集 永山城跡	平成23(2011)年
98	日田市埋蔵文化財調査報告書 第100集 大波羅遺跡－5次調査の概要－	平成24(2012)年
99	日田市埋蔵文化財調査報告書 第101集 祇園原遺跡Ⅱ(近世墓編2)	平成24(2012)年
100	日田市埋蔵文化財調査報告書 第102集 求来里の遺跡Ⅳ－県営経営体育成基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(4)－求来里平島遺跡4次の調査	平成24(2012)年
101	日田市埋蔵文化財調査報告書 第103集 慈眼山遺跡8次	平成24(2012)年
102	日田市埋蔵文化財調査報告書 第104集 朝日宮ノ原遺跡・谷ノ久保遺跡	平成24(2012)年
103	日田市埋蔵文化財調査報告書 第105集 ノヲガケ遺跡	平成24(2012)年
104	日田市埋蔵文化財調査報告書 第106集 花の木遺跡2次	平成25(2013)年
105	日田市埋蔵文化財調査報告書 第107集 平島遺跡－E地点の調査報告－	平成25(2013)年
106	日田市埋蔵文化財調査報告書 第108集 朝日の遺跡Ⅰ－県営経営体育成基盤整備事業朝日地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(1)－平田遺跡・尾部田遺跡2次の調査	平成25(2013)年
107	日田市埋蔵文化財調査報告書 第109集 長迫遺跡A地点	平成25(2013)年
108	日田市埋蔵文化財調査報告書 第110集 吹上Ⅴ-Ⅰ・2次調査の記録	平成25(2013)年
109	日田市埋蔵文化財調査報告書 第111集 朝日の遺跡Ⅱ－県営経営体育成基盤整備事業朝日地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)－鍛冶屋廻りり2次・本村遺跡5次の調査	平成26(2014)年
110	日田市埋蔵文化財調査報告書 第112集 吹上Ⅵ－自然科学分析調査の記録、調査の総括－	平成26(2014)年
111	日田市埋蔵文化財調査報告書 第113集 慈眼山遺跡10次	平成26(2014)年
112	日田市埋蔵文化財調査報告書 第114集 赤迫遺跡G区、元宮遺跡1、2、6次	平成26(2014)年

No	書名	発行年
113	日田市埋蔵文化財調査報告書 第115集 長迫遺跡B地点	平成26(2014)年
114	日田市埋蔵文化財調査報告書 第116集 朝日の遺跡Ⅲ－県営経営体育成基盤整備事業朝日地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(3)－花の木遺跡1次の調査 附編「朝日の遺跡」の自然科学分析	平成27(2015)年
115	日田市埋蔵文化財調査報告書 第117集 佐寺原遺跡4次	平成27(2015)年
116	日田市埋蔵文化財調査報告書 第118集 長迫遺跡C地点	平成27(2015)年
117	日田市埋蔵文化財調査報告書 第119集 上野第2遺跡	平成27(2015)年
118	日田市埋蔵文化財調査報告書 第120集 慈眼山遺跡11次	平成27(2015)年
119	日田市埋蔵文化財調査報告書 第121集 永山城跡Ⅲ－2・3次調査－	平成27(2015)年
120	日田市埋蔵文化財調査報告書 第122集 銭淵遺跡	平成28(2016)年
121	日田市埋蔵文化財調査報告書 第123集 会所宮遺跡2次	平成28(2016)年
122	日田市埋蔵文化財調査報告書 第124集 城下町遺跡	平成28(2016)年
123	日田市埋蔵文化財調査報告書 第125集 朝日の遺跡Ⅳ－県営経営体育成基盤整備事業朝日地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(4)－君迫遺跡・山ノ神(二串)遺跡の調査	平成26(2017)年
124	日田市埋蔵文化財調査報告書 第126集 出口遺跡	平成26(2017)年
125	日田市埋蔵文化財調査報告書 第127集 元宮遺跡5次)	平成26(2017)年
126	日田市埋蔵文化財調査報告書 第128集 村前遺跡	平成26(2017)年
127	日田市埋蔵文化財調査報告書 第129集 一丁田遺跡3次	平成26(2017)年
128	日田市埋蔵文化財調査報告書 第130集 赤迫遺跡-B～F区の報告-	平成26(2017)年
129	日田市埋蔵文化財調査報告書 第131集 手崎遺跡3次	平成30(2018)年
130	日田市埋蔵文化財調査報告書 第132集 求来里の遺跡Ⅴ－県営経営体育成基盤整備事業朝日地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(5)－町ノ坪遺跡A・C区	平成30(2018)年
131	日田市埋蔵文化財調査報告書 第133集 上井手遺跡4次	平成30(2018)年
132	日田市埋蔵文化財調査報告書 第134集 日田条里遺跡飛矢地区2次	平成30(2018)年
133	日田市埋蔵文化財調査報告書 第135集 柳ノ本遺跡1・2次	平成30(2018)年
134	日田市埋蔵文化財調査報告書 第136集 求来里平島遺跡1次－県営日田地区広域営農団地農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(6)－A区の調査	平成31(2019)年
135	日田市埋蔵文化財調査報告書 第137集 城下町遺跡－6次調査－	令和元(2019)年
136	日田市埋蔵文化財調査報告書 第138集 柳ノ本遺跡－3次調査－	令和2(2020)年
137	日田市埋蔵文化財調査報告書 第139集 下中城遺跡	令和2(2020)年
138	日田市埋蔵文化財調査報告書 第140集 水町遺跡	令和3(2021)年
139	日田市埋蔵文化財調査報告書 第141集 下道遺跡	令和4(2022)年
140	日田市埋蔵文化財調査報告書 第142集 吹上遺跡12次	令和4(2022)年

■日田市埋蔵文化財年報（発行：日田市教育委員会）

No	書名	発行年
1	平成4年度（1992年度） 日田市埋蔵文化財年報	平成6（1994）年
2	平成5年度（1993年度） 日田市埋蔵文化財年報	平成7（1995）年
3	平成6年度（1994年度） 日田市埋蔵文化財年報	平成8（1996）年
4	平成7年度（1995年度） 日田市埋蔵文化財年報	平成9（1997）年
5	平成8年度（1996年度） 日田市埋蔵文化財年報	平成10（1998）年
6	平成9年度（1997年度） 日田市埋蔵文化財年報	平成11（1999）年
7	平成10年度（1998年度） 日田市埋蔵文化財年報	平成12（2000）年
8	平成11年度（1999年度） 日田市埋蔵文化財年報	平成13（2001）年
9	平成12年度（2000年度） 日田市埋蔵文化財年報	平成13（2001）年
10	平成13年度（2001年度） 日田市埋蔵文化財年報	平成14（2002）年
11	平成14年度（2002年度） 日田市埋蔵文化財年報	平成15（2003）年
12	平成15年度（2003年度） 日田市埋蔵文化財年報	平成16（2004）年
13	平成16年度（2004年度） 日田市埋蔵文化財年報	平成17（2005）年
14	平成17年度（2005年度） 日田市埋蔵文化財年報	平成19（2007）年
15	平成18年度（2006年度） 日田市埋蔵文化財年報	平成20（2008）年
16	平成19年度（2007年度） 日田市埋蔵文化財年報	平成20（2008）年
17	平成20年度（2008年度） 日田市埋蔵文化財年報	平成21（2009）年
18	平成21年度（2009年度） 日田市埋蔵文化財年報	平成22（2010）年
19	平成22年度（2010年度） 日田市埋蔵文化財年報	平成23（2011）年
20	平成23年度（2011年度） 日田市埋蔵文化財年報	平成24（2012）年
21	平成24年度（2012年度） 日田市埋蔵文化財年報	平成25（2013）年
22	平成25年度（2013年度） 日田市埋蔵文化財年報	平成26（2014）年
23	平成26年度（2014年度） 日田市埋蔵文化財年報	平成27（2015）年
24	平成27年度（2015年度） 日田市埋蔵文化財年報	平成28（2016）年
25	平成28年度（2016年度） 日田市埋蔵文化財年報	平成26（2017）年
26	平成29年度（2017年度） 日田市埋蔵文化財年報	平成31（2019）年
27	平成30年度（2018年度） 日田市埋蔵文化財年報	令和2（2020）年
28	平成31年度（2019年度） 日田市埋蔵文化財年報	令和3（2021）年
29	令和2年度（2020年度） 日田市埋蔵文化財年報	令和4（2022）年

■日田地区遺跡群発掘調査概報（発行：日田市教育委員会）

No	書名	発行年
1	日田地区遺跡群発掘調査概報Ⅰ 長者原遺跡・諸留条里遺跡・吹上遺跡	昭和61（1986）年

No	書名	発行年
2	日田地区遺跡群発掘調査概報Ⅱ 長者原遺跡・向原遺跡・田島遺跡・吹上遺跡	昭和 62 (1987) 年
3	日田地区遺跡群発掘調査概報Ⅲ 葛原遺跡・田島遺跡・小迫辻原遺跡・宮ノ原遺跡・姫塚古墳	昭和 63 (1988) 年
4	日田地区遺跡群発掘調査概報Ⅳ 朝日宮ノ原遺跡(Ⅱ)・平島遺跡(Ⅱ)・小迫辻原遺跡(Ⅱ)	平成元 (1989) 年
5	日田地区遺跡群発掘調査概報Ⅴ 一丁田遺跡・町野原遺跡・長者原遺跡(Ⅲ)・内河野遺跡・小迫辻原遺跡(Ⅲ)	平成 2 (1990) 年
6	日田地区遺跡群発掘調査概報Ⅵ 小迫辻原遺跡(Ⅳ)・惣田遺跡・吹上遺跡(Ⅲ)・日高遺跡	平成 3 (1991) 年
7	日田地区遺跡群発掘調査概報Ⅶ 小迫辻原遺跡(Ⅴ)・板屋遺跡・小見取遺跡	平成 4 (1992) 年
8	日田地区遺跡群発掘調査概報Ⅷ 小迫辻原遺跡(Ⅵ)・小見取遺跡(Ⅱ)・市ノ瀬遺跡・求来里平島遺跡・町野原遺跡・徳瀬遺跡	平成 5 (1993) 年

■日田文化

(発行：1～7 日田市文化財調査委員会、8～23 日田市教育委員会・日田市文化財調査委員会、24～64 日田市教育委員会)

No	書名	発行年
1	日田文化 創刊號	昭和 31 (1956) 年
2	日田文化 第 2 号	昭和 32 (1957) 年
3	日田文化 第 3 号 法恩寺山古墳発掘特輯号	昭和 32 (1957) 年
4	日田文化 第 4 号	昭和 33 (1958) 年
5	日田文化 第 5 号 武石珠峯子追悼号	昭和 35 (1960) 年
6	日田文化 第 6 号	昭和 36 (1961) 年
7	日田文化 第 7 号	昭和 38 (1963) 年
8	日田文化 第 8 号	昭和 39 (1964) 年
9	日田文化 第 9 号	昭和 41 (1966) 年
10	日田文化 第 10 号	昭和 41 (1966) 年
11	日田文化 第 11 号	昭和 43 (1968) 年
12	日田文化 第 12 号	昭和 44 (1969) 年
13	日田文化 第 13 号	昭和 45 (1970) 年
14	日田文化 第 14 号	昭和 46 (1971) 年
15	日田文化 第 15 号	昭和 47 (1972) 年
16	日田文化 第 16 号	昭和 48 (1973) 年
17	日田文化 第 17 号	昭和 49 (1974) 年
18	日田文化 第 18 号	昭和 50 (1975) 年

No	書名	発行年
19	日田文化 第19号	昭和51(1976)年
20	日田文化 第20号	昭和52(1977)年
21	日田文化 第21号	昭和53(1978)年
22	日田文化 第22号	昭和54(1979)年
23	日田文化 第23号	昭和55(1980)年
24	日田文化 第24号	昭和56(1981)年
25	日田文化 第25号	昭和57(1982)年
26	日田文化 第26号	昭和58(1983)年
27	日田文化 第27号	昭和59(1984)年
28	日田文化 第28号	昭和60(1985)年
29	日田文化 第29号	昭和61(1986)年
30	日田文化 第30号	昭和63(1988)年
31	日田文化 第31号	昭和63(1988)年
32	日田文化 第32号	平成元(1989)年
33	日田文化 第33号	平成3(1991)年
34	日田文化 第34号 -高倉芳男先生追悼号-	平成3(1991)年
35	日田文化 第35号	平成4(1992)年
36	日田文化 第36号	平成5(1993)年
37	日田文化 第37号	平成6(1994)年
38	日田文化 第38号	平成7(1995)年
39	日田文化 第39号 -穴井通照先生追悼号-	平成9(1997)年
40	日田文化 第40号 -首藤助四朗先生追悼号-	平成10(1998)年
41	日田文化 第41号 -田中晃先生追悼号-	平成11(1999)年
42	日田文化 第42号	平成12(2000)年
43	日田文化 第43号	平成13(2001)年
44	日田文化 第44号	平成13(2001)年
45	日田文化 第45号	平成14(2002)年
46	日田文化 第46号	平成15(2003)年
47	日田文化 第47号	平成16(2004)年
48	日田文化 第48号	平成17(2005)年
49	日田文化 第49号	平成19(2007)年
50	日田文化 第50号	平成20(2008)年
51	日田文化 第51号	平成20(2008)年
52	日田文化 第52号	平成21(2009)年
53	日田文化 第53号	平成22(2010)年
54	日田文化 第54号	平成23(2011)年

No	書名	発行年
55	日田文化 第55号 -岩澤光夫生追悼号-	平成24(2012)年
56	日田文化 第56号	平成25(2013)年
57	日田文化 第57号	平成26(2014)年
58	日田文化 第58号	平成27(2015)年
59	日田文化 第59号	平成28(2016)年
60	日田文化 第60号	平成26(2017)年
61	日田文化 第61号	平成31(2019)年
62	日田文化 第62号	令和2(2020)年
63	日田文化 第63号	令和3(2021)年
64	日田文化 第64号	令和4(2022)年

■博物館年報（発行：日田市立博物館）

No	書名	発行年
1	日田市立博物館報創刊号	昭和43(1968)年
2	日田市立博物館報第2号	昭和44(1969)年
3	日田市立博物館報第3号	昭和45(1970)年
4	日田市立博物館報第4号	昭和46(1971)年
5	日田市立博物館報第5号	昭和47(1972)年
6	日田市立博物館報第6号	昭和48(1973)年
7	日田市立博物館報第7号	昭和49(1974)年
8	日田市立博物館報第8号	昭和50(1975)年
9	日田市立博物館報第9号	昭和51(1976)年
10	日田市立博物館報第10号	昭和52(1977)年
11	日田市立博物館報第11号	昭和53(1978)年
12	日田市立博物館報第12号	昭和54(1979)年
13	日田市立博物館報第13号	昭和55(1980)年
14	日田市立博物館報第14号	昭和56(1981)年
15	日田市立博物館報第15号	昭和57(1982)年
16	日田市立博物館報第16号	昭和58(1983)年
17	日田市立博物館報第17号	昭和59(1984)年
18	日田市立博物館報第18号	昭和60(1985)年
19	日田市立博物館報第19号	昭和61(1986)年
20	日田市立博物館報第20号	昭和62(1987)年
21	館報第21号	昭和63(1988)年
22	館報第22号	平成元(1989)年
23	館報第23号	平成2(1990)年

No	書名	発行年
24	館報第 24 号	平成 4 (1992) 年
25	館報第 25 号	平成 4 (1992) 年
26	館報第 26 号	平成 5 (1993) 年
27	館報第 27 号	平成 6 (1994) 年
28	館報第 28 号	平成 7 (1995) 年
29	館報第 29 号	平成 8 (1996) 年
30	館報第 30 号	平成 9 (1997) 年
31	館報第 31 号	平成 10 (1998) 年
32	館報第 32 号	平成 11 (1999) 年
33	館報第 33 号	平成 12 (2000) 年
34	館報第 34 号	平成 13 (2001) 年
35	館報第 35 号	平成 15 (2003) 年
36	館報第 36 号	平成 15 (2003) 年
37	館報第 37 号	平成 16 (2004) 年
38	館報第 38 号	平成 17 (2005) 年
39	館報第 39 号	平成 18 (2006) 年
40	日田市立博物館報第 40 号	平成 20 (2008) 年
41	日田市立博物館報第 41 号	平成 21 (2009) 年
42	日田市立博物館報第 42 号	平成 22 (2010) 年
43	日田市立博物館報第 43 号	平成 23 (2011) 年
44	日田市立博物館報第 44 号	平成 24 (2012) 年
45	日田市立博物館報第 45 号	平成 24 (2012) 年
46	日田市立博物館年報第 46 号	平成 25 (2013) 年
47	日田市立博物館年報第 47 号	平成 26 (2014) 年
48	日田市立博物館年報第 48 号	平成 28 (2016) 年
49	日田市立博物館年報第 49 号	平成 26 (2017) 年
50	日田市立博物館年報第 50 号	平成 26 (2017) 年
51	日田市立博物館年報第 51 号	平成 31 (2019) 年
52	日田市立博物館年報第 52 号	令和 2 (2020) 年
53	日田市立博物館年報第 53 号	令和 2 (2020) 年

■博物館報告書・展示図録

(発行：1 大川内山自然調査会、2～9 郷土日田の自然調査会、10～21 日田市立博物館、22・23 日田市教育委員会)

No	書名	発行年
1	大分県日田市 大川内山の自然調査報告書	昭和 57 (1982) 年

No	書名	発行年
2	日田市 三隈川の自然調査報告書	昭和 60 (1985) 年
3	大分県前津江村 御前・釈迦岳の自然	平成 6 (1994) 年
4	日田市南部地域の自然	平成 10 (1998) 年
5	日田市東部地域の自然	平成 15 (2003) 年
6	日田市 上津江町の自然	平成 22 (2010) 年
7	日田市 中津江村の自然	平成 25 (2013) 年
8	日田市 前津江町の自然	平成 28 (2016) 年
9	日田市 大山町の自然	令和元 (2019) 年
10	日田三丘(日隈、月隈、星隈)の自然	昭和 62 (1987) 年
11	日田 花月川上流域の自然	平成 2 (1990) 年
12	調べてみたよ!! 桂林地区の水辺環境	平成 25 (2013) 年
13	日田の自然 季節を彩る花々	平成 28 (2016) 年
14	廣瀬久兵衛と小ヶ瀬井路	平成 28 (2016) 年
15	日田ん虫	平成 26 (2017) 年
16	大山層足跡化石発掘調査報告書	平成 30 (2018) 年
17	太古の湖とそこに暮らしたいいきものたちー大山層と足跡化石が語る大昔の大山町ー	平成 30 (2018) 年
18	日田の野鳥観察図鑑 バードウォッチングにでかけよう!	平成 30 (2018) 年
19	はきものの歴史と日田下駄	令和元 (2019) 年
20	水郷日田の風景ー古写真から振り返る人々の思い出の場所ー	令和 2 (2020) 年
21	日田の城跡を歩く	令和 2 (2020) 年
22	日田市 大鶴・夜明地域の自然	平成 19 (2007) 年
23	水郷日田の源流を巡る	平成 26 (2017) 年

■埋蔵文化財その他資料

(発行：1 日田市教育委員会・日田市文化財調査委員会、2 日田市立博物館、3～8 日田市教育委員会、9 まちづくりフォーラム' 96 開催実行委員会・大分県教育委員会・別府大学・日田市教育委員会)

No	書名	発行年
1	日田市文化財 古墳のしおり	—
2	第1回 考古部門特別展 日田盆地の遺跡ー平成2年度の発掘調査からー	平成 3 (1991) 年
3	小迫辻原遺跡Ⅱ-小迫辻原遺跡範囲確認調査概要報告書-	平成 4 (1992) 年
4	吹上遺跡ー第6次調査の概要報告ー	平成 7 (1995) 年
5	有田塚ヶ原遺跡群	平成 11 (1999) 年
6	山口遺跡 発掘調査概要パンフレット	平成 12 (2000) 年

No	書名	発行年
7	ありたを掘る 市道田島有田線埋蔵文化財発掘調査概要パンフレット	平成 12 (2000) 年
8	求来里の遺跡－県営経営体育成基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果	平成 22 (2010) 年
9	まちづくりフォーラム' 96 黎明の比多国 小迫辻原遺跡の世界	平成 8 (1996) 年

■埋蔵文化財その他報告書（発行：日田市教育委員会）

No	書名	発行年
1	史跡ガランドヤ古墳群保存整備基本構想	平成 6 (1994) 年
2	史跡ガランドヤ古墳－史跡ガランドヤ古墳の保存整備に伴う調査報告書－	平成 22 (2010) 年
3	史跡永山城跡－史跡永山城跡災害復旧事業報告書－	平成 31 (2019) 年

■埋蔵文化財概要報告書（発行：日田市教育委員会）

No	書名	発行年
1	吹上遺跡－大分県日田市小迫所在弥生遺跡調査概報－	昭和 55 (1980) 年
2	吹上遺跡Ⅱ	昭和 56 (1981) 年
3	昭和 59 年度 ガランドヤ古墳群発掘調査概報	昭和 60 (1985) 年
4	小迫辻原遺跡発掘調査概報	平成 2 (1990) 年
5	吹上遺跡－第 9 次調査の概要報告－	平成 11 (1999) 年
6	吹上遺跡・天満古墳－範囲確認調査に伴う概要報告－	平成 12 (2000) 年
7	大肥中村遺跡－発掘調査概報－	平成 15 (2003) 年
8	永山城跡Ⅱ 発掘調査概要報告	平成 25 (2013) 年

4. 市民アンケート結果一覧表

■日田市文化財保存活用地域計画 アンケート用紙

[A]	あなたのことをお知らせください	(1) 年代について	1. 10歳代
			2. 20歳代
			3. 30歳代
			4. 40歳代
		5. 50歳代	
		6. 60歳代	
		7. 70歳代	
		8. 80歳以上	
(2) 生まれ育ち、暮らしについて	1. 生まれてから、ずっと日田で暮らしている		
	2. 生まれは日田 一度、日田以外に出て今は日田で暮らしている		
	3. 生まれは日田以外 今は日田で暮らしている		
	4. 生まれも育ちも、暮らしの場所も日田以外		
[B]	講演会の内容とは関係無くお答えください	(3) 日田で「歴史」や「文化」と言われて思いつくものを教えてください	
		(4) 「日田の歴史や文化」に、どんなイメージがありますか	
		(5) 「日田の文化財」というと、何を思い浮かべますか	
		(6) 文化財を守り、次世代につないでいくことは必要なことだと思いますか	1. 思う
			2. どちらかといえば思う
			3. どちらかといえば思わない
		4. 思わない	
5. わからない			
(7) 守りたい日田の「歴史」や「文化」・「文化財」はありますか			
[C]	本日の講演会についてお答えください	(8) 講演を聴いた感想をお書きください	

※ 設問の記入がない場合は「0」とする。

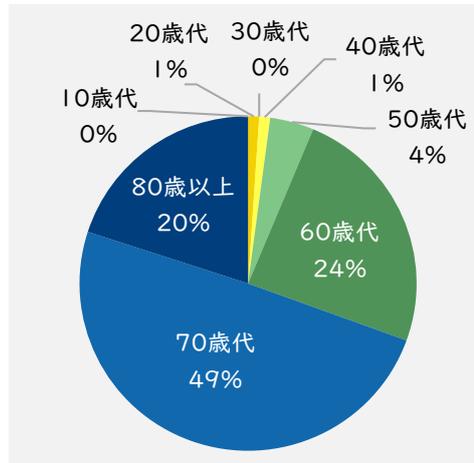
※ [C]の(8)の講演会の感想とは、令和5年3月12日(日)に別府大学名誉教授の後藤宗俊氏を講師にお招きし、開催した講演会(「日田の歴史と文化遺産」—その保存と活用をめぐる—)の感想のこと。

■設問別集計結果

[A] 回答者について

(1) 年代について

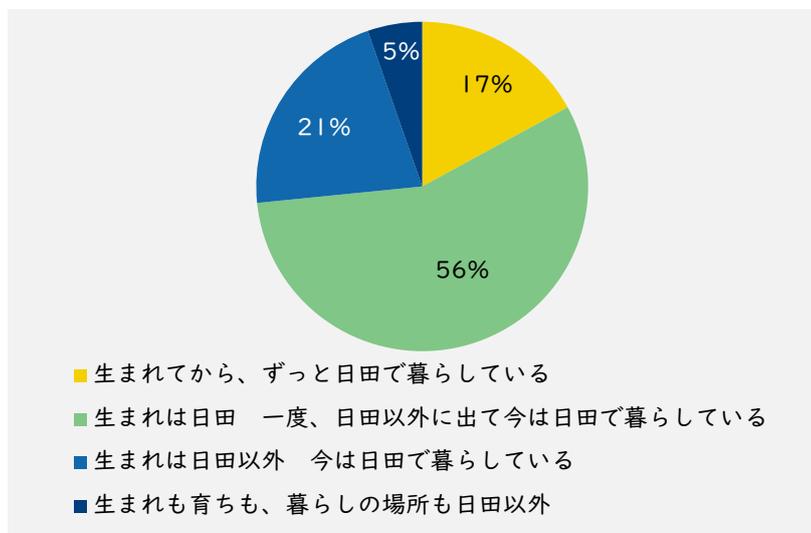
属性	人数	割合
10歳代	0	0%
20歳代	1	1%
30歳代	0	0%
40歳代	1	1%
50歳代	4	4%
60歳代	23	24%
70歳代	47	49%
80歳以上	19	20%
総数	95	100%



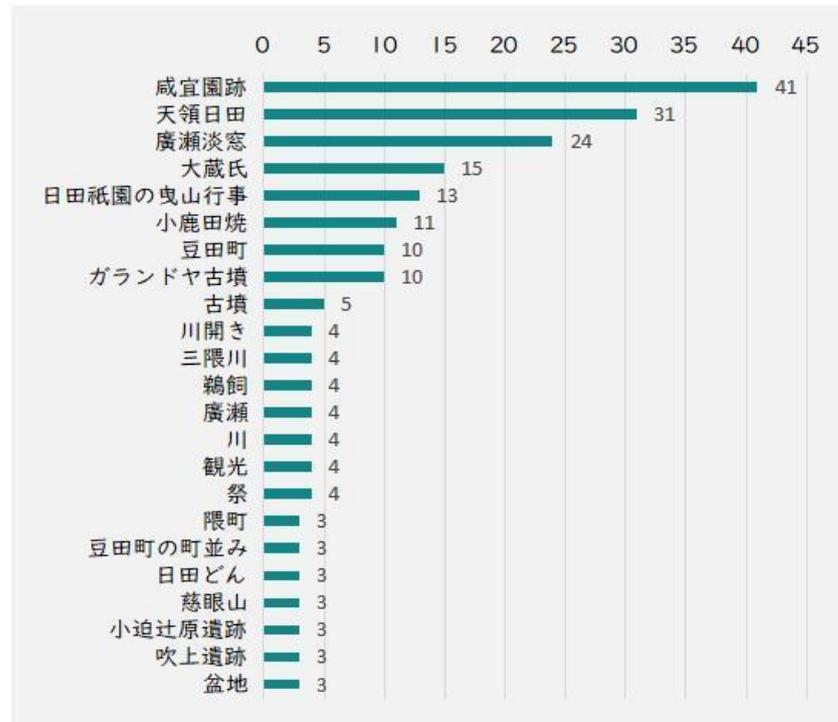
(2) 生まれ育ち、暮らしについて

属性	人数	割合
生まれてから、ずっと日田で暮らしている	16	17%
生まれは日田 一度、日田以外に出て今は日田で暮らしている	53	56%
生まれは日田以外 今は日田で暮らしている	20	21%
生まれも育ちも、暮らしの場所も日田以外	5	5%
総数	94	100%

※無回答1

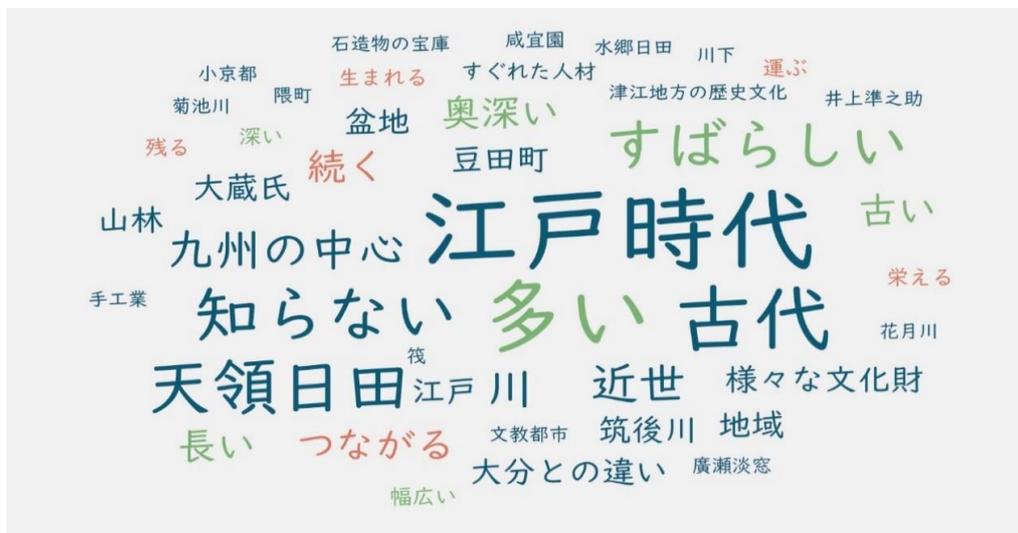


○単語出現頻度

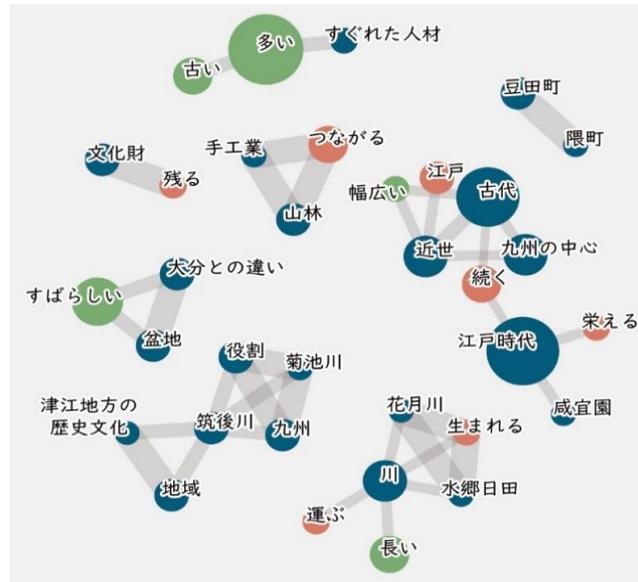


(4) 「日田の歴史や文化」に、どんなイメージがありますか
 ※ユーザーローカル テキストマイニングツール (<https://textmining.userlocal.jp/>) による分析

○ワードクラウド…単語出現頻度に応じた大きさで図示しています。
 単語の色は品詞の種類で異っており、紺色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞を表しています。



○共起キーワード…文章中出现する単語の出現パターンが似たものを線で結んだ図です。
出現数が多い語ほど大きく、共起の程度が強いほど太い線で描画されます。

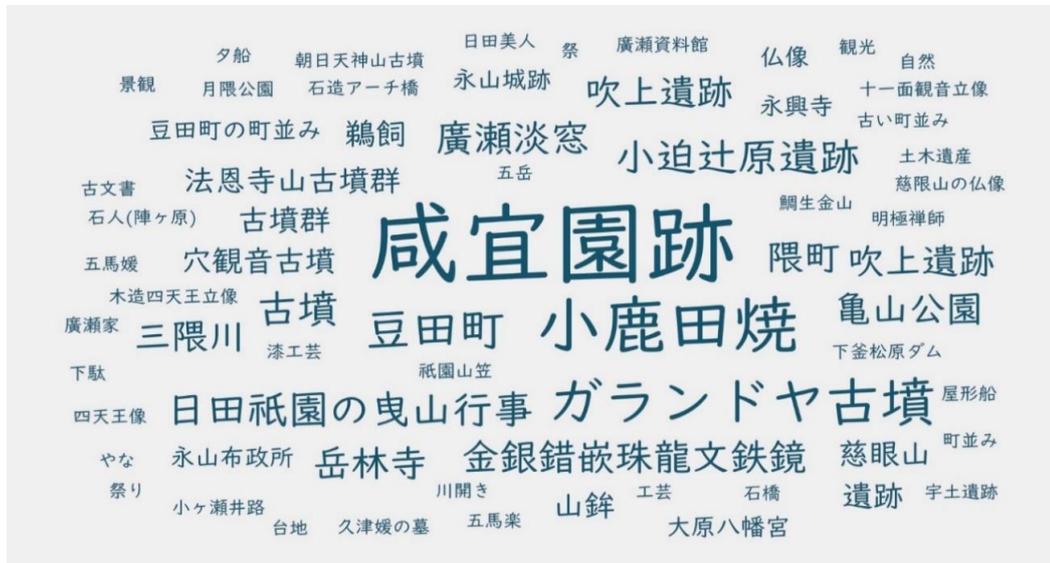


○単語出現頻度

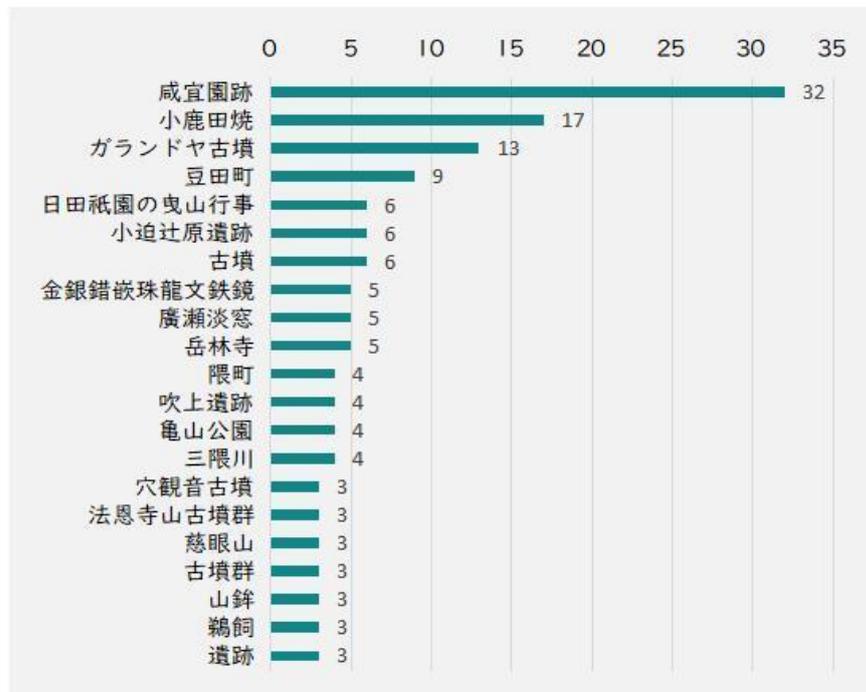


(5) 「日田の文化財」というと、何を思い浮かべますか
 ※ユーザーローカル テキストマイニングツール (<https://textmining.userlocal.jp/>) による分析

○ワードクラウド…単語出現頻度に応じた大きさで図示しています。
 単語の色は品詞の種類で異なっており、紺色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞を表しています。



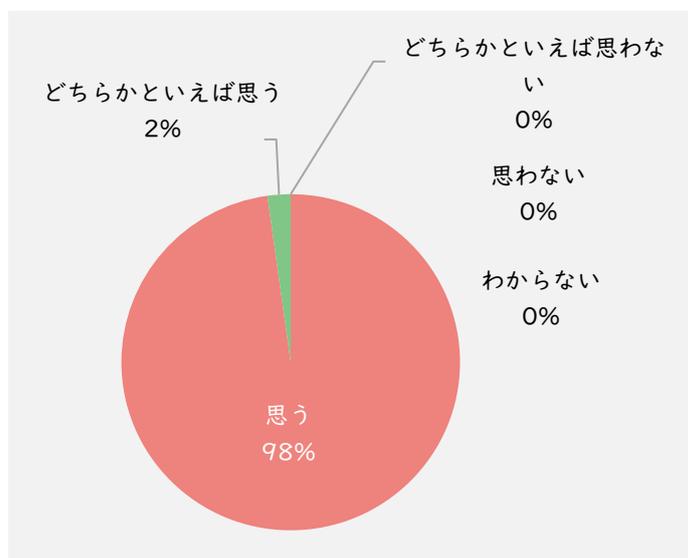
○単語出現頻度



(6) 文化財を守り、次世代につないでいくことは必要なことだと思いますか

回答	人数	割合
思う	89	98%
どちらかといえば思う	2	2%
どちらかといえば思わない	0	0%
思わない	0	0%
わからない	0	0%
総数	91	100%

※無回答4

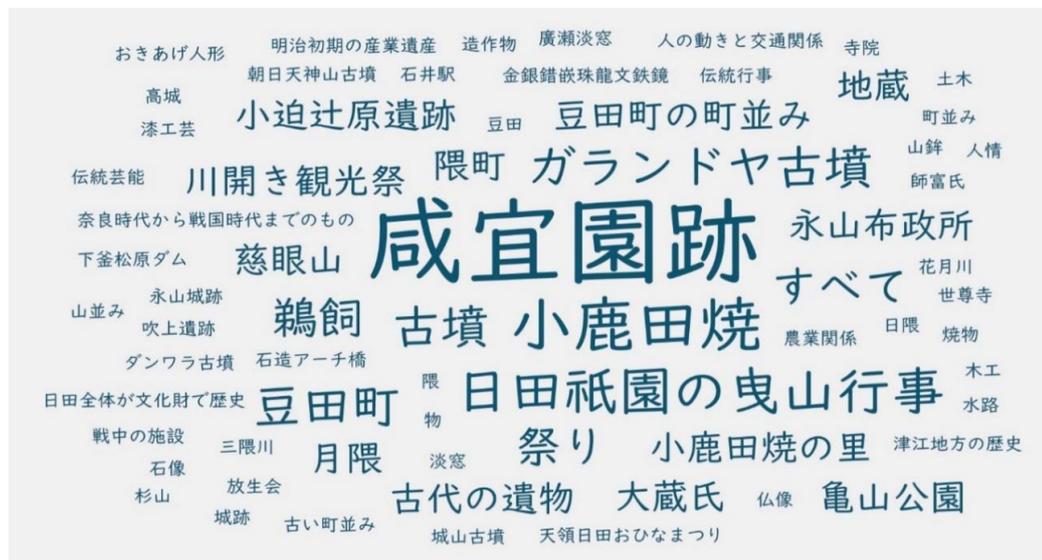


(7) 守りたい日田の「歴史」や「文化」・「文化財」はありますか

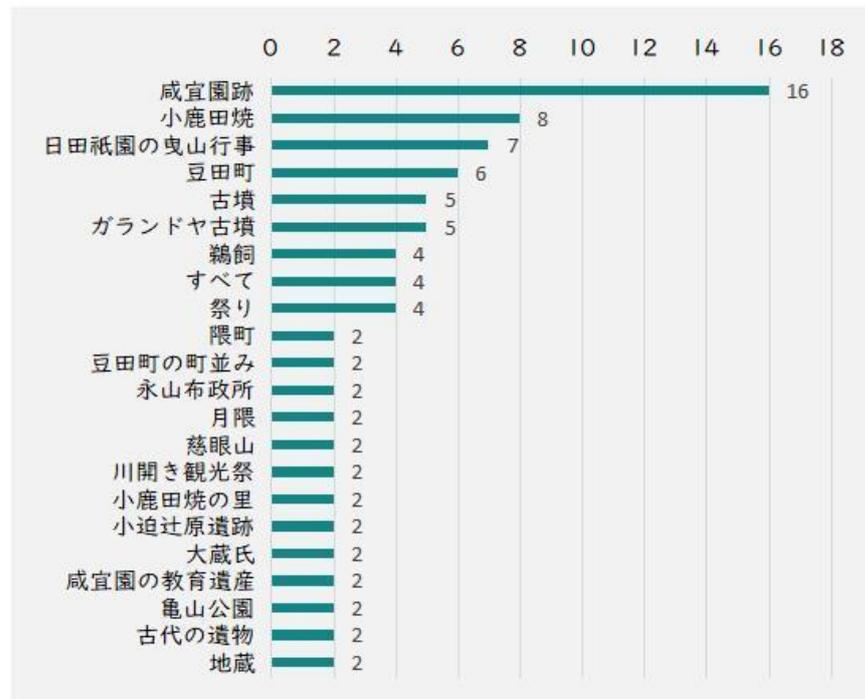
※ユーザーローカル テキストマイニングツール (<https://textmining.userlocal.jp/>) による分析

○ワードクラウド…単語出現頻度に応じた大きさで図示しています。

単語の色は品詞の種類で異なり、紺色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞を表しています。



○単語出現頻度



■講演会の感想(自由記述)

年代	感想(一部抜粋)
20歳代	<ul style="list-style-type: none"> 写真や文字よりも地図が多く、昔と現代の比較をしていた。
40歳代	<ul style="list-style-type: none"> 大変勉強になりました。日田の地形が分からない私でも大変興味深く、楽しく受講できました。
50歳代	<ul style="list-style-type: none"> 日田市内の中心地の動きが、古代から理解できた。周りを開発すると何かできそうですね！！ 吹上遺跡、小迫辻原遺跡の発掘現場にも行ったことがあるので、経験と重ねながら、聞くことができました。目で見て、心で感じたことと話がつながりました。咸宜園を学ぶのではなく咸宜園で学ぶ…だたの観光でなく、その時代を感じながら町並みを散策できるという考えに賛同致します。 建物の復元の話は先生の活用への思いの大きさを感じた。
60歳代	<ul style="list-style-type: none"> 現在は、日田を離れて生活しておりますが、改めて生まれ育った日田の歴史、文化を知り、とてもよかったです。これからもいろいろ学べたらと思います。 日田の歴史、庶民の生活などをもっと知りたかった。文化遺産を守るために、私達市民に出来ることはあるのでしょうか。 上城内に住んでいますが、城内公園の東に昔から「ツングツカ」という地名があり交通の延進のミステリアスを感じました。また、この様な講演会で拝聴したいです。 自分の足元を見直し、大切にしていこうと思った。 何げなく暮らしている所に、昔の人たちの生活があったということ具体的を示していただき、興味深かった。「お金におきかえる」ことを前提とした保護はやむをえない所はあるものの、もっとほかに方法はないか？そのまま受け入れ難い。「私の文化的景観」やってみたい。 文化財やその土地について知ることは、とても楽しいことです。それを大事にすることは、その地域が発展することに繋がるかもしれないと思います。鎖国時代と開国時代については、もう少し勉強したいなあと思います。 交通の中心は古代から日田だったときいて、感動しました。現在の日田が学園都市だったらよかったのと思いました。 山地、台地や川は昔から大事な道となり、町・村の発展に繋がった様に思うが、人口減の中、外に出ない様な工夫(対策)として、歴史の町、文化遺産の町として人材の活用等を考えてもらいたい。 道が好きな私にとって古代の道に関してとても参考になり、納得。山々を見る目がまた違ってきます。豆田町と隈町に関する道も今との違いがおもしろい。文化財と観光、永山城・日隈城に関しての話に目からうろこでした。 日田市の文化遺産が弥生時代から江戸時代とさまざまな形であったが、これからどのように後世に伝えて整備し観光に繋げて行くかなど、課題があることがわかった。 山、盆地、道に関する考え方、見方が私にとっては新しく、おもしろかった。普段は文化などについて考えることがないので、良い刺激になった。 日田の再認識をした。 日田市の歴史、過去の遺産から、日田のすばらしさが理解出来た。しかし、まだまだ日田のことをアピールすべきだと思う。 日田駅前に、廣瀬淡窓の像が出来ることを願っています。文化財保護課が中心になって、「淡窓像」を日田駅前に設置し、咸宜園が世界遺産になってほしいと思います。日田駅を下りても咸宜園の臭いが何もしないから。 未来へ希望もてる、とてもビジョンのあるお話でした。中学生などにも聞かせたいと思いました(郷土教育の可能性)。 日田が九州において、交通面でも文化面でも中心であったことが分かりました。 後藤先生のお話をはじめてききましたが、「日田愛」というものを感じられましたし、自分自身も「日田愛」をはぐくみたいと思いました。

年代	感想（一部抜粋）
70歳代	<ul style="list-style-type: none"> ・大変良かった。後藤先生には元気で日田の歴史、文化財について講演をお願いしたい。 ・わかりやすい説明で、とても良かった。こんなに沢山の文化遺産があることを知り、先生の構想 がぜひ実現できる様にと思いました。今日の講演は日田市の若者にも、ぜひ知っていただきたいと思いました。ただ、人口減少が全てにおいて問題です。 ・違った方向からの話で面白かった。 ・日田の歴史の流れが良くわかりました。又、永山布政所の再現と活用は大切なことと強く思いました。 ・後藤先生の熱のこもった講演に感動した。日田の歴史・文化がもっと世界に知られるようになると思う。 ・日田の歴史がよくわかった。文化財保護は難しい。 ・日田の事いろいろお聞きして楽しく勉強が出来ました。 ・勉強になりました。周辺部の歴史もお願いしたい。 ・文化財をいかに有効に利用するか・・・！ ・おもしろかった。日田について再認識した。市内の別の場所の事知りたい。 ・日田の文化の深さや歴史がもっと身近に感じられた。先生のお話がとてもわかりやすかった。 ・亀山公園の整備はお城も含め観光にも適した処断をすべき。 日田は九州の中心でもあったと改めて認識した。 咸宜園跡には講堂と塾の復元を、駐車場も。 意義ある講演会でした。次の開催を期待しています。すばらしかった！ ・日田の歴史（景観）の素晴らしさを初めて教えてもらった様な気がします。 ・知らないことが多く、勉強になりました。自分にとって重要な文化的景観は何か考えたいと思います。 ・わかりやすい、日田を愛する先生ならではの、心暖まる授業だったと思います。 ・大変興味深く楽しかったです。もう少し観光に歴史や文化財を利用してもらいたい。 経済を動かすのは歴史・文化両輪だと思えます。 ・日田への多くの助言を頂いた貴重なお話でした。 ・大変勉強になりました。又聞きたいです。 ・日田が昔から交通の要衝であったということを改めて知った。 個人にとっての文化的景観という発想、好きな風景はあるけれど、これからじっくり考えてみます。 ・古代からの日田の歴史を教えていただき、これから現地を見る時楽しくなると思えます。 ・分かりやすいお話でした。日田の歴史により関心が深まりました。今後も、先生のお話をお聞きする機会を持って下さい。 ・日田市中心部の歴史と文化遺産について大変勉強になりました。 奥日田地方の歴史についても勉強したいと存じます。
80歳以上	<ul style="list-style-type: none"> ・良かった。改革していかなければならない文化財が多いことがわかった。 ・後藤先生の文化的景観に、私は昔の竹田河原を加えたい。 ・わたしの文化的景観をしっかり持ち続けていく大事さがよくわかり、守り伝えていきたいと思えます。日本の歴史をもっと勉強していきたいです。 ・貴重な講演会でした。一般には、淡窓、豆田というばかりで、専門的にならないと歴史・文化は理解しにくいですが、今日の講演で歴史・文化、生活がみえて来たと思った。 ・先人が日田の地に住み、栄えていたことが良くわかりました。これからも多くを語り継いでゆくべきと思えました。 ・古代から近世までの歴史文化についての説明は大変参考になりました。 ・わかりやすかった。日隈城、永山城をつくって下さい。

■属性別集計結果

20歳代	「歴史」や「文化」と言われて思いつくもの	「日田の歴史や文化」のイメージ	「日田の文化財」といえば	守りたい日田の「歴史・文化・文化財」
生まれてからずっと日田	—	—	—	—
生まれ日田 一度出て今は日田	<ul style="list-style-type: none"> ・天ヶ瀬温泉 ・日田金 ・豆田町 ・三隈川 	<ul style="list-style-type: none"> ・井上準之助 ・江戸・明治以降の近世・近代文化 ・大蔵永常 ・廣瀬淡窓 	<ul style="list-style-type: none"> ・鶺鴒 ・漆工芸 ・小鹿田焼 ・ガランドヤ古墳 ・下駄 ・日田祇園の曳山行事 	<ul style="list-style-type: none"> ・鶺鴒 ・漆工芸 ・小鹿田焼 ・日田祇園
生まれ日田以外 今は日田	—	—	—	—
生まれ暮らし日田以外	—	—	—	—

40歳代	「歴史」や「文化」と言われて思いつくもの	「日田の歴史や文化」のイメージ	「日田の文化財」といえば	守りたい日田の「歴史・文化・文化財」
生まれてからずっと日田	-	-	-	-
生まれ日田一度出て今は日田	-	-	-	-
生まれ日田以外今は日田	-	-	-	-
生まれ暮らし日田以外	<ul style="list-style-type: none"> ・大蔵永常 ・咸宜園跡 ・天領日田 ・廣瀬淡窓 	<ul style="list-style-type: none"> ・華やか 	-	-

50歳代	「歴史」や「文化」と言われて思いつくもの	「日田の歴史や文化」のイメージ	「日田の文化財」といえば	守りたい日田の「歴史・文化・文化財」
生まれてからずっと日田	—	—	—	—
生まれ日田 一度出て今は日田	<ul style="list-style-type: none"> ・小鹿田焼 ・咸宜園跡 ・下駄 	<ul style="list-style-type: none"> ・奥が深い ・数多くある 	<ul style="list-style-type: none"> ・咸宜園跡 ・古墳 ・古い町並み 	<ul style="list-style-type: none"> ・小鹿田焼 ・日田祇園の曳山行事 ・すべて
生まれ日田以外 今は日田	<ul style="list-style-type: none"> ・小ヶ瀬井路 ・隈町 ・天領日田 ・永山布政所 ・日田祇園の曳山行事 ・廣瀬家 ・豆田町 ・湖伝説 	<ul style="list-style-type: none"> ・古墳等も多く、歴史が古い ・小京都 	<ul style="list-style-type: none"> ・咸宜園跡 ・金銀錯嵌珠龍文鉄鏡 ・山鉾 	<ul style="list-style-type: none"> ・発掘された古墳や装飾品等の数々 ・古い町並み ・昔ながらの伝統行事
生まれ暮らし日田以外	<ul style="list-style-type: none"> ・天ヶ瀬温泉 ・九州の結節点 ・天領日田 ・豆田町 	<ul style="list-style-type: none"> ・大分であって福岡 ・筑後地域 	<ul style="list-style-type: none"> ・小迫辻原遺跡 ・小鹿田焼 ・ガランドヤ古墳 ・吹上遺跡 	<ul style="list-style-type: none"> ・小鹿田焼 ・豆田町伝統的建造物群保存地区

60歳代	「歴史」や「文化」と言われて思いつくもの	「日田の歴史や文化」のイメージ	「日田の文化財」といえば	守りたい日田の「歴史・文化・文化財」
生まれてからずっと日田	<ul style="list-style-type: none"> ・咸宜園跡 ・天領日田 ・廣瀬淡窓 ・三隈川 ・養育館 	<ul style="list-style-type: none"> ・いいものが多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・咸宜園跡 	<ul style="list-style-type: none"> ・
生まれ日田一度出て今は日田	<ul style="list-style-type: none"> ・穴観音古墳 ・石坂石畳道 ・江戸時代に栄えていた金融 ・大蔵氏 ・太原八幡宮 ・おきあげ人形 ・小迫辻原遺跡 ・小鹿田焼 ・岳林寺 ・ガランドヤ古墳 ・川の交通 ・咸宜園跡 ・隈町 ・古代の流通等 ・古墳 ・慈眼山 ・天領日田 ・永山城跡（月隈公園） ・久津媛 ・日田石を活用した石造文化 ・日田祇園の曳山行事 ・廣瀬淡窓 ・吹上遺跡 ・埋蔵文化財 ・祭り ・豆田町 	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代、大規模な私塾咸宜園があった ・江戸時代天領 ・江戸文化 ・九州（西国筋）の中心地 ・古代から近世にかけて九州の中心にあることから、歴史・文化の流れを見ることが出来る ・町民文化 ・天領としてのほこり ・農業、山林業とそれにつながる工業（手工業も含め） ・水 ・文書、石造物の宝庫 ・歴史とくらしをたどる足がかりとして、様々な文化財が残っている ・歴史の奥深さと、日田の独自の文化の奥深さを感じる 	<ul style="list-style-type: none"> ・穴観音古墳 ・永興寺 ・小ヶ瀬井路 ・小迫辻原遺跡 ・小鹿田焼 ・岳林寺 ・岳林寺の仏像と明極禅師 ・ガランドヤ古墳 ・咸宜園跡 ・金銀錯嵌珠龍文鉄鏡 ・隈町 ・五馬楽 ・古墳 ・慈眼山の仏像 ・石人（陣ヶ原） ・石造アーチ橋 ・永山布政所 ・日田祇園の曳山行事 ・廣瀬家 ・吹上遺跡 ・法恩寺山古墳群 ・豆田町 ・三隈川の景観 ・木造四天王立像（永興寺） 	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代の天領としての隈・豆田の町並み ・小迫辻原遺跡 ・石造アーチ橋 ・咸宜園跡（教育遺産） ・古墳 ・日田祇園の曳山行事 ・山鉾 ・全ての文化財
生まれ日田以外今は日田	<ul style="list-style-type: none"> ・ガランドヤ古墳 ・咸宜園跡 ・古墳 ・天領日田 ・天領日田おひなまつり ・廣瀬淡窓 ・豆田町の町並み ・山鉾 	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代 ・九州の中心に位置したことによる影響が大きい ・天領日田 ・歴史ある物が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・小鹿田焼 ・ガランドヤ古墳 ・咸宜園跡 ・廣瀬淡窓 	<ul style="list-style-type: none"> ・小鹿田焼 ・咸宜園跡 ・古墳群 ・寺院 ・石像や石物 ・月隈、日隈地区 ・農工業の道具 ・豆田町 ・全て
生まれ暮らし日田以外	<ul style="list-style-type: none"> ・鶺鴒 ・小鹿田焼 ・咸宜園跡 ・日田祇園の曳山行事 ・放生会 ・木工業 ・林業 	<ul style="list-style-type: none"> ・天領であった江戸時代から栄えている 	<ul style="list-style-type: none"> ・咸宜園跡 ・豆田町の町並み 	<ul style="list-style-type: none"> ・鶺鴒 ・小鹿田焼 ・川開き観光祭 ・咸宜園跡 ・日田祇園の曳山行事 ・日田下駄、家具などの木工品 ・放生会

70歳代	「歴史」や「文化」と言われて思いつくもの	「日田の歴史や文化」のイメージ	「日田の文化財」といえば	守りたい日田の「歴史・文化・文化財」
<p>生まれてからずっと日田</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小迫辻原遺跡 ・小鹿田焼 ・ガランドヤ古墳 ・咸宜園跡 ・隈町 ・古墳 ・水郷と呼ばれていた日田の歴史 ・遺跡 ・ダンワラ古墳 ・天領日田 ・日田祇園の曳山行事 ・廣瀬淡窓 ・吹上遺跡 ・豆田町 ・三隈川の清流 	<ul style="list-style-type: none"> ・古代から近世まで幅広い ・すばらしい ・豆田町の発展状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・遺跡 ・大原八幡宮 ・小鹿田焼 ・ガランドヤ古墳 ・咸宜園跡 ・隈町 ・古墳 ・古墳群 ・日田祇園の曳山行事 ・廣瀬淡窓 ・豆田町 ・三隈川 (きれいだった頃の) 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝日天神山古墳 ・石井駅 ・小迫辻原遺跡 ・小鹿田焼 ・ガランドヤ古墳 ・隈町 ・古墳 ・山村地域（農林業を主体とした）の民俗資料類 ・ダンワラ古墳 ・日田祇園の曳山行事 ・廣瀬淡窓 ・吹上遺跡 ・豆田町
<p>生まれ日田一度出て今は日田</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・穴井六郎右衛門 ・筏流し ・石坂石畳道 ・鶺鴒 ・牛ヶ城 ・大蔵氏 ・大蔵永季（日田どん・相撲の神様） ・大蔵永常（農学者） ・大友氏 ・お菓子 ・小迫辻原遺跡 ・小鹿田焼 ・岳林寺 ・花月川 ・甕棺 ・ガランドヤ古墳 ・川開き観光祭 ・川盆地 ・咸宜園跡 ・旧日田郡に残る昔からの伝統的な祭り ・教育都市 ・コツコツ節 ・古墳 ・古代から近世まで続く連続する文化と歴史 ・慈眼山廻りの石仏（地蔵様） 	<ul style="list-style-type: none"> ・河川の道 ・九州の中心 ・材木の町で林業の町 ・山林 ・すばらしい歴史・文化がある ・大変すばらしい ・筑後川の上流地域である津江地方の歴史文化 ・常に中央の政治、経済とつながり、その時代の中央の文化が入ってきていた ・天領としての歴史や文化 ・天領日田 ・廣瀬淡窓の教えがある町 ・盆地 ・盆地独特の文化で閉鎖性を感じる ・“水”による九州産業の創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝日天神山古墳 ・穴観音古墳 ・遺跡 ・鶺鴒 ・宇土遺跡 ・永興寺仏像 ・大原八幡宮 ・小迫辻原遺跡 ・小鹿田焼 ・岳林寺 ・亀山公園 ・ガランドヤ古墳 ・咸宜園跡 ・隈町 ・古墳 ・古文書 ・下釜松原ダム ・十一面観音立像 ・鯛生金山 ・永山城跡 ・永山布政所 ・日田祇園の曳山行事 ・日田美人 ・廣瀬資料館 ・吹上遺跡 ・吹上台地 	<ul style="list-style-type: none"> ・赤レンガ ・遺跡 ・鶺鴒 ・大蔵永季（日田どん） ・大蔵永常 ・奥日田（天領地）津江地方の豪族であった「長谷部」一族の歴史 ・小鹿田焼 ・「小鹿田焼の里」などの文化的景観 ・花月川 ・亀山公園と隈町 ・咸宜園跡 ・金銀錯嵌珠龍文鉄鏡 ・古代の遺物 ・古墳 ・慈眼山から南への山並み ・慈眼山（高城）、月隈山の山際にあるたくさんの地蔵様 ・師富氏 ・下釜ダム

70歳代	「歴史」や「文化」と言われて思いつくもの	「日田の歴史や文化」のイメージ	「日田の文化財」といえば	守りたい日田の「歴史・文化・文化財」
生まれ日田以外今は日田	<ul style="list-style-type: none"> ・鯛生金山 ・竹屋・鶴飼 ・ウガヤフキアエズ王朝 ・おきあげ人形 ・小鹿田焼 ・ガランドヤ古墳 ・咸宜園跡 ・金銀錯嵌珠龍文鉄鏡 ・西国筋群代 ・慈眼山 ・城跡 ・祖母山 ・天領日田 ・卑弥呼の里？ ・廣瀬家 ・廣瀬淡窓 ・豆田町 	<ul style="list-style-type: none"> ・大蔵永常や廣瀬家など、民間人にもすぐれた人材が多い ・古代からずっと続いている ・古代からの交通の要所 ・上品 ・古い ・文教都市 ・豆田町・隈町の歴史的風景 ・大和政権と密接な歴史が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・穴観音古墳 ・石橋 ・遺跡 ・小迫辻原遺跡 ・小鹿田焼 ・ガランドヤ古墳 ・咸宜園跡 ・金銀錯嵌珠龍文鉄鏡 ・古墳群 ・五馬媛 ・慈眼山 ・自然 ・久津媛の墓 ・卑弥呼との関連 ・吹上遺跡 ・豆田町 	<ul style="list-style-type: none"> ・石橋 ・おきあげ人形 ・小鹿田焼の里 ・各地域に残されている伝統的芸能 ・学文に対する心と取り組み ・亀山公園 ・ガランドヤ古墳 ・咸宜園跡 ・祭類 ・豆田町 ・豆田町（少し前の） ・焼物 ・今あるものすべて
生まれ暮らし日田以外	<ul style="list-style-type: none"> ・諫山叔邨 ・宇治山哲平 ・大蔵永常 ・大原八幡宮 ・川と木 ・川開き観光祭 ・咸宜園跡 ・五岳 ・専念寺（松方正義） ・天領日田 ・長三洲 ・廣瀬淡窓 	<ul style="list-style-type: none"> ・公的施設が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・工芸 ・咸宜園跡 ・五岳 ・土木遺産 ・廣瀬淡窓 	<ul style="list-style-type: none"> ・産業遺産（明治はじまりごろ） ・戦中の施設 ・農業関係、水路、土木、産物、技術 ・人の動きと交通関係
80歳代以上	「歴史」や「文化」と言われて思いつくもの	「日田の歴史や文化」のイメージ	「日田の文化財」といえば	守りたい日田の「歴史・文化・文化財」
生まれてからずっと日田	<ul style="list-style-type: none"> ・かくれた有名人の発掘 ・川開き観光祭 ・咸宜園跡 ・天領日田 ・日田祇園の曳山行事 ・古い家系の人々の現状 	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代から続く町 ・水郷日田 ・歴史的に長いものもあり、新しく創造されたものもある 	<ul style="list-style-type: none"> ・小鹿田焼 ・岳林寺 ・亀山公園 ・川開き観光祭 ・祇園山笠 ・金銀錯嵌珠龍文鉄鏡 ・月隈公園と町並みの関係 	<ul style="list-style-type: none"> ・川開き観光祭 ・人物 ・造作物 ・淡窓祭 ・寺との関連 ・奈良時代から戦国時代までのもの ・日田祇園の曳山行事 ・物 ・全て ・日田全体

80歳代以上	「歴史」や「文化」と言われて思いつくもの	「日田の歴史や文化」のイメージ	「日田の文化財」といえば	守りたい日田の「歴史・文化・文化財」
<p>生まれ日田 一度出て 今は日田</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大蔵氏 ・大蔵永季 (相撲の神様) ・小鹿田焼 ・咸宜園跡 ・草野本家 ・自然環境 (盆地、底霧) ・田畑が広がった田舎の、のどかで豊かだった頃 ・天領日田 ・8奉行 ・日田祇園の曳山行事 ・廣瀬淡窓 ・豊西記 ・豆田町 	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代・明治維新・現在までの大きな流れの中に歴史文化がある ・古代から現代、浮き沈みがあった ・沢山の文化財がある ・天領日田 ・邪馬台国の首都ではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ・岳林寺 ・ガランドヤ古墳 ・咸宜園跡 ・金銀錯嵌珠龍文鉄鏡 	<ul style="list-style-type: none"> ・小鹿田焼 ・咸宜園跡 ・咸宜園の学園都市 ・自分がか関わった現場全部 ・天領日田おひなまつり ・人情 ・日田祇園の曳山行事 ・日田天領まつり ・昔の地名
<p>生まれ日田以外 今は日田</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・川の流れ ・咸宜園跡 ・杉 ・天領日田 ・廣瀬淡窓 ・盆地の中での文化 ・町並み 	<ul style="list-style-type: none"> ・しっかりしたものがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・鶺鴒 ・小鹿田焼 ・亀山公園 ・ガランドヤ古墳 ・咸宜園跡 ・永山城跡 ・豆田町の町並み ・三隈川、隈町 	<ul style="list-style-type: none"> ・鶺鴒 ・杉山
<p>生まれ暮らし日田以外</p>	<p>—</p>	<p>—</p>	<p>—</p>	<p>—</p>